
木 更 津 市
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

報 告 書

平成29年（2017年）3月

木 更 津 市

目次

第1章 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査の構成	1
3. 報告書の見方	1
4. 標本誤差について	1
第2章 調査結果（通常設問）	3
1. 調査対象者の属性	3
2. 心身の状態、社会参加の状況について	12
3. 介護予防について	24
4. 生活支援、社会参加について	36
5. 住まいについて	49
6. 医療について	55
7. 介護、成年後見制度について	63
8. 今後の高齢者施策等について	76
第3章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査項目の分析結果	89
1. 分析するに当たって	89
2. 分析結果の概要	91
3. 心身の機能に関する分析結果	93
4. 日常生活・社会参加に関する分析結果	107
5. 疾病に関する分析結果	112
6. 健康に関する分析結果	117
7. 介護・介助に関する分析結果	120

資料編

使用した調査票

第1章 調査概要

1. 調査目的

木更津市では、介護が必要とならない健康づくりや介護予防事業に力を入れるとともに、介護が必要となっても安心した生活を送ることができるよう、「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」（第6期計画）に基づいて施策を進めています。

この計画が平成29年度に終了することから、第7期計画の策定に向け、市内にお住まいの要介護認定を受けていない65歳以上の方に対して、保健福祉に関わる生活状況や、介護予防、地域社会とのつながり、市の高齢者施策等について何うことを目的として実施しました。

2. 調査の構成

調 査 対 象 者	平成28年11月1日現在、市内にお住まいの要介護認定を受けていない65歳以上の方
抽 出 方 法	住民基本台帳及び要介護認定者情報をもとに、8つの居住地域（日常生活圏域）毎に各500件ずつ無作為抽出
調 査 方 法	郵送法（郵送配布、郵送回収）、お礼状兼督促状の発送あり
調 査 期 間	平成28年12月5日～平成28年12月19日
配 付 数	4,000件
有効回収数（率）	2,769件（69.2%）

3. 報告書の見方

- 集計は、小数点以下第2位を四捨五入しています。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合があります。
- 回答の比率（%）は、その質問の回答者数（n値又はLn値）を基数として算出しています。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超える場合があります。
- 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合があります。
- 本文中で、比率の比較をする際には、ポイント（小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位で示しています。）と表記しています。
- クロス集計の集計表では、全体の値より数値が大きい項目に網かけをしています。
- クロス集計の表側項目については、原則として「無回答」を除いています。また、「その他」や「該当不明」、回答者数が少なく統計上有意でないと判断した項目などは適宜除外しています。
- クロス集計結果についてのコメントは、回答者数が少なく、統計上有意でないと判断した項目については省略しています。
- 付問のある設問において、親設問には回答していないが、付問には回答している回答者については、親設問では「該当不明」とし、付問では有効回答として扱っています。※ただし、該当不明が多い場合に限ります。

4. 標本誤差について

本調査のように、対象者（標本）を抽出して行う標本調査の場合、標本と全体の間に誤差が生じます。これは標本誤差（b）と呼ばれ、下式（等間隔抽出の場合）により求められます。なお、標本誤差を設問に対する回答者数（n）と回答比率（p）から簡単に求められるように、本報告書では早見表を用意しています。

例えば、「問8.現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。（ひとつだけ○）」について、「やや苦しい」という回答者数は、2,769人（n）中の30.0%（p）となっていますが、標本

第1章 調査概要

誤差は早見表により、±1.7%程度であることが得られます。このことから、「やや苦しい」は、28.3%～31.7%の間にあると推測することができます。

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

b = 標本誤差、N = 母集団数、n = 比率算出の基数（設問の回答者数）、p = 回答率
1.96 = 統計学の「正規分布表」から有意水準5%の定数（2として扱ってよい）

$$\frac{N-n}{N-1} \div 1 \quad \text{として算出した}$$

図表 1 標本誤差の早見表

回答 比率 (p) 回答 者数 (n)	5% または 95% 前後	10% または 90% 前後	15% または 85% 前後	20% または 80% 前後	25% または 75% 前後	30% または 70% 前後	35% または 65% 前後	40% または 60% 前後	45% または 55% 前後	50% 前後
2,769	±0.8%	±1.1%	±1.4%	±1.5%	±1.6%	±1.7%	±1.8%	±1.9%	±1.9%	±1.9%
2,600	±0.9%	±1.2%	±1.4%	±1.6%	±1.7%	±1.8%	±1.9%	±1.9%	±2.0%	±2.0%
2,400	±0.9%	±1.2%	±1.5%	±1.6%	±1.8%	±1.9%	±1.9%	±2.0%	±2.0%	±2.0%
2,200	±0.9%	±1.3%	±1.5%	±1.7%	±1.8%	±2.0%	±2.0%	±2.1%	±2.1%	±2.1%
2,000	±1.0%	±1.3%	±1.6%	±1.8%	±1.9%	±2.0%	±2.1%	±2.2%	±2.2%	±2.2%
1,800	±1.0%	±1.4%	±1.7%	±1.9%	±2.0%	±2.2%	±2.2%	±2.3%	±2.3%	±2.4%
1,600	±1.1%	±1.5%	±1.8%	±2.0%	±2.2%	±2.3%	±2.4%	±2.4%	±2.5%	±2.5%
1,400	±1.2%	±1.6%	±1.9%	±2.1%	±2.3%	±2.4%	±2.5%	±2.6%	±2.7%	±2.7%
1,200	±1.3%	±1.7%	±2.1%	±2.3%	±2.5%	±2.6%	±2.8%	±2.8%	±2.9%	±2.9%
1,000	±1.4%	±1.9%	±2.3%	±2.5%	±2.7%	±2.9%	±3.0%	±3.1%	±3.1%	±3.2%
900	±1.5%	±2.0%	±2.4%	±2.7%	±2.9%	±3.1%	±3.2%	±3.3%	±3.3%	±3.3%
800	±1.5%	±2.1%	±2.5%	±2.8%	±3.1%	±3.2%	±3.4%	±3.5%	±3.5%	±3.5%
700	±1.6%	±2.3%	±2.7%	±3.0%	±3.3%	±3.5%	±3.6%	±3.7%	±3.8%	±3.8%
600	±1.8%	±2.4%	±2.9%	±3.3%	±3.5%	±3.7%	±3.9%	±4.0%	±4.1%	±4.1%
500	±1.9%	±2.7%	±3.2%	±3.6%	±3.9%	±4.1%	±4.3%	±4.4%	±4.4%	±4.5%
400	±2.2%	±3.0%	±3.6%	±4.0%	±4.3%	±4.6%	±4.8%	±4.9%	±5.0%	±5.0%
300	±2.5%	±3.5%	±4.1%	±4.6%	±5.0%	±5.3%	±5.5%	±5.7%	±5.7%	±5.8%
200	±3.1%	±4.2%	±5.0%	±5.7%	±6.1%	±6.5%	±6.7%	±6.9%	±7.0%	±7.1%
100	±4.4%	±6.0%	±7.1%	±8.0%	±8.7%	±9.2%	±9.5%	±9.8%	±9.9%	±10.0%
50	±6.2%	±8.5%	±10.1%	±11.3%	±12.2%	±13.0%	±13.5%	±13.9%	±14.1%	±14.1%

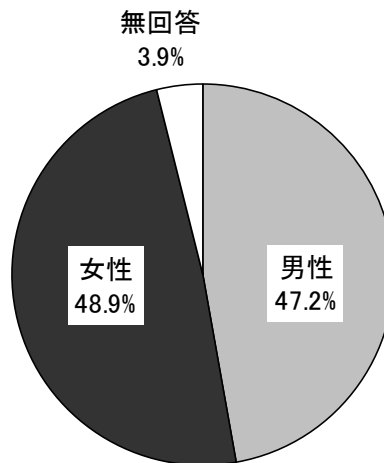
第2章 調査結果（通常設問）

1. 調査対象者の属性

問1. あなたの性別をお答えください。（ひとつだけ○）

性別は、「男性」が47.2%、「女性」が48.9%となっています。

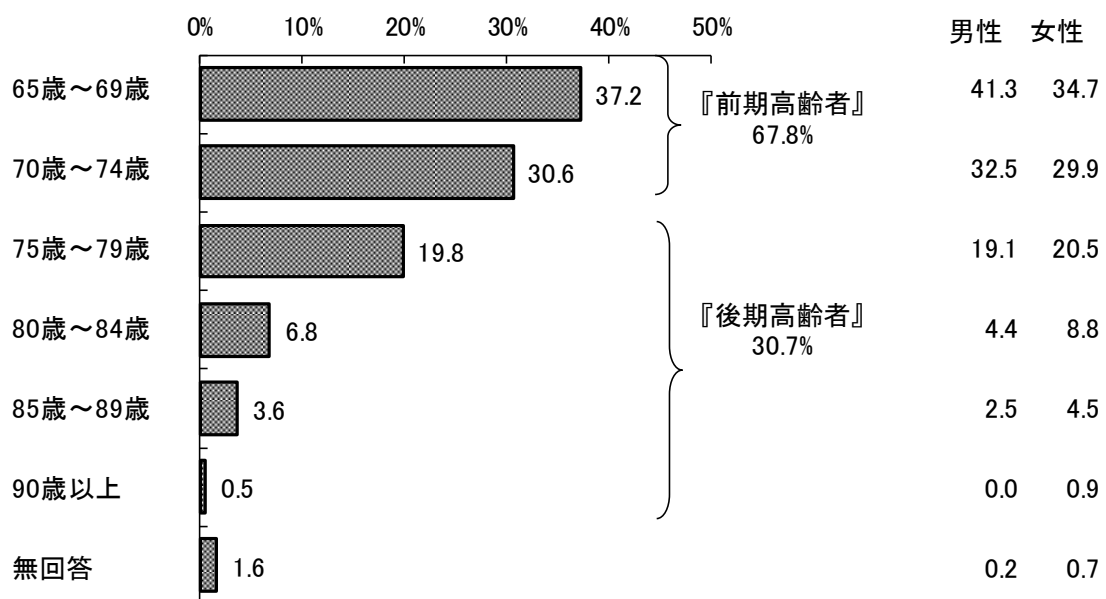
図表 2 性別（n=2,769）



問2. あなたの平成28年12月1日現在の満年齢をお答えください。（ひとつだけ○）

年齢は、65歳～74歳の『前期高齢者』が67.8%、75歳以上の『後期高齢者』が30.7%となっています。

図表 3 年齢（n=2,769）



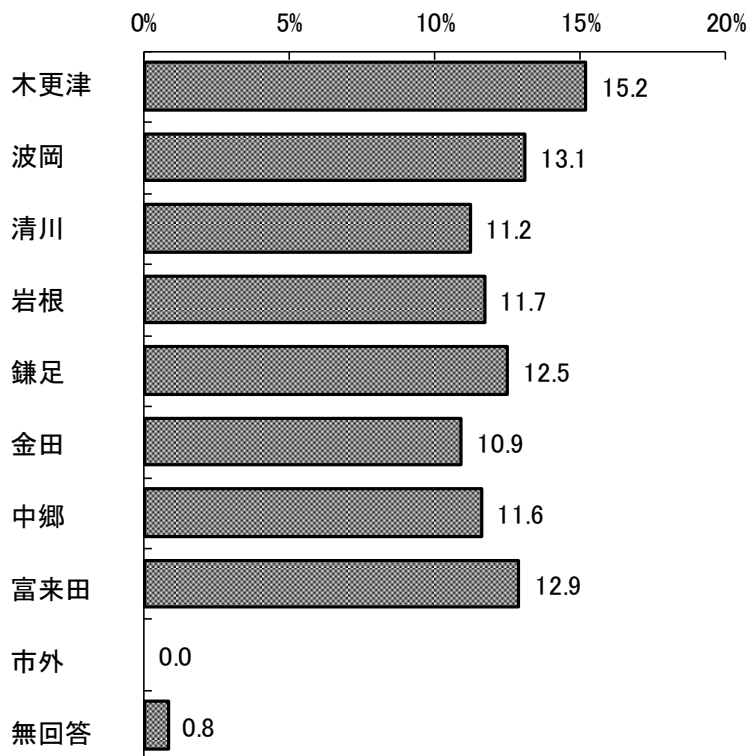
※これ以降、年齢別のクロス集計では、「85歳～89歳」、「90歳以上」は、「85歳以上」として集計する。

問3. あなたがお住まいの地域をお答えください。（ひとつだけ○）

本調査の回答者の居住地（日常生活圏域）は、以下の図表のとおりとなっています。

標本抽出において、8つの居住地で各500件ずつ無作為抽出して調査を実施し、回収した結果であるので、高齢者人口の分布とは異なります。

図表 4 居住地（日常生活圏域）（n=2,769）

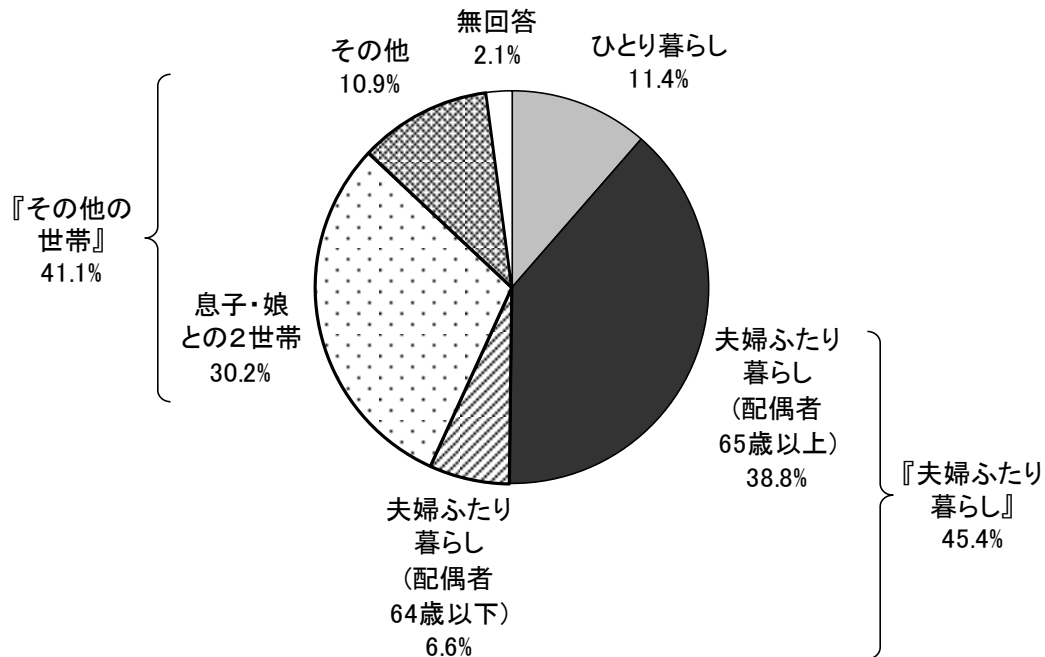


※これ以降、居住地（日常生活圏域）別のクロス集計では、「市外」は省略する。

問4. 家族構成をお教えてください。（ひとつだけ○）

家族構成は、「ひとり暮らし」が11.4%、「夫婦ふたり暮らし（配偶者65歳以上）」が38.8%、「夫婦ふたり暮らし（配偶者64歳以下）」が6.6%、「息子・娘との2世帯」（注：必ずしも住民票上2つの世帯に分かれているということではない）が30.2%、「その他」が10.9%となっています。

図表 5 家族構成（n=2,769）



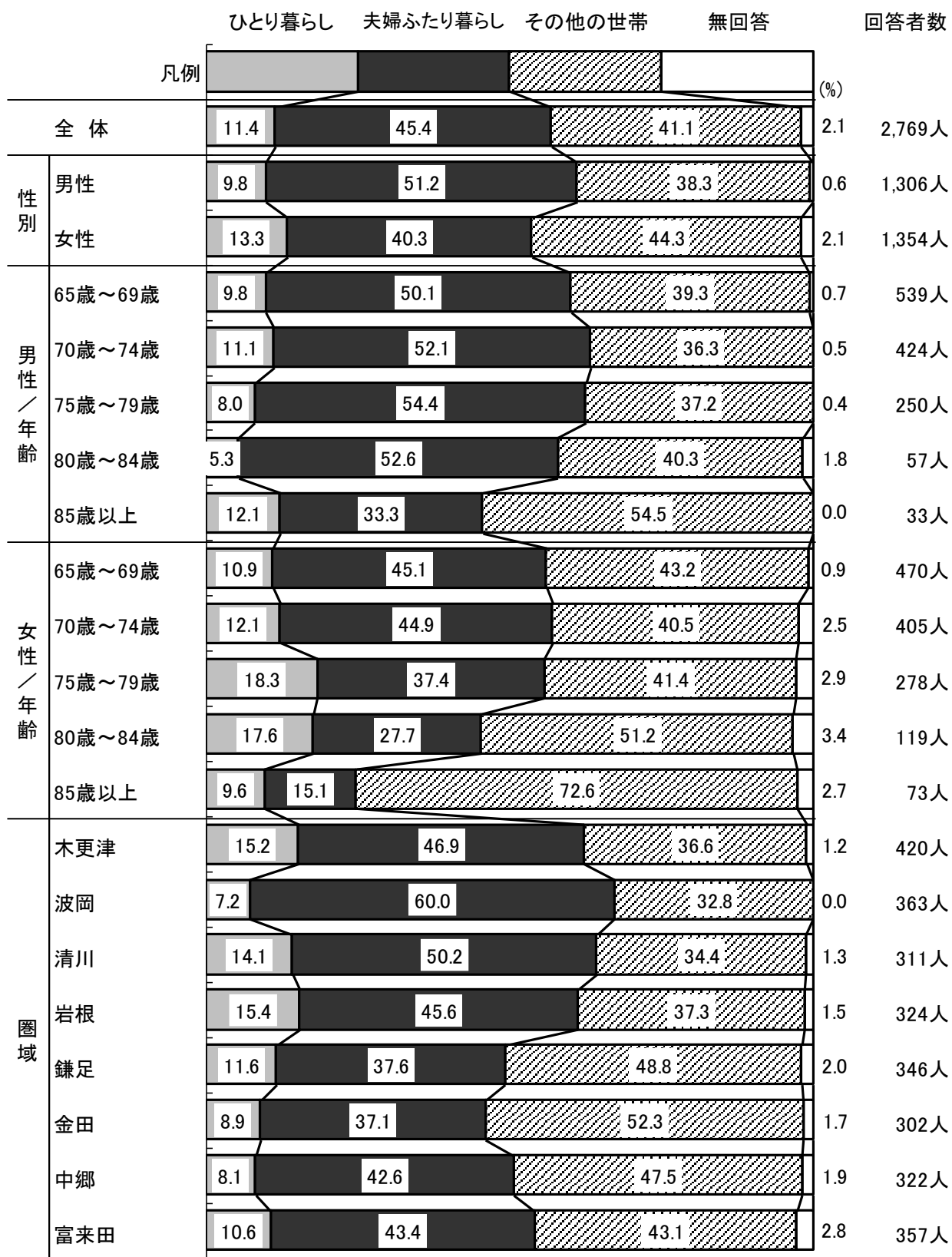
家族構成を「ひとり暮らし」、『夫婦ふたり暮らし』（配偶者65歳以上、配偶者64歳以下の合計）、『その他の世帯』（息子・娘との2世帯とその他の合計）の3区分にまとめると、「ひとり暮らし」が11.4%、『夫婦ふたり暮らし』が45.4%、『その他の世帯』が41.1%となります。

性別でみると、男性は女性に比べて『夫婦ふたり暮らし』、女性は男性に比べて「ひとり暮らし」、『その他の世帯』が高くなっています。

年齢別でみると、男性は65歳～79歳にかけてはあまり大きな差は見られず、80歳以上で『その他の世帯』が高くなっています。女性は75～84歳にかけて「ひとり暮らし」が高く、また、80歳以上では『その他の世帯』が大幅に高くなっています。

圏域別でみると、木更津圏域、清川圏域、岩根圏域では「ひとり暮らし」、波岡圏域、清川圏域では『夫婦ふたり暮らし』、鎌足圏域、金田圏域、中郷圏域、富来田圏域では『その他の世帯』が他の圏域より高くなっています。

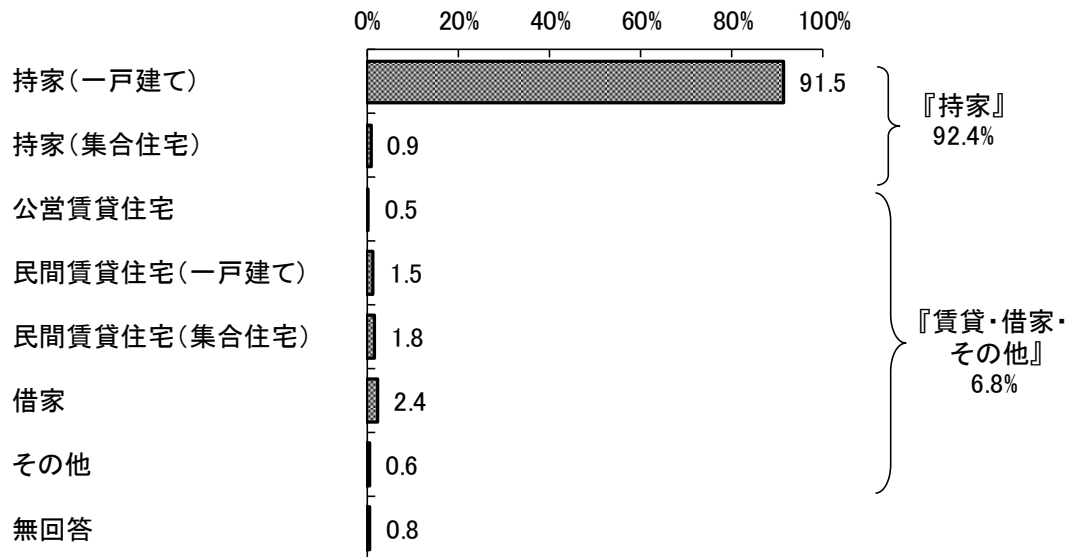
図表 6 家族構成（n=2,769）



問5. お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。（ひとつだけ○）

住宅の種類と所有関係は、「持家（一戸建て）」が91.5%、「持家（集合住宅）」が0.9%であり、『持家』は合わせて92.4%と大多数を占めています。一方、『賃貸・借家・その他』は合わせて6.8%となっています。

図表 7 住宅の種類と所有関係（n=2,769）



	回答者数(人)	持家(一戸建て)	持家(集合住宅)	公営賃貸住宅	民間賃貸住宅(一戸建て)	民間賃貸住宅(集合住宅)	借家	その他	無回答	『持家』	『賃貸・借家・その他』
全 体	2,769	91.5	0.9	0.5	1.5	1.8	2.4	0.6	0.8	92.4	6.8
圏 域	木更津	420	83.6	1.2	0.5	4.0	4.5	5.0	1.2	84.8	15.2
	波岡	363	97.0	0.8	—	0.8	0.8	0.6	—	97.8	2.2
	清川	311	86.8	0.3	1.6	4.2	4.2	2.3	0.3	87.1	12.6
	岩根	324	84.6	0.9	1.5	1.9	3.4	6.5	0.9	85.5	14.2
	鎌足	346	97.4	0.3	—	—	0.6	0.3	1.2	97.7	2.1
	金田	302	97.4	1.0	—	0.3	0.3	0.3	0.3	98.4	1.2
	中郷	322	95.3	1.2	0.3	—	—	1.9	0.9	96.5	3.1
	富来田	357	96.1	1.1	0.3	0.3	0.3	1.7	—	97.2	2.6
家 族 構 成	ひとり暮らし	316	75.0	1.9	1.9	4.7	8.5	5.1	2.8	76.9	23.0
	夫婦ふたり暮らし	1,257	94.5	0.9	0.4	1.0	0.8	2.3	0.2	95.4	4.7
	その他の世帯	1,138	94.3	0.6	0.3	1.2	1.1	1.8	0.4	94.9	4.8

※『持家』＝「持家（一戸建て）」＋「持家（集合住宅）」

『賃貸住宅』＝「公営賃貸住宅」＋「民間賃貸住宅（一戸建て）」＋「民間賃貸住宅（集合住宅）」＋「借家」

第2章 調査結果（通常設問）

問6. あなたの1年間の収入は、おおよそどのくらいですか。（ひとつだけ○）

問7. あなたの貯蓄残高（預貯金、信託、債権、株式など）は、おおよそどのくらいですか。

（ひとつだけ○）

「この設問は報告書には掲載をしません。」として調査を実施したものであるので、報告書には掲載しないこととします。

問8. 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。（ひとつだけ○）

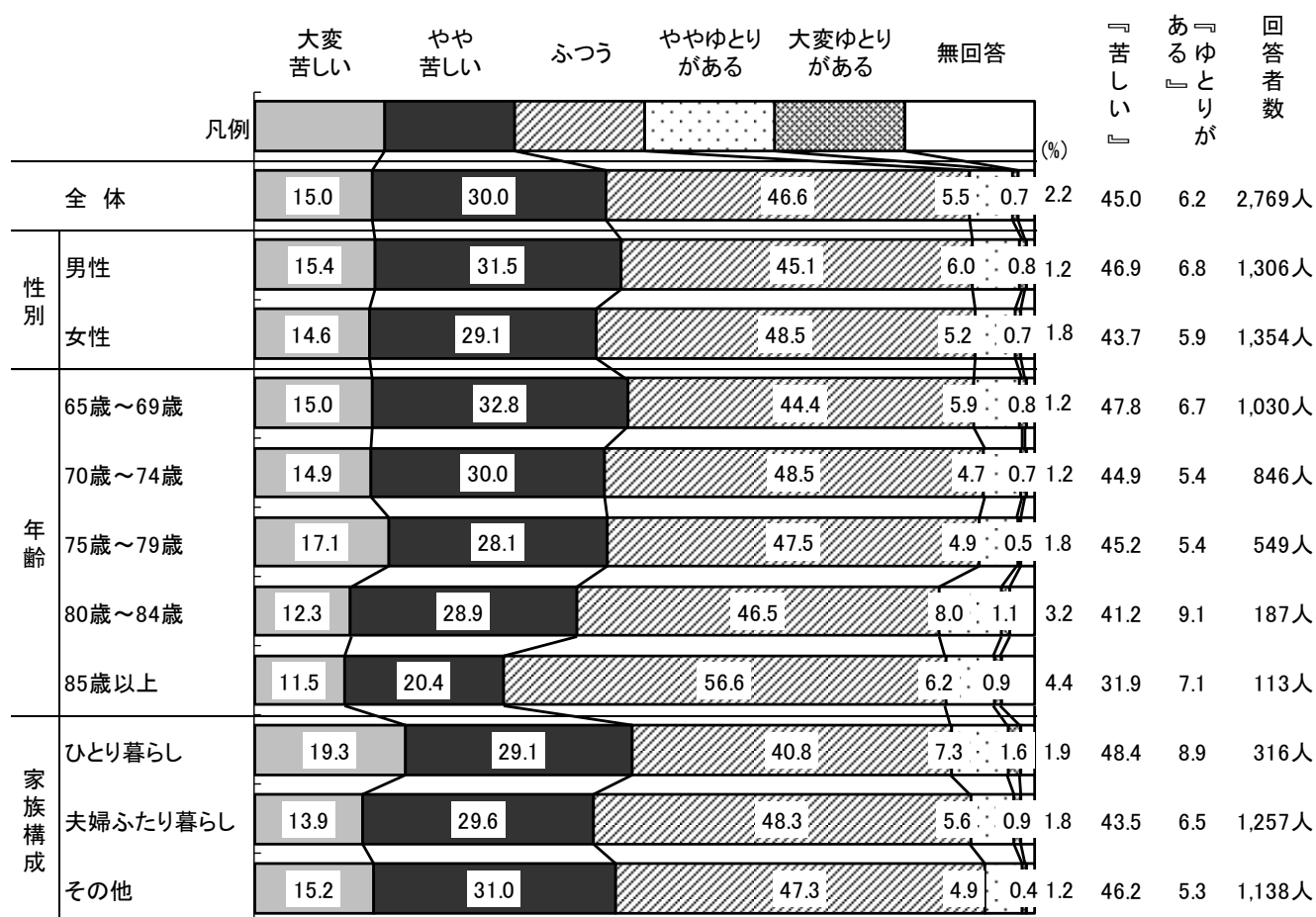
現在の暮らしの状況は、「大変苦しい」が15.0%、「やや苦しい」が30.0%であり、『苦しい』は合わせて45.0%となっています。これに対して、「ふつう」は46.6%であり、また、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』は6.2%となっています。

性別でみると、大きな違いはありません。

年齢別でみると、おおむね年齢が高い人のほうが、『苦しい』が低く、『やとりがある』が高くなっています。

家族構成別にみると、ひとり暮らしは「大変苦しい」が他の家族構成より高くなっています。

図表 8 現在の暮らしの状況（n=2,769）



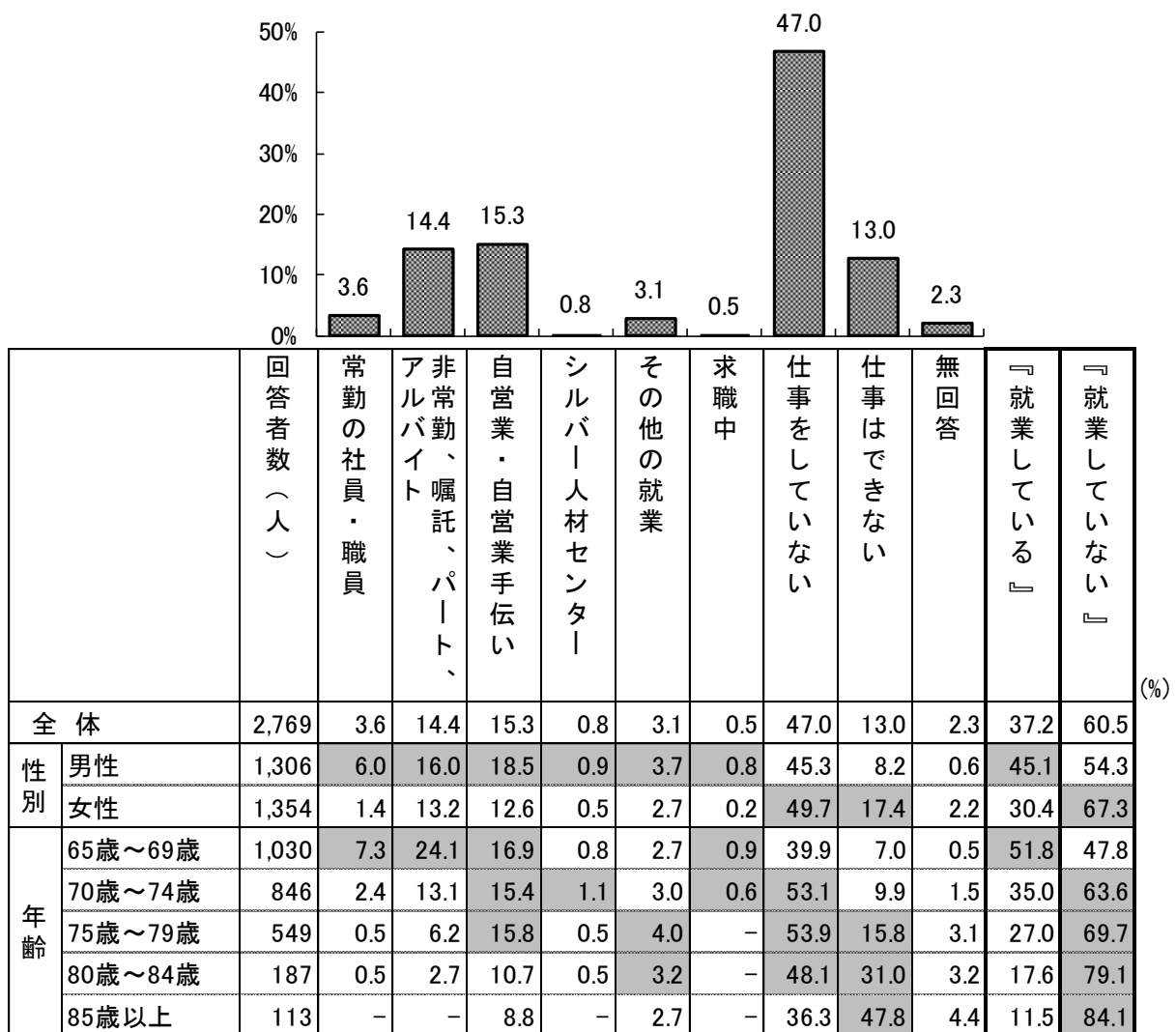
問9. 就業状況をうかがいます。（ひとつだけ○）

現在の就業状況は、「常勤の社員・職員」が3.6%、「非常勤、嘱託、パート、アルバイト」が14.4%、「自営業・自営業手伝い」が15.3%、「シルバー人材センターでの就労」が0.8%などであり、『就業している』は合わせて37.2%となっています。一方、「求職中」が0.5%、「仕事をしていない」が47.0%、「仕事はできない」が13.0%であり、『就業していない』は合わせて60.5%となっています。

性別でみると、『就業している』は、男性では4割強、女性では3割強となっています。

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて、『就業している』割合が減っていきます。就業内容としては、65歳～69歳では「非常勤、嘱託、パート、アルバイト」の割合が最も高くなっていますが、85歳以上になると「自営業・自営業手伝い」の割合が最も高くなります。

図表 9 現在の就業状況（n=2,769）



※『就業している』＝「常勤の社員・職員」＋「非常勤、嘱託、パート、アルバイト」
 ＋「自営業・自営業手伝い」＋「シルバー人材センターでの就労」＋「その他の就業」
 『就業していない』＝「求職中」＋「仕事をしていない」＋「仕事はできない」

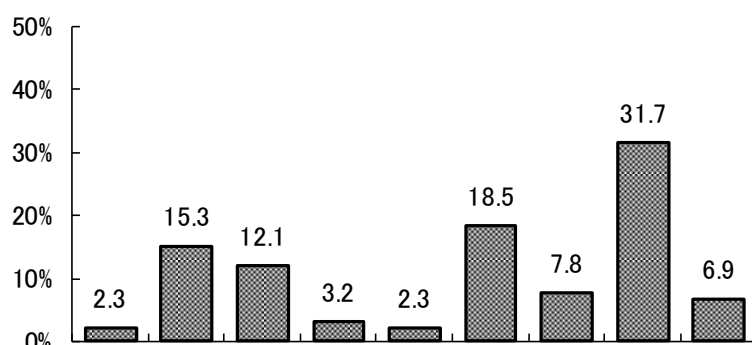
問10. 今後就労をしたいと考えていますか。（ひとつだけ○）

今後の就労意向は、「常勤の社員・職員」が2.3%、「非常勤、嘱託、パート、アルバイト」が15.3%、「自営業・自営業手伝い」が12.1%、「シルバー人材センターでの就労」が3.2%などであり、『就労したい』は合わせて35.2%となっています。一方、「仕事はしたくない（するつもりはない）」が18.5%、「仕事をする必要がない」が7.8%、「仕事はできない」が31.7%であり、『就労したくない』は合わせて58.0%となっています。

性別でみると、『就労したい』は、男性が4割強、女性が2割強となっています。

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて、『就労したい』の割合が低下しています。

図表 10 今後の就労意向（n=2,769）



	回答者数（人）	常勤の社員・職員	非常勤、嘱託、パート、アルバイト	自営業・自営業手伝い	シルバー人材センター	その他の就業	仕事はしたくない（するつもりはない）	仕事をする必要がない	仕事はできない	無回答	『就労したい』	『就労したくない』
全 体	2,769	2.3	15.3	12.1	3.2	2.3	18.5	7.8	31.7	6.9	35.2	58.0
性 別												
男性	1,306	3.8	18.1	16.4	4.1	2.8	20.1	6.7	22.2	5.9	45.2	49.0
女性	1,354	1.0	13.1	8.5	2.3	1.7	17.2	9.1	40.9	6.3	26.6	67.2
年 齢												
65歳～69歳	1,030	4.4	26.2	14.2	3.3	2.0	20.5	5.3	17.6	6.5	50.1	43.4
70歳～74歳	846	2.1	13.6	12.1	4.0	2.6	21.3	7.7	29.7	7.0	34.4	58.7
75歳～79歳	549	0.2	6.0	12.0	3.3	2.4	16.9	11.1	42.8	5.3	23.9	70.8
80歳～84歳	187	—	1.6	7.5	0.5	1.6	9.6	8.6	65.8	4.8	11.2	84.0
85歳以上	113	—	—	5.3	—	3.5	3.5	11.5	68.1	8.0	8.8	83.1

※『就労したい』＝「常勤の社員・職員」＋「非常勤、嘱託、パート、アルバイト」

＋「自営業・自営業手伝い」＋「シルバー人材センターでの就労」＋「その他の就業」

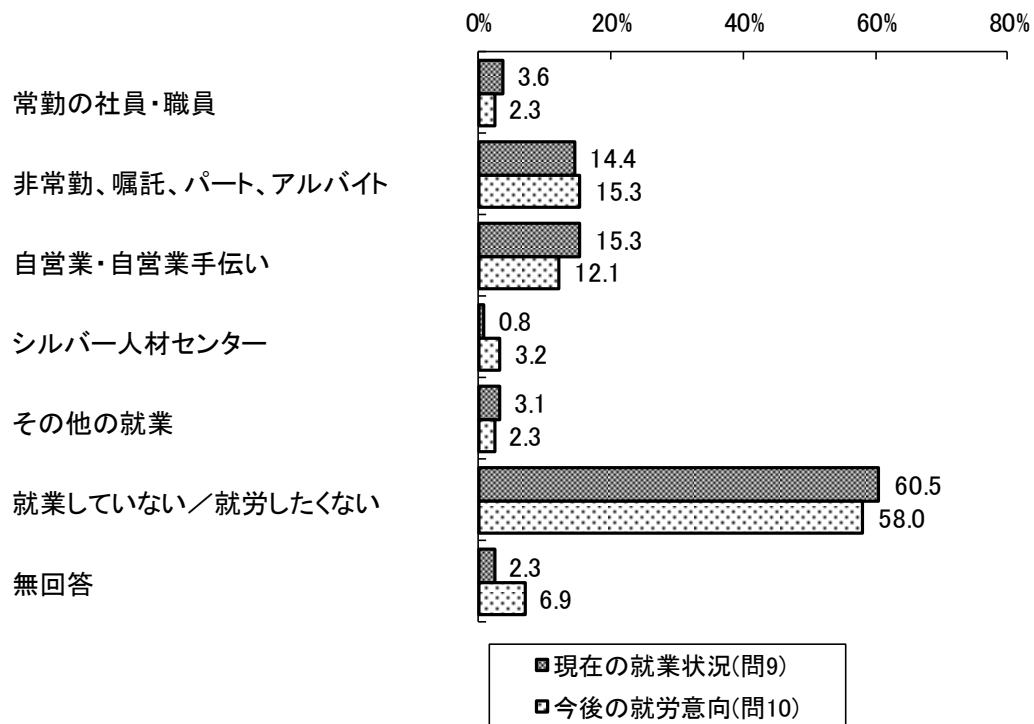
『就業していない』＝「仕事はしたくない（するつもりはない）」＋「仕事をする必要がない」

＋「仕事はできない」

現在の就業状況と今後の就労意向を比較すると、現在の就業状況より今後の就労意向が高いものは、「非常勤、嘱託、パート、アルバイト」、「シルバー人材センターでの就労」となっています。

「シルバー人材センターでの就労」は、現在の就業状況より今後の就労意向のほうが2.4ポイント高くなっています。

図表 11 現在の就業状況と今後の就労意向（n=2,769）



第2章 調査結果（通常設問）

2. 心身の状態、社会参加の状況について

- 問11. からだを動かすことについてうかがいます。
問12. 食べることについてうかがいます。
問13. 毎日の生活についてうかがいます。
問16. 健康、介護の必要性についてうかがいます。

これらの設問は、平成28年に示した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査項目（一部は平成22年の項目）のうち、「心身の機能」、「日常生活・社会参加」、「疾病、健康、介護・介助」により構成されています。

これらの設問については、「第3章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査項目の分析結果」に、別途分析した内容を記載します。

本章では、「地域での活動（問14）」、「たすけあい（問15）」についてのみ記載します。

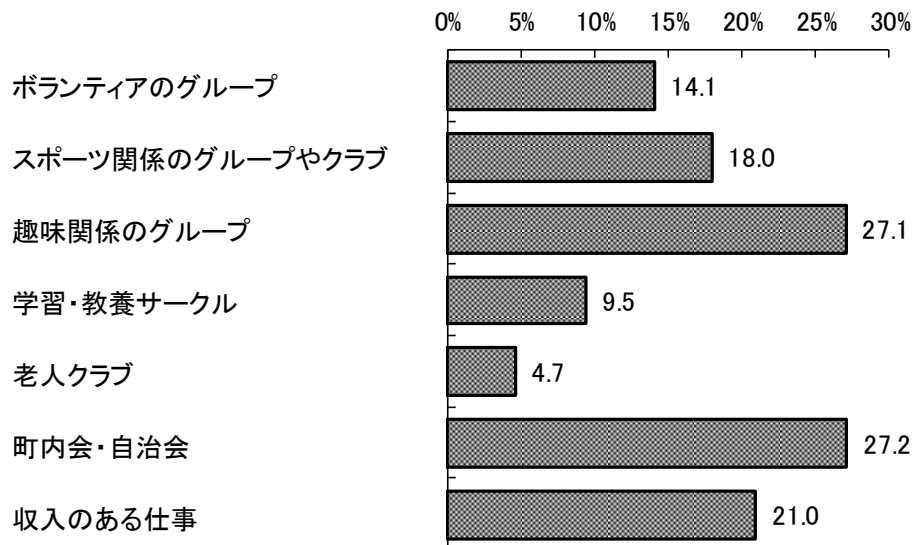
問14. 地域での活動についてうかがいます。

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。(それぞれひとつだけ○)

地域での活動において回数は問わずに何らかの形で参加しているものとしては、「町内会・自治会」が27.2%と最も高くなっています。次いで、「趣味関係のグループ」が27.1%、「収入のある仕事」が21.0%、「スポーツ関係のグループやクラブ」が18.0%などとなっています。

個々の活動の参加状況は、下の図表のとおりです。

図表 12 地域での活動に参加している割合 (n=2,769)



図表 13 地域での活動に参加している割合の内訳 (n=2,769)

	回答者数 (人)	週4回以上	週2〜3回	週1回	月1〜3回	年に数回	参加していない	無回答	『参加している』 (%)
ボランティアのグループ	2,769	0.7	1.1	1.3	5.1	5.9	53.0	32.9	14.1
スポーツ関係のグループやクラブ	2,769	2.5	5.3	4.0	3.5	2.7	50.6	31.5	18.0
趣味関係のグループ	2,769	2.0	4.4	5.3	9.3	6.1	45.5	27.5	27.1
学習・教養サークル	2,769	0.3	0.9	1.7	3.4	3.2	55.7	34.9	9.5
老人クラブ	2,769	0.4	0.4	0.3	2.2	1.4	60.4	34.9	4.7
町内会・自治会	2,769	0.8	0.6	0.9	7.4	17.5	41.0	31.7	27.2
収入のある仕事	2,769	10.5	5.3	1.8	1.8	1.6	47.3	31.6	21.0

※『参加している』＝「週4回以上」～「年に数回」の合計

問14. 地域での活動についてうかがいます。

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に 参加者として 参加してみたいと思いますか。（ひとつだけ○）

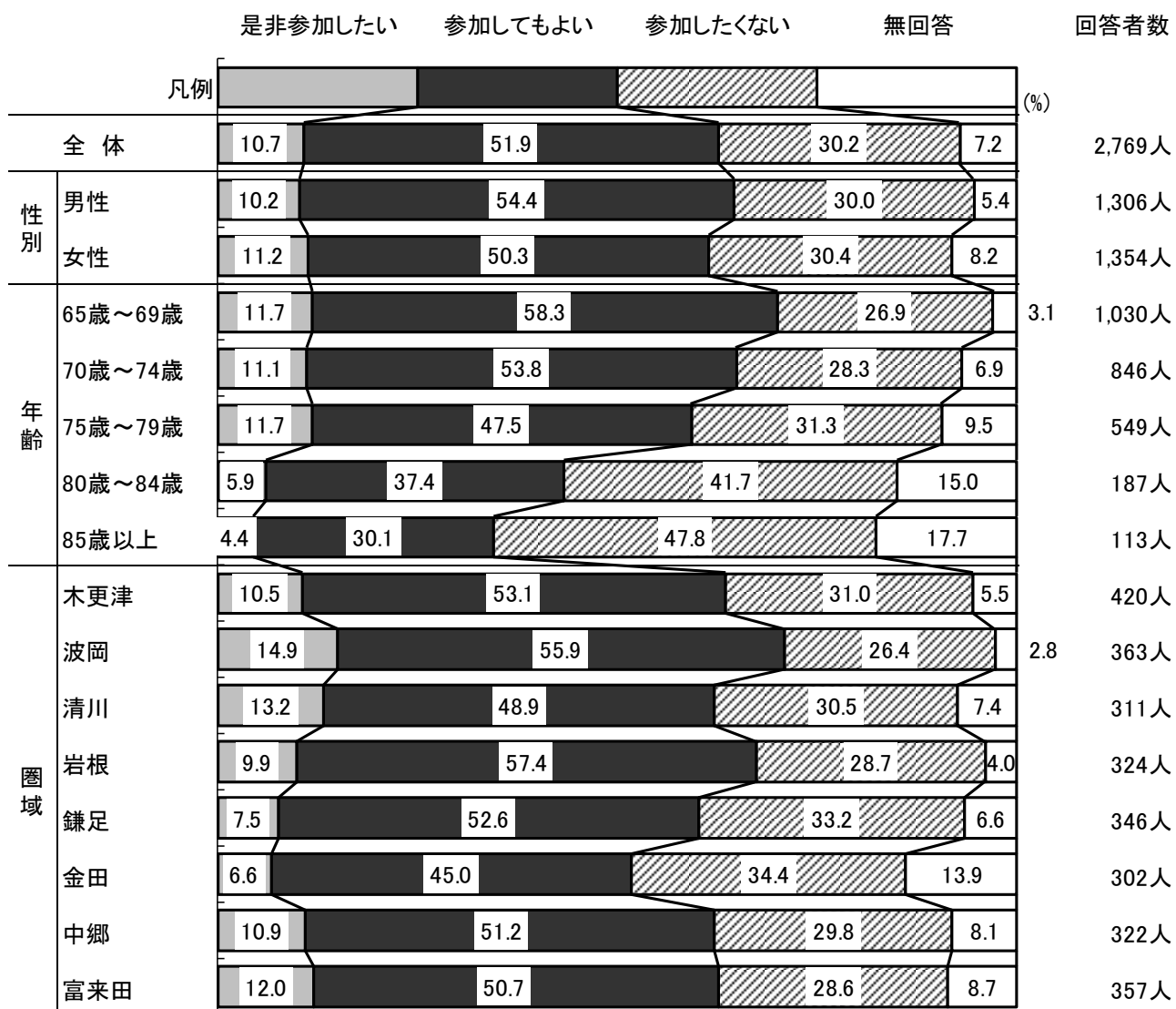
健康づくりや趣味等のグループ活動への参加者としての参加意向は、「是非参加したい」が10.7%、「参加してもよい」が51.9%、「参加したくない」が30.2%となっています。

性別でみると、男性は女性に比べて「参加してもよい」がやや高くなっています。

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて、「参加してもよい」が減少し、「参加したくない」が増加しています。なお、65歳～79歳にかけては「是非参加したい」が1割強とほぼ一定となっています。

圏域別にみると、「是非参加したい」は波岡圏域、清川圏域、「参加してもよい」は波岡圏域、岩根圏域が他の圏域よりやや高くなっています。

図表 14 健康づくりや趣味等のグループ活動への参加者としての参加意向（n=2,769）



問14. 地域での活動についてうかがいます。

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に 企画・運営（お世話役）として 参加してみたいと思いますか。（ひとつだけ○）

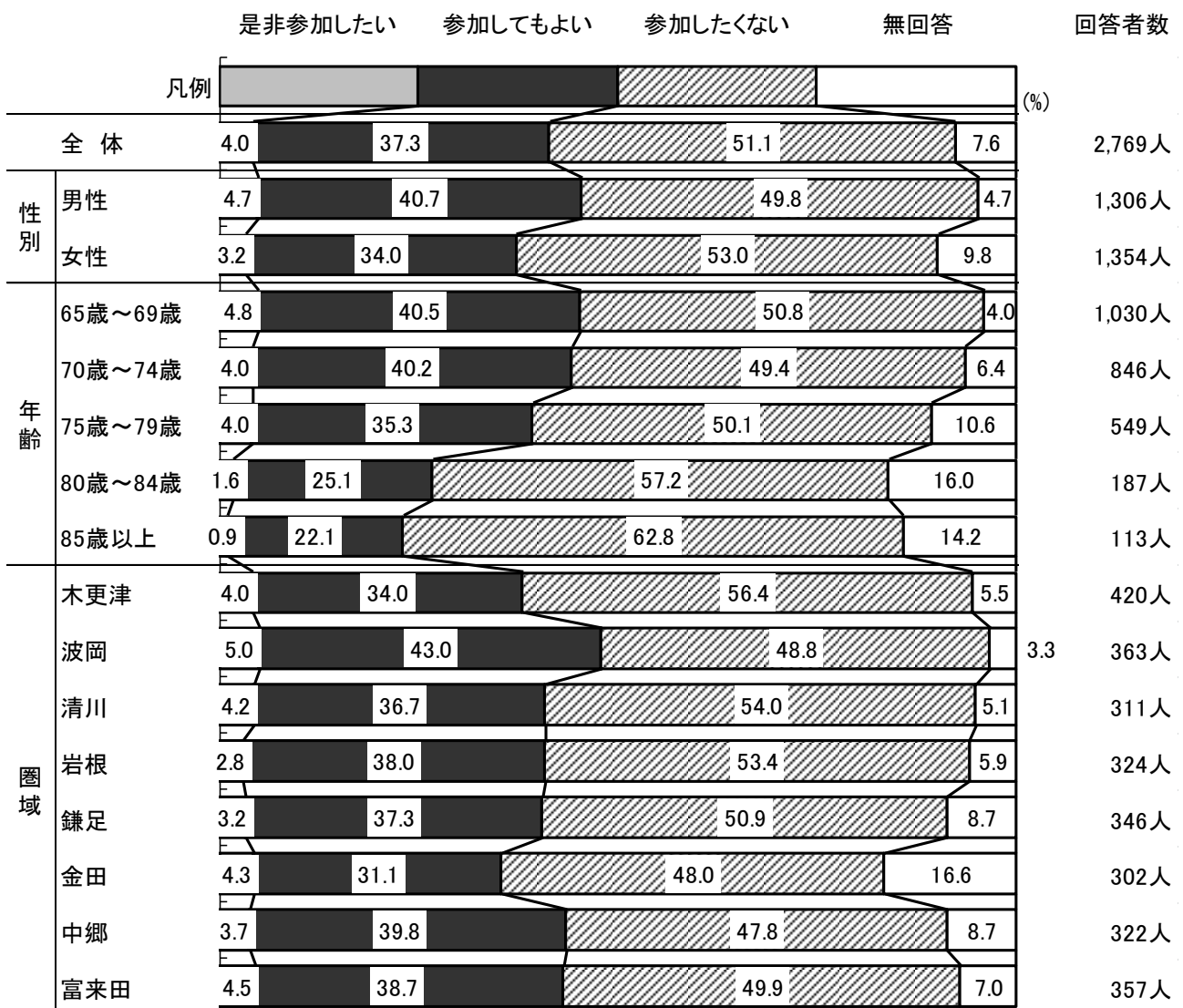
健康づくりや趣味等のグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向は、「是非参加したい」が4.0%、「参加してもよい」が37.3%、「参加したくない」が51.1%となっています。前ページのとおり、参加者としての参加意向は6割強であったのに対して、企画・運営（お世話役）としては4割強にとどまっていることがわかります。

性別でみると、男性は女性に比べて「参加してもよい」がやや高くなっています。

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて、「参加してもよい」が減少し、「参加したくない」が増加しています。

圏域別にみると、「是非参加したい」は波岡圏域、清川圏域、金田圏域、富来田圏域、「参加してもよい」は波岡圏域、岩根圏域、中郷圏域、富来田圏域が他の圏域よりやや高くなっています。

図表 15 健康づくりや趣味等のグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向（n=2,648）



問15. あなたとまわりの人の「たすけあい」についてうかがいます。

(1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はどなたですか。

（あてはまるものすべてに○）

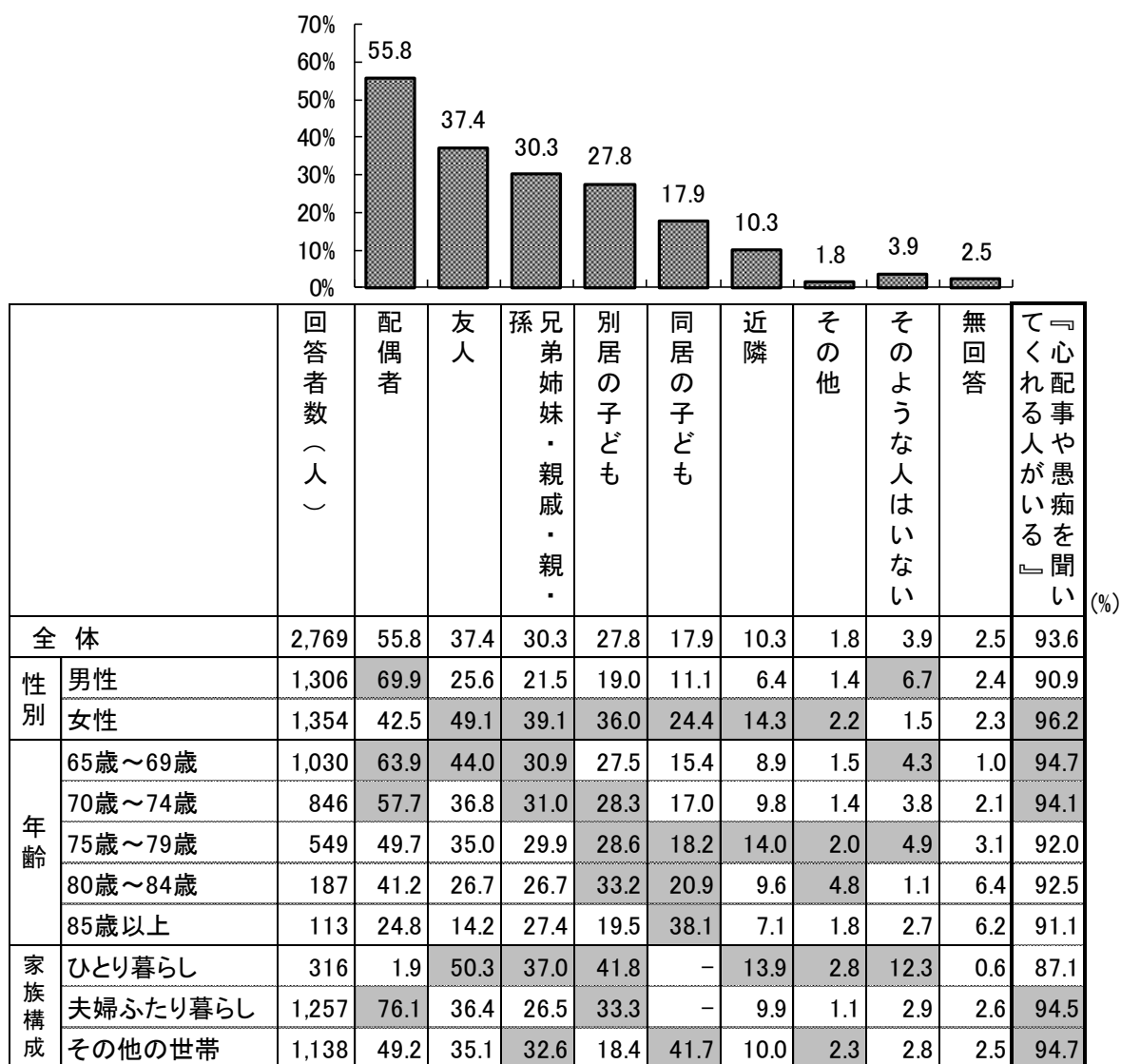
『心配事や愚痴を聞いてくれる人がいる』割合は93.6%であり、その内訳は、「配偶者」が55.8%と最も高く、次いで、「友人」が37.4%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が30.3%、「別居の子ども」が27.8%などとなっています。「配偶者」を除くと、親族より「友人」のほうが高くなっています。

性別でみると、男性は「配偶者」が7割弱であるほかは低くなっています。女性は「配偶者」より「友人」のほうが5割弱と高く、男性とは異なり「配偶者」以外にさまざまな人に心配事や愚痴を聞いてもらっていることがわかります。

年齢別でみると、年齢が低いほど「配偶者」、「友人」が高くなっています。「兄弟姉妹・親戚・親・孫」、「別居の子ども」は84歳くらいまではほぼ一定、「同居の子ども」は年齢が高いほど高くなっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らしは「友人」、夫婦ふたり暮らしは「配偶者」、その他の世帯は「同居の子ども」が他の家族構成より高くなっています。

図表 16 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（n=2,769）



※『心配事や愚痴を聞いてくれる人がいる』=100%－「そのような人はいない」－「無回答」

問15. あなたとまわりの人の「たすけあい」についてうかがいます。

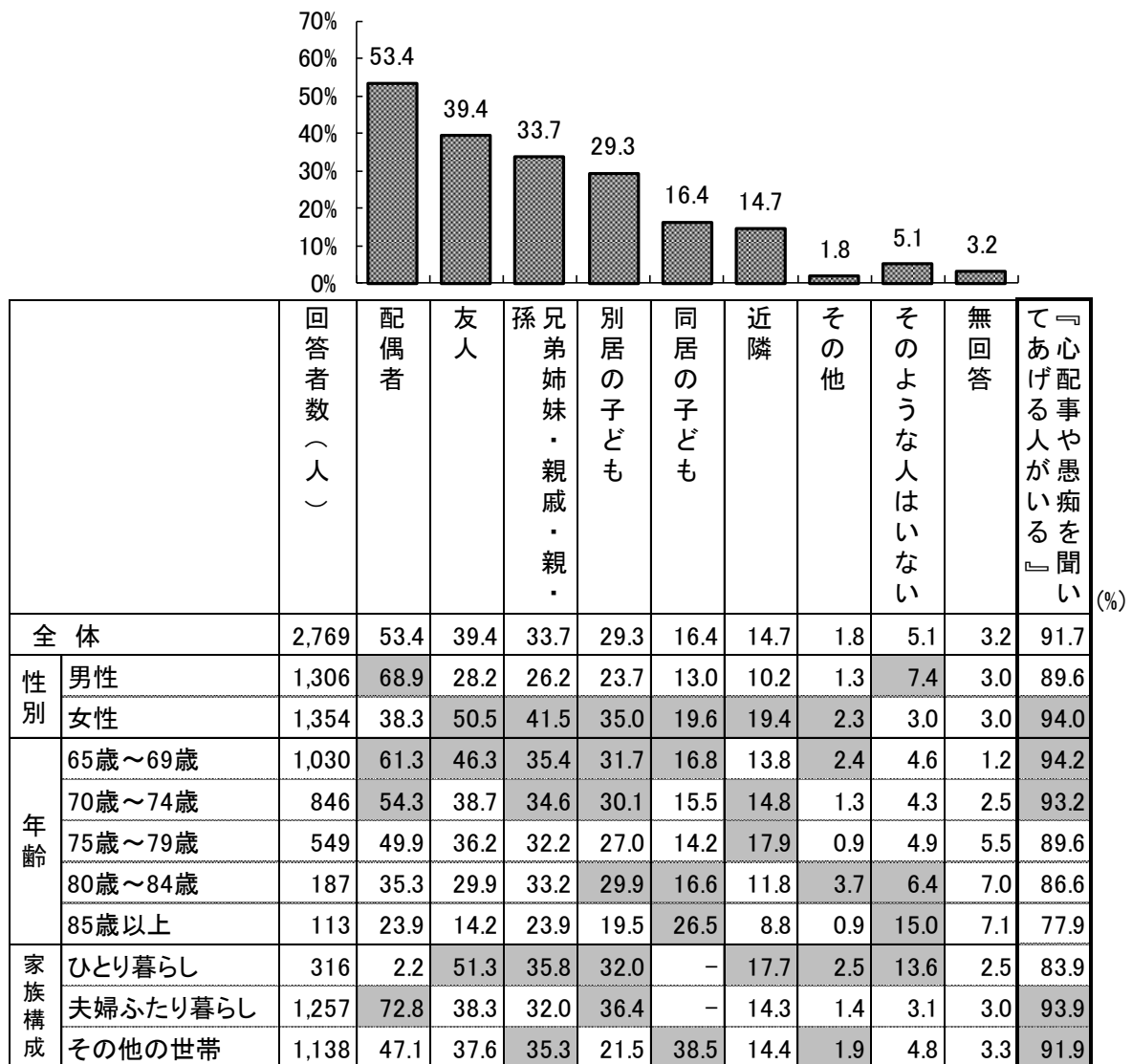
(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はどなたですか。

（あてはまるものすべてに○）

『心配事や愚痴を聞いてあげる人がある』割合は91.7%であり、その内訳は、「配偶者」が53.4%と最も高く、次いで、「友人」が39.4%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が33.7%、「別居の子ども」が29.3%などとなっています。「配偶者」を除くと、親族より「友人」のほうが高くなっています。

全体、性別、年齢別、家族構成別でみた場合の傾向は、心配事や愚痴を聞いてくれる人とほぼ同様です。

図表 17 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（n=2,769）



※『心配事や愚痴を聞いてあげる人がある』＝100%－「そのような人はいない」－「無回答」

問15. あなたとまわりの人の「たすけあい」についてうかがいます。

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はどなたですか。

(あてはまるものすべてに○)

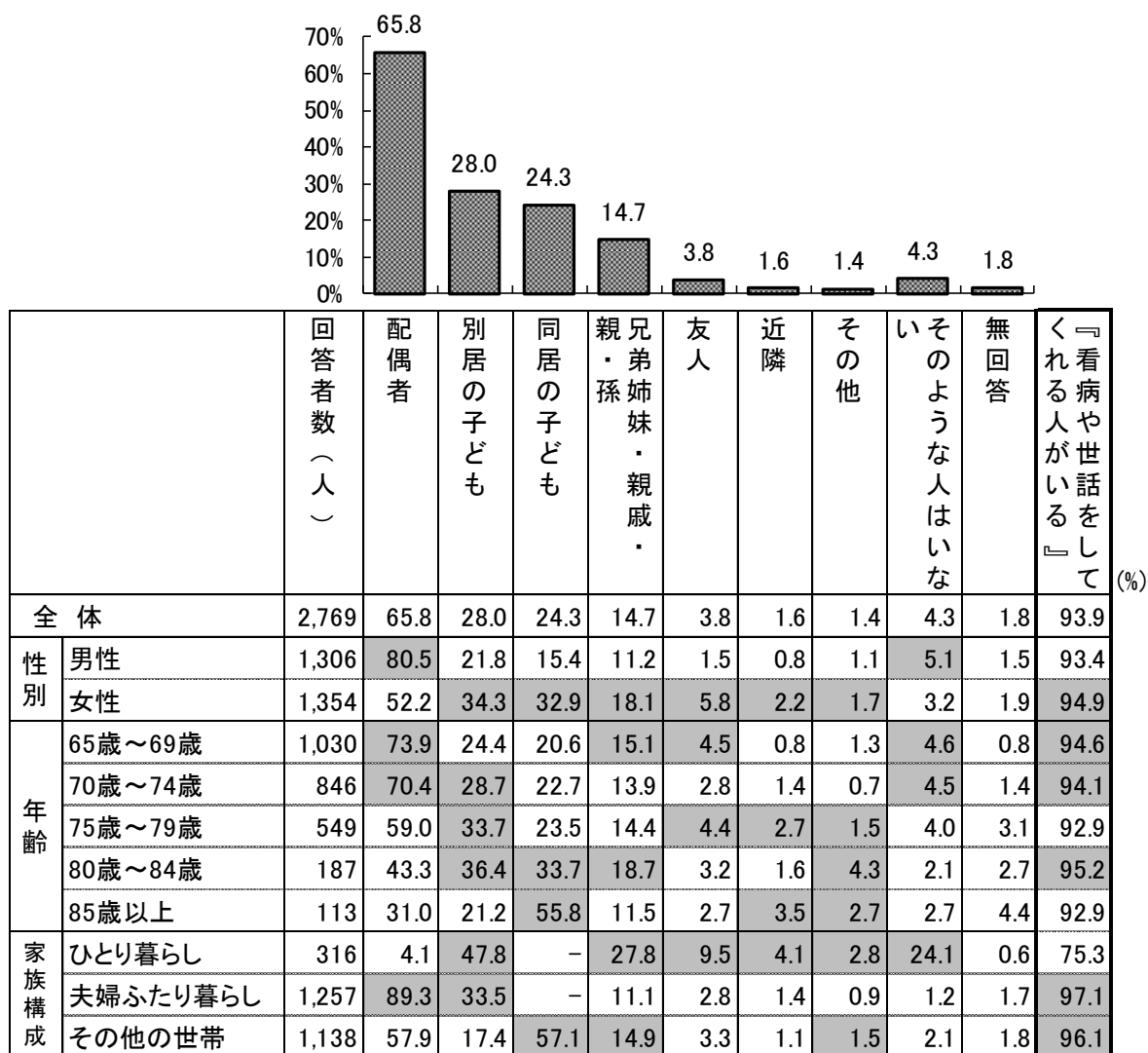
病気で数日間寝込んだときに、『看病や世話をしてくれる人がある』割合は93.9%であり、その内訳は、「配偶者」が65.8%と最も高く、次いで、「別居の子ども」が28.0%、「同居の子ども」が24.3%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が14.7%などとなっています。「配偶者」を除くと、同居、別居にかかわらず子どもの割合が高くなっています。

性別でみると、男性は「配偶者」が8割強であるほかは低くなっています。女性は「配偶者」が5割強のほかは、「別居の子ども」、「同居の子ども」が3割強となっています。

年齢別でみると、年齢が低いほど「配偶者」が高くなっています。「別居の子ども」は84歳くらいまでは年齢とともにやや増加し、「同居の子ども」は80歳以上で急増、85歳以上では5割強となっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らしは「別居の子ども」、夫婦ふたり暮らしは「配偶者」、その他の世帯は「同居の子ども」が他の家族構成より高くなっています。

図表 18 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (n=2,769)



※『看病や世話をしてくれる人がある』=100%－「そのような人はいない」－「無回答」

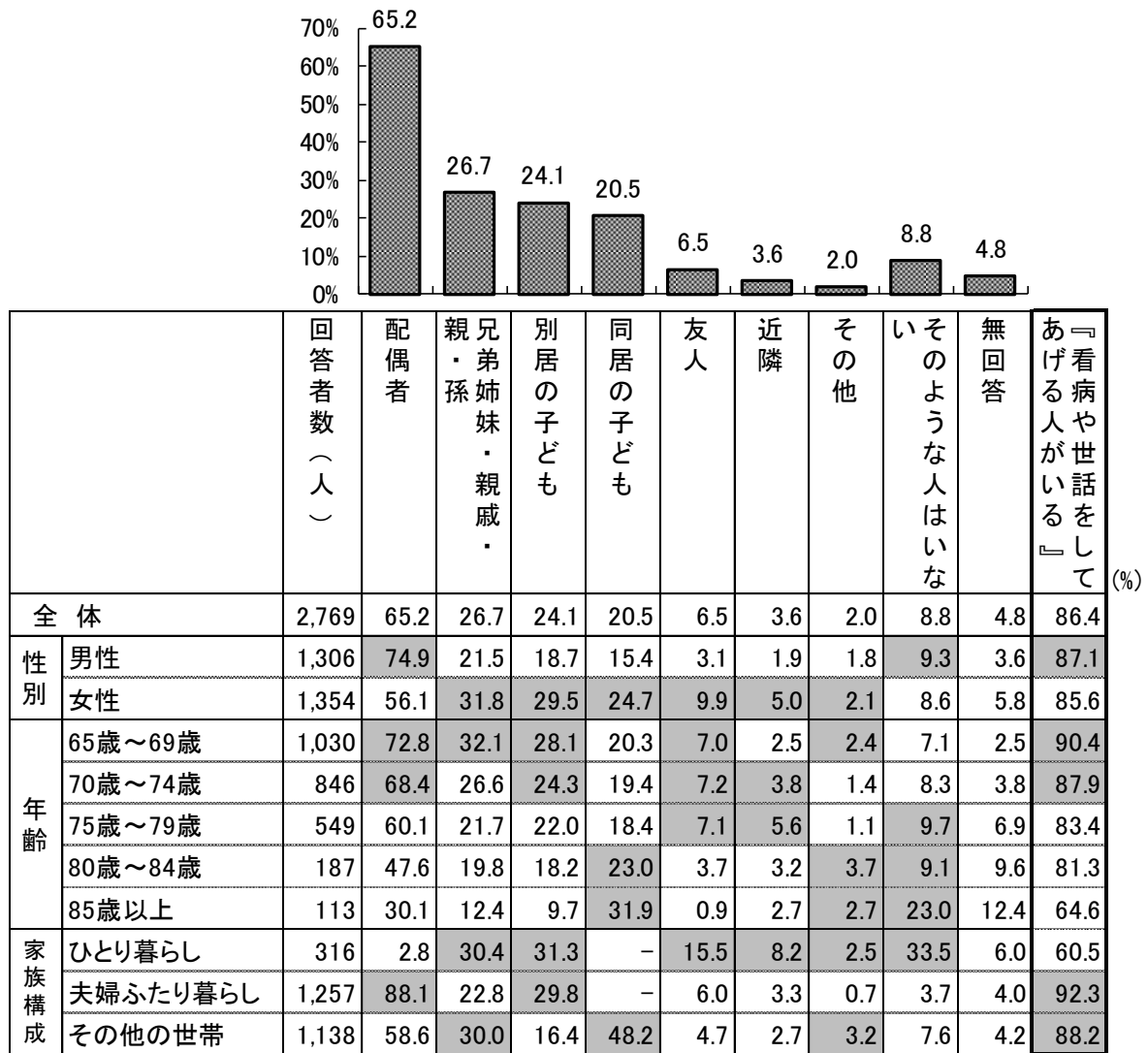
問15. あなたとまわりの人の「たすけあい」についてうかがいます。

(4) 反対に、看病や世話をしてくれる人はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

病気で数日間寝込んだときに、『看病や世話をしてくれる人がある』割合は86.4%であり、その内訳は、「配偶者」が65.2%と最も高く、次いで、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が26.7%、「別居の子ども」が24.1%、「同居の子ども」が20.5%などとなっています。

全体、性別、年齢別、家族構成別でみた場合の傾向は、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が第2位に入っているほかは、看病や世話をしてくれる人と似たような状況となっています。

図表 19 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（n=2,769）



※『看病や世話をしてくれる人がある』＝100%－「そのような人はいない」－「無回答」

問15. あなたとまわりの人の「たすけあい」についてうかがいます。

(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。

（あてはまるものすべてに○）

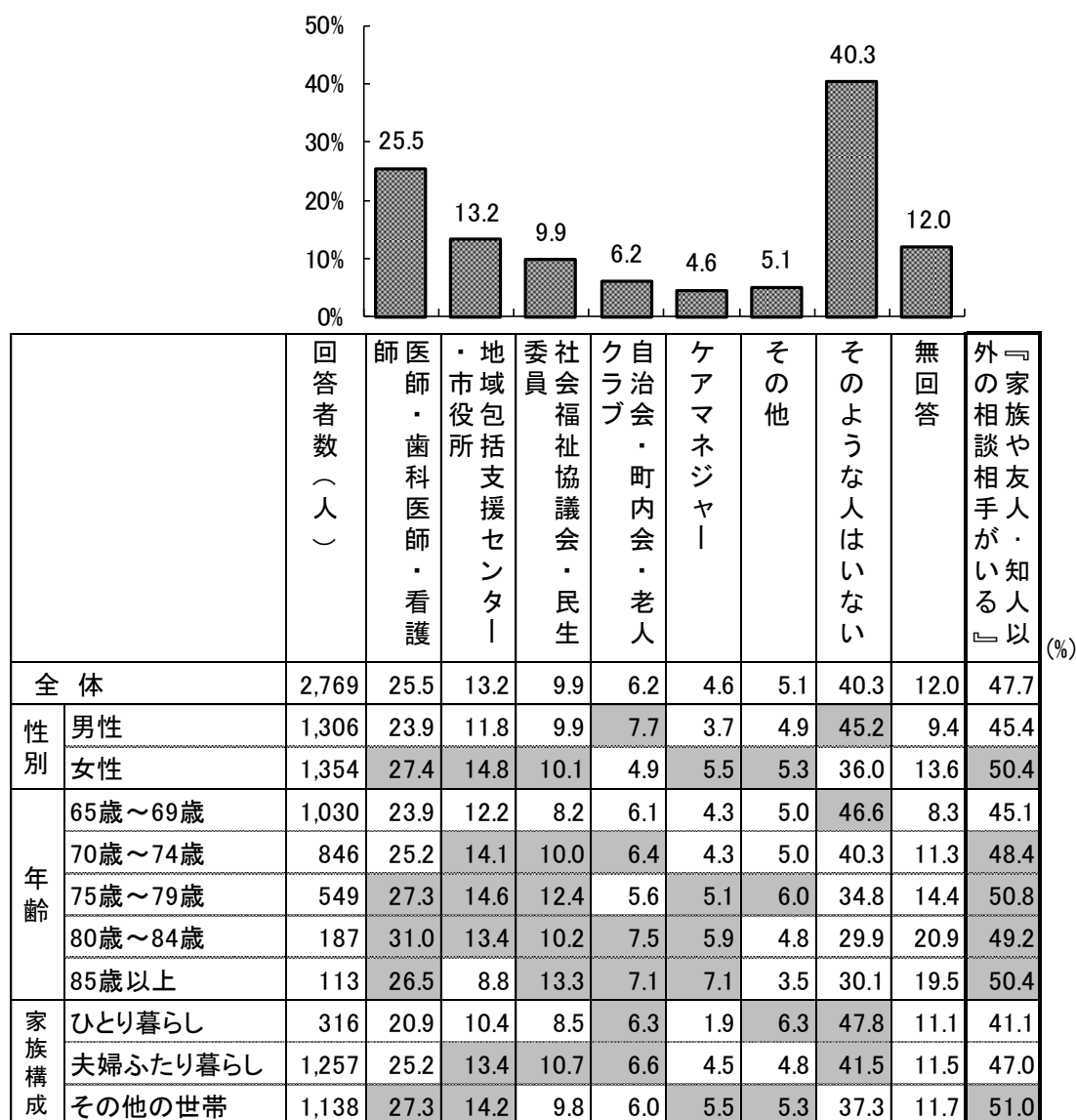
『家族や友人・知人以外で相談する相手がいる』割合は47.7%であり、その内訳は、「医師・歯科医師・看護師」が25.5%、「地域包括支援センター・市役所」が13.2%、「社会福祉協議会・民生委員」が9.9%などとなっています。一方、「そのような人はいない」が40.3%と最も高くなっています。

性別でみると、男性は女性に比べて「そのような人はいない」が高くなっています。女性は男性に比べるとさまざまな相談相手がいる割合が高くなっています。

年齢別でみると、65歳～69歳は「そのような人はいない」が高くなっています。75歳以上ではさまざまな相談相手がいる割合が高くなっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らしは「そのような人はいない」が他の家族構成より高くなっています。

図表 20 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手（n=2,769）



※『家族や友人・知人以外の相談相手がいる』=100%－「そのような人はいない」－「無回答」

問15. あなたとまわりの人の「たすけあい」についてうかがいます。

(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。（ひとつだけ○）

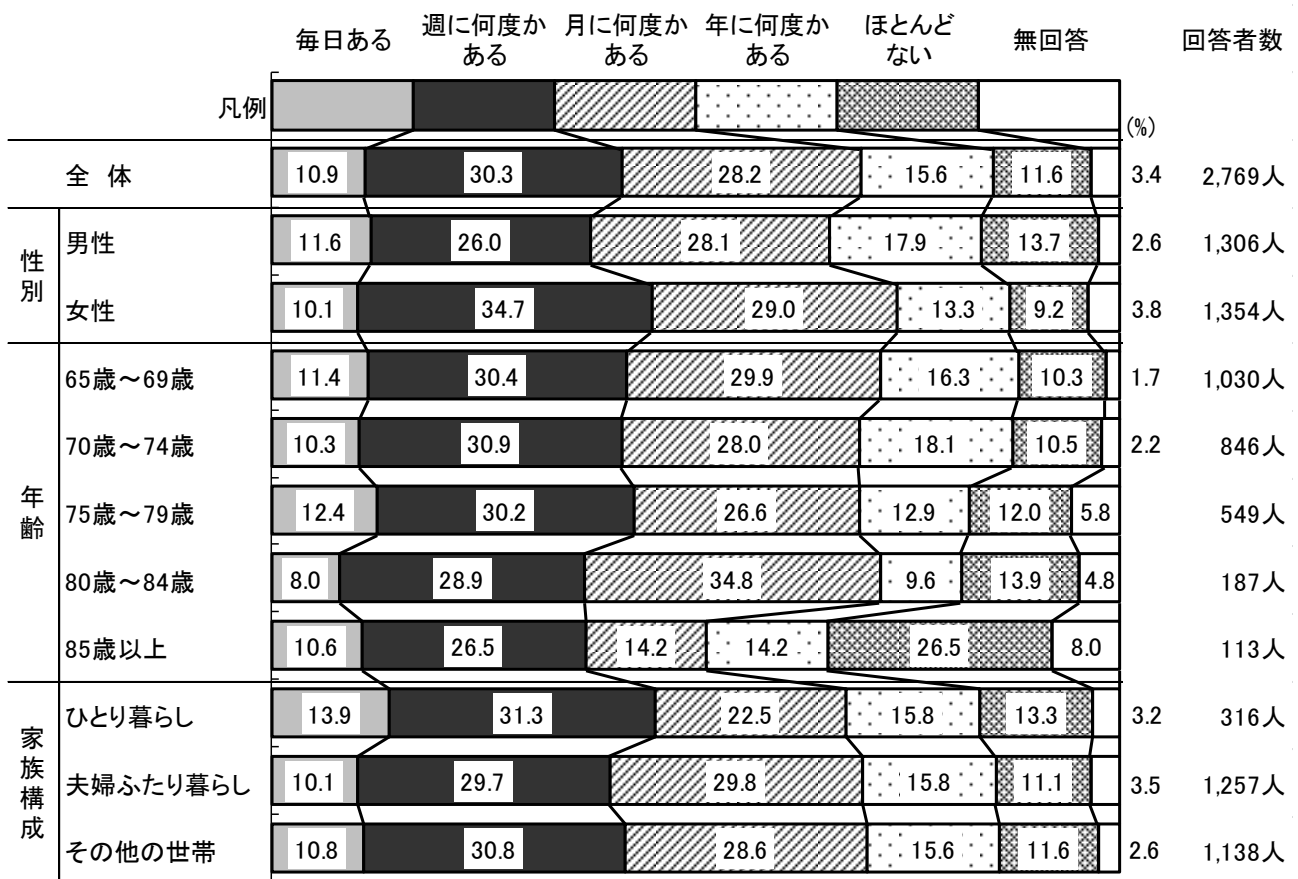
友人・知人と会う頻度は、「毎日ある」が10.9%、「週に何度かある」が30.3%、「月に何度かある」が28.2%、「年に何度かある」が15.6%、「ほとんどない」が11.6%となっています。「月に何度かある」以上の頻度がある人は7割弱となっています。

性別でみると、女性は男性に比べて「週に何度かある」が高くなっています。

年齢別でみると、84歳以下ではほぼ同様の傾向が見られます。85歳以上になると「月に何度かある」の割合が急激に少なくなる一方で、「ほとんどない」の割合が増加します。

家族構成別でみると、ひとり暮らしは「毎日ある」が他の家族構成よりやや高い一方で、「月に何度かある」が低くなっています。

図表 21 友人・知人と会う頻度 (n=2,769)



問15. あなたとまわりの人の「たすけあい」についてうかがいます。

(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。(ひとつだけ○)(ひとつだけ○)

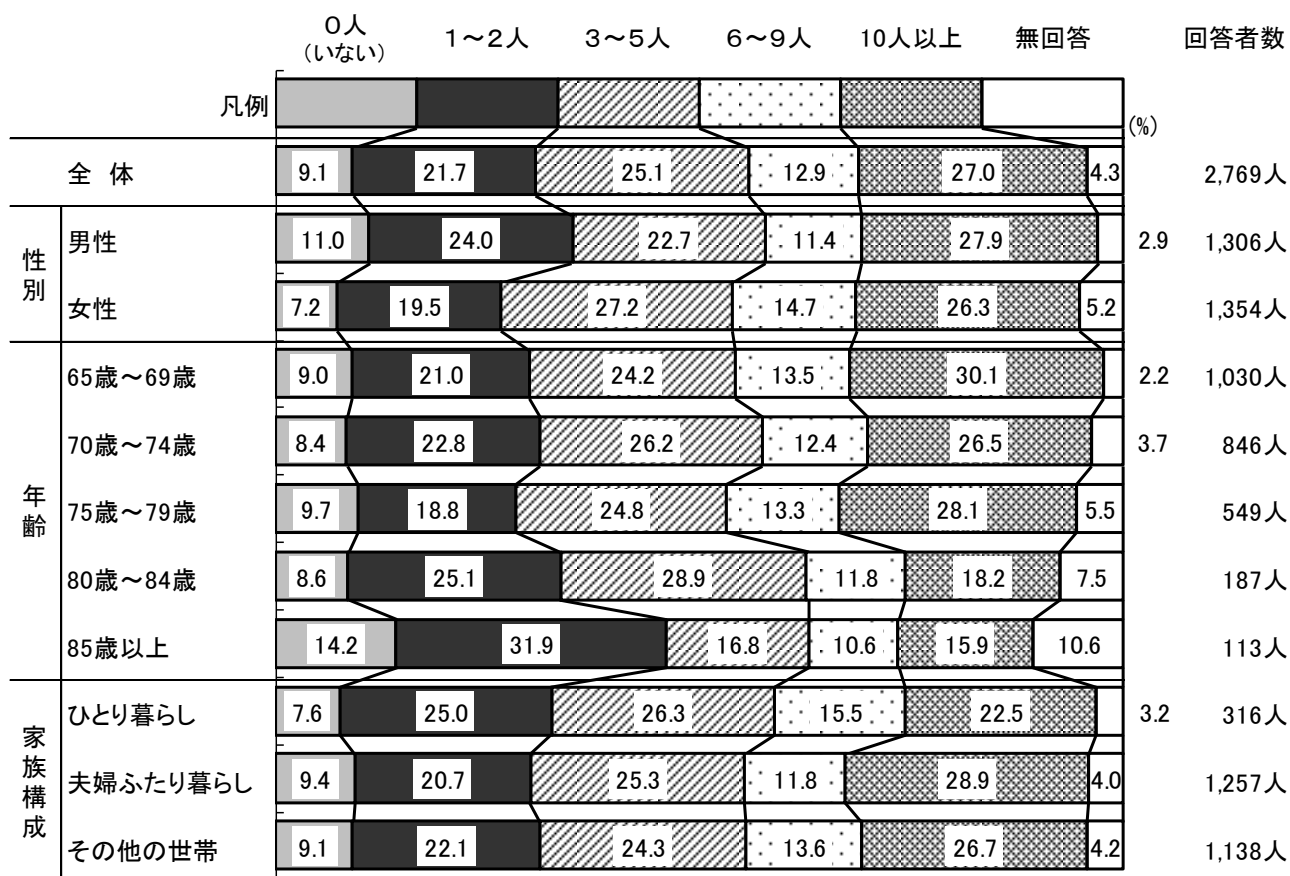
この1か月間で会った友人・知人の数は、「0人（いない）」が9.1%、「1～2人」が21.7%、「3～5人」が25.1%、「6～9人」が12.9%、「10人以上」が27.0%となっています。

性別でみると、男性は女性に比べて「0人（いない）」、「1～2人」が高くなっています。

年齢別でみると、85歳以上では「0人（いない）」、「1～2人」が他の年齢より高くなっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らしは「1～2人」、「6～9人」が他の家族構成よりやや高くなっています。

図表 22 この1か月間で会った友人・知人の人数（n=2,769）



問15. あなたとまわりの人の「たすけあい」についてうかがいます。

(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（あてはまるものすべてに○）

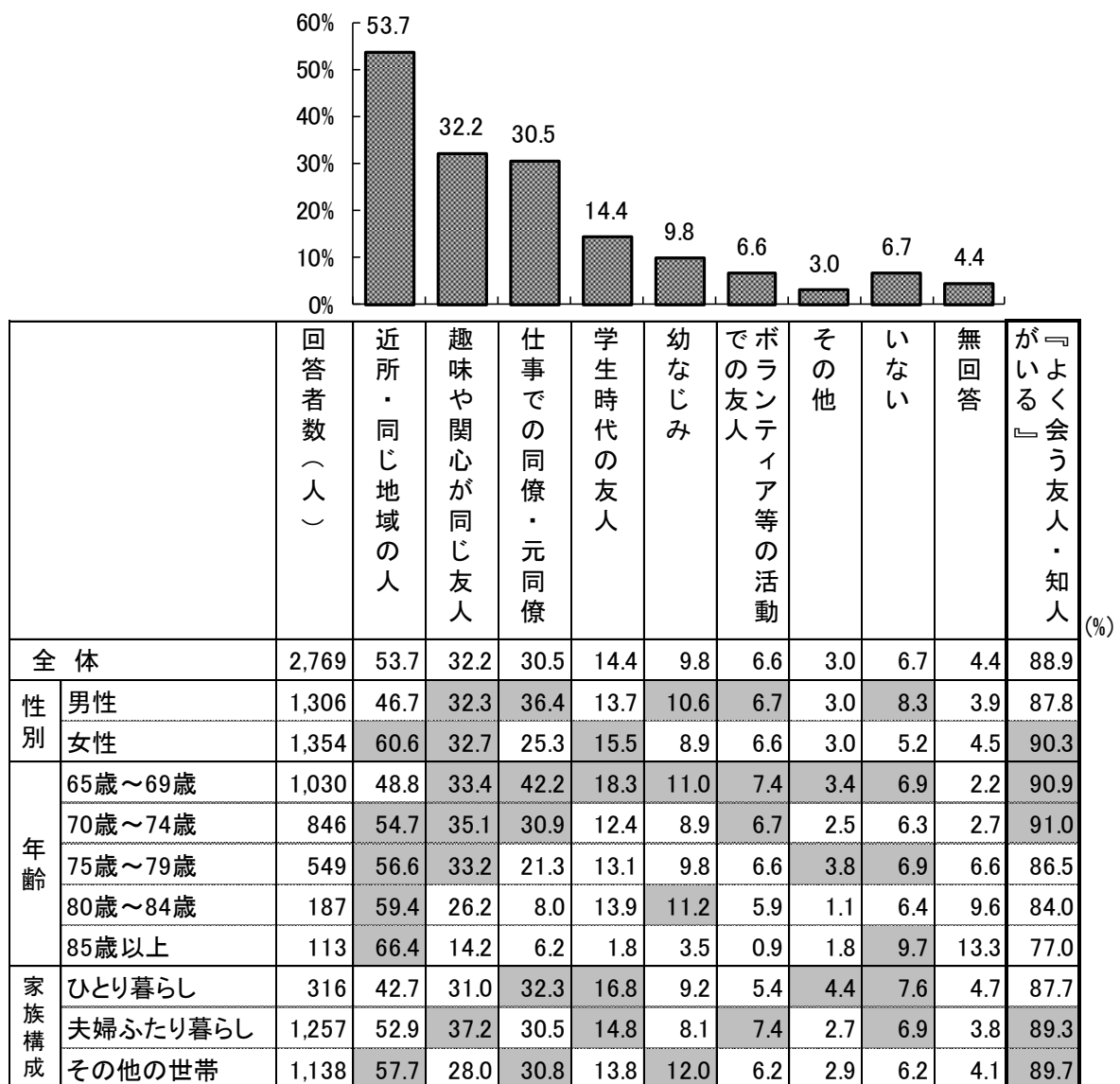
『よく会う友人・知人がいる』割合は88.9%であり、「近所・同じ地域の人」が53.7%と最も高くなっています。次いで、「趣味や関心が同じ友人」が32.2%、「仕事での同僚・元同僚」が30.5%などとなっています。

性別でみると、男性は女性に比べて「仕事での同僚・元同僚」が高く、女性は男性に比べて「近所・同じ地域の人」が高くなっています。

年齢別でみると、年齢が高い人ほど「近所・同じ地域の人」が高く、一方、年齢が低い人ほど「仕事での同僚・元同僚」が高くなっています。「趣味や関心が同じ友人」は79歳以下ではほぼ一定ですが、80歳以上では低下しています。

家族構成別でみると、夫婦ふたり暮らしでは「趣味や関心が同じ友人」、その他の世帯では「近所・同じ地域の人」が他の家族構成より高くなっています。

図表 23 よく会う友人・知人の関係（n=2,769）



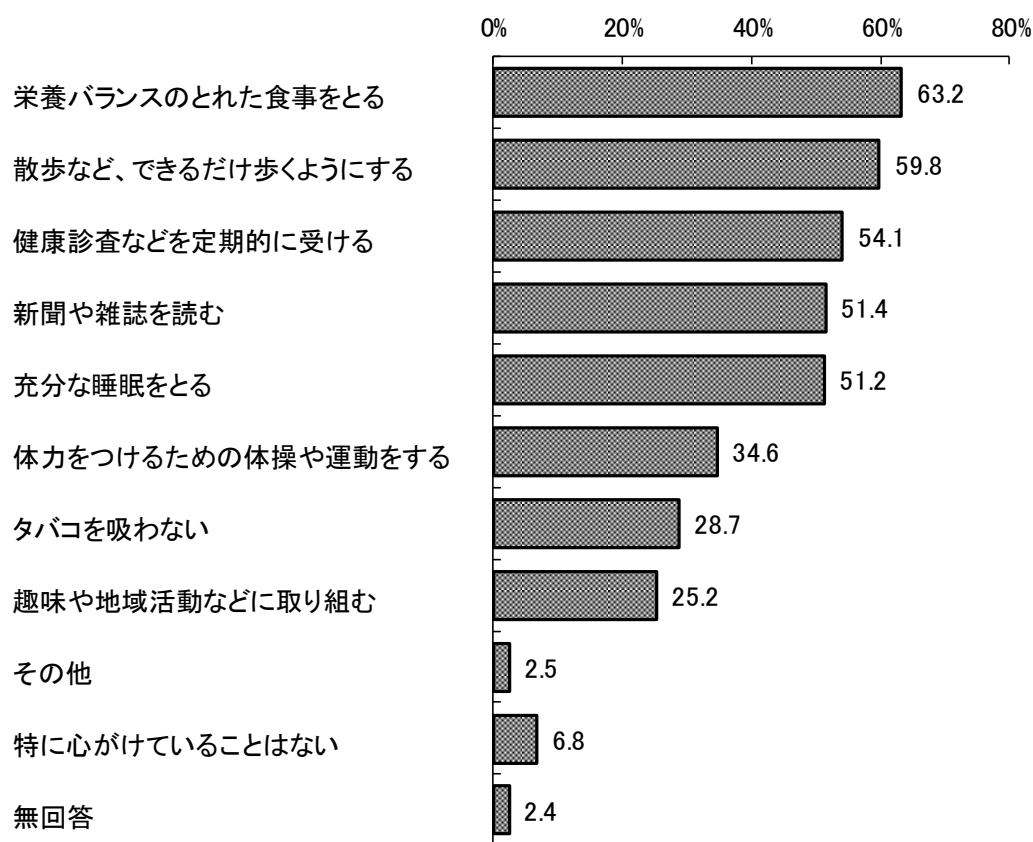
※『よく会う友人・知人がいる』=100%－「いない」－「無回答」

3. 介護予防について

問17. あなたは、将来、介護を必要としない健康な生活が送れるようにするために、心がけていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

健康な生活のために心がけていることは、「栄養バランスのとれた食事をする」が63.2%と最も高くなっています。次いで、「散歩など、できるだけ歩くようにする」が59.8%、「健康診査などを定期的に受ける」が54.1%、「新聞や雑誌を読む」が51.4%、「十分な睡眠をとる」が51.2%などとなっています。

図表 24 健康な生活のために心がけていること（n=2,769）



第2章 調査結果（通常設問）

性別でみると、男性は「散歩など、できるだけ歩くようにする」が6割強と最も高く、女性は「栄養バランスのとれた食事をとる」が7割弱と最も高いほか、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「健康診査などを定期的に受ける」も6割前後と高くなっています。

男性について年齢別でみると、70歳代は「散歩など、できるだけ歩くようにする」をはじめ、多くの項目で割合が高くなっています。80歳～84歳は「新聞や雑誌を読む」が7割弱と高くなっています。「タバコを吸わない」は全年齢で3～4割台となっています。

女性について年齢別でみると、70歳代は「栄養バランスのとれた食事をとる」が7割前後のほか、さまざまな項目で割合が高くなっています。

図表 25 健康な生活のために心がけていること (n=2,769)

		回答者数 (人)	栄養 バランス のとれ	散歩 など、 できる だけ	健康 診査 などを 定期 的に 受ける	新聞 や雑誌 を読む	充分 な睡眠 をとる	体操 や運動 をする ための	タバ コを吸 わない	趣味 や地域 活動 など	その他	特 に心 が け て い る こ と	無 回 答
	全 体	2,769	63.2	59.8	54.1	51.4	51.2	34.6	28.7	25.2	2.5	6.8	2.4
性 別	男性	1,306	57.4	60.1	52.0	51.5	53.1	34.2	34.5	26.6	2.0	7.7	2.5
	女性	1,354	69.1	60.6	56.7	51.1	50.5	35.5	23.8	24.7	3.0	6.1	1.8
男 性 ／ 年 齢	65歳～69歳	539	58.3	57.0	52.3	47.1	50.6	34.5	31.0	26.2	1.9	8.7	2.0
	70歳～74歳	424	57.5	61.8	51.9	55.0	55.4	34.9	35.4	28.8	2.1	7.3	1.7
	75歳～79歳	250	56.8	64.8	53.6	53.6	56.4	34.8	38.8	26.0	2.8	5.6	2.8
	80歳～84歳	57	56.1	57.9	56.1	68.4	50.9	31.6	45.6	31.6	—	12.3	5.3
	85歳以上	33	54.5	54.5	33.3	39.4	45.5	21.2	33.3	6.1	—	3.0	15.2
女 性 ／ 年 齢	65歳～69歳	470	71.9	57.2	58.7	47.0	46.2	35.3	24.9	26.6	1.7	7.7	1.1
	70歳～74歳	405	67.4	64.9	55.6	52.1	52.8	38.5	25.2	25.9	2.7	5.9	2.0
	75歳～79歳	278	74.5	67.6	60.8	60.8	55.8	35.6	28.1	28.1	3.2	2.5	1.4
	80歳～84歳	119	62.2	51.3	52.9	48.7	51.3	33.6	10.1	14.3	5.9	6.7	3.4
	85歳以上	73	50.7	46.6	43.8	39.7	46.6	23.3	13.7	11.0	6.8	11.0	4.1

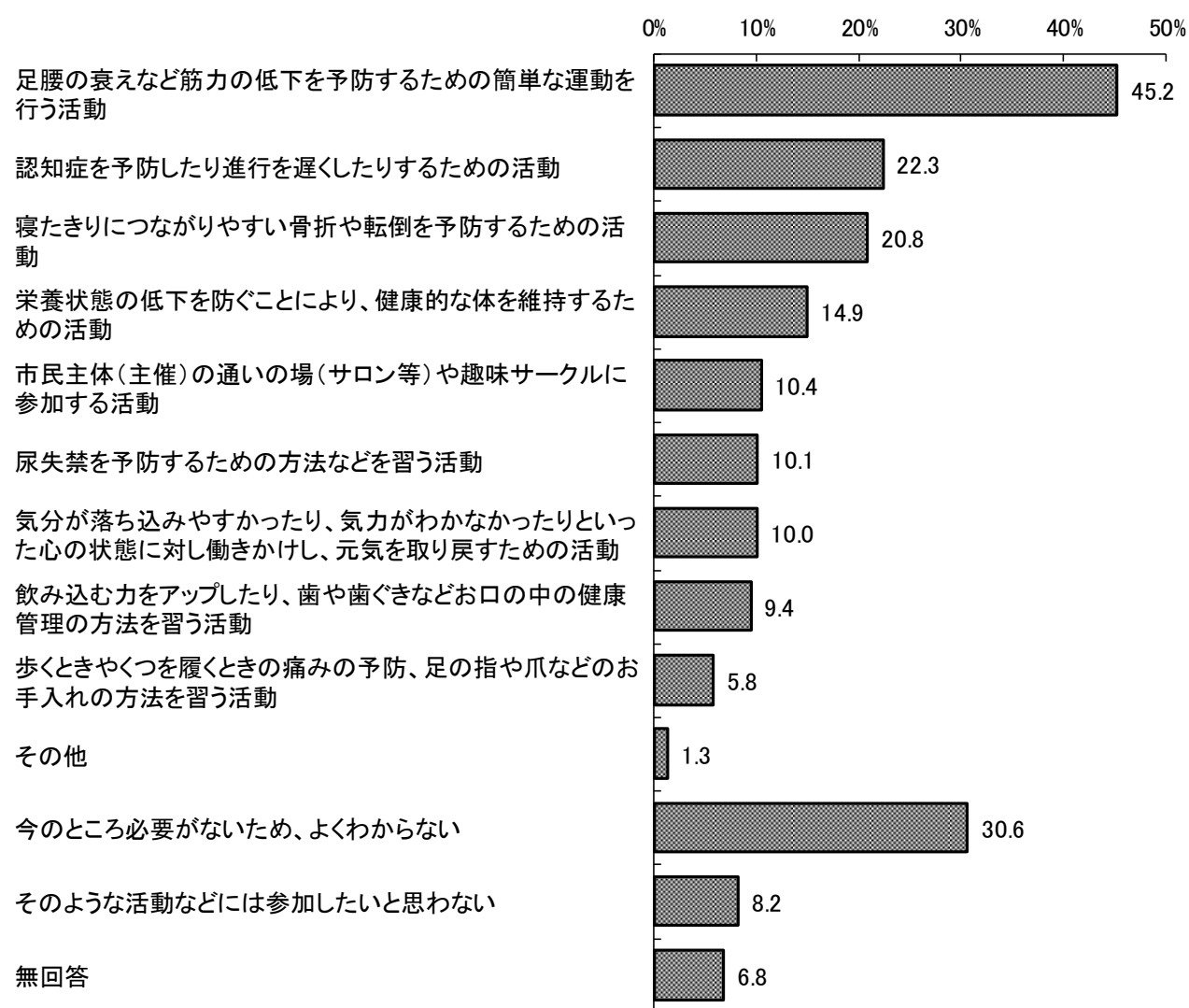
(%)

問18. 介護予防に関して、今後も続けたい活動または新たに参加・利用したい活動はありますか。
（あてはまるものすべてに○）

今後も続けたいまたは新たに参加・利用したい介護予防活動は、「足腰の衰えなど筋力の低下を予防するための簡単な運動を行う活動」が45.2%と最も高くなっています。次いで、「認知症を予防したり進行を遅くしたりするための活動」が22.3%、「寝たきりにつながりやすい骨折や転倒を予防するための活動」が20.8%、「栄養状態の低下を防ぐことにより、健康的な体を維持するための活動」が14.9%などとなっています。

一方、「今のところ必要がないため、よくわからない」が30.6%のほか、「そのような活動などには参加したいと思わない」も8.2%が回答しています。

図表 26 今後も続けたいまたは新たに参加・利用したい介護予防活動（n=2,769）



性別でみると、参加を希望する人は、全般的に女性のほうが男性より高くなっています。

年齢別でみると、男性は75歳～84歳、女性は79歳以下で、さまざまな活動への参加の意向が高くなっています。一方、「今のところ必要がないため、よくわからない」は男女とも年齢が低い人で高く、「そのような活動などには参加したいと思わない」は男性の75～79歳、女性の80歳以上で高くなっています。

個々の項目では、「足腰の衰えなど筋力の低下を予防するための簡単な運動を行う活動」は、男性の85歳以上、女性の80歳以上で参加の意向が低く、「認知症を予防したり進行を遅くしたりするための活動」は男性の75歳～84歳、女性の79歳以下、また、「寝たきりにつながりやすい骨折や転倒を予防するための活動」は男性の80歳以上、女性の84歳以下で参加の意向が高くなっています。

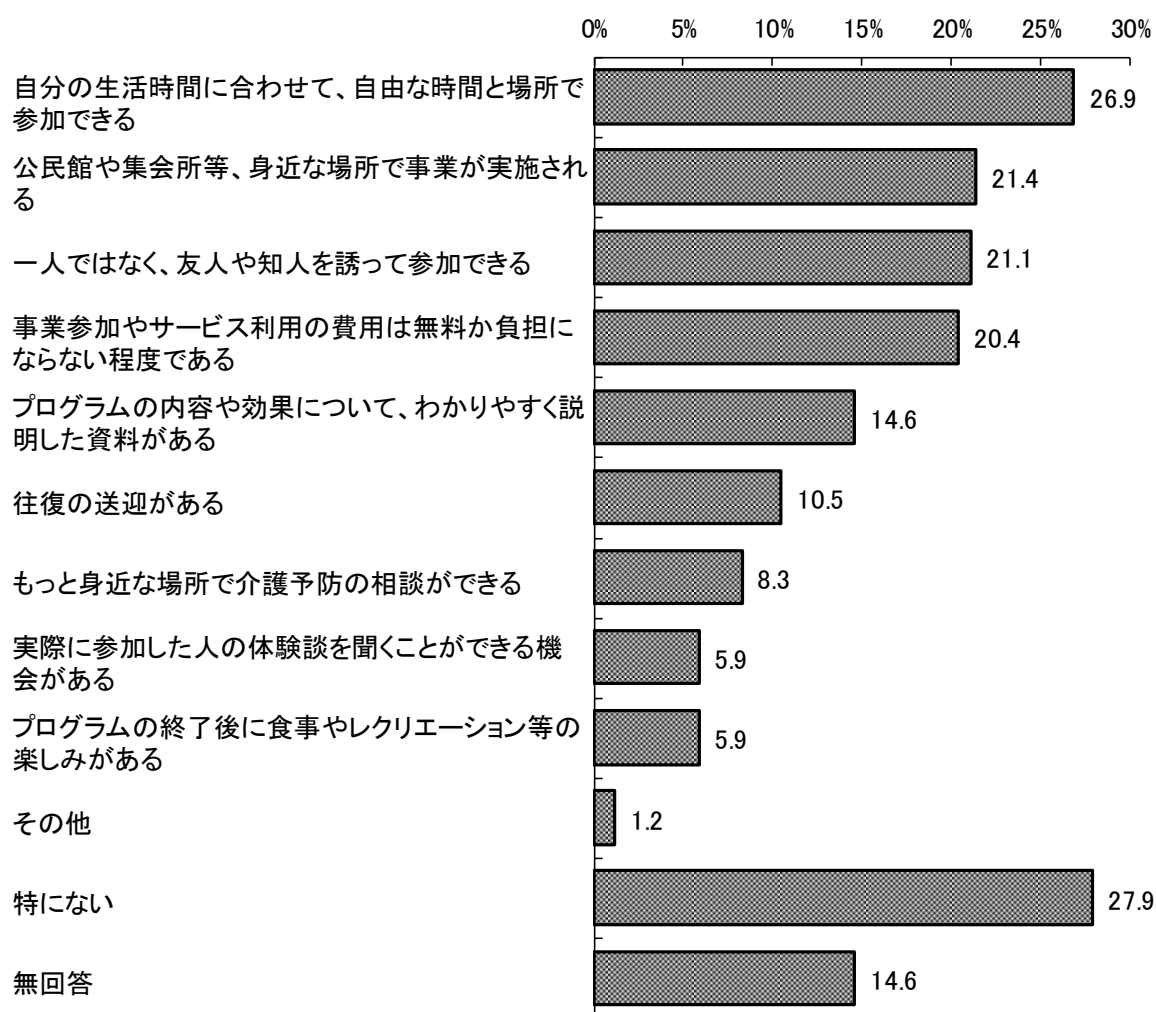
図表 27 今後も続けたいまたは新たに参加・利用したい介護予防活動（n=2,769）

		回答者数（人）	足腰の衰えなど筋力の低下を予防するための簡単な運動を行う活動	認知症を予防したり進行を遅くしたりするための活動	寝たきりにつながるやすい骨折や転倒を予防するための活動	栄養状態の低下を防ぐための活動	健康的な体を維持するための活動	市民主体（主催）の通いの場（サロン等）や趣味サークルに参加する活動	活動	尿失禁を予防するための方法などを習う	かながわ県民の元気を取り戻すための活動	気分が落ち込みやすかったり、氣力がわかなかったりといった心の状態に對し働	きなどお口の健康管理の方法を習う活動	飲み込む力をアップしたり、歯や歯ぐきなどお口の健康管理の方法を習う活動	歩くときやくつを履くときの痛みの予防、足の指や爪などのお手入れの方法を習う活動	その他	今のところ必要がないため、よくわからない	そのような活動などには参加したいと思わない	無回答
全 体		2,769	45.2	22.3	20.8	14.9	10.4	10.1	10.0	9.4	5.8	1.3	30.6	8.2	6.8				(%)
性 別	男性	1,306	45.8	19.1	15.8	15.6	8.7	8.5	8.9	8.2	4.2	0.9	32.5	8.3	5.6				
	女性	1,354	44.9	25.8	26.3	14.1	12.2	11.8	11.2	10.5	7.3	1.7	29.1	7.9	7.3				
男 性 ／ 年 齢	65歳～69歳	539	46.2	18.0	12.4	14.5	8.5	7.2	9.1	7.1	3.5	0.7	36.0	8.5	3.0				
	70歳～74歳	424	47.2	17.5	14.9	16.3	8.5	7.3	8.3	8.5	4.0	1.4	33.3	7.3	5.2				
	75歳～79歳	250	44.4	24.0	19.6	16.0	11.2	12.4	8.4	9.6	5.2	0.4	26.4	10.4	7.6				
	80歳～84歳	57	45.6	22.8	31.6	26.3	7.0	8.8	12.3	12.3	10.5	1.8	24.6	8.8	12.3				
	85歳以上	33	36.4	18.2	24.2	6.1	—	15.2	9.1	6.1	—	—	24.2	3.0	27.3				
女 性 ／ 年 齢	65歳～69歳	470	49.1	28.5	26.6	14.7	12.3	12.1	13.4	11.3	7.2	1.7	32.1	4.9	4.0				
	70歳～74歳	405	45.2	25.4	24.4	13.6	13.3	11.9	11.4	9.6	6.9	2.2	30.6	7.4	5.2				
	75歳～79歳	278	46.0	28.4	32.7	18.7	15.8	14.0	12.2	12.9	10.1	1.4	23.7	8.6	10.1				
	80歳～84歳	119	35.3	19.3	25.2	7.6	5.9	10.1	5.9	7.6	5.9	1.7	27.7	13.4	14.3				
	85歳以上	73	30.1	13.7	15.1	8.2	2.7	5.5	1.4	6.8	2.7	—	23.3	16.4	17.8				

問19. 問18で挙げた介護予防活動に、どのような条件があれば、参加者として参加したいと思いますか。（主なもの3つまで○）

介護予防活動に参加者として参加するための条件は、「自分の生活時間に合わせて、自由な時間と場所で参加できる」が26.9%と、条件が挙げた中では最も高くなっています。次いで、「公民館や集会所等、身近な場所で事業が実施される」が21.4%、「一人ではなく、友人や知人を誘って参加できる」が21.1%、「事業参加やサービス利用の費用は無料か負担にならない程度である」が20.4%などとなっています。一方、「特にない」が27.9%と最も高くなっています。

図表 28 介護予防活動に参加者として参加するための条件（n=2,769）



第2章 調査結果（通常設問）

性別でみると、「プログラムの内容や効果について、わかりやすく説明した資料がある」を除く各項目で、女性のほうが男性より割合が高くなっています。

年齢別でみると、男女とも年齢が低い人で割合が高いものは、「自分の生活時間に合わせて、自由な時間と場所で参加できる」、「事業参加やサービス利用の費用は無料か負担にならない程度である」などです。一方、「往復の送迎がある」は年齢が高い人で割合が高くなっています。

図表 29 介護予防活動に参加者として参加するための条件 (n=2,769)

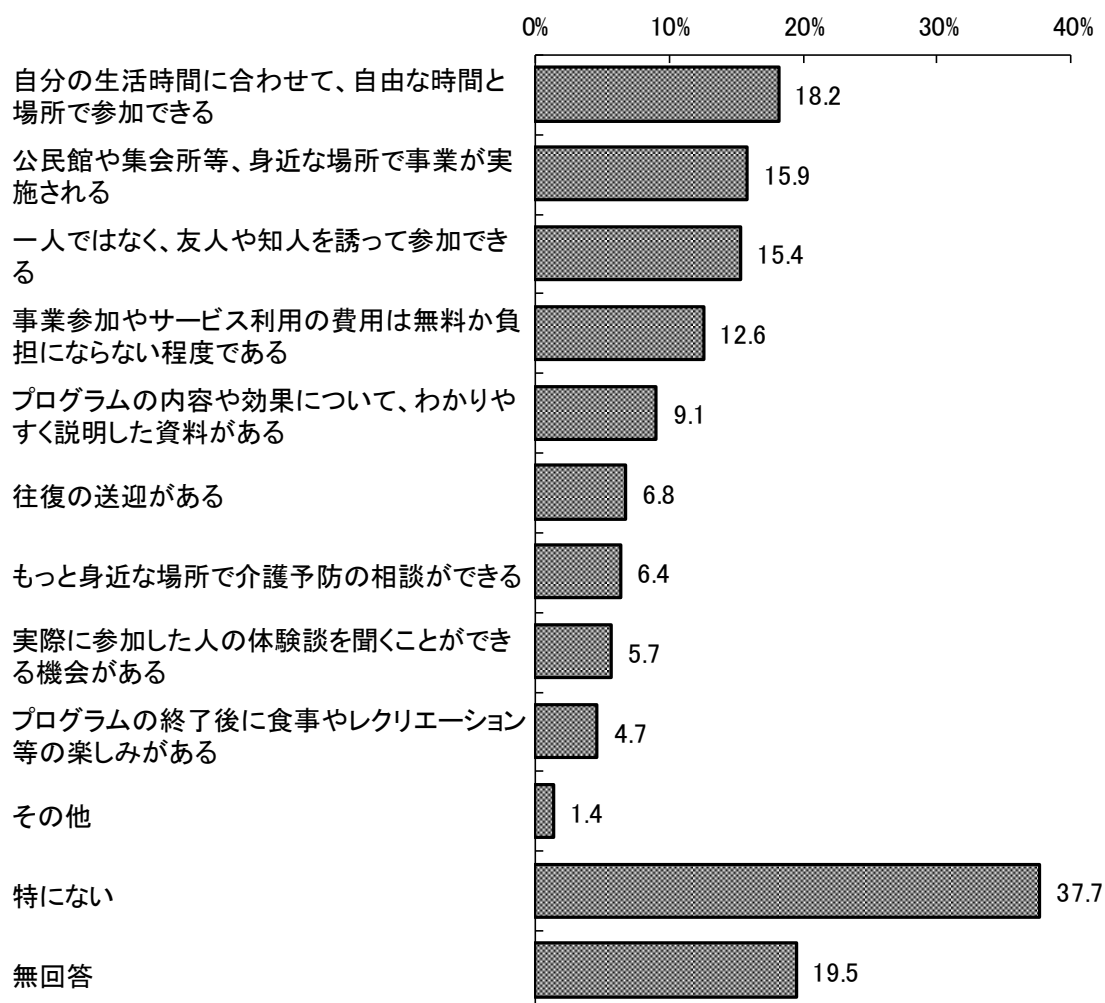
		回答者数（人）	加 で 可 る	自 分 の 生 活 時 間 に 合 わ せ て 、 自 由 な 時 間 と 場 所 で 参 加 可 る	公 民 館 や 集 会 所 等 、 身 近 な 場 所 で 事 業 が 実 施 さ れ る	一 人 で は な く 、 友 人 や 知 人 を 誘 っ て 参 加 可 る	事 業 参 加 や サ ー ビ ス 利 用 の 費 用 は 無 料 か 負 担 に な ら な い 程 度 で あ る	往 復 の 送 迎 が あ る	防 の 相 談 が 可 い 場 所 で 介 護 予 め の 相 談 が 可 い	も と と 身 近 な 場 所 で 介 護 予 め の 相 談 が 可 い	実 際 に 参 加 し た 人 の 体 験 談 を 聞 く こ と が 可 い 機 会 が あ る	し み が あ る	プ ロ グ ラ ム の 終 了 後 に 食 事 や レ ク リ エ ー シ ョ ン 等 の 楽 し み が あ る	そ の 他	特 に な い	無 回 答	(%)
全 体		2,769	26.9	21.4	21.1	20.4	14.6	10.5	8.3	5.9	5.9	1.2	27.9	14.6			
性 別	男性	1,306	25.3	20.7	16.6	18.7	15.7	5.5	8.2	5.7	5.4	1.2	33.1	13.3			
	女性	1,354	29.1	22.5	25.9	22.8	13.7	15.7	8.5	6.2	6.5	1.3	23.1	14.5			
男 性 ／ 年 齢	65歳～69歳	539	29.5	20.0	18.2	21.9	18.4	4.5	10.0	6.3	5.9	1.5	33.8	7.8			
	70歳～74歳	424	24.5	21.2	15.6	17.2	15.6	4.0	6.4	4.0	5.0	0.9	33.5	15.6			
	75歳～79歳	250	20.8	20.0	14.8	16.4	12.0	5.6	6.0	6.8	6.0	1.2	32.0	18.4			
	80歳～84歳	57	21.1	29.8	19.3	17.5	10.5	12.3	12.3	5.3	5.3	－	33.3	19.3			
	85歳以上	33	9.1	15.2	12.1	6.1	12.1	27.3	12.1	6.1	－	3.0	24.2	27.3			
女 性 ／ 年 齢	65歳～69歳	470	37.7	24.0	28.5	29.4	18.1	10.0	9.6	7.2	6.8	0.2	20.9	9.8			
	70歳～74歳	405	29.1	23.7	25.2	24.2	14.6	16.3	7.9	4.4	7.7	1.7	23.7	12.3			
	75歳～79歳	278	27.0	23.7	29.1	19.1	11.5	20.1	7.9	7.9	6.8	1.4	21.2	18.3			
	80歳～84歳	119	10.9	13.4	18.5	11.8	5.0	19.3	8.4	5.9	0.8	4.2	31.9	22.7			
	85歳以上	73	9.6	16.4	13.7	6.8	5.5	24.7	8.2	4.1	5.5	－	28.8	28.8			

問20. 問18で挙げた介護予防活動に、どのような条件があれば、地域住民の有志での企画・運営（お世話役）として参加したいと思いますか。（主なもの3つまで○）

介護予防活動に地域住民の有志での企画・運営として参加するための条件は、「自分の生活時間に合わせて、自由な時間と場所で参加できる」が18.2%と、条件が挙げた中では最も高くなっています。次いで、「公民館や集会所等、身近な場所で事業が実施される」が15.9%、「一人ではなく、友人や知人を誘って参加できる」が15.4%、「事業参加やサービス利用の費用は無料か負担にならない程度である」が12.6%などとなっています。

一方、「特にない」が37.7%と最も高くなっています。

図表 30 介護予防活動に地域住民の有志での企画・運営として参加するための条件（n=2,769）



第2章 調査結果（通常設問）

性別でみると、女性は、「自分の生活時間に合わせて、自由な時間と場所で参加できる」、「一人ではなく、友人や知人を誘って参加できる」が2割弱と高くなっています。男性は「特にない」が4割を超えています。

年齢別でみると、男女とも年齢が低い人でさまざまな項目の割合が高くなっています。特に女性の65歳～69歳は「自分の生活時間に合わせて、自由な時間と場所で参加できる」が3割弱、また、65歳～79歳は「一人ではなく、友人や知人を誘って参加できる」が2割弱となっています。

図表 31 介護予防活動に地域住民の有志での企画・運営として参加するための条件 (n=2,769)

		回答者数（人）	加 で 可 る	自 分 の 生 活 時 間 に 合 わ せ て 、 自 由 な 時 間 と 場 所 で 参	公 民 館 や 集 会 所 等 、 身 近 な 場 所 で 事 業 が 実 施 さ れ る	一 人 で は な く 、 友 人 や 知 人 を 誘 っ て 参 加 で 可 る	事 業 参 加 や サ ー ビ ス 利 用 の 費 用 は 無 料 か 負 担 に な ら な い 程 度 で あ る	往 復 の 送 迎 が あ る	も っ と 身 近 な 場 所 で 介 護 予 防 の 相 談 が で 可 い	あ る 機 会 が あ る	実 際 に 参 加 し た 人 の 体 験 談 を 聞 く こ と が で 可 い	し み が あ る	プ ロ グ ラ ム の 終 了 後 に 食 事 や レ ク リ エ ー シ ョ ン 等 の 楽 し み が あ る	そ の 他	特 に な い	無 回 答	(%)	
全 体		2,769	18.2	15.9	15.4	12.6	9.1	6.8	6.4	5.7	4.7	1.4	37.7	19.5				
性 別	男性	1,306	16.9	16.2	13.2	12.9	10.5	4.4	5.5	6.2	5.0	1.4	42.3	16.4				
	女性	1,354	19.6	16.0	17.6	12.3	7.7	9.4	7.5	5.4	4.6	1.5	34.0	21.2				
男 性 ／ 年 齢	65歳～69歳	539	18.7	15.6	14.5	13.0	10.9	3.9	6.3	5.9	5.2	1.9	44.0	11.9				
	70歳～74歳	424	15.1	17.5	12.5	11.3	10.6	4.5	5.4	5.7	4.5	1.2	43.9	16.7				
	75歳～79歳	250	18.8	16.4	11.2	16.8	10.0	3.2	4.0	7.2	6.4	0.4	38.4	22.0				
	80歳～84歳	57	12.3	17.5	15.8	10.5	12.3	8.8	7.0	10.5	1.8	1.8	36.8	22.8				
	85歳以上	33	－	6.1	15.2	9.1	3.0	12.1	3.0	3.0	3.0	3.0	36.4	33.3				
女 性 ／ 年 齢	65歳～69歳	470	28.5	17.7	18.9	13.6	9.4	6.2	6.6	4.9	5.5	0.6	32.1	17.2				
	70歳～74歳	405	19.5	15.8	18.5	14.6	9.6	8.4	7.2	5.2	4.4	1.0	37.5	16.5				
	75歳～79歳	278	14.7	19.4	19.4	12.6	6.8	13.3	8.3	7.2	4.0	3.6	28.8	26.3				
	80歳～84歳	119	6.7	9.2	10.9	5.9	1.7	16.0	9.2	5.0	3.4	0.8	35.3	32.8				
	85歳以上	73	4.1	6.8	8.2	1.4	－	11.0	9.6	4.1	2.7	2.7	43.8	32.9				

第2章 調査結果（通常設問）

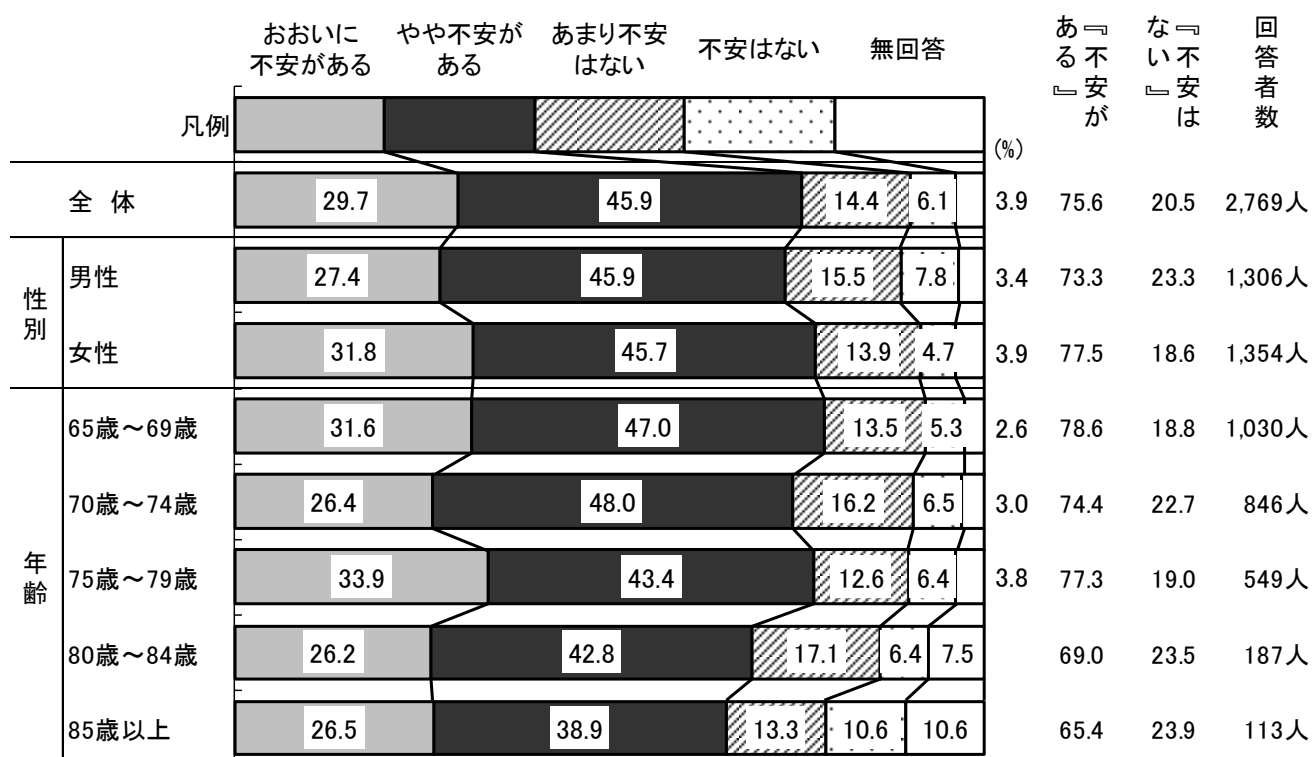
問21. 将来、ご自身やご家族が認知症になるおそれがあることに対して、不安がありますか。
(ひとつだけ○)

認知症に対する不安についてたずねたところ、「おおいに不安がある」が29.7%、「やや不安がある」が45.9%であり、『不安がある』は合わせて75.6%となっています。一方、「あまり不安はない」が14.4%、「不安はない」が6.1%であり、『不安がない』は合わせて20.5%となっています。

性別でみると、女性は男性に比べて『不安がある』が8割弱と高くなっています。

年齢別でみると、年齢が79歳以下では『不安がある』が他の年齢より高い傾向が見られます。

図表 32 認知症に対する不安 (n=2,769)



※『不安がある』＝「おおいに不安がある」＋「やや不安がある」

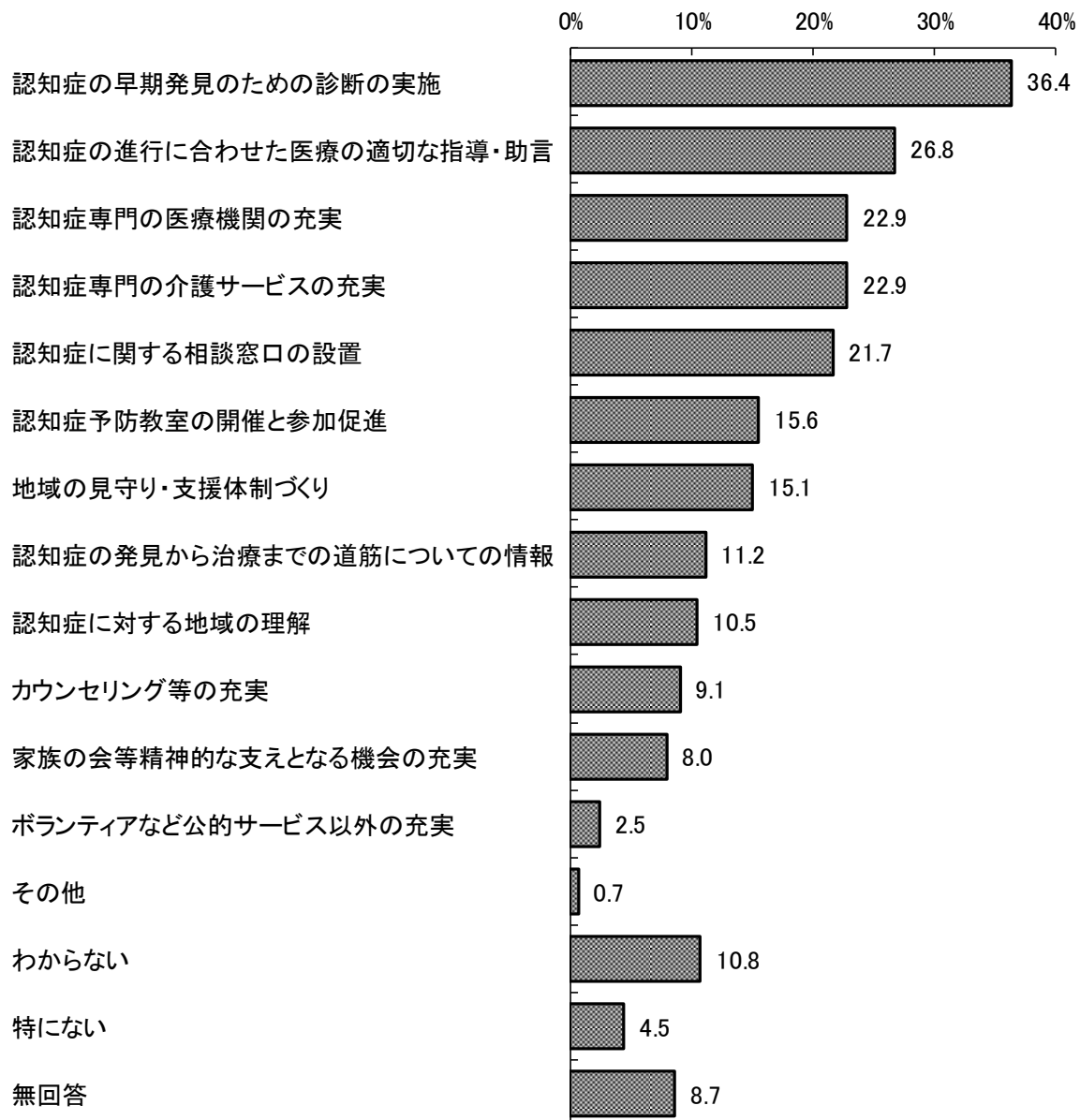
『不安はない』＝「あまり不安はない」＋「不安はない」

問22. 認知症の方に対する支援として、どのようなことが必要だと思いますか。

（主なもの3つまで○）

認知症に対する支援として必要なことは、「認知症の早期発見のための診断の実施」が36.4%と最も高くなっています。次いで、「認知症の進行に合わせた医療の適切な指導・助言」が26.8%、「認知症専門の医療機関の充実」、「認知症専門の介護サービスの充実」がそれぞれ22.9%、「認知症に関する相談窓口の設置」が21.7%などとなっています。

図表 33 認知症に対する支援として必要なこと（n=2,769）



第2章 調査結果（通常設問）

性別でみると、男性は女性に比べて「認知症の早期発見のための診断の実施」、女性は男性に比べて「認知症専門の介護サービスの充実」が高くなっています。

年齢別でみると、「認知症の早期発見のための診断の実施」は70歳代で4割弱と高く、「認知症の進行に合わせた医療の適切な指導・助言」、「認知症専門の介護サービスの充実」、「認知症に関する相談窓口の設置」などは年齢が低い人ほど割合が高くなっています。

図表 34 認知症に対する支援として必要なこと (n=2,769)

		回答者数（人）	認知症の早期発見のための診断の実施	認知症の進行に合わせた医療の適切な指導・助言	認知症専門の医療機関の充実	認知症専門の介護サービスの充実	認知症に関する相談窓口の設置	認知症予防教室の開催と参加促進	地域の見守り・支援体制づくり	認知症の発見から治療までの道筋についての情報	認知症に対する地域の理解	カウンセリング等の充実	家族の会等精神的な支えとなる機会の充実	ボランティアなど公的サービス以外の充実	その他	わからない	特にな	無回答
全 体		2,769	36.4	26.8	22.9	22.9	21.7	15.6	15.1	11.2	10.5	9.1	8.0	2.5	0.7	10.8	4.5	8.7
性別	男性	1,306	38.4	26.6	23.5	20.8	23.0	15.8	15.9	11.6	9.4	10.7	5.3	2.1	0.6	11.4	5.4	6.9
	女性	1,354	35.2	27.7	23.0	25.0	21.0	15.4	14.5	11.0	11.5	7.6	10.6	3.0	0.7	10.6	3.4	9.5
年齢	65歳～69歳	1,030	36.2	29.6	23.9	26.5	25.3	16.0	18.0	12.4	11.5	11.0	8.3	3.1	0.7	10.5	2.5	4.8
	70歳～74歳	846	37.4	27.1	25.2	22.2	20.7	16.9	14.2	10.9	10.6	9.3	7.7	3.1	0.5	9.9	5.0	7.2
	75歳～79歳	549	39.0	26.0	20.9	20.9	19.7	16.8	15.5	10.7	9.5	7.5	8.0	1.6	0.7	11.5	4.7	12.2
	80歳～84歳	187	34.8	21.4	19.3	17.1	19.3	10.2	10.7	10.7	8.6	5.9	7.5	1.6	0.5	11.2	8.6	16.6
	85歳以上	113	26.5	15.9	15.9	13.3	13.3	8.0	5.3	6.2	8.0	4.4	8.8	－	0.9	18.6	10.6	19.5

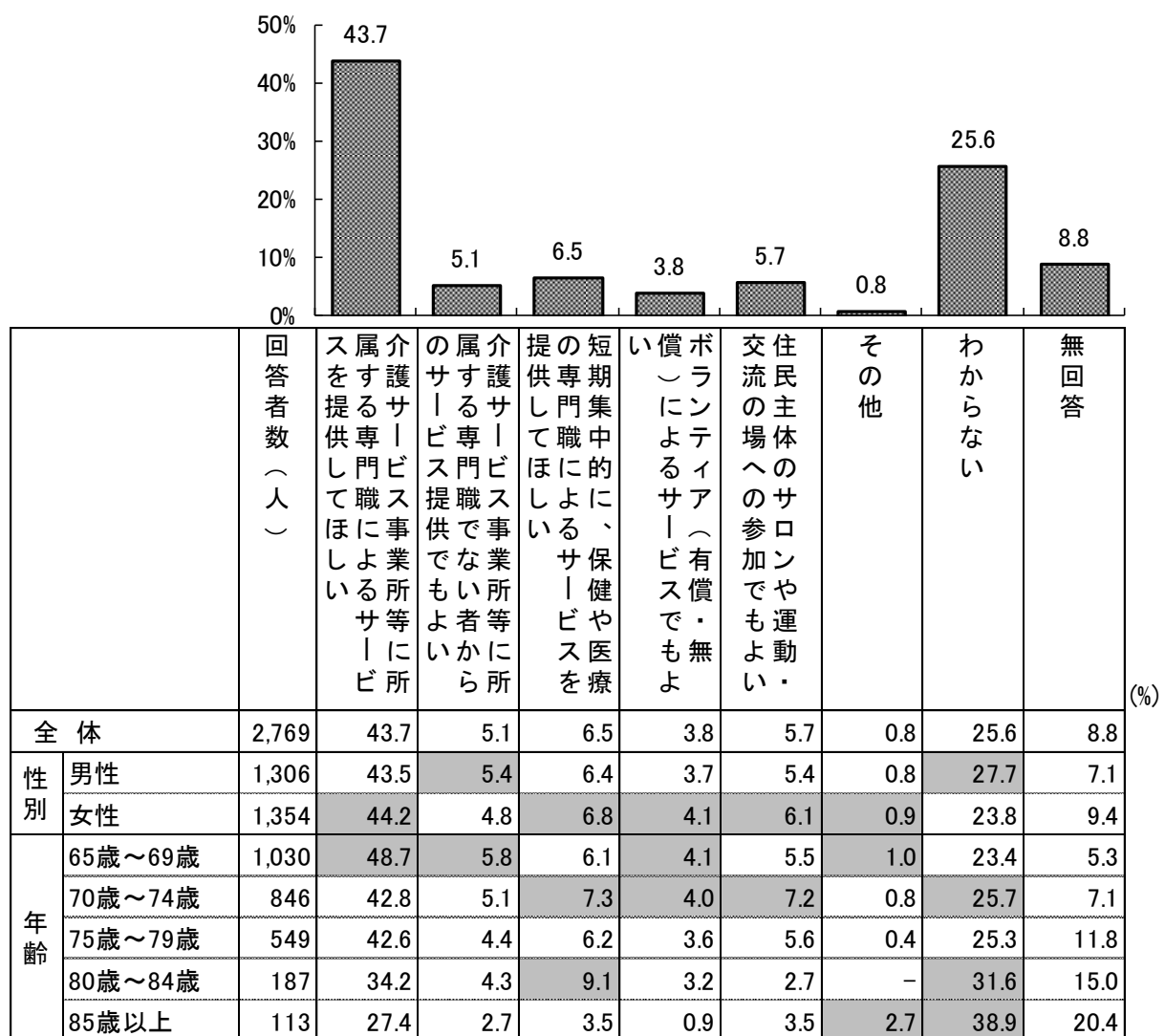
問23. あなたは今後、支援が必要な高齢者に対する介護サービスや生活支援サービスについては、どのような形で利用していきたいですか。（ひとつだけ○）

介護予防・日常生活支援総合事業の今後の推進に際して、支援が必要な高齢者に対する介護サービス、生活支援サービスとして利用したい提供形態をたずねたところ、「介護サービス事業所等に所属する専門職によるサービスを提供してほしい」が43.7%、「介護サービス事業所等に所属する専門職でない者からのサービス提供でもよい」が5.1%、「短期集中的に、保健や医療の専門職によるサービスを提供してほしい」が6.5%、「ボランティア（有償・無償）によるサービスでもよい」が3.8%、「住民主体のサロンや運動・交流の場への参加でもよい」が5.7%となっています。なお、「わからない」は25.6%が回答しています。

性別でみると、男女で大きな違いは見られません。

年齢別でみると、「介護サービス事業所等に所属する専門職によるサービスを提供してほしい」は年齢が低い人ほど割合が高くなっています。「短期集中的に、保健や医療の専門職によるサービスを提供してほしい」は80歳～84歳で1割弱とやや高くなっています。

図表 35 支援が必要な高齢者への介護、生活支援サービスとして利用したい提供形態（n=2,769）

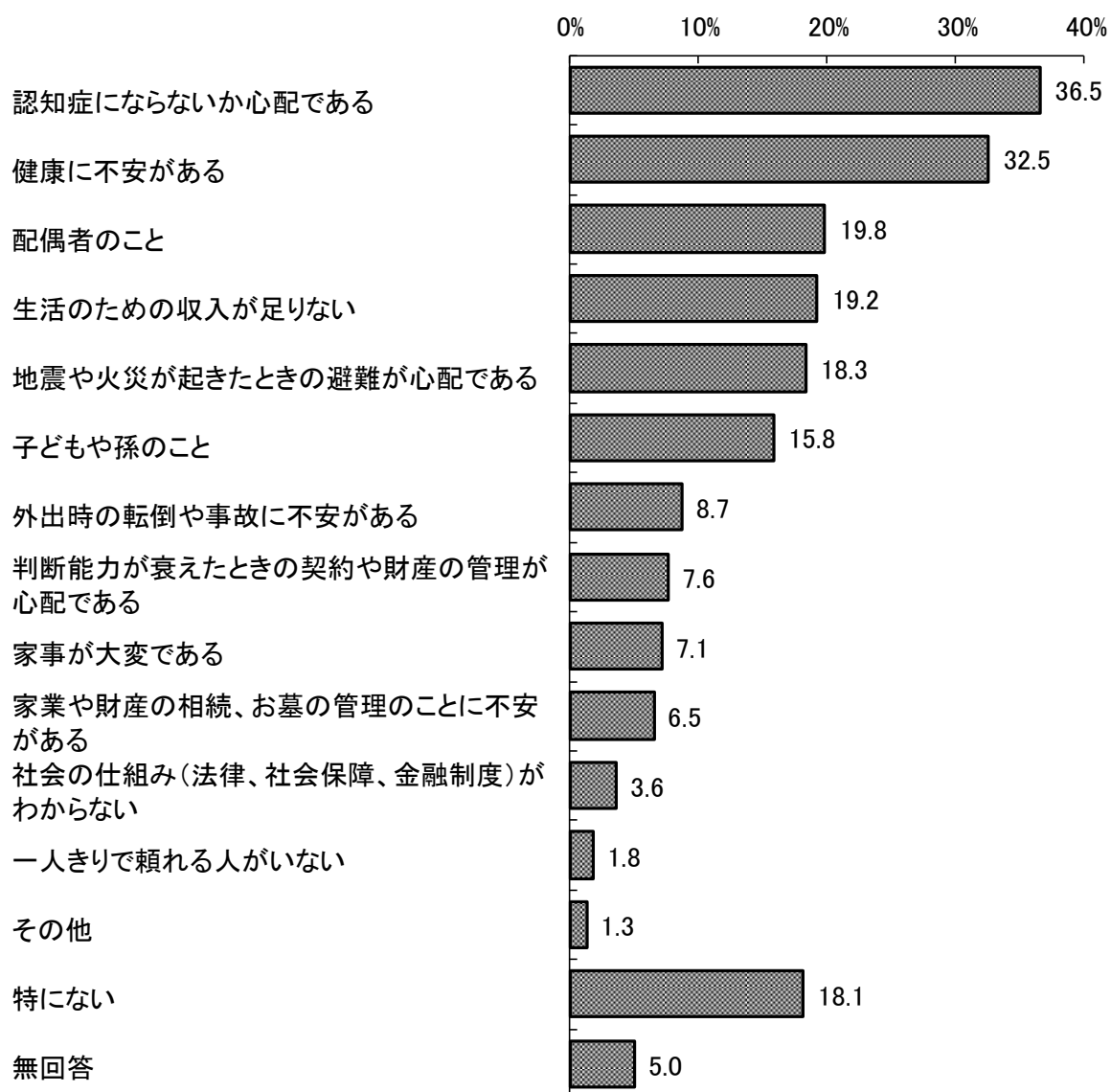


4. 生活支援、社会参加について

問24. 日常生活での不安、悩み、心配ごとがありますか。それはどのようなことですか。
（あてはまるものすべてに○）

日常生活での不安、悩み、心配ごとは、「認知症にならないか心配である」が36.5%と最も高くなっています。次いで、「健康に不安がある」が32.5%、「配偶者のこと」が19.8%、「生活のための収入が足りない」が19.2%、「地震や火災が起きたときの避難が心配である」が18.3%などとなっています。

図表 36 日常生活での不安、悩み、心配ごと（n=2,769）



第2章 調査結果（通常設問）

性別でみると、男性は女性に比べて「配偶者のこと」、「生活のための収入が足りない」、「子どもや孫のこと」、女性は男性に比べて「認知症にならないか心配である」、「地震や火災が起きたときの避難が心配である」、「外出時の転倒や事故に不安がある」が高くなっています。

年齢別でみると、年齢が低い人ほど「生活のための収入が足りない」、「子どもや孫のこと」、一方、おおむね年齢が高い人ほど「外出時の転倒や事故に不安がある」、「家事が大変である」の割合が高くなっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らしは「一人きりで頼れる人がいない」、「健康に不安がある」、夫婦ふたり暮らしは「配偶者のこと」、その他の世帯は「子どもや孫のこと」が他の家族構成より高くなっています。

図表 37 日常生活での不安、悩み、心配ごと (n=2,769)

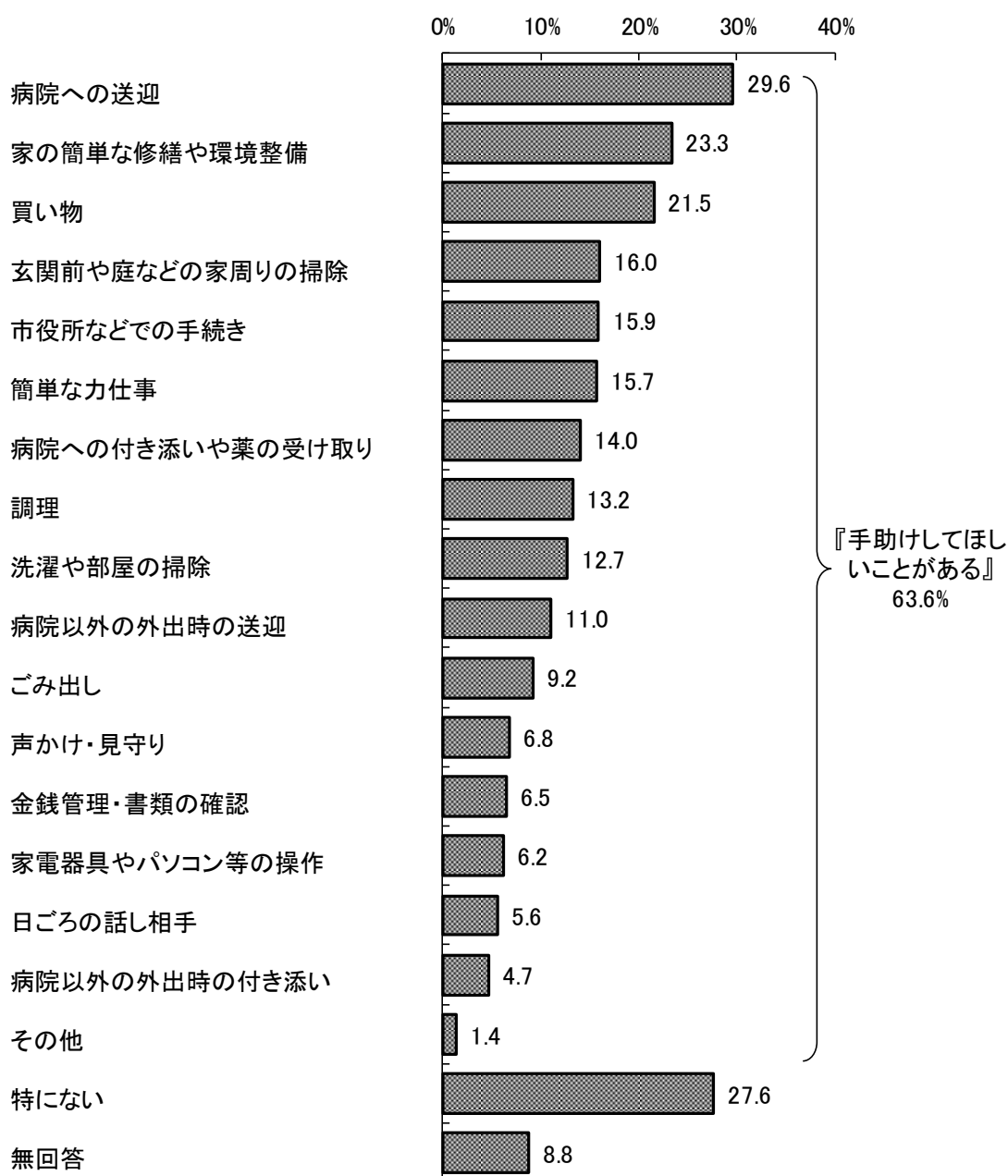
		回答者数（人）	認知症にならないか心配である	健康に不安がある	配偶者のこと	生活のための収入が足りない	地震や火災が起きたときの避難が心配である	子どもや孫のこと	外出時の転倒や事故に不安がある	判断能力が衰えたときの契約や財産の管理が心配である	家事が大変である	家業や財産の相続、お墓の管理のこと	金融制度（法律、社会保障、社会の仕組み）がわからない	一人きりで頼れる人がいない	その他	特にない	無回答
全 体		2,769	36.5	32.5	19.8	19.2	18.3	15.8	8.7	7.6	7.1	6.5	3.6	1.8	1.3	18.1	5.0
性 別	男性	1,306	32.4	33.3	23.5	22.2	12.3	18.1	5.7	8.6	6.1	7.4	3.3	2.2	1.0	20.9	4.5
	女性	1,354	40.8	32.3	16.6	16.3	23.9	14.2	11.6	6.7	8.0	5.8	4.1	1.2	1.6	16.0	4.9
年 齢	65歳～69歳	1,030	33.9	30.1	19.7	22.3	17.2	20.1	4.6	8.6	5.2	8.3	2.8	2.2	1.8	19.2	3.2
	70歳～74歳	846	36.9	31.8	20.3	18.8	16.8	15.1	8.3	7.7	6.1	5.3	4.8	1.3	1.3	19.4	4.4
	75歳～79歳	549	40.1	36.8	21.5	18.4	20.2	13.7	10.4	6.2	7.3	5.6	3.3	1.1	0.4	17.7	5.1
	80歳～84歳	187	39.6	38.5	20.9	13.4	24.6	8.0	17.1	7.5	15.5	7.0	3.7	2.1	1.1	10.7	8.0
	90歳以上	113	36.3	34.5	10.6	8.0	19.5	8.0	25.7	4.4	14.2	3.5	5.3	1.8	1.8	16.8	15.0
家 族 構 成	ひとり暮らし	316	37.3	36.4	2.2	21.2	19.3	13.6	9.5	7.9	8.5	6.3	5.1	10.8	1.3	17.7	4.4
	夫婦ふたり暮らし	1,257	36.2	32.7	28.2	16.7	18.4	11.9	6.4	8.6	6.2	6.9	3.6	0.5	1.4	18.5	5.3
	その他の世帯	1,138	36.5	31.3	16.2	21.4	17.9	21.1	10.8	6.6	7.6	6.4	3.4	0.6	1.2	18.0	4.3

問25. あなたは、普段の生活の中で将来手助けが必要だと思うこと（または手助けしてほしいこと）は何かありますか。（あてはまるものすべてに○）

普段の生活の中で将来手助けが必要だと思うこと（または手助けしてほしいこと）について、『手助けしてほしいことがある』と回答した人は63.6%となっています。そして、手助けしてほしい具体的な内容としては、「病院への送迎」が29.6%と最も高く、次いで、「家の簡単な修繕や環境整備」が23.3%、「買い物」が21.5%、「玄関前や庭などの家周りの掃除」が16.0%、「市役所などでの手続き」が15.9%などとなっています。一方、「特にない」が27.6%となっています。

前回調査とは質問文の表現が異なるため、単純に比較することはできませんが、「病院への送迎」、「買い物」については、前回の高齢者一般と同様上位に挙がっています。

図表 38 普段の生活の中で手助けしてほしいこと（n=2,769）



※『手助けしてほしいことがある』＝100%－「特にない」－「無回答」

第2章 調査結果（通常設問）

性別でみると、女性は『手助けしてほしいことがある』が7割弱と高く、「病院への送迎」、「家の簡単な修繕や環境整備」、「買い物」、「簡単な力仕事」をはじめ、さまざまな項目の割合が高くなっています。

年齢別でみると、80歳～84歳は『手助けしてほしいことがある』が7割強と高く、さまざまな項目の割合が高くなっています。「病院への送迎」、「病院以外の外出時の送迎」は年齢が高い人ほど、「家の簡単な修繕や環境整備」は年齢が低い人ほど割合が高くなっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らし、夫婦ふたり暮らし、その他の世帯の順に、『手助けしてほしいことがある』の割合は低くなっています。ひとり暮らしは「家の簡単な修繕や環境整備」、「買い物」、「玄関前や庭などの家周りの掃除」、「簡単な力仕事」、その他の世帯は「病院への送迎」が他の家族構成より高くなっています。

圏域別にみると、木更津圏域、波岡圏域では、『手助けしてほしいことがある』が他の圏域より高く、特に波岡圏域ではさまざまな項目の割合が高くなっています。鎌足圏域は「病院への送迎」、富来田圏域は「買い物」、中郷圏域は「玄関前や庭などの家周りの掃除」がやや高くなっています。

図表 39 普段の生活の中で手助けしてほしいこと (n=2,769)

	回答者数（人）	病院への送迎	家の簡単な修繕や環境整備	買い物	玄関前や庭などの家周りの掃除	金銭管理・書類の確認	簡単な力仕事	病院への付き添いや薬の受け取り	調理	洗濯や部屋の掃除	病院以外の外出時の送迎	ごみ出し	声かけ・見守り	市役所などでの手続き	家電器具やパソコン等の操作	日ごろの話し相手	病院以外の外出時の付き添い	その他	特にない	無回答	『手助けしてほしいことがある』 (%)
全 体	2,769	29.6	23.3	21.5	16.0	15.9	15.7	14.0	13.2	12.7	11.0	9.2	6.8	6.5	6.2	5.6	4.7	1.4	27.6	8.8	63.6
性別																					
男性	1,306	25.8	20.3	18.0	13.7	15.7	11.2	13.3	14.9	12.7	9.9	8.1	7.1	7.5	6.4	6.2	3.8	1.3	33.2	8.0	58.8
女性	1,354	33.6	27.3	25.2	18.6	16.5	20.4	14.4	11.9	12.9	12.6	10.8	6.6	5.7	6.4	5.1	5.5	1.6	22.3	8.6	69.1
年齢																					
65歳～69歳	1,030	26.7	25.8	21.6	16.8	14.1	16.7	12.7	15.0	13.1	9.8	8.6	7.9	7.0	6.9	5.2	4.0	1.3	31.5	6.2	62.3
70歳～74歳	846	28.3	23.5	19.3	13.5	15.8	14.5	13.0	12.5	10.9	9.6	8.6	6.0	5.1	6.5	4.7	4.6	1.5	29.2	8.9	61.9
75歳～79歳	549	32.4	21.9	20.8	16.9	16.6	15.1	14.2	10.9	11.7	12.2	9.1	5.8	6.0	4.9	6.9	4.4	1.5	23.3	9.5	67.2
80歳～84歳	187	37.4	21.9	31.0	21.9	25.7	21.4	22.5	15.5	21.4	15.5	15.5	8.6	10.2	9.1	6.4	8.6	1.1	17.1	11.2	71.7
85歳以上	113	39.8	13.3	23.9	12.4	12.4	9.7	15.9	8.8	12.4	18.6	10.6	6.2	7.1	0.9	5.3	4.4	1.8	24.8	18.6	56.6
家族構成																					
ひとり暮らし	316	27.5	28.2	25.0	20.6	13.9	21.2	11.7	12.3	13.0	9.5	8.9	7.3	5.4	7.6	5.7	3.8	1.9	23.7	8.2	68.1
夫婦ふたり暮らし	1,257	29.4	23.9	22.4	15.8	16.2	15.7	13.6	14.4	11.7	11.8	10.2	7.9	6.4	7.0	5.8	4.3	1.3	26.7	8.5	64.8
その他の世帯	1,138	30.5	22.0	20.0	15.0	16.5	14.8	14.9	12.7	13.6	10.7	8.5	5.8	7.0	5.2	5.2	5.4	1.4	30.1	8.3	61.6
圏域																					
木更津	420	28.3	23.3	21.9	14.5	14.8	14.5	10.5	13.8	13.8	13.6	10.0	6.0	6.2	6.7	4.8	5.2	1.0	26.0	7.9	66.1
波岡	363	33.9	30.0	24.8	22.3	17.6	23.1	16.8	13.2	12.7	12.4	9.6	11.6	6.6	5.2	6.1	4.1	1.1	27.0	5.0	68.0
清川	311	29.3	21.2	18.3	12.9	11.9	17.7	11.9	15.8	12.9	8.7	10.9	7.4	6.1	6.4	5.1	3.2	3.2	26.0	10.3	63.7
岩根	324	29.3	25.9	20.4	11.4	16.7	15.1	15.1	13.6	13.0	10.5	9.0	9.0	5.2	8.0	7.1	6.5	0.6	29.3	8.6	62.1
鎌足	346	30.6	20.8	19.9	12.4	17.1	14.5	13.6	11.3	10.4	11.0	9.2	2.9	5.5	5.2	5.2	4.3	0.9	29.2	9.8	61.0
金田	302	28.5	18.2	19.2	14.6	17.2	11.6	15.6	10.6	8.6	7.3	8.6	5.3	9.3	3.6	5.6	3.3	1.3	29.1	9.6	61.3
中郷	322	28.3	25.2	21.7	22.0	14.9	13.4	13.0	12.1	13.7	12.1	6.8	6.8	7.8	7.1	5.0	5.3	1.9	27.6	9.9	62.5
富来田	357	28.0	22.4	24.4	17.6	17.4	15.4	15.7	15.7	15.7	11.2	9.8	6.2	5.9	7.3	6.2	5.3	1.4	28.3	8.4	63.3

※『手助けしてほしいことがある』＝100％－「特にない」－「無回答」

問26. あなたは日用品の買い物に不安や不便を感じていますか。（ひとつだけ○）

買い物に対する不安の有無についてたずねたところ、「感じている」が12.2%、「感じていない」が81.8%と、大部分の人は、「感じていない」となっています。

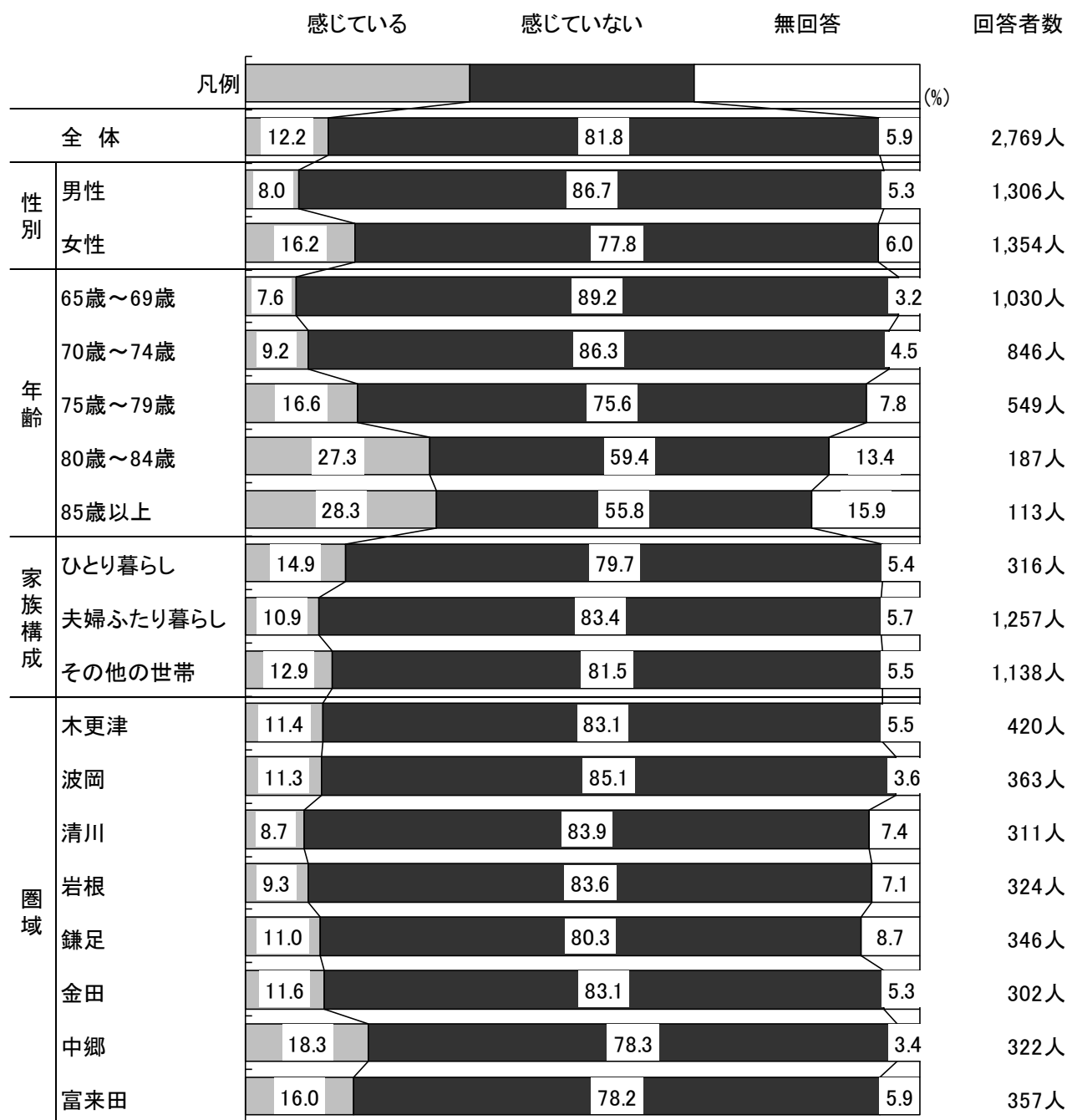
性別でみると、女性は男性に比べて「感じている」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、年齢が高い人ほど、「感じている」の割合が高く、80歳以上では3割弱となっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らしは「感じている」が他の家族構成よりやや高くなっています。

圏域別にみると、中郷圏域、富来田圏域で「感じている」が他の圏域よりやや高くなっています。

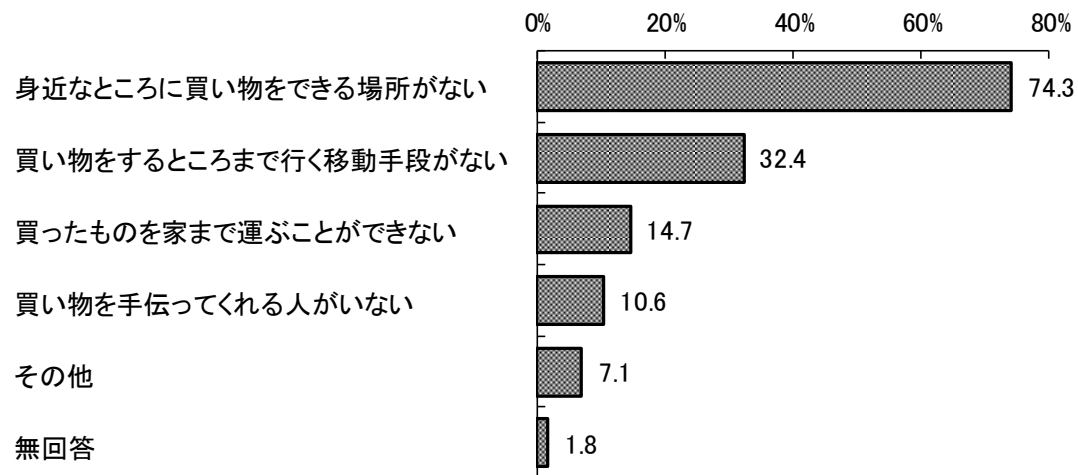
図表 40 買い物に対する不安の有無（n=2,769）



問26-1. 問26で「1（感じている）」に○をつけた方にうかがいます。どのようなことに不安や不便を感じていますか。（あてはまるものすべてに○）

買い物に不安を感じている人に対して、不安の内容をたずねたところ、「身近なところに買い物をできる場所がない」が74.3%と最も高くなっています。次いで、「買い物をするとところまで行く移動手段がない」が32.4%、「買ったものを家まで運ぶことができない」が14.7%、「買い物を手伝ってくれる人がいない」が10.6%となっています。

図表 41 買い物で不便を感じること （n=339）



第2章 調査結果（通常設問）

性別でみると、男性は女性に比べて「身近なところに買い物をできる場所がない」、「買い物を手伝ってくれる人がいない」、女性は男性に比べて「買い物をするところまで行く移動手段がない」、「買ったものを家まで運ぶことができない」が高くなっています。

年齢別でみると、年齢が高い人ほど「買い物をするところまで行く移動手段がない」、「買い物を手伝ってくれる人がいない」の割合が高くなっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らしは「買い物をするところまで行く移動手段がない」が4割強、夫婦ふたり暮らし、その他の世帯は「身近なところに買い物をできる場所がない」が8割弱と、他の家族構成より高くなっています。

圏域別でみると、中郷圏域は「身近なところに買い物をできる場所がない」が9割強と高く、鎌足圏域は「身近なところに買い物をできる場所がない」が8割強、「買い物をするところまで行く移動手段がない」が4割強と他の圏域より高くなっています。

図表 42 買い物で不便を感じること (n=339)

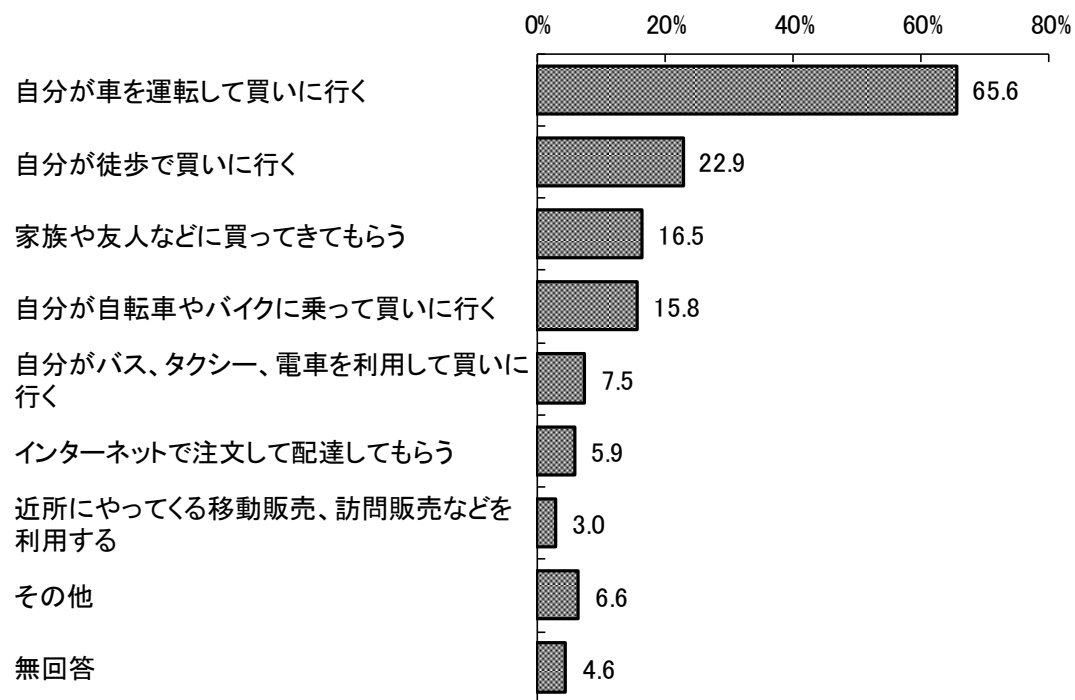
		回答者数（人）	で身近なところ に買い物を できる場所が ない	行く移動手段 がない	買ったものを 家まで運ぶ ことができない	買い物を 手伝ってくれる 人がいない	その他	無回答
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全 体		339	74.3	32.4	14.7	10.6	7.1	1.8
性 別	男性	105	79.0	20.0	10.5	15.2	3.8	1.0
	女性	219	73.1	39.7	17.4	7.8	9.1	1.8
年 齢	65歳～69歳	78	74.4	26.9	14.1	7.7	10.3	—
	70歳～74歳	78	83.3	30.8	10.3	9.0	6.4	1.3
	75歳～79歳	91	70.3	31.9	16.5	9.9	8.8	2.2
	80歳～84歳	51	76.5	33.3	11.8	13.7	3.9	2.0
	85歳以上	32	65.6	50.0	25.0	15.6	3.1	3.1
家 族 構 成	ひとり暮らし	47	57.4	44.7	10.6	14.9	12.8	—
	夫婦ふたり暮らし	137	78.8	25.5	15.3	9.5	8.8	1.5
	その他の世帯	147	76.9	34.7	15.0	10.2	4.1	1.4
圏 域	木更津	48	68.8	29.2	20.8	8.3	12.5	2.1
	波岡	41	70.7	36.6	22.0	19.5	17.1	—
	清川	27	70.4	11.1	18.5	3.7	7.4	3.7
	岩根	30	76.7	33.3	13.3	10.0	3.3	—
	鎌足	38	81.6	42.1	13.2	15.8	2.6	—
	金田	35	60.0	37.1	14.3	11.4	5.7	2.9
	中郷	59	91.5	33.9	8.5	8.5	—	1.7
	富来田	57	71.9	31.6	10.5	7.0	8.8	1.8

問27. あなたは生活に必要な買い物をする際、どのような方法で行っていますか。

（あてはまるものすべてに○）

生活に必要な買い物の方法としては、「自分が車を運転して買いに行く」が65.6%と最も高くなっています。次いで、「自分が徒歩で買いに行く」が22.9%、「家族や友人などに買って来てもらう」が16.5%、「自分が自転車やバイクに乗って買いに行く」が15.8%などとなっています。

図表 43 生活に必要な買い物の方法（n=2,769）



第2章 調査結果（通常設問）

性別でみると、男性は「自分が車を運転して買いに行く」が8割強と大多数が回答しています。女性は男性に比べて「自分が徒歩で買いに行く」、「家族や友人などに買ってきてもらう」、「自分が自転車やバイクに乗って買いに行く」などが高くなっています。

年齢別でみると、年齢が低い人ほど「自分が車を運転して買いに行く」が高く、一方、年齢が高い人ほど「家族や友人などに買ってきてもらう」が高くなっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らしは「自分が徒歩で買いに行く」、「自分が自転車やバイクに乗って買いに行く」、夫婦ふたり暮らしは「自分が車を運転して買いに行く」、その他の世帯は「家族や友人などに買ってきてもらう」が他の家族構成より高くなっています。

圏域別でみると、「自分が徒歩で買いに行く」については、木更津圏域、波岡圏域、清川圏域、岩根圏域では3割前後に対して、鎌足圏域、金田圏域、中郷圏域、富来田圏域は1割前後と両極端の傾向が見られます。

図表 44 生活に必要な買い物の方法 (n=2,769)

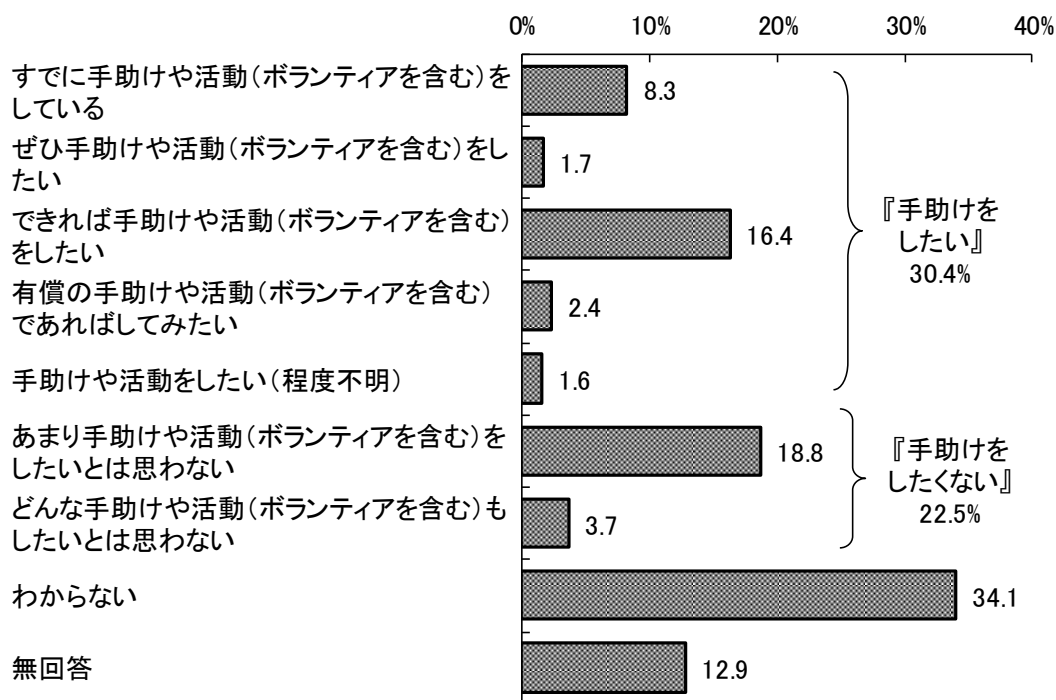
		回答者数（人）	自分が車を運転して買いに行く	自分が徒歩で買いに行く	家族や友人などに買ってきてもらう	自分が自転車やバイクに乗って買いに行く	自分がバス、タクシー、電車を利用して買いに行く	インターネットで注文して配達してもらう	近所や通販などを利用する移動販売、訪問販売などを利用する	その他	無回答	(%)
全 体		2,769	65.6	22.9	16.5	15.8	7.5	5.9	3.0	6.6	4.6	
性 別	男性	1,306	83.9	19.2	12.0	13.1	4.7	7.5	1.1	1.7	2.8	
	女性	1,354	49.0	26.8	20.9	18.0	10.5	4.4	5.0	11.2	5.7	
年 齢	65歳～69歳	1,030	82.3	19.8	12.1	13.1	5.7	8.3	2.6	4.3	2.4	
	70歳～74歳	846	67.3	24.9	15.2	16.3	6.4	5.8	2.0	7.1	3.5	
	75歳～79歳	549	54.5	27.9	16.8	20.2	11.7	4.2	4.2	8.6	4.7	
	80歳～84歳	187	28.9	21.4	29.4	18.7	13.9	2.1	4.8	11.2	11.8	
	90歳以上	113	22.1	15.9	43.4	10.6	2.7	1.8	6.2	6.2	15.0	
家 族 構 成	ひとり暮らし	316	54.4	32.0	9.5	25.3	13.6	3.5	4.4	7.9	2.2	
	夫婦ふたり暮らし	1,257	70.3	24.3	12.7	14.2	6.4	6.7	2.5	7.4	4.6	
	その他の世帯	1,138	64.7	19.1	22.2	14.9	7.1	6.0	3.2	5.4	4.4	
圏 域	木更津	420	59.8	36.4	18.8	19.0	9.8	8.8	2.6	5.7	4.0	
	波岡	363	71.3	34.2	11.6	10.2	12.1	7.2	4.7	8.8	2.2	
	清川	311	64.6	34.7	11.6	15.4	5.1	6.8	1.6	6.4	3.9	
	岩根	324	58.0	29.6	20.1	28.4	11.4	3.4	3.1	6.2	4.9	
	鎌足	346	69.1	8.4	16.2	7.5	5.8	6.4	4.3	6.4	5.8	
	金田	302	65.9	15.2	18.9	20.9	5.0	6.0	1.0	5.3	5.3	
	中郷	322	71.1	7.1	15.8	14.9	5.0	5.6	1.9	7.8	3.7	
	富来田	357	67.2	14.0	19.3	11.2	5.3	3.1	4.5	5.9	5.3	

問28. あなたはお住まいの地域で、何か他の人の手助けや活動（ボランティアを含む）をしたいと思いますか。（ひとつだけ○）

ボランティア活動の状況と今後の意向についてたずねたところ、『手助けをしたい』は30.4%であり、その程度は、「すでに手助けや活動（ボランティアを含む）をしている」が8.3%、「できれば手助けや活動（ボランティアを含む）をしたい」が16.4%などとなっています。

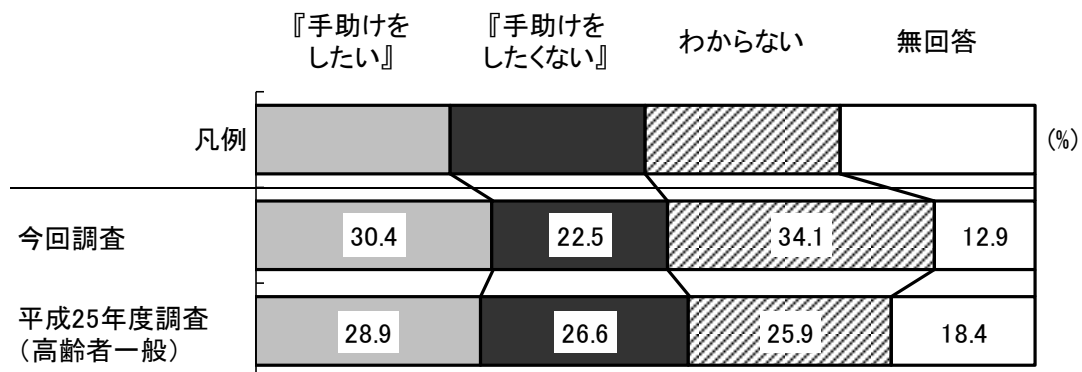
一方、『手助けをしたくない』は22.5%であり、その中では「あまり手助けや活動（ボランティアを含む）をしたいとは思わない」が18.8%などとなっています。

図表 45 地域活動（ボランティアを含む）への参加意向（n=2,769）



平成25年度調査（高齢者一般）と比較してみると、『手助けをしたい』が1.5ポイント上昇しています。一方、『手助けをしたくない』は4.1ポイント低下しています。

図表 46 地域活動（ボランティアを含む）への参加意向



第2章 調査結果（通常設問）

性別でみると、男性は女性に比べて「あまり手助けや活動（ボランティアを含む）をしたいとは思わない」がやや高くなっています。

年齢別でみると、年齢が低い人ほど『手助けをしたい』、特に「できれば手助けや活動（ボランティアを含む）をしたい」が高い一方で、「あまり手助けや活動（ボランティアを含む）をしたいとは思わない」も高く、二極化している傾向がうかがえます。

圏域別にみると、『手助けをしたい』は波岡圏域で4割弱と他の圏域より高くなっています。

図表 47 地域活動（ボランティアを含む）への参加意向（n=2,769）

		回答者数（人）	すでに手助けや活動（ボランティアを含む）をしている	ぜひ手助けや活動（ボランティアを含む）をしたい	できれば手助けや活動（ボランティアを含む）をしたい	有償の手助けや活動（ボランティアを含む）であればしてみたい	あまり手助けや活動（ボランティアを含む）をしたくない	どんな手助けや活動（ボランティアを含む）もしたくない	わからない	手助けや活動をしたい（程度不明）	無回答	『手助けをしたい』	『手助けをしたくない』	(%)
全 体		2,769	8.3	1.7	16.4	2.4	18.8	3.7	34.1	1.6	12.9	30.4	22.5	
性 別	男性	1,306	8.4	2.3	17.1	2.6	22.1	3.4	34.8	0.9	8.5	31.3	25.5	
	女性	1,354	8.5	1.2	16.1	2.2	15.8	4.0	33.9	1.9	16.4	29.9	19.8	
年 齢	65歳～69歳	1,030	9.2	1.7	21.2	2.9	20.4	2.4	34.6	0.6	7.1	35.6	22.8	
	70歳～74歳	846	8.3	2.2	16.7	3.1	19.9	3.5	34.4	1.8	10.2	32.1	23.4	
	75歳～79歳	549	9.5	1.1	13.3	1.3	18.2	4.9	33.2	1.3	17.3	26.5	23.1	
	80歳～84歳	187	5.9	1.6	7.5	0.5	15.5	5.3	31.6	4.8	27.3	20.3	20.8	
	85歳以上	113	0.9	—	4.4	—	8.0	8.8	38.1	5.3	34.5	10.6	16.8	
圏 域	木更津	420	7.9	1.2	15.0	2.1	21.9	4.3	35.7	1.0	11.0	27.2	26.2	
	波岡	363	11.6	1.9	21.2	3.3	20.1	3.9	28.9	1.4	7.7	39.4	24.0	
	清川	311	6.8	1.9	15.8	2.9	19.3	4.2	33.8	1.3	14.1	28.7	23.5	
	岩根	324	9.3	1.9	17.9	1.2	16.7	2.8	34.3	1.5	14.5	31.8	19.5	
	鎌足	346	7.2	0.9	16.5	1.4	14.7	3.5	40.5	1.7	13.6	27.7	18.2	
	金田	302	4.3	1.7	10.3	3.3	19.5	3.3	36.1	3.0	18.5	22.6	22.8	
	中郷	322	9.6	1.6	18.0	1.9	17.7	4.7	33.5	0.9	12.1	32.0	22.4	
	富来田	357	9.5	2.8	17.1	2.5	20.2	3.1	30.5	2.2	12.0	34.1	23.3	

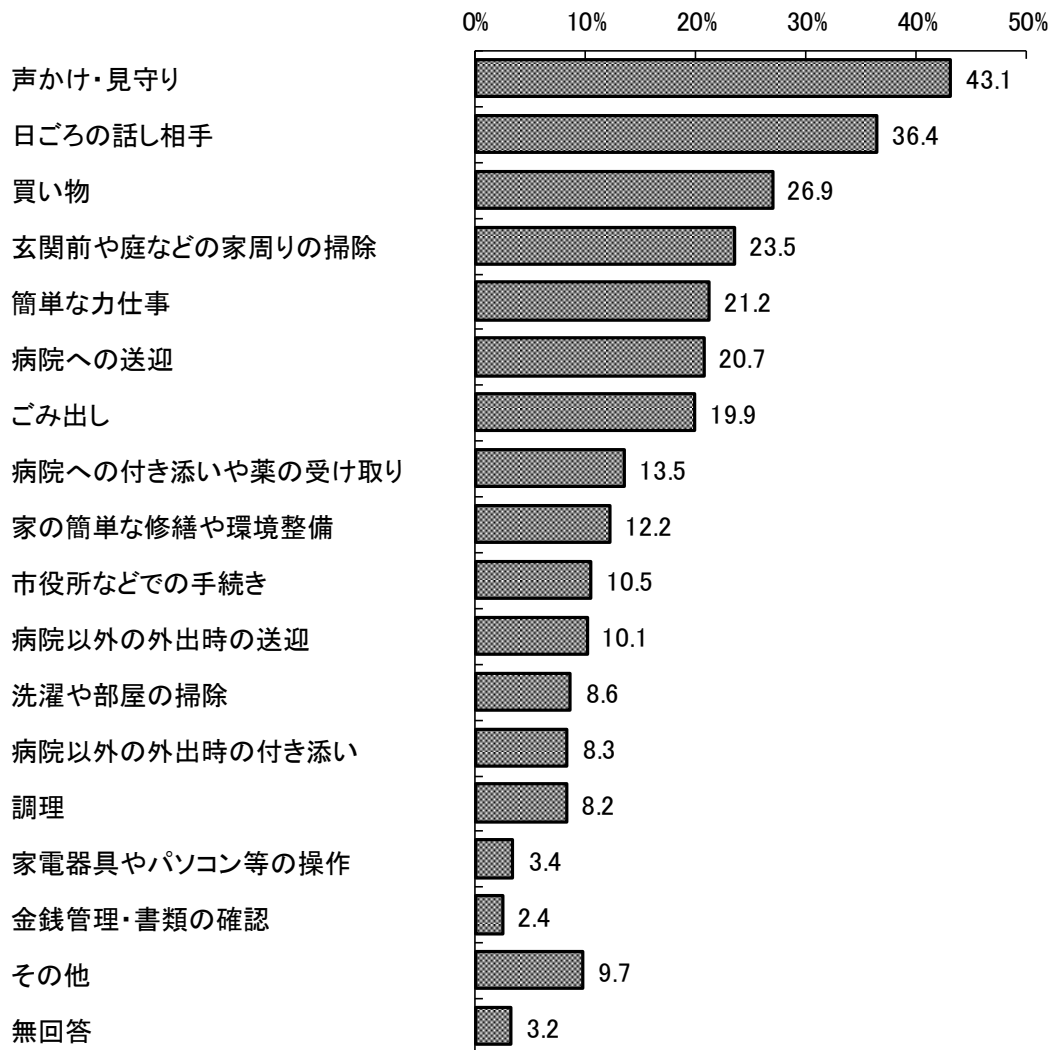
※『手助けをしたい』＝「すでに手助けや活動をしている」＋「ぜひ手助けや活動をしたい」
 ＋「できれば手助けや活動をしたい」＋「有償の手助けや活動をしたい」
 ＋「手助けや活動をしたい（程度不明）」

『手助けをしたくない』＝「あまり手助けや活動をしたくないと思わない」＋「どんな手助けや活動もしたくない」

問28-1. 問28で「1～4（手助けや活動をしている、したい）」に○をつけた方にうかがいます。それはどのような手助けや活動ですか。（あてはまるものすべてに○）

手助けや活動（ボランティアを含む）をしたいと思う地域活動の具体的な内容としては、「声かけ・見守り」が43.1%と最も高くなっています。次いで、「日ごろの話し相手」が36.4%、「買い物」が26.9%、「玄関前や庭などの家周りの掃除」が23.5%、「簡単な力仕事」が21.2%、「病院への送迎」が20.7%、「ごみ出し」が19.9%などとなっています。

図表 48 参加を希望する高齢者支援地域活動の内容（n=844）



第2章 調査結果（通常設問）

性別でみると、男性は女性に比べて「玄関前や庭などの家周りの掃除」、「簡単な力仕事」、「病院への送迎」、「家の簡単な修繕や環境整備」などが高くなっています。一方、女性は男性に比べて「声かけ・見守り」、「日ごろの話し相手」、「買い物」などが高くなっています。

年齢別でみると、年齢が低い人ではさまざまな項目の割合が高くなっています。「声かけ・見守り」はおおむね年齢が低い人ほど高く、「日ごろの話し相手」はどの年齢、特に80歳～84歳で4割弱と高くなっています。

圏域別でみると、木更津圏域、波岡圏域、清川圏域、岩根圏域、中郷圏域では「声かけ・見守り」、「日ごろの話し相手」が他の圏域より高くなっています。また、鎌足圏域、中郷圏域、富来田圏域では「玄関前や庭などの家周りの掃除」、「簡単な力仕事」、「病院への送迎」、「家の簡単な修繕や環境整備」、「市役所などでの手続き」が他の圏域より高くなっています。

図表 49 参加を希望する高齢者支援地域活動の内容 (n=844)

		回答者数（人）	声かけ・見守り	日ごろの話し相手	買い物	玄関前や庭などの家周りの掃除	簡単な力仕事	病院への送迎	ごみ出し	病院への付き添いや薬の受け取り	家の簡単な修繕や環境整備	市役所などでの手続き	病院以外の外出時の送迎	洗濯や部屋の掃除	病院以外の外出時の付き添い	調理	家電器具やパソコン等の操作	金銭管理・書類の確認	その他	無回答
(%)																				
全 体		844	43.1	36.4	26.9	23.5	21.2	20.7	19.9	13.5	12.2	10.5	10.1	8.6	8.3	8.2	3.4	2.4	9.7	3.2
性 別	男性	409	41.8	25.2	20.5	24.0	35.9	26.9	19.1	12.7	23.0	14.4	11.5	2.7	8.6	3.4	6.4	3.4	10.0	3.4
	女性	405	45.2	48.1	33.6	22.5	5.9	15.1	21.2	14.6	2.2	6.7	8.9	14.6	8.4	12.6	0.7	1.2	9.9	3.0
年 齢	65歳～69歳	366	46.2	34.4	29.8	21.0	23.0	22.4	21.3	16.1	10.9	11.2	12.3	8.2	9.8	9.0	5.2	3.3	8.7	1.9
	70歳～74歳	271	44.6	38.4	27.3	24.0	22.1	22.9	19.6	11.1	16.2	11.4	9.6	10.7	7.0	7.0	3.0	1.1	10.0	3.7
	75歳～79歳	145	36.6	37.9	22.8	28.3	20.0	15.9	20.0	13.1	9.7	6.9	6.9	6.2	8.3	8.3	1.4	2.1	13.1	4.8
	80歳～84歳	38	39.5	39.5	10.5	13.2	5.3	13.2	10.5	13.2	7.9	13.2	7.9	7.9	2.6	7.9	0.0	5.3	7.9	5.3
	85歳以上	12	25.0	33.3	25.0	33.3	16.7	8.3	16.7	8.3	16.7	16.7	0.0	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0
圏 域	木更津	114	43.9	36.8	27.2	16.7	14.9	14.9	20.2	14.9	7.9	9.6	9.6	8.8	5.3	9.6	1.8	1.8	11.4	3.5
	波岡	143	45.5	37.8	24.5	22.4	22.4	21.0	16.8	16.1	10.5	9.8	11.9	8.4	10.5	7.7	3.5	2.1	14.0	2.8
	清川	89	51.7	36.0	24.7	30.3	19.1	20.2	27.0	14.6	11.2	11.2	9.0	13.5	11.2	9.0	3.4	3.4	7.9	1.1
	岩根	103	47.6	38.8	28.2	23.3	18.4	16.5	21.4	6.8	9.7	5.8	5.8	10.7	3.9	11.7	4.9	1.9	7.8	2.9
	鎌足	96	38.5	32.3	28.1	28.1	29.2	22.9	20.8	15.6	18.8	10.4	12.5	6.3	11.5	4.2	2.1	2.1	9.4	1.0
	金田	68	36.8	32.4	20.6	22.1	19.1	19.1	23.5	5.9	13.2	7.4	7.4	7.4	4.4	4.4	2.9	2.9	8.8	7.4
	中郷	103	43.7	40.8	31.1	21.4	23.3	25.2	15.5	14.6	12.6	12.6	10.7	7.8	9.7	9.7	4.9	3.9	8.7	3.9
	富来田	122	36.9	33.6	27.9	24.6	23.0	24.6	18.9	15.6	15.6	16.4	11.5	6.6	9.0	6.6	4.1	1.6	8.2	4.1

5. 住まいについて

問29. あなたは今後も現在お住まいの住宅に住み続けたいとお考えですか。（ひとつだけ○）

現在の住宅に住み続ける意向についてたずねたところ、「現在住んでいる住宅に住み続けたい」が78.3%、「現在住んでいる住宅から住み替えたい」が8.9%、「わからない」が6.7%となっており、大多数が継続居住の意向があることがわかります。

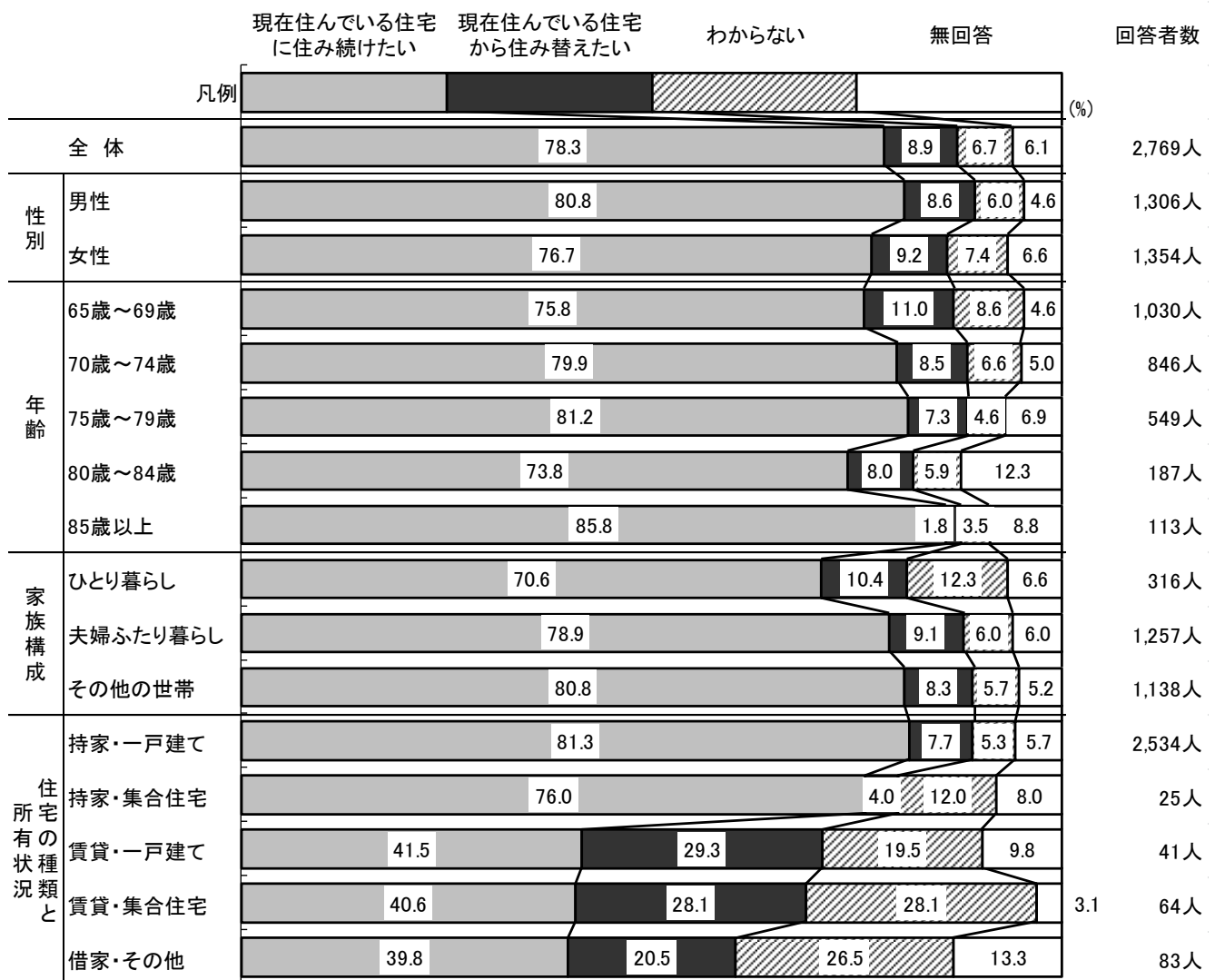
性別でみると、男性は女性に比べて「現在住んでいる住宅に住み続けたい」がやや高くなっています。

年齢別でみると、「現在住んでいる住宅に住み続けたい」は85歳以上で9割弱と高く、「現在住んでいる住宅から住み替えたい」は65歳～74歳で1割前後とやや高くなっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らし、夫婦ふたり暮らし、その他の世帯の順に「現在住んでいる住宅から住み替えたい」が低くなっています。

住宅の種類と所有状況別でみると、「現在の住まいに引き続き住み続けたい」は、持家では8割前後と高い一方で、賃貸や借家では4割前後にとどまっています。

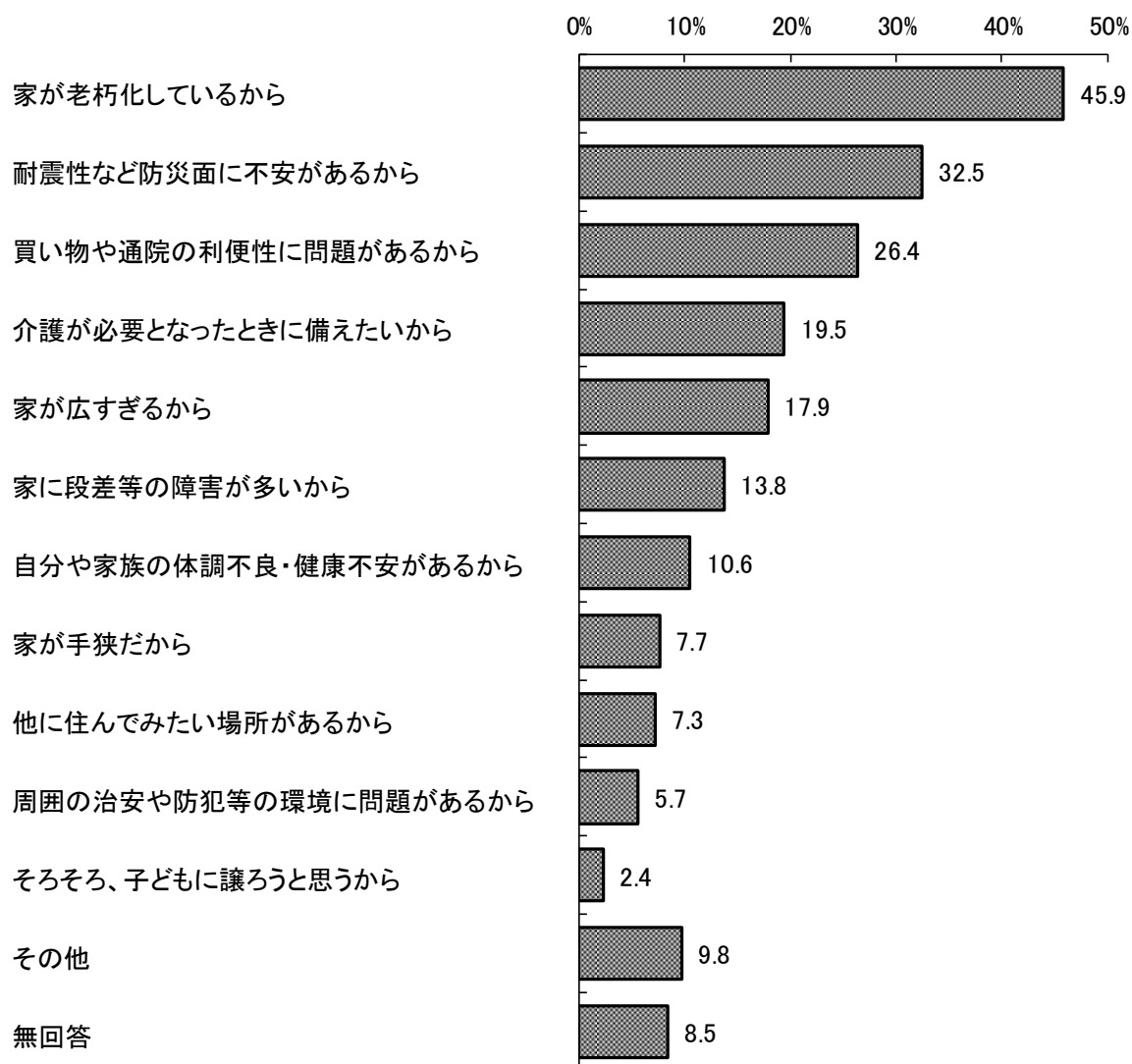
図表 50 現在の住宅に住み続ける意向（n=2,769）



問29-1. 問29で「2（現在住んでいる住宅から住み替えたい）」に○をつけた方にうかがいます。あなたが住み替えたいと思う理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

住み替えを希望する人に対して、住み替えを希望する理由をたずねたところ、「家が老朽化しているから」が45.9%と最も高くなっています。次いで、「耐震性など防災面に不安があるから」が32.5%、「買い物や通院の利便性に問題があるから」が26.4%、「介護が必要となったときに備えたいから」が19.5%などとなっています。

図表 51 住み替えを希望する理由（n=246）



第2章 調査結果（通常設問）

性別でみると、男性は女性に比べて「家が老朽化しているから」、「耐震性など防災面に不安があるから」、一方、女性は男性に比べて「買い物や通院の利便性に問題があるから」、「介護が必要となったときに備えたいから」、「家が広すぎるから」が高くなっています。

年齢別でみると、65歳～69歳では「家が老朽化しているから」が5割弱と高くなっています。

家族構成別でみると、一人暮らしは「介護が必要となったときに備えたいから」が3割強、夫婦ふたり暮らし、その他の世帯は「家が老朽化しているから」が5割程度、「耐震性など防災面に不安があるから」、「買い物や通院の利便性に問題があるから」が3割前後と他の家族構成より高くなっています。

図表 52 住み替えを希望する理由 (n=246)

		回答者数（人）	家が老朽化しているから	耐震性など防災面に不安があるから	買い物や通院の利便性に問題があるから	介護が必要となったときに備えたいから	家が広すぎるから	家に段差等の障害が多いから	自分や家族の体調不良・健康不安があるから	家が手狭だから	他に住んでみたい場所があるから	周囲の治安や防犯等の環境に問題があるから	そろそろ、子どもに譲ろうと思うから	その他	無回答	(%)
	全 体	246	45.9	32.5	26.4	19.5	17.9	13.8	10.6	7.7	7.3	5.7	2.4	9.8	8.5	
性 別	男性	112	50.9	35.7	21.4	17.9	8.9	11.6	10.7	11.6	7.1	8.0	3.6	10.7	6.3	
	女性	125	40.8	28.0	30.4	20.8	24.0	13.6	9.6	4.8	8.0	4.0	1.6	9.6	10.4	
年 齢	65歳～69歳	113	48.7	31.0	27.4	17.7	15.9	12.4	8.8	9.7	10.6	7.1	2.7	11.5	5.3	
	70歳～74歳	72	44.4	36.1	22.2	20.8	13.9	9.7	9.7	6.9	6.9	1.4	—	11.1	11.1	
	75歳～79歳	40	37.5	20.0	30.0	15.0	15.0	12.5	15.0	5.0	2.5	10.0	7.5	5.0	12.5	
	80歳～84歳	15	46.7	46.7	26.7	33.3	46.7	26.7	13.3	6.7	—	6.7	—	6.7	13.3	
	85歳以上	2	50.0	50.0	100.0	100.0	50.0	100.0	—	—	—	—	—	—	—	
家 族 構 成	ひとり暮らし	33	33.3	18.2	6.1	33.3	12.1	9.1	12.1	3.0	3.0	—	3.0	18.2	15.2	
	夫婦ふたり暮らし	114	46.5	30.7	30.7	20.2	18.4	13.2	8.8	7.0	8.8	7.0	2.6	8.8	6.1	
	その他の世帯	94	50.0	38.3	28.7	13.8	19.1	16.0	11.7	10.6	7.4	6.4	2.1	8.5	8.5	

問29-2. 引き続き、問29で「2（現在住んでいる住宅から住み替えたい）」に○をつけた方にうかがいます。どのような場所に住み替えたいですか。（ひとつだけ○）

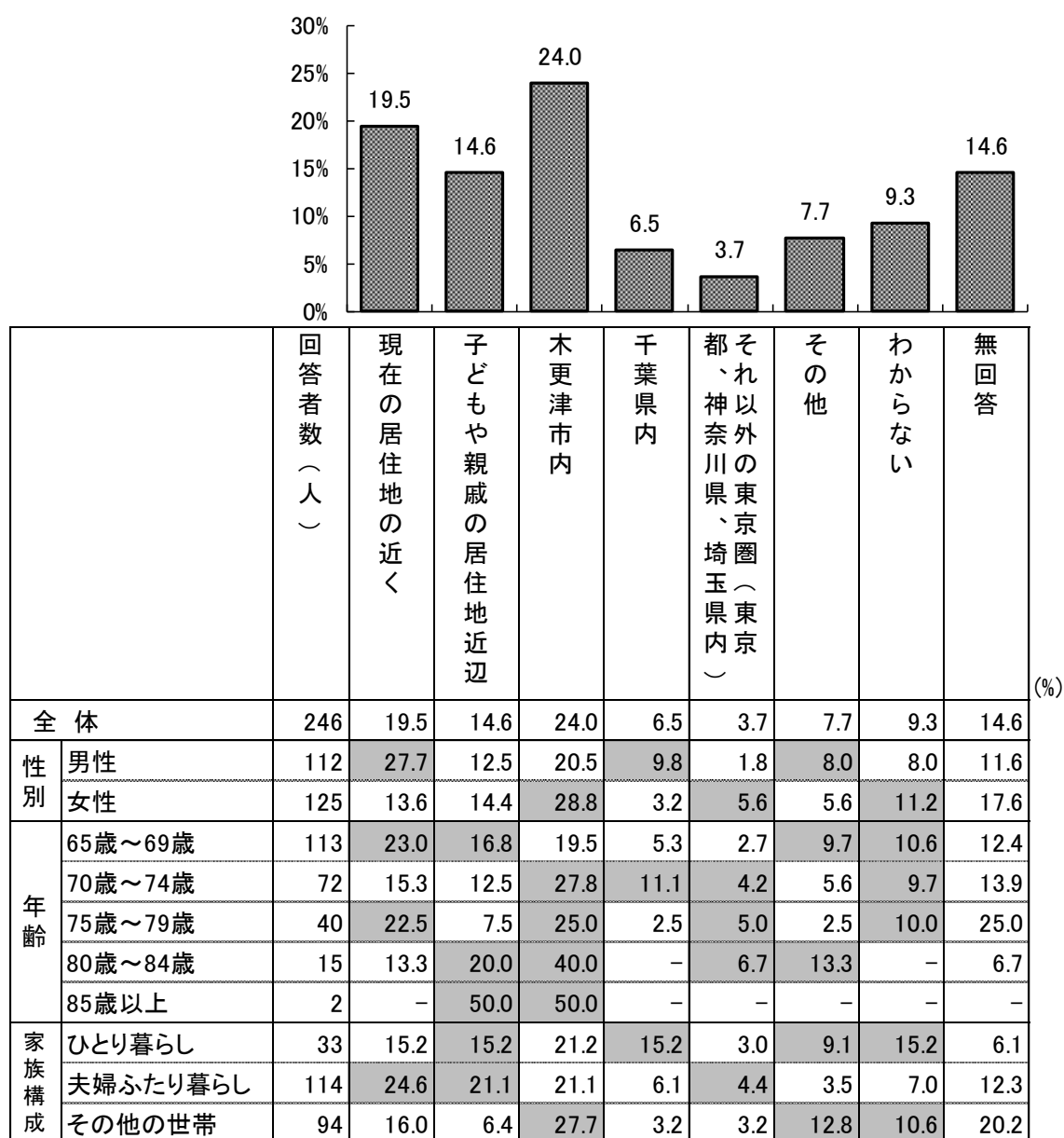
住み替えを希望する人に対して、どのような場所に住み替えたいかをたずねたところ、「現在の居住地の近く」が19.5%、「子どもや親戚の居住地近辺」が14.6%、「木更津市内」が24.0%などとなっています。

性別でみると、男性は女性に比べて「現在の居住地の近く」、女性は男性に比べて「木更津市内」が高くなっていますが、いずれにしても木更津市内を希望する割合が高いといえます。

年齢別でみると、どの年齢でも、木更津市内を希望する割合が高いといえます。

家族構成別でみると、夫婦ふたり暮らしでは「子どもや親戚の居住地近辺」が2割強と他の家族構成よりやや高い一方、その他の世帯は1割に満たず低くなっています。

図表 53 どのような場所に住み替えたいか（n=238）



問29-3. 引き続き、問29で「2（現在住んでいる住宅から住み替えたい）」に○をつけた方にうかがいます。住み替えたいと思うのは、どのような住宅ですか。（あてはまるものすべてに○）
 (1) 一戸建て、または共同住宅のどちらですか。(2) 住宅の形態は、次のうちどれですか。

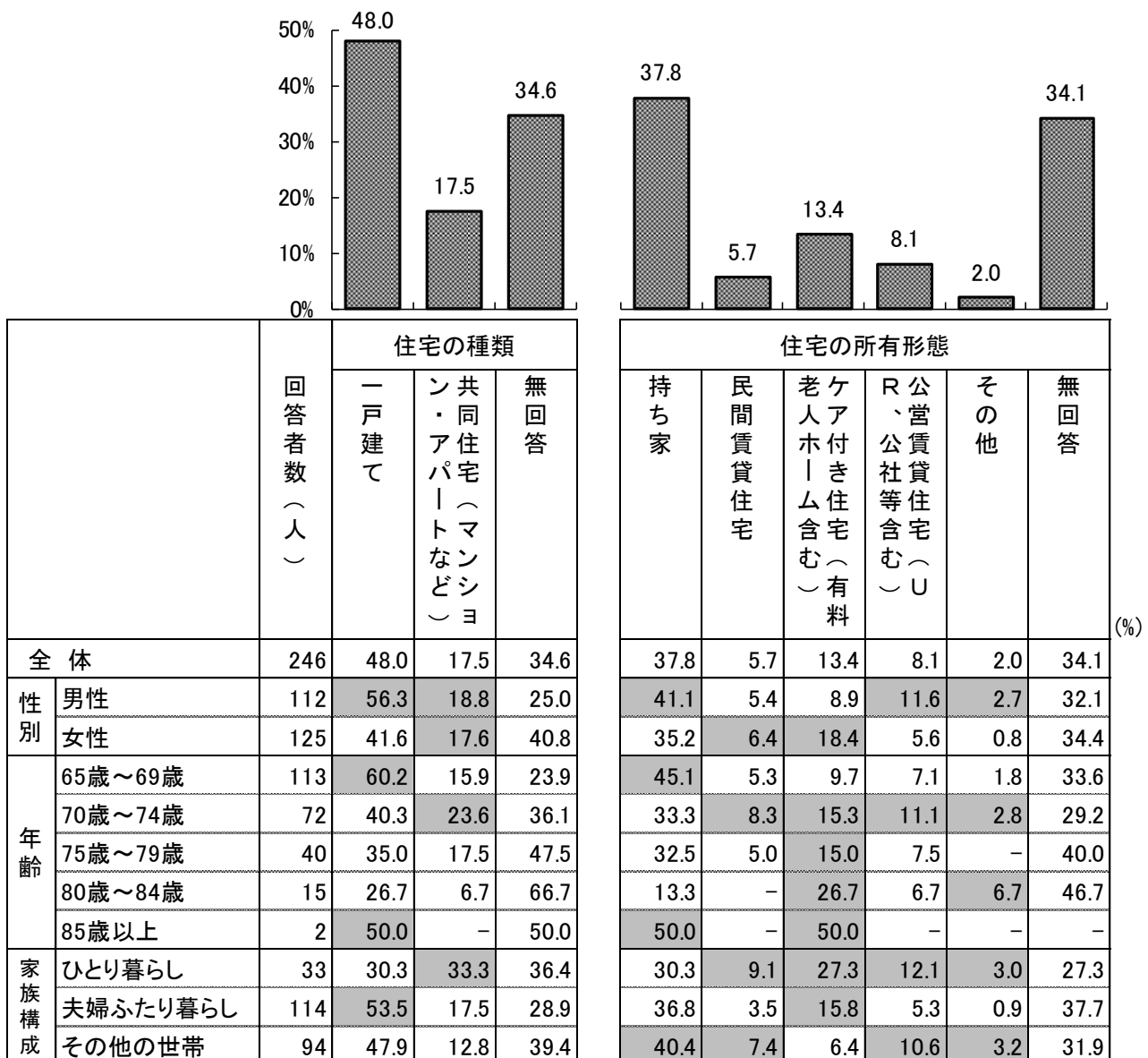
住み替えを希望する人に対して、引越し先の住宅の種類をたずねたところ、「一戸建て」が48.0%、「共同住宅（マンション・アパートなど）」が17.5%となっています。また、住宅の所有関係をたずねたところ、「持ち家」が37.8%、「民間賃貸住宅」が5.7%、「ケア付き住宅（有料老人ホーム含む）」が13.4%、「公営賃貸住宅（UR、公社等含む）」が8.1%となっています。

性別でみると、男性は女性に比べて「一戸建て」、「持ち家」が高く、女性は男性に比べて「ケア付き住宅（有料老人ホーム含む）」が高くなっています。

年齢別でみると、65歳～69歳では「一戸建て」、「持ち家」が高く、70～74歳では「共同住宅（マンション・アパートなど）」が高くなっています。

家族構成別でみると、「ケア付き住宅（有料老人ホーム含む）」は、ひとり暮らし、夫婦ふたり暮らし、その他の世帯の順に低くなっています。

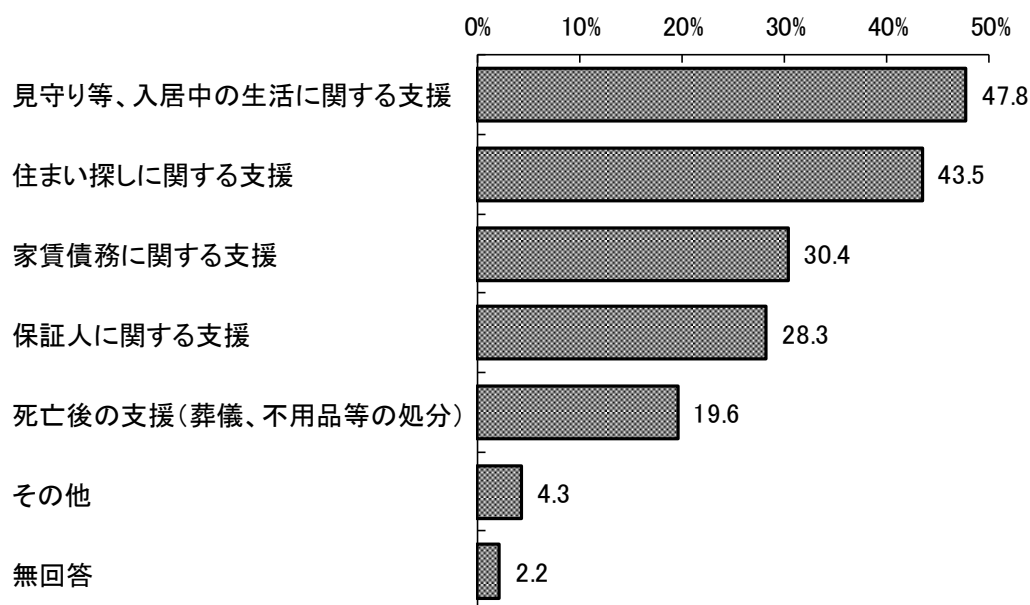
図表 54 住み替えたい住宅の種類と所有関係（n=238）



問29-3-1. 問29-3(2)で「2または3（民間賃貸住宅等）」に○をつけた方にうかがいます。民間賃貸住宅等への入居をする際に、あなたはどのような支援が必要だと感じますか。
（あてはまるものすべてに○）

民間賃貸住宅等を希望する人に対して、民間賃貸住宅等への入居に際して必要な支援は何かをたずねたところ、「見守り等、入居中の生活に関する支援」が47.8%と最も高くなっています。次いで、「住まい探しに関する支援」が43.5%、「家賃債務に関する支援」が30.4%、「保証人に関する支援」が28.3%などとなっています。

図表 55 民間賃貸住宅等への入居に際して必要な支援（n=46）



6. 医療について

問30. あなたにはかかりつけの医師（※）がいますか。（あてはまるものすべてに○）

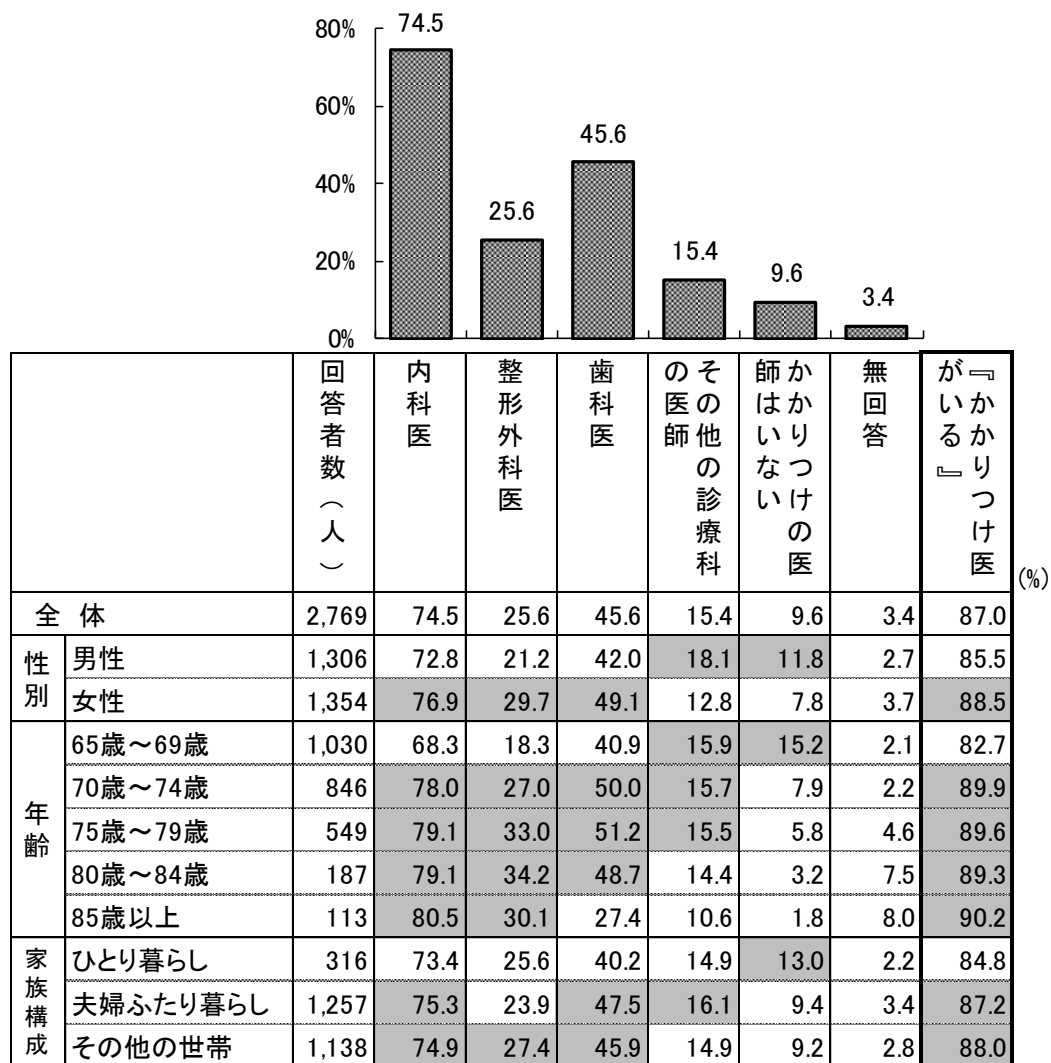
かかりつけ医の有無についてたずねたところ、『かかりつけ医がいる』は87.0%と大多数の人が回答しています。診療科目はの内訳は、「内科医」が74.5%、「整形外科医」が25.6%、「歯科医」が45.6%などとなっています。

性別でみると、女性は男性に比べて『かかりつけ医がいる』が高く、「内科医」、「整形外科医」、「歯科医」とも高くなっています。

年齢別でみると、65歳～69歳は『かかりつけ医がいる』が他の年齢より低く、特に「内科医」、「整形外科医」が低くなっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らしは「歯科医」が他の家族構成よりやや低くなっています。

図表 56 かかりつけ医の有無（n=2,769）



※『かかりつけ医がいる』=100%－「かかりつけの医師はいない」－「無回答」□

問31. 健康診査や人間ドックを毎年受診していますか。（ひとつだけ○）
 （「2（いいえ）」の方）受診しない理由は何ですか。

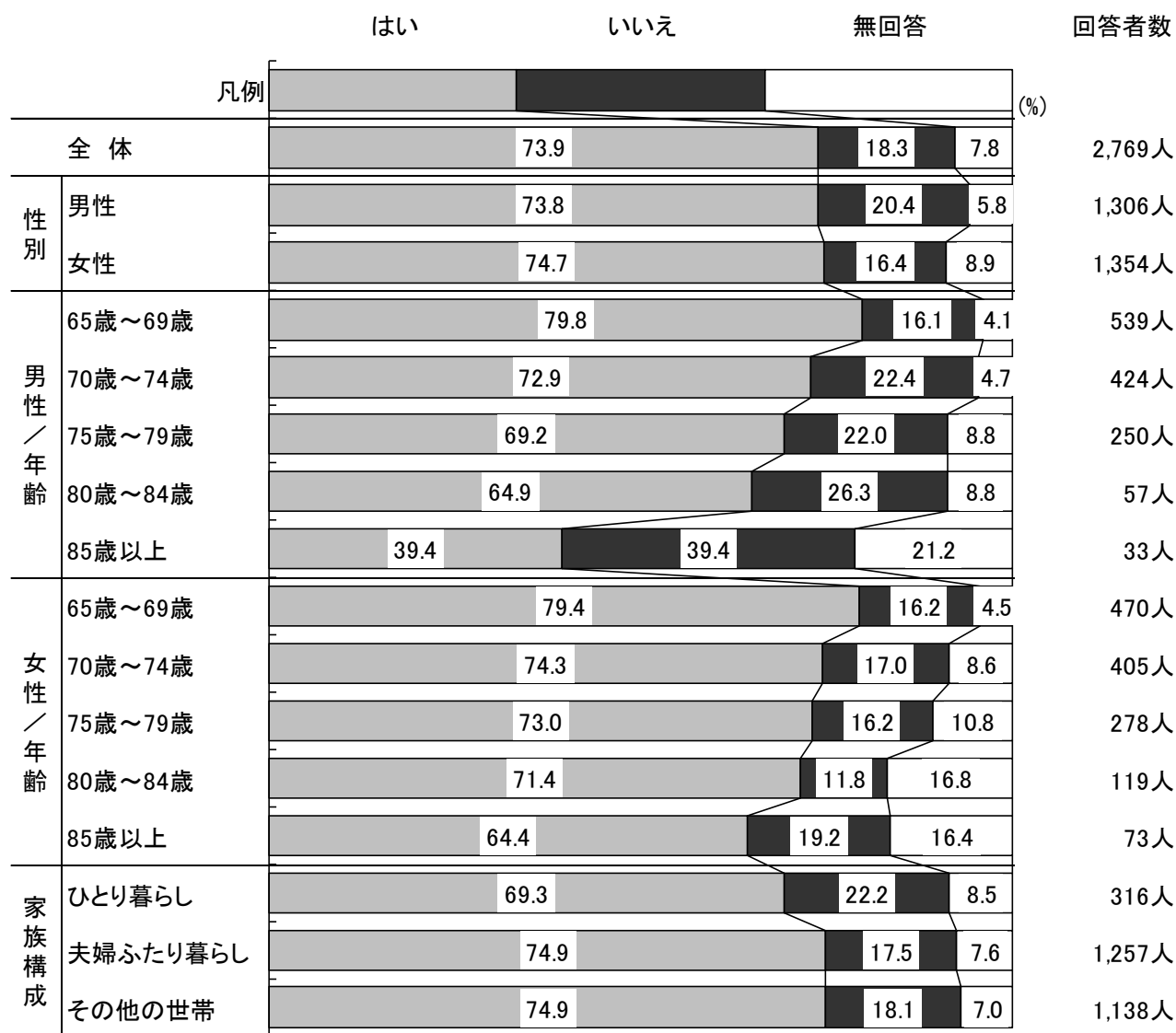
健康診査や人間ドックを毎年受診しているかについてたずねたところ、「はい」が73.9%、「いいえ」が18.3%であり、大多数の人は健康診査や人間ドックを毎年受診しています。

性別でみると、あまり差は見られません。

年齢別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて、「はい」が低くなる一方で、「いいえ」が高くなっています。特に男性85歳以上は、「はい」は4割弱にとどまっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らし世帯では「はい」が他の家族構成よりやや低くなっています。

図表 57 健康診査や人間ドックを毎年受診しているか（n=2,769）



健康診査や人間ドックを毎年受診しない理由（以下、369件から抜粋）

- ・ 出かける事が大変な時がある。（女性、70歳～74歳、木更津）
- ・ 受診に行きそびれている。（男性、70歳～74歳、鎌足）
- ・ ずっとしていたが、ここ2～3年していない。何かおっくうに。（女性、80歳～84歳、清川）
- ・ 総合病院で定期的に血液・尿検査等を実施しているから。（男性、65歳～69歳、波岡）
- ・ 内科のかかりつけ医に毎月受診している為。血液検査も度々している為。（女性、75歳～79歳、鎌足）
- ・ 現在まで、あまり必要を感じていないから。（男性、75歳～79歳、波岡）
- ・ 金銭がかかる。（男性、65歳～69歳、岩根）
- ・ 自分の時間や月日が合わないから。（男性、70歳～74歳、鎌足）
- ・ 人間ドックの必要性はありますが、主人が要介護5で8年みていて（病院に10回入院しています）、自分が精一杯頑張っている状態なので、クタクタです。（女性、65歳～69歳、富来田）
- ・ 健康面での不安要素が今のところないから。（男性、65歳～69歳、木更津）
- ・ 近くにない。（女性、65歳～69歳、金田）
- ・ 体は別に悪いところがないと思うから。（男性、65歳～69歳、岩根）
- ・ 受診料が高いから。（女性、65歳～69歳、中郷）
- ・ 結果が恐ろしいからです。ポックリ、逝きたいものですから。（男性、65歳～69歳、清川）
- ・ 病院代が高いので、安くなれば行きたいと思います。（女性、65歳～69歳、波岡）
- ・ 申込等知らない。（男性、70歳～74歳、木更津）
- ・ かかりつけ医師が、年間を通して検査を組んでくれる。（女性、70歳～74歳、波岡）
- ・ 忘れて、期限過ぎる事多し（意識低い）。（一、80歳～84歳、波岡）
- ・ 一般的な生活で、一応健康と自分で感じている。簡単な診察は年に2度受けている。（女性、75歳～79歳、波岡）
- ・ 病院が混んでいそうだから。（男性、75歳～79歳、富来田）
- ・ 3年に一度と決めているから。（女性、70歳～74歳、鎌足）
- ・ 受診により、不安が増す事が嫌。又投薬数等が増すのも嫌。かかりつけの内科で定期的にやっているだけで十分。（女性、65歳～69歳、木更津）
- ・ 年に一度、脳の検査をしている為。（女性、70歳～74歳、中郷）
- ・ 病院が嫌。①待合室は混んでいるし暑い。②他の病気がうつりそうなので、行きたくない。③病院に行くと、早くても半日かかるので。（女性、65歳～69歳、木更津）
- ・ 移動手段や自分の都合等。（女性、70歳～74歳、鎌足）
- ・ 同居人が自分の事（起きたり、食べたり）ができない為に、外出も何もできず。（女性、70歳～74歳、清川）
- ・ 言われる事は分かっている。長生きは特に望んでいない。（男性、75歳～79歳、岩根）
- ・ 毎年は必要なし。（男性、65歳～69歳、金田）
- ・ わざわざ病気を掘り出す必要なし。（男性、70歳～74歳、波岡）
- ・ 毎月1～2回、血圧を測る事と、少しおかしいと思ったら直ぐにかかりつけ医の所に行く事。（男性、75歳～79歳、富来田）
- ・ 健康診査による保健師の指導を受け、心理的な圧迫を感じたので、もう二度と関わりたくない。保険料の負担に関係しそうな医療費の支出をしたくない。（男性、65歳～69歳、中郷）
- ・ 今まで会社で受けてました。来年から受けられるのでしょうか。（男性、65歳～69歳、波岡）
- ・ ずるずるとして、元気にまかせて失念してしまう。（男性、70歳～74歳、鎌足）
- ・ 今の所、やらなくちゃという気持ちはあるけどやってない。（男性、65歳～69歳、波岡）

問32. あなたは訪問診療についてご存じですか。（ひとつだけ○）

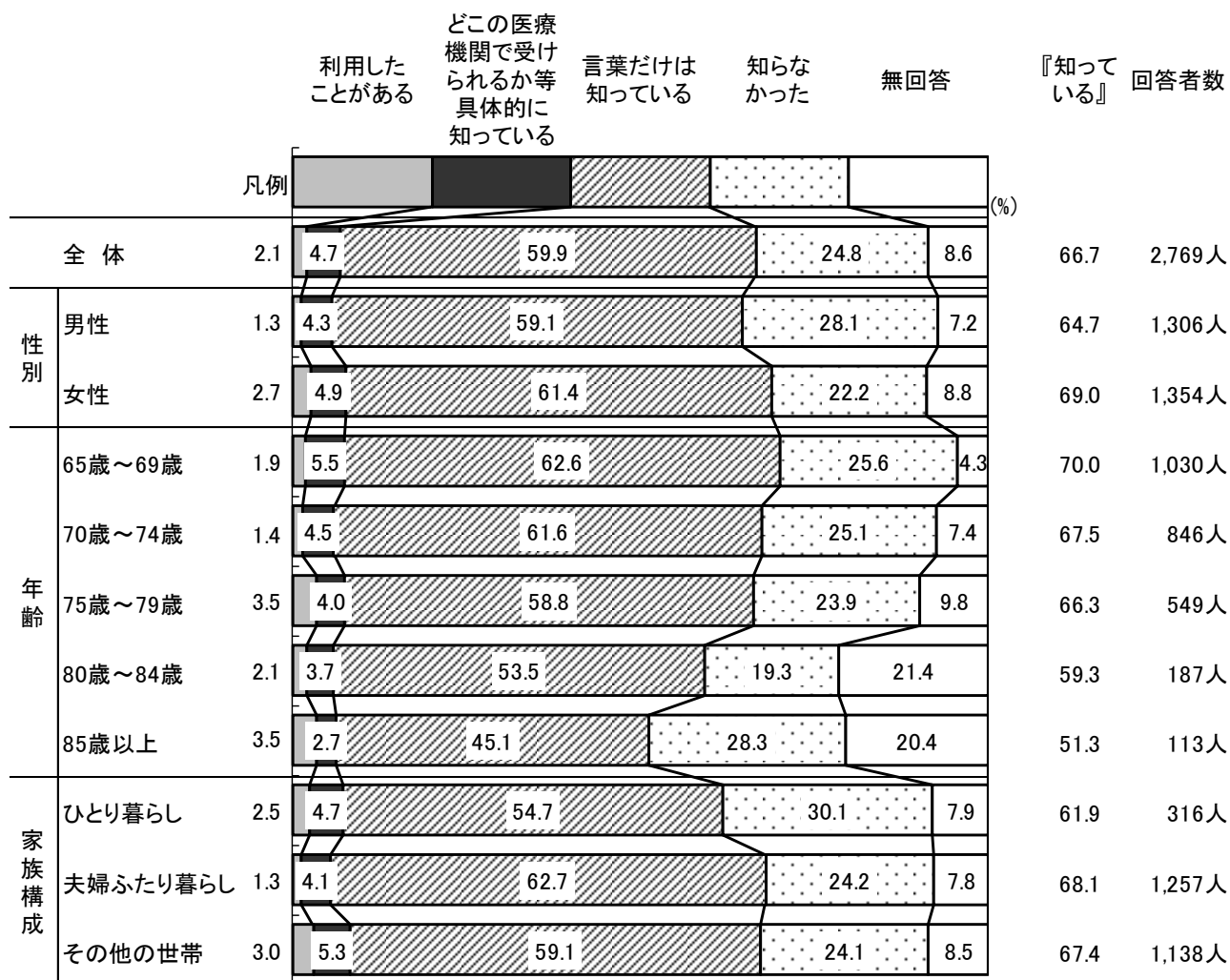
訪問診療の認知度は、「利用したことがある」が2.1%、「どこの医療機関で受けられるか等具体的に知っている」が4.7%、「言葉だけは知っている」が59.9%であり、これらを合わせた『知っている』は66.7%となっています。一方、「知らなかった」が24.8%となっています。

性別でみると、男性は女性に比べて「知らなかった」がやや高くなっています。

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて、『知っている』は低くなっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らしは「知らなかった」が他の家族構成よりやや高くなっています。

図表 58 訪問診療の認知度 (n=2,769)



※『知っている』＝「利用したことがある」＋「どこの医療機関で受けられるか等具体的に知っている」＋「言葉だけは知っている」

問33. あなたは脳卒中の後遺症やがんなどで、長期の治療・療養が必要になった場合、訪問診療を希望しますか。（ひとつだけ○）

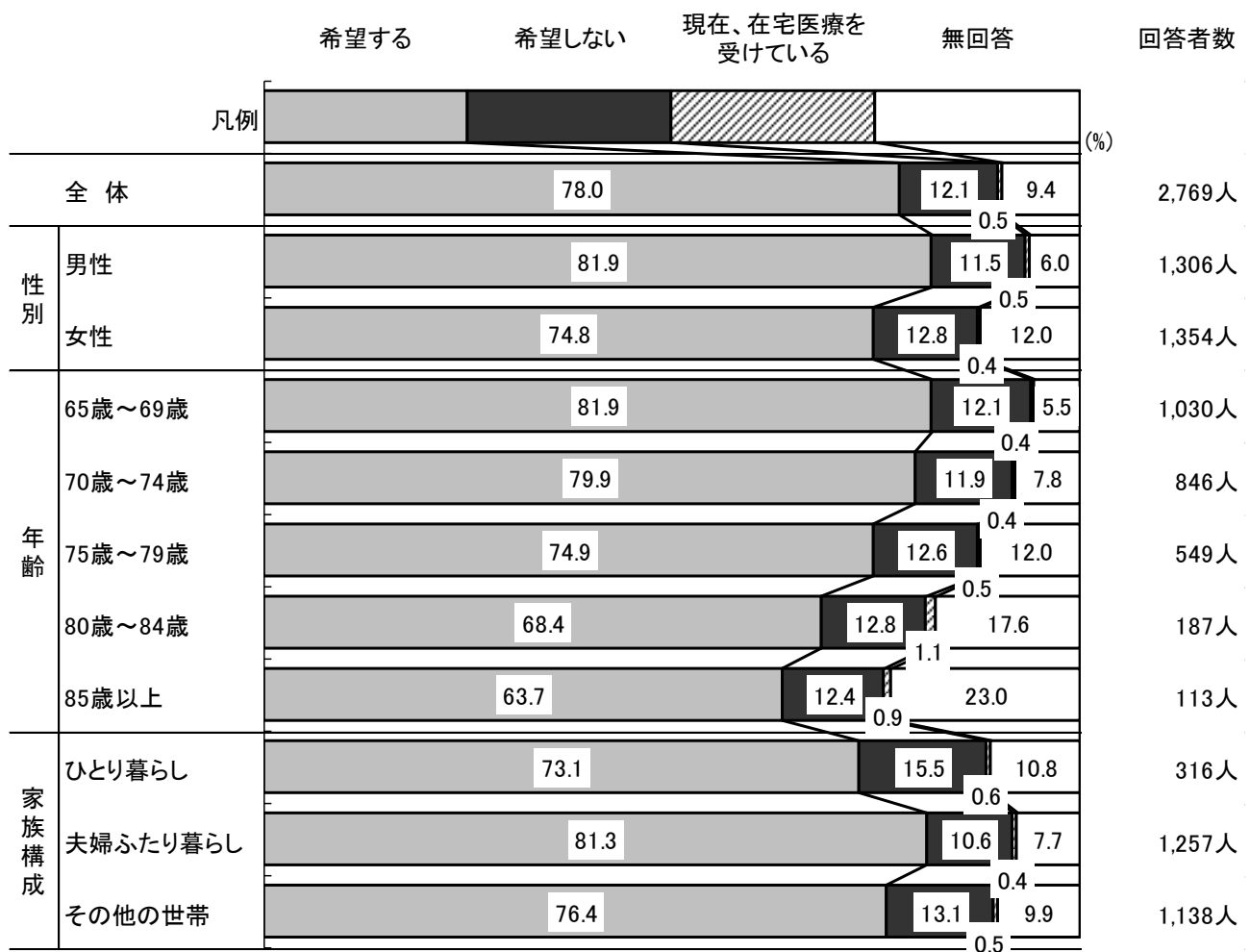
訪問診療の受診希望は、「希望する」が78.0%であり、大多数が受診を希望しています。一方、「希望しない」が12.1%となっています。

性別でみると、男性は女性に比べて「希望する」が高くなっています。

年齢別でみると、年齢が低い人ほど「希望する」が高くなっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らしは「希望する」が他の家族構成より低くなっています。

図表 59 訪問診療の受診希望（n=2,769）



問34. あなたは人生の最期を迎える場所として、どこを希望していますか。（ひとつだけ○）

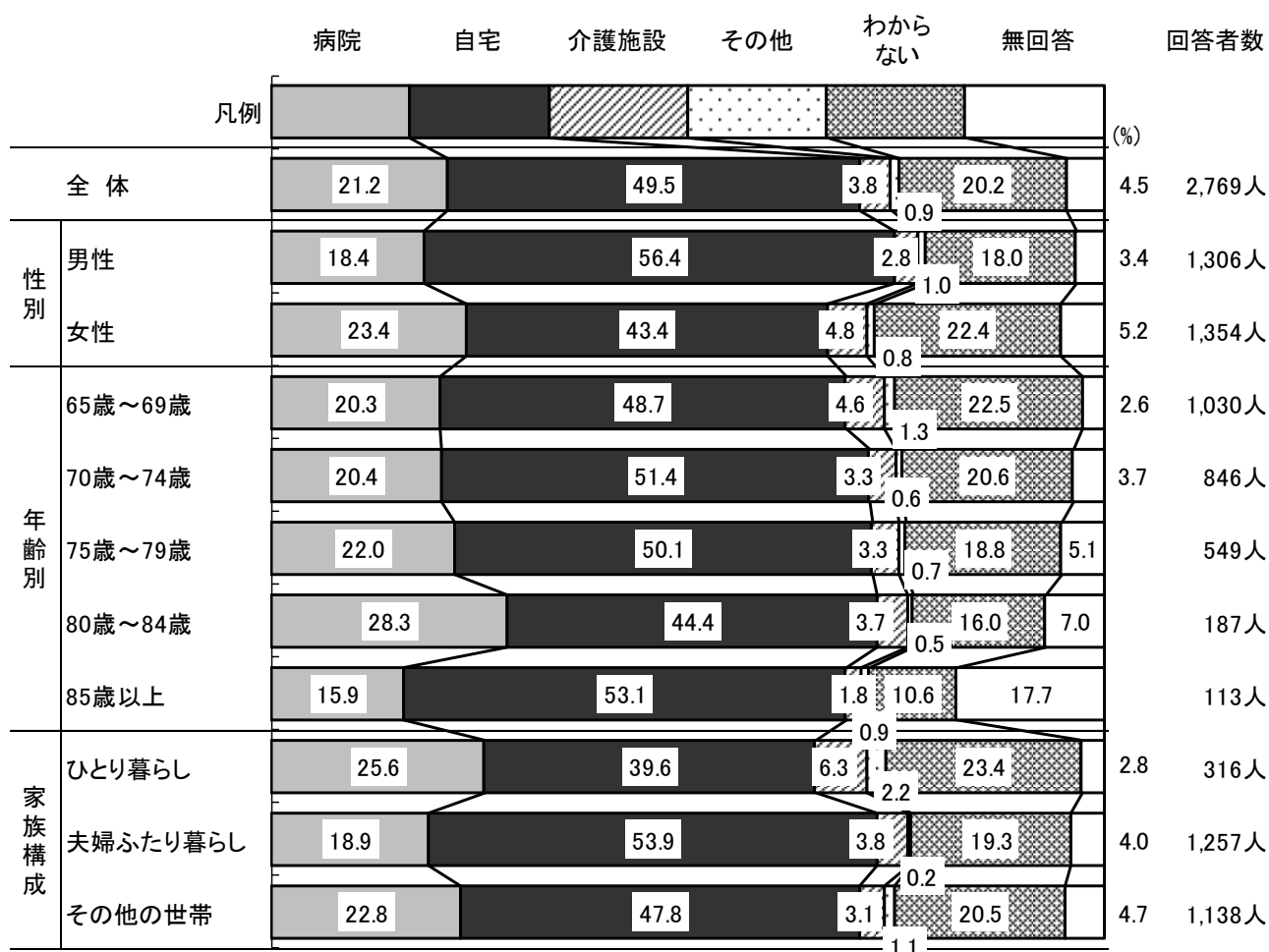
人生の最期を迎える場所として希望するところは、「自宅」が49.5%と最も高くなっています。次いで、「病院」が21.2%、「介護施設」が3.8%などとなっています。なお、「わからない」が20.2%となっています。

性別でみると、男性は女性に比べて「自宅」が高く、女性は男性に比べて「病院」が高くなっています。

年齢別でみると、85歳以上では「自宅」を希望する人が大幅に高くなっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らしは「自宅」が他の家族構成より低く、「病院」が高くなっています。夫婦ふたり暮らしは「自宅」が他の家族構成より高くなっています。その他の世帯はひとり暮らしと夫婦ふたり暮らしの中間に位置しています。

図表 60 人生の最期を迎える場所として希望するところ（n=2,769）



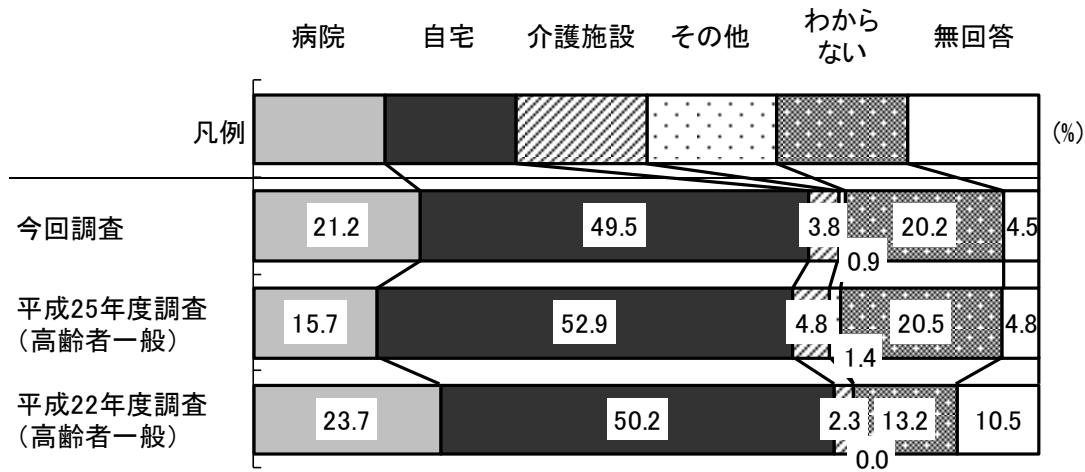
第2章 調査結果（通常設問）

平成25年度調査、平成22年度調査（高齢者一般）と比較してみると、「自宅」は平成25年度調査より3.4ポイント、平成22年度調査より0.7ポイント低下しています。

「病院」は平成25年度調査より5.5ポイント上昇、平成22年度調査より2.5ポイント低下しています。

「介護施設」は平成25年度調査より1.0ポイント低下、平成22年度調査より1.5ポイント上昇しています。

図表 61 人生の最期を迎える場所として希望するところ



問35. あなたは自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

（あてはまるものすべてに○）

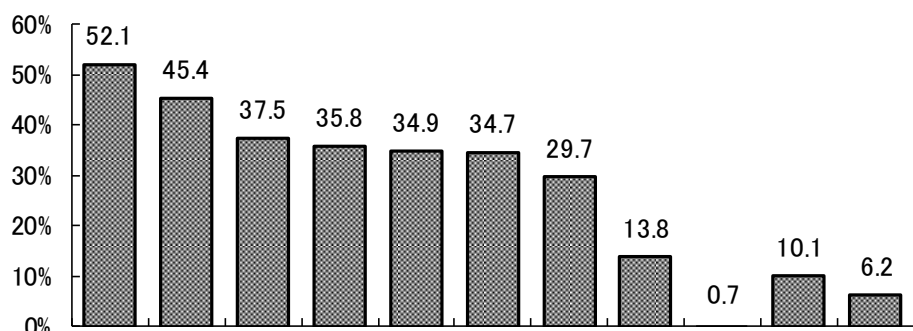
自宅で最期まで療養するために必要なことについてたずねたところ、「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が52.1%と最も高くなっています。次いで、「かかりつけ医による定期的な訪問診療」が45.4%、「訪問看護（看護師の訪問）の充実」が37.5%、「24時間対応してくれるサービス体制」が35.8%などとなっています。

性別でみると、女性は男性に比べて「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が6割弱と高いほか、さまざまな項目の割合が高くなっています。

年齢別でみると、年齢が低い人で、さまざまな項目の割合が高くなっています。

家族構成別でみると、夫婦ふたり暮らし、その他の世帯では「家族介護者への支援」をはじめ、さまざまな項目の割合が高くなっています。

図表 62 自宅で最期まで療養するために必要なこと（n=2,769）



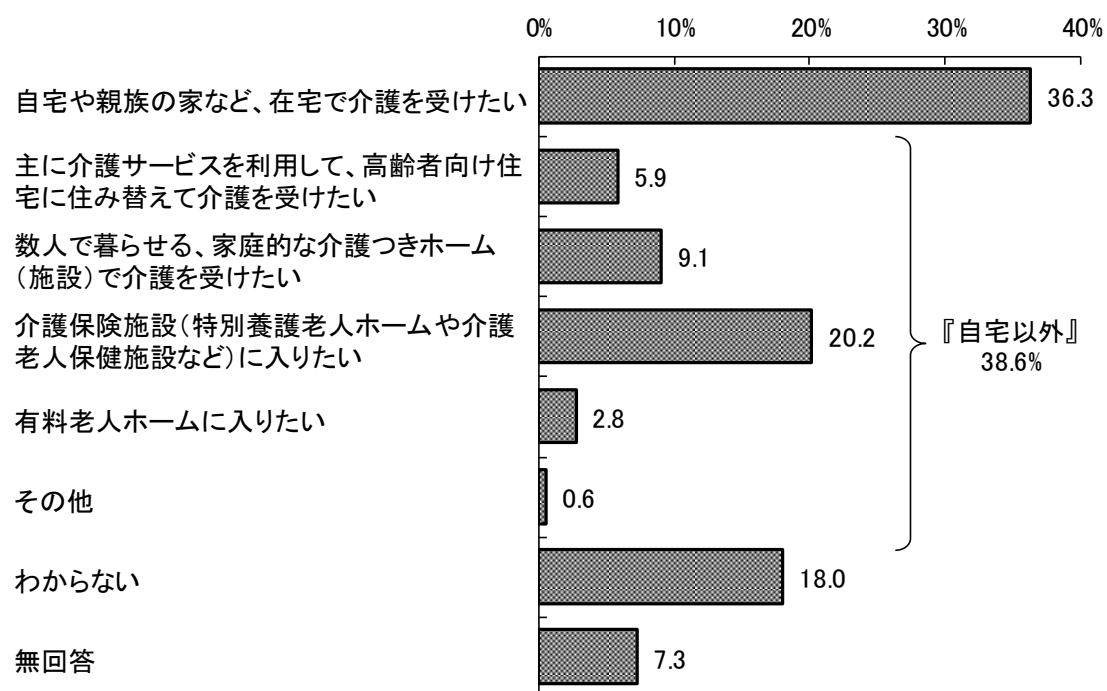
		回答者数（人）	症状が急に悪くなったときの入院先の確保	かかりつけ医による定期的な訪問診療	訪問看護（看護師の訪問）の充実	24時間サービス体制	訪問介護（ホームヘルパー）の充実	家族介護者への支援	経済的な支援	居住環境の整備	その他	わからない	無回答
全 体		2,769	52.1	45.4	37.5	35.8	34.9	34.7	29.7	13.8	0.7	10.1	6.2
性 別	男性	1,306	46.9	43.8	36.8	34.2	32.9	36.0	29.6	12.0	0.8	11.5	4.7
	女性	1,354	58.1	47.8	39.3	38.3	37.3	34.7	30.6	16.4	0.6	8.8	6.9
年 齢	65歳～69歳	1,030	56.4	48.4	42.1	43.5	41.4	38.2	35.9	18.0	0.8	8.7	3.6
	70歳～74歳	846	52.1	45.5	39.2	34.5	33.5	36.8	30.3	13.2	0.8	8.5	5.0
	75歳～79歳	549	49.0	43.0	33.5	31.9	31.0	31.0	24.2	9.5	0.5	12.6	7.5
	80歳～84歳	187	51.3	39.6	27.3	26.7	26.2	28.3	20.9	12.3	0.5	13.9	12.8
	85歳以上	113	38.1	42.5	25.7	16.8	24.8	23.9	12.4	8.0	—	15.0	19.5
家 族 構 成	ひとり暮らし	316	48.1	35.4	32.6	33.5	31.6	17.1	25.6	10.8	1.9	18.7	3.8
	夫婦ふたり暮らし	1,257	52.8	48.1	40.6	37.7	37.2	37.5	29.5	14.5	0.6	7.9	6.0
	その他の世帯	1,138	53.1	45.9	35.9	35.2	33.9	37.2	31.8	14.5	0.4	10.1	6.3

7. 介護、成年後見制度について

問36. あなたは将来、介護が必要になったときには、どこで介護を受けたいですか。既に介護を受けている方は、今後についてお答えください。（もっとも近い考えにひとつだけ○）

介護を受けたい場所は、「自宅や親族の家など、在宅で介護を受けたい」が36.3%と最も高くなっています。一方、『自宅以外』は合わせて38.6%であり、自宅を上回っています。その内訳は、「介護保険施設（特別養護老人ホームや介護老人保健施設など）に入りたい」が20.2%、「数人で暮らせる、家庭的な介護つきホーム（施設）で介護を受けたい」（注：グループホームを意図したもの）が9.1%、「主に介護サービスを利用して、高齢者向け住宅に住み替えて介護を受けたい」が5.9%、「主に介護サービスを利用して、高齢者向け住宅に住み替えて介護を受けたい」が5.9%、「その他」が0.6%、「わからない」が18.0%、「無回答」が7.3%などとなっています。

図表 63 介護を受けたい場所（n=2,769）



第2章 調査結果（通常設問）

性別でみると、男性は女性に比べて「自宅や親族の家など、在宅で介護を受けたい」、女性は男性に比べて『自宅以外』（特に「数人で暮らせる、家庭的な介護つきホーム（施設）で介護を受けたい」）が高くなっています。

年齢別でみると、65歳～74歳、80歳～84歳では『自宅以外』が「自宅や親族の家など、在宅で介護を受けたい」を上回っています。「介護保険施設（特別養護老人ホームや介護老人保健施設など）に入りたい」はどの年齢でも2割前後となっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らしは『自宅以外』が「自宅や親族の家など、在宅で介護を受けたい」を大きく上回っています。夫婦ふたり暮らし、その他の世帯では『自宅以外』と「自宅や親族の家など、在宅で介護を受けたい」が同率となっています。

図表 64 介護を受けたい場所（n=2,769）

		回答者数（人）	自宅や親族の家など、在宅で介護を受けたい	主として高齢者向け住宅に住み替えて介護を受けたい	介護つきホーム（施設）で介護を受けたい	数人で暮らせる、家庭的な介護つきホーム（施設）で介護を受けたい	介護保険施設（特別養護老人ホームや介護老人保健施設など）に入りたい	有料老人ホームに入りたい	その他	わからない	無回答	『自宅以外』	(%)
全体		2,769	36.3	5.9	9.1	20.2	2.8	0.6	18.0	7.3	38.6		
性別	男性	1,306	42.8	4.7	5.7	20.6	3.0	0.6	17.5	5.1	34.6		
	女性	1,354	30.1	7.2	12.2	20.2	2.7	0.6	18.6	8.5	42.9		
年齢	65歳～69歳	1,030	35.1	7.2	9.7	20.9	2.9	0.7	18.9	4.6	41.4		
	70歳～74歳	846	37.2	6.1	9.9	20.9	2.1	0.4	17.1	6.1	39.4		
	75歳～79歳	549	38.8	4.7	7.1	18.6	3.5	0.5	17.3	9.5	34.4		
	80歳～84歳	187	29.9	3.2	10.2	19.8	3.7	1.1	20.3	11.8	38.0		
	85歳以上	113	38.9	2.7	3.5	18.6	1.8	0.9	17.7	15.9	27.5		
家族構成	ひとり暮らし	316	27.2	7.0	12.0	22.5	3.8	0.6	21.2	5.7	45.9		
	夫婦ふたり暮らし	1,257	38.3	6.1	8.8	20.2	2.9	0.3	16.1	7.2	38.3		
	その他の世帯	1,138	37.0	5.5	8.4	19.9	2.3	0.9	19.1	6.9	37.0		

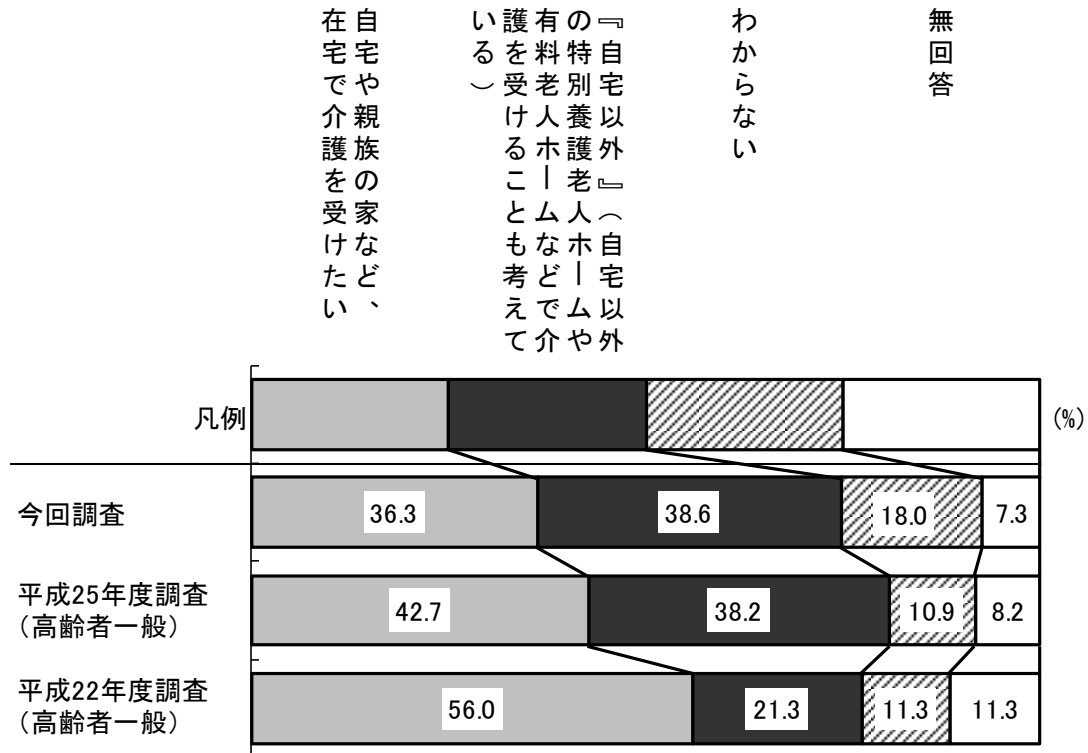
※『自宅以外』＝「主に介護サービスを利用して、高齢者向け住宅に住み替えて介護を受けたい」
 ＋「数人で暮らせる、家庭的な介護つきホーム（施設）で介護を受けたい」
 ＋「介護保険施設（特別養護老人ホームや介護老人保健施設など）に入りたい」
 ＋「有料老人ホームに入りたい」＋「その他」

第2章 調査結果（通常設問）

平成25年度調査、平成22年度調査（高齢者一般）とは一部選択肢が異なるため単純に比較することはできないものの、「自宅や親族の家など、在宅で介護を受けたい」は平成25年度調査より6.4ポイント、平成22年度調査より19.7ポイントと、年度とともに大きく低下しています。

一方、『自宅以外』（自宅以外の特別養護老人ホームや有料老人ホームなどで介護を受けることも考えている）は、平成25年度調査とほぼ同程度、平成22年度調査より17.3ポイントと大きく上昇し、自宅を上回る結果となりました。

図表 65 介護を受けたい場所



※『自宅以外』

(自宅以外の特別養護老人ホームや有料老人ホームなどで介護を受けることも考えている)

= 「主に介護サービスを利用して、高齢者向け住宅に住み替えて介護を受けたい」

＋「数人で暮らせる、家庭的な介護つきホーム（施設）で介護を受けたい」

＋「介護保険施設（特別養護老人ホームや介護老人保健施設など）に入りたい」

+「有料老人ホームに入りたい」+「その他」

※平成22・25年度調査は、選択肢として「病院に入院したい」があったほか、選択肢の表現が一部異なるものがある。

問36-1. 問36で「1（自宅や親族の家など、在宅で介護を受けたい）」に○をつけた方にうかがいます。どなたから介護を受けたいですか。（ひとつだけ○）

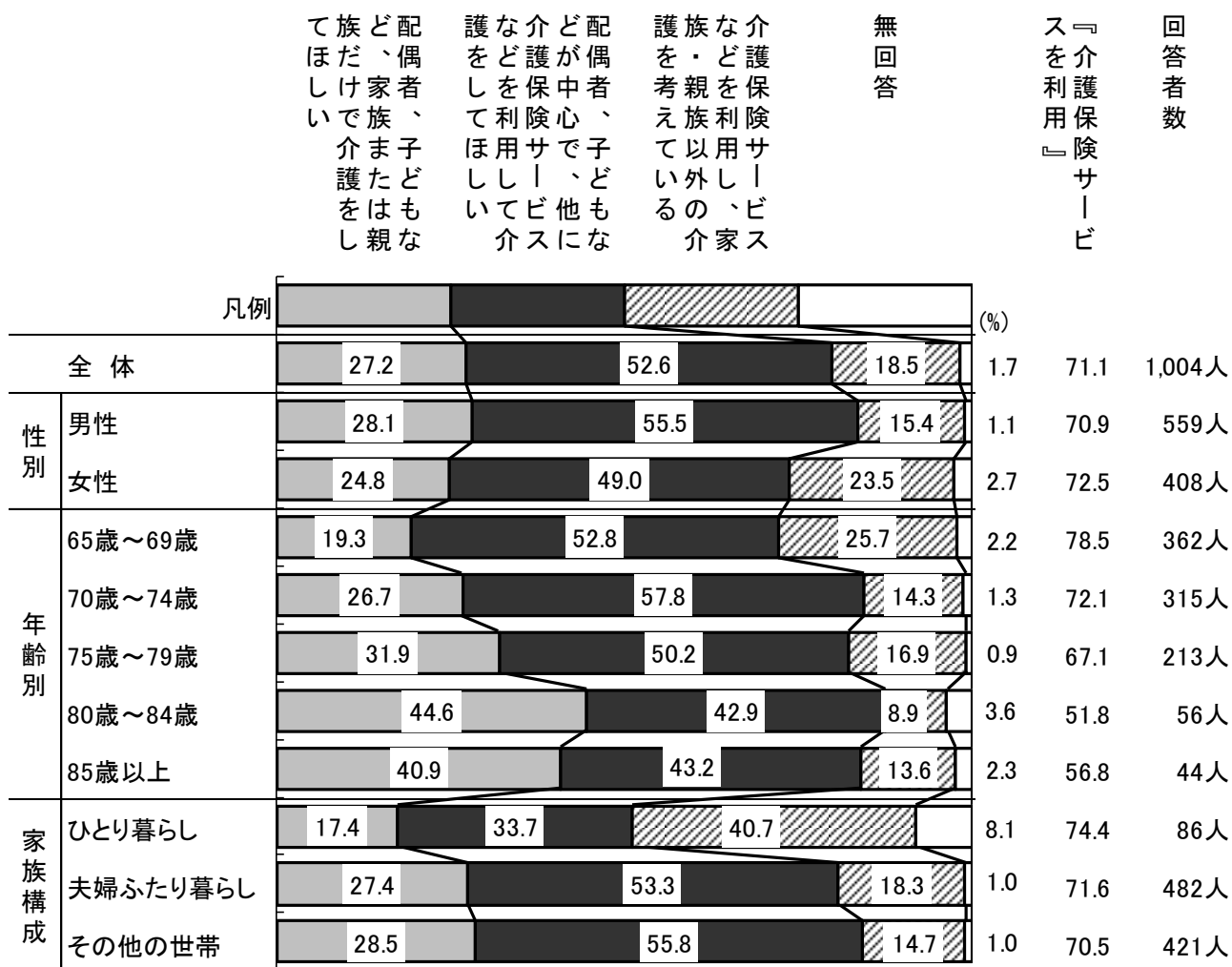
在宅での介護を希望する人に対して、誰から介護を受けたいかたずねたところ、「配偶者、子どもなど、家族または親族だけで介護をしてほしい」が27.2%、「配偶者、子どもなどが中心で、他に介護保険サービスなどを利用して介護をしてほしい」が52.6%、「介護保険サービスなどを利用し、家族・親族以外の介護を考えている」が18.5%となっています。

性別でみると、男性は女性に比べて「配偶者、子どもなど、家族または親族だけで介護をしてほしい」、「配偶者、子どもなどが中心で、他に介護保険サービスなどを利用して介護をしてほしい」、女性は男性に比べて「介護保険サービスなどを利用し、家族・親族以外の介護を考えている」が高くなっています。

年齢別でみると、84歳くらいまでは年齢が高くなるにつれて、「配偶者、子どもなど、家族または親族だけで介護をしてほしい」の割合が高くなっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らしは「介護保険サービスなどを利用し、家族・親族以外の介護を考えている」が4割強、夫婦ふたり暮らし、その他の世帯は「配偶者、子どもなどが中心で、他に介護保険サービスなどを利用して介護をしてほしい」が5割強と高くなっています。

図表 66 だれから介護を受けたいか（n=703）



※『介護保険サービスを利用』

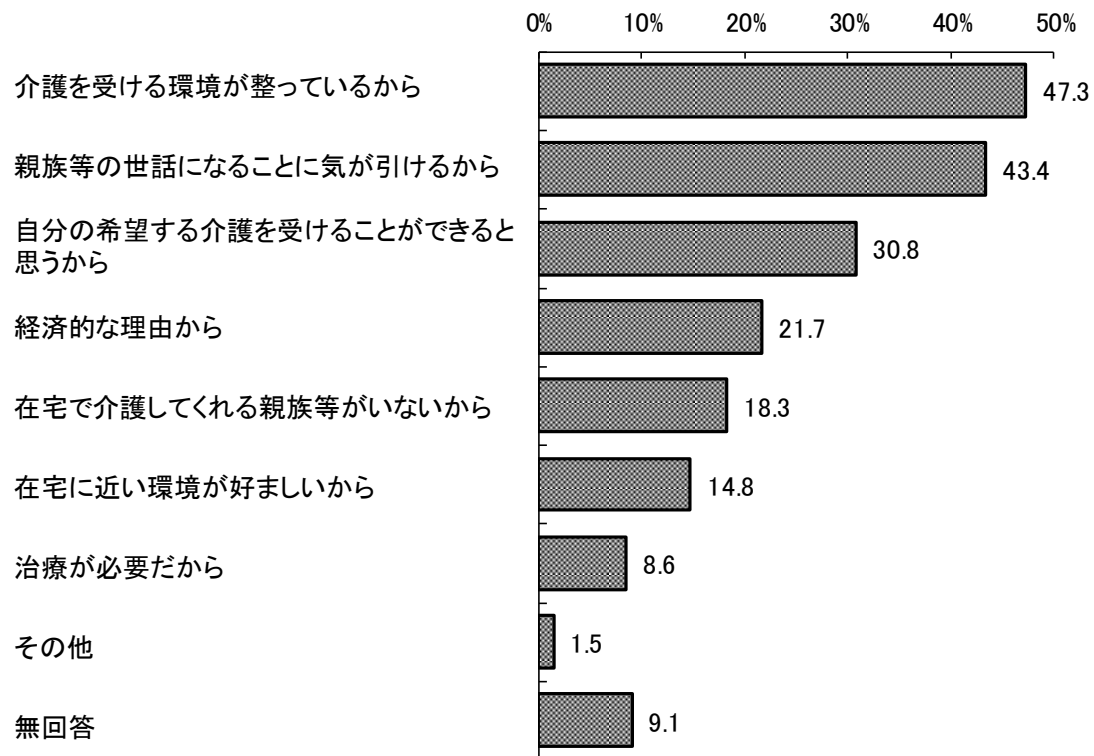
＝「配偶者、子どもなどが中心で、他に介護保険サービスなどを利用して介護をしてほしい」

＋「介護保険サービスなどを利用し、家族・親族以外の介護を考えている」

問36-2. 問36で「2～6（自宅以外）」に○をつけた方にうかがいます。その場所を選んだのは、なぜですか。（あてはまるものすべてに○）

自宅以外の場所での介護を希望した人に対して、介護を受けたい場所を選んだ理由をたずねたところ、「介護を受ける環境が整っているから」が47.3%と最も高くなっています。次いで、「親族等の世話になることに気が引けるから」が43.4%、「自分の希望する介護を受けることができると思うから」が30.8%、「経済的な理由から」が21.7%などとなっています。

図表 67 介護を受けたい場所を選んだ理由（n=1,066）



第2章 調査結果（通常設問）

性別でみると、男性は女性に比べて「介護を受ける環境が整っているから」、「自分の希望する介護を受けることができると思うから」、「経済的な理由から」、女性は男性に比べて「在宅で介護してくれる親族等がないから」、「在宅に近い環境が好ましいから」が高くなっています。

年齢別でみると、65歳～69歳では「介護を受ける環境が整っているから」、「親族等の世話になることに気が引けるから」がそれぞれ5割強、75歳以上は「自分の希望する介護を受けることができると思うから」、「在宅で介護してくれる親族等がないから」、「治療が必要だから」が高くなっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らしでは「在宅で介護してくれる親族等がないから」が4割、夫婦ふたり暮らし、その他の世帯では「介護を受ける環境が整っているから」が5割と他の家族構成より高くなっています。

介護を受けたい場所別にみると、高齢者向け住宅、介護保険施設では「介護を受ける環境が整っているから」、「親族等の世話になることに気が引けるから」が5割前後、介護保険施設では「経済的な理由から」も3割弱と他より高くなっています。家庭的な介護つきホームは「在宅に近い環境が好ましいから」、有料老人ホームは「自分の希望する介護を受けることができると思うから」が他よりやや高くなっています。

図表 68 介護を受けたい場所を選んだ理由 (n=1,066)

		回答者数 (人)	介護を受ける環境が整っているから	親族等の世話になることに気が引けるから	自分の希望する介護を受けられることができると思うから	経済的な理由から	在宅で介護してくれる親族等がないから	在宅に近い環境が好ましいから	治療が必要だから	その他	無回答	(%)
全 体		1,066	47.3	43.4	30.8	21.7	18.3	14.8	8.6	1.5	9.1	
性 別	男性	451	51.7	43.9	34.4	25.3	14.9	12.4	8.4	2.7	7.3	
	女性	579	44.7	44.7	27.5	19.5	21.2	16.8	9.2	0.7	9.8	
年 齢	65歳～69歳	426	50.2	52.6	29.6	21.6	15.3	13.1	6.8	1.4	5.9	
	70歳～74歳	334	46.1	41.3	29.6	22.8	18.6	15.9	8.1	1.5	8.7	
	75歳～79歳	189	50.8	38.6	33.3	22.2	24.9	19.6	13.2	2.6	11.6	
	80歳～84歳	71	42.3	23.9	31.0	15.5	19.7	11.3	11.3	—	15.5	
	85歳以上	31	22.6	29.0	38.7	25.8	22.6	9.7	9.7	—	16.1	
家 族 構 成	ひとり暮らし	145	33.1	33.1	33.1	26.9	44.8	16.6	11.0	0.7	6.2	
	夫婦ふたり暮らし	482	50.0	45.0	33.8	22.4	17.0	14.5	8.1	1.5	7.3	
	その他の世帯	421	50.4	46.1	26.1	20.0	11.4	15.0	8.6	1.9	11.2	
介 護 を 受 け たい 場 所	高齢者向け住宅	163	48.5	45.4	35.6	16.6	22.1	17.2	8.0	—	7.4	
	家庭的な介護つきホーム	251	38.6	38.6	33.5	13.5	14.7	23.9	5.2	0.4	15.5	
	介護保険施設	558	53.6	47.0	27.6	29.7	19.0	10.8	10.8	2.3	5.4	
	有料老人ホーム	77	37.7	35.1	36.4	1.3	19.5	13.0	5.2	1.3	14.3	
	その他	17	—	17.6	23.5	17.6	5.9	—	11.8	5.9	29.4	

問37. 介護保険制度で提供する介護サービスや介護予防のためのサービスの範囲について、あなたの考えにもっとも近いものは、次のうちどれですか。（ひとつだけ○）

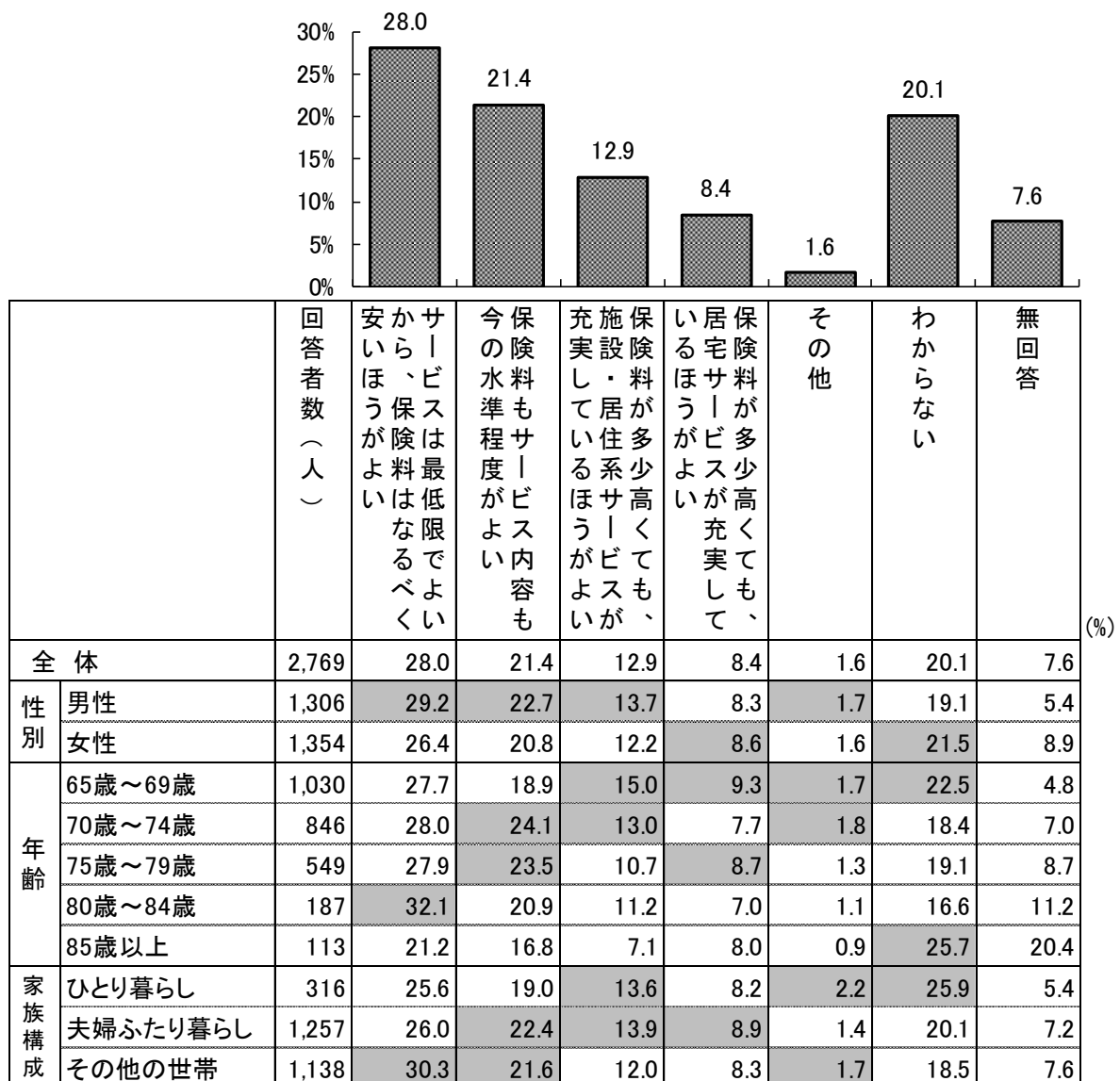
介護サービスや介護予防のためのサービスと保険料とのバランスについてたずねたところ、「サービスは最低限でよいから、保険料はなるべく安いほうがよい」が28.0%、「保険料もサービス内容も今の水準程度がよい」が21.4%、「保険料が多少高くても、施設・居住系サービスが充実しているほうがよい」が12.9%、「保険料が多少高くても、居宅サービスが充実しているほうがよい」が8.4%となっています。

性別でみると、男性は女性に比べて「サービスは最低限でよいから、保険料はなるべく安いほうがよい」がやや高くなっています。

年齢別でみると、80歳～84歳では「サービスは最低限でよいから、保険料はなるべく安いほうがよい」、70歳～79歳では「保険料もサービス内容も今の水準程度がよい」が他の年齢より高くなっています。「保険料が多少高くても、施設・居住系サービスが充実しているほうがよい」はおおむね年齢が低い人ほど割合が高くなっています。

家族構成別でみると、その他の世帯では「サービスは最低限でよいから、保険料はなるべく安いほうがよい」が他の家族構成より高くなっています。

図表 69 介護サービスと保険料とのバランス (n=2,769)



第2章 調査結果（通常設問）

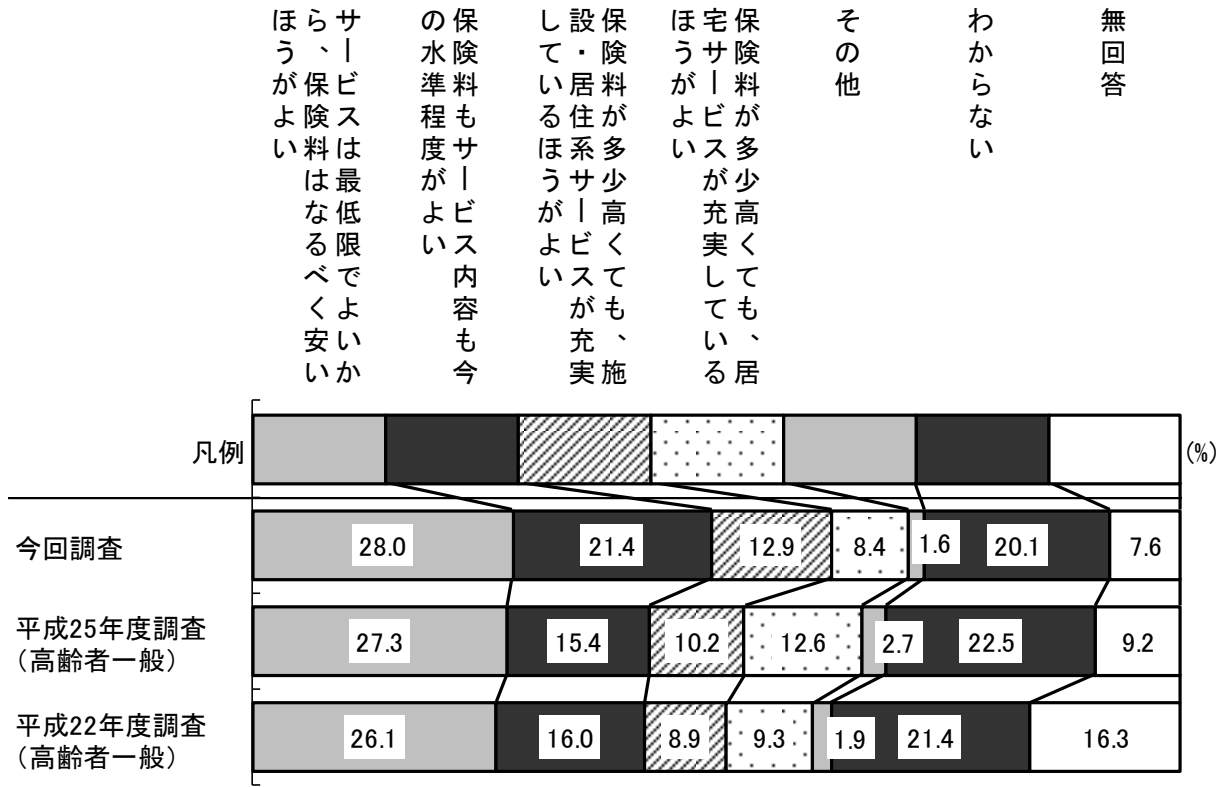
平成25年度調査、平成22年度調査（高齢者一般）と比較してみると、「サービスは最低限でよいから、保険料はなるべく安いほうがよい」は平成25年度調査より0.7ポイント、平成22年度調査より1.9ポイントと、年度とともにやや上昇しています。

「保険料もサービス内容も今の水準程度がよい」は平成25年度調査より6.0ポイント、平成22年度調査より5.4ポイント上昇しています。

「保険料が多少高くても、施設・居住系サービスが充実しているほうがよい」は平成25年度調査より2.7ポイント、平成22年度調査より4.0ポイントと、年度とともにやや上昇しています。

これに対して、「保険料が多少高くても、居宅サービスが充実しているほうがよい」は平成25年度調査より4.2ポイント、平成22年度調査より0.9ポイント低下しています。

図表 70 介護サービスと保険料とのバランス

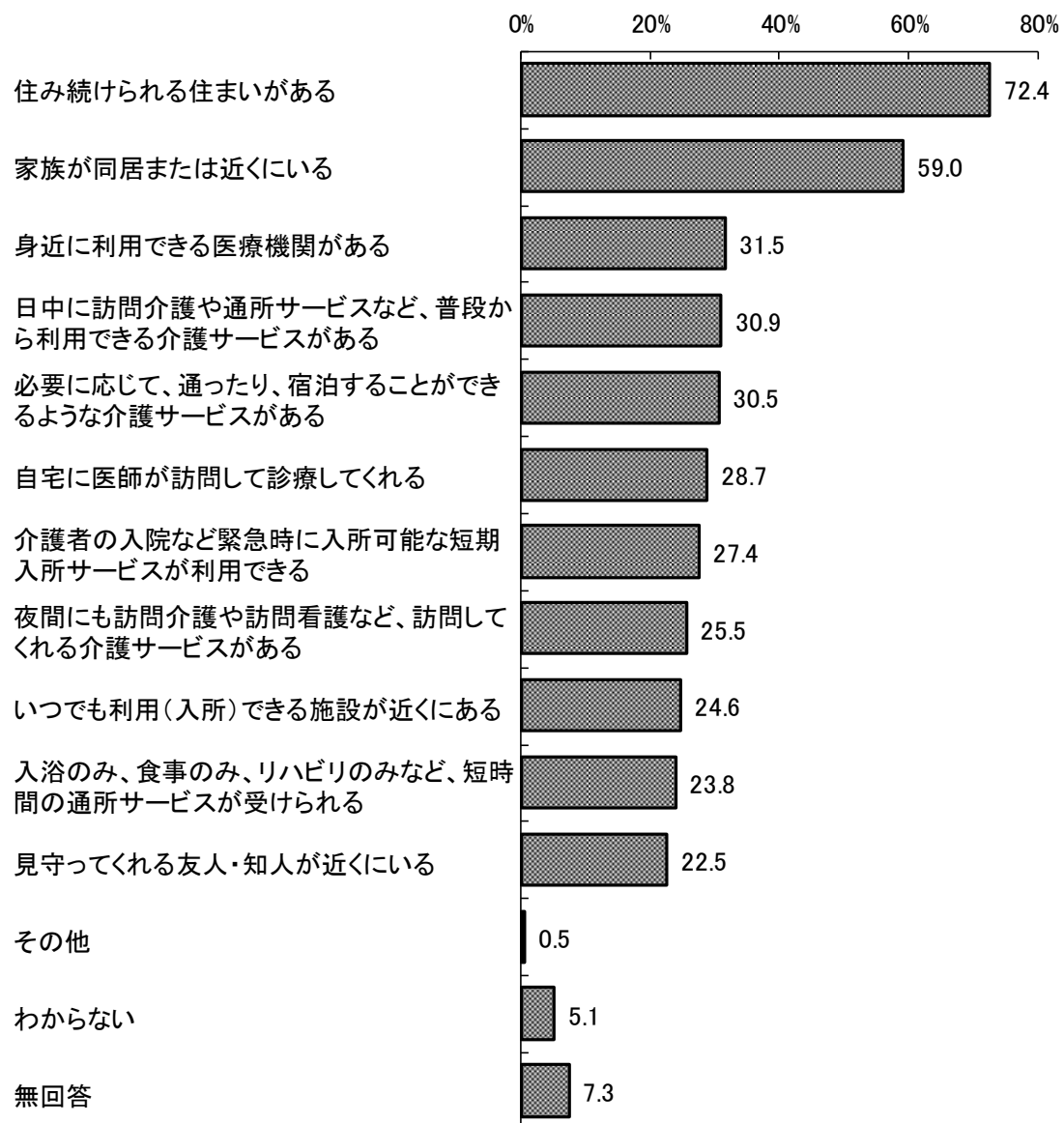


問38. 在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。

（あてはまるものすべてに○）

在宅で暮らし続けるために必要と思うことは、「住み続けられる住まいがある」が72.4%と最も高くなっています。次いで、「家族が同居または近くにいる」が59.0%、「身近に利用できる医療機関がある」が31.5%、「日中に訪問介護や通所サービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」が30.9%、「必要に応じて、通ったり、宿泊することができるような介護サービスがある」が30.5%などとなっています。

図表 71 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと（n=2,769）



第2章 調査結果（通常設問）

性別でみると、男性は女性に比べて「住み続けられる住まいがある」、「家族が同居または近くにいる」、女性は男性に比べて「住み続けられる住まいがある」以外のさまざまな項目の割合が高くなっています。

年齢別でみると、65歳～69歳はほぼすべての項目の割合が高くなっています。「住み続けられる住まいがある」、「家族が同居または近くにいる」は84歳以下で高くなっています。また、おおむね年齢が低い人ほど「身近に利用できる医療機関がある」、「日中に訪問介護や通所サービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」、「必要に応じて、通ったり、宿泊することができるような介護サービスがある」、「自宅に医師が訪問して診療してくれる」、「介護者の入院など緊急時に入所可能な短期入所サービスが利用できる」、「夜間にも訪問介護や訪問看護など、訪問してくれる介護サービスがある」の割合が高くなっています。

家族構成別でみると、夫婦ふたり暮らし、その他の世帯は「住み続けられる住まいがある」、「家族が同居または近くにいる」のほか、さまざまな項目の割合が高くなっています。ひとり暮らしは「見守ってくれる友人・知人が近くにいる」が他の家族構成より高くなっています。

図表 72 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと (n=2,769)

		回答者数（人）	住み続けられる住まいがある	家族が同居または近くにいる	身近に利用できる医療機関がある	日中に訪問介護や通所サービスなど、普段から利用できる介護サービスがある	必要に応じて、通ったり、宿泊することができるような介護サービスがある	自宅に医師が訪問して診療してくれる	介護者の入院など緊急時に入所可能な短期入所サービスが利用できる	夜間にも訪問介護や訪問看護など、訪問してくれる介護サービスがある	いつでも利用（入所）できる施設が近くに	入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられる	見守ってくれる友人・知人が近くにいる	その他	わからない	無回答
全 体		2,769	72.4	59.0	31.5	30.9	30.5	28.7	27.4	25.5	24.6	23.8	22.5	0.5	5.1	7.3
性別	男性	1,306	74.8	60.0	30.2	30.4	27.3	26.5	24.7	23.2	20.9	19.9	18.3	0.5	5.8	4.9
	女性	1,354	70.8	59.5	33.7	32.3	34.6	31.8	31.2	28.7	28.7	28.4	27.0	0.6	4.5	8.1
年齢	65歳～69歳	1,030	73.1	61.7	36.2	37.1	37.5	33.5	32.5	31.1	28.9	27.9	23.4	0.4	5.0	4.6
	70歳～74歳	846	73.6	59.3	30.7	31.2	30.7	28.4	27.4	25.3	24.6	23.6	22.8	0.9	5.3	5.6
	75歳～79歳	549	72.5	56.8	29.3	26.6	23.3	24.4	23.3	20.4	19.7	20.9	20.0	0.5	4.6	9.3
	80歳～84歳	187	73.3	59.4	25.7	18.7	23.5	24.1	19.8	19.3	23.0	19.3	26.7	—	3.7	12.3
	85歳以上	113	61.1	51.3	20.4	17.7	16.8	21.2	18.6	15.9	13.3	16.8	20.4	—	9.7	17.7
家族構成	ひとり暮らし	316	68.7	41.1	26.3	29.1	22.5	24.4	19.9	22.2	19.9	20.3	28.2	1.6	10.1	5.4
	夫婦ふたり暮らし	1,257	73.5	56.8	32.1	31.8	31.5	30.4	28.3	27.0	25.0	24.4	21.2	0.2	4.8	7.0
	その他の世帯	1,138	73.1	67.2	32.7	30.9	32.2	28.5	28.7	25.0	25.7	24.7	22.7	0.6	4.0	7.2

(%)

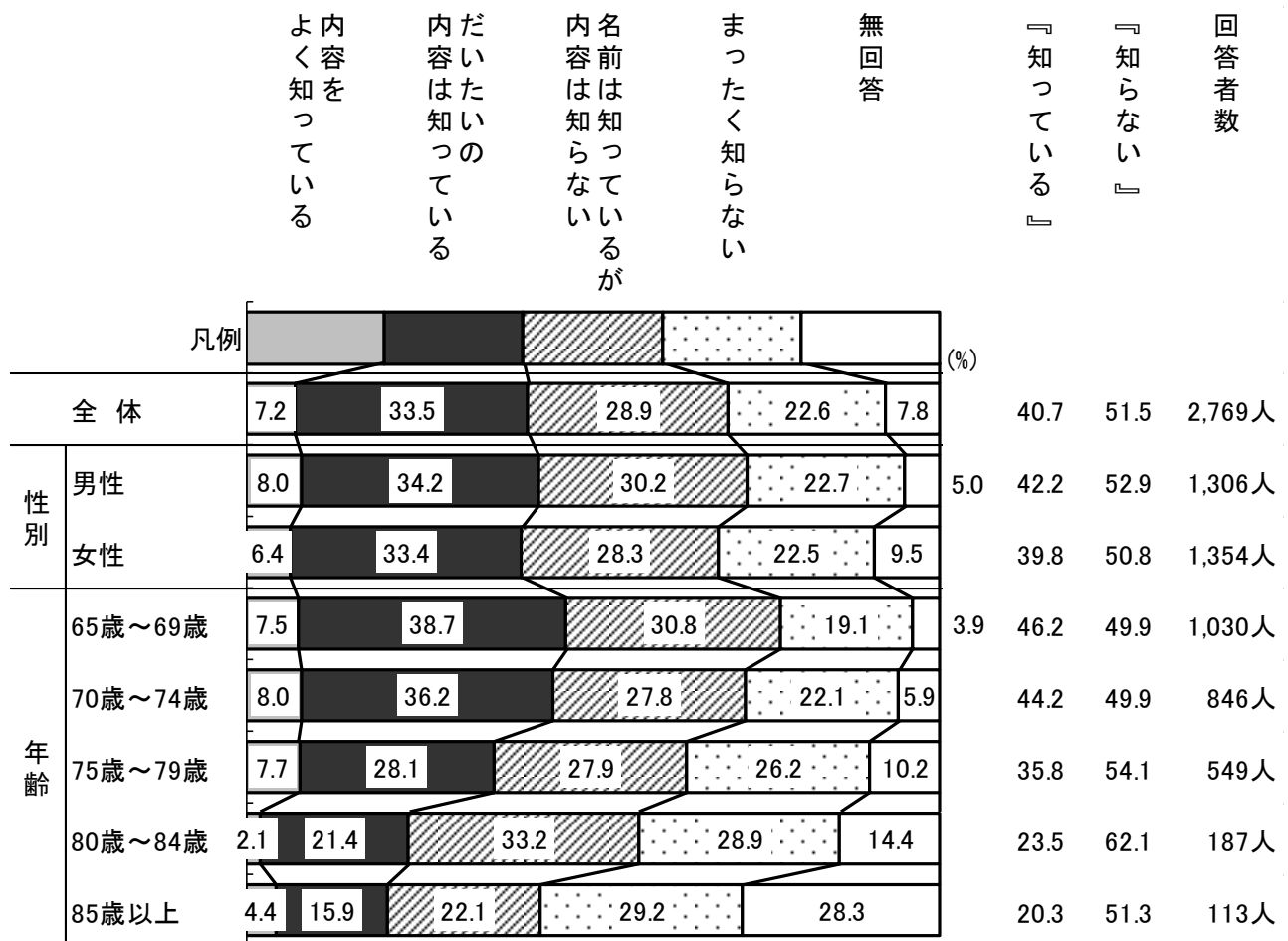
問39. 成年後見制度を知っていますか。（ひとつだけ○）

成年後見制度の認知度は、「内容をよく知っている」が7.2%、「だいたいの内容は知っている」が33.5%であり、『知っている』は合わせて40.7%となっています。一方、「名前は知っているが内容は知らない」が28.9%、「まったく知らない」が22.6%であり、『知らない』は合わせて51.5%となっています。

性別でみると、あまり大きな差は見られません。

年齢別でみると、年齢が低い人ほど『知っている』が高くなっています。

図表 73 成年後見制度の認知度（n=2,769）



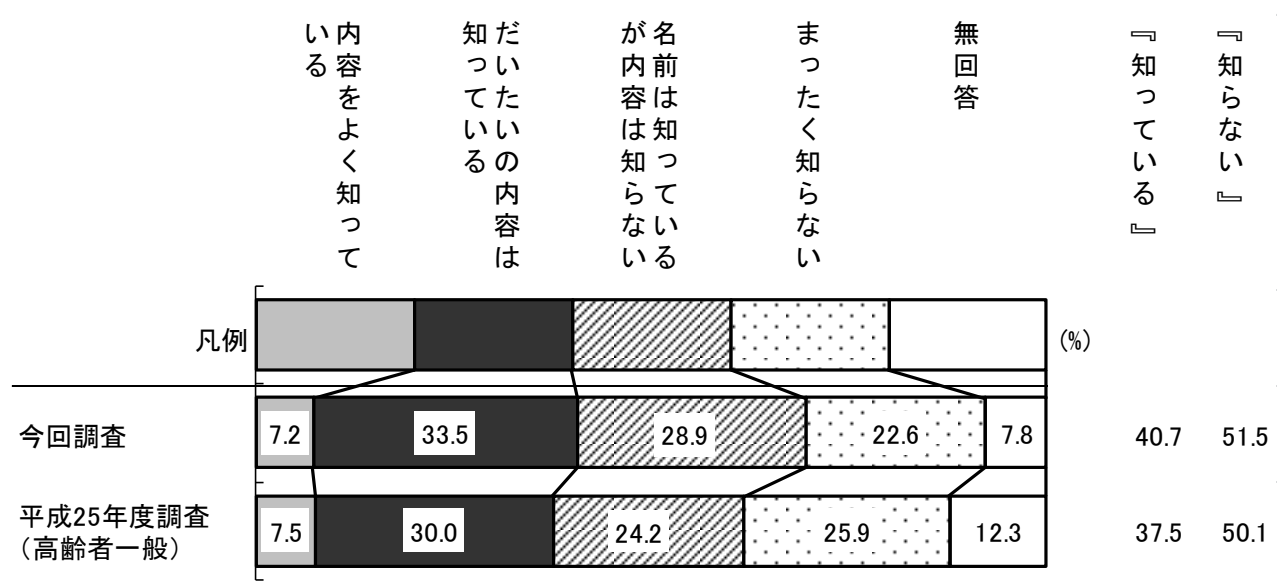
※ 『知っている』＝「内容をよく知っている」＋「だいたいの内容は知っている」

※ 『知らない』＝「名前は知っているが内容は知らない」＋「まったく知らない」

第2章 調査結果（通常設問）

平成25年度調査（高齢者一般）と比較してみると、「だいたいの内容は知っている」が上昇したことから、『知っている』は3.2ポイント上昇しています。

図表 74 成年後見制度の認知度



※『知っている』＝「内容をよく知っている」＋「だいたいの内容は知っている」
『知らない』＝「名前を知っているが内容は知らない」＋「まったく知らない」

問40. あなたやご家族が認知症などによって物事を判断する能力が十分ではなくなった場合に、「成年後見制度」を利用したいと思いますか。（ひとつだけ○）

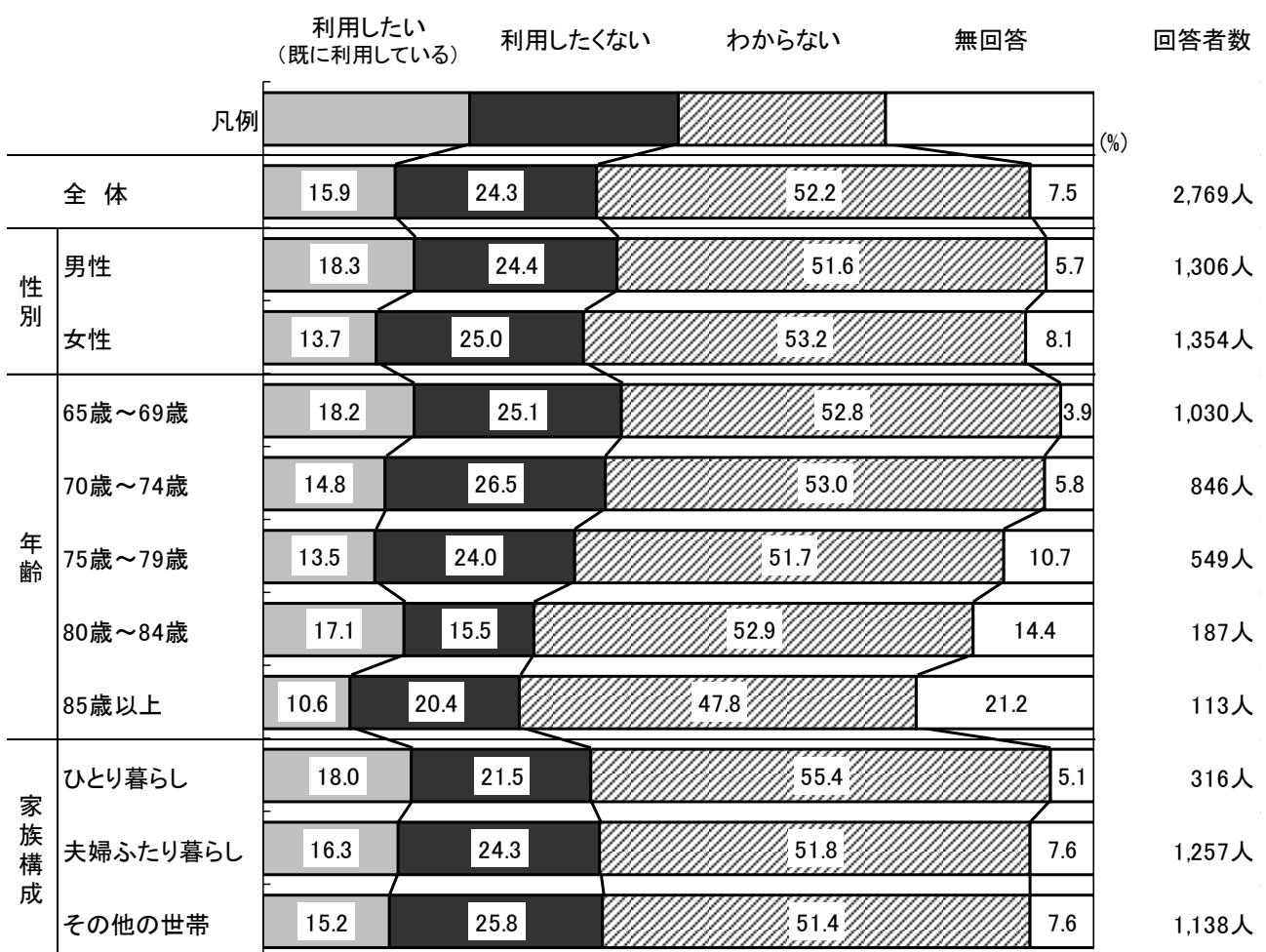
成年後見制度の利用意向は、「利用したい（既に利用している）」が15.9%、「利用したくない」が24.3%、「わからない」が52.2%となっています。

性別でみると、男性は女性に比べて「利用したい（既に利用している）」が高くなっています。

年齢別でみると、「利用したい（既に利用している）」は65歳～69歳が2割弱であり、他の年齢よりやや高くなっています。

家族構成別でみると、「利用したい（既に利用している）」はひとり暮らしが2割弱であり、他の家族構成よりやや高くなっています。

図表 75 成年後見制度の利用意向（n=2,769）

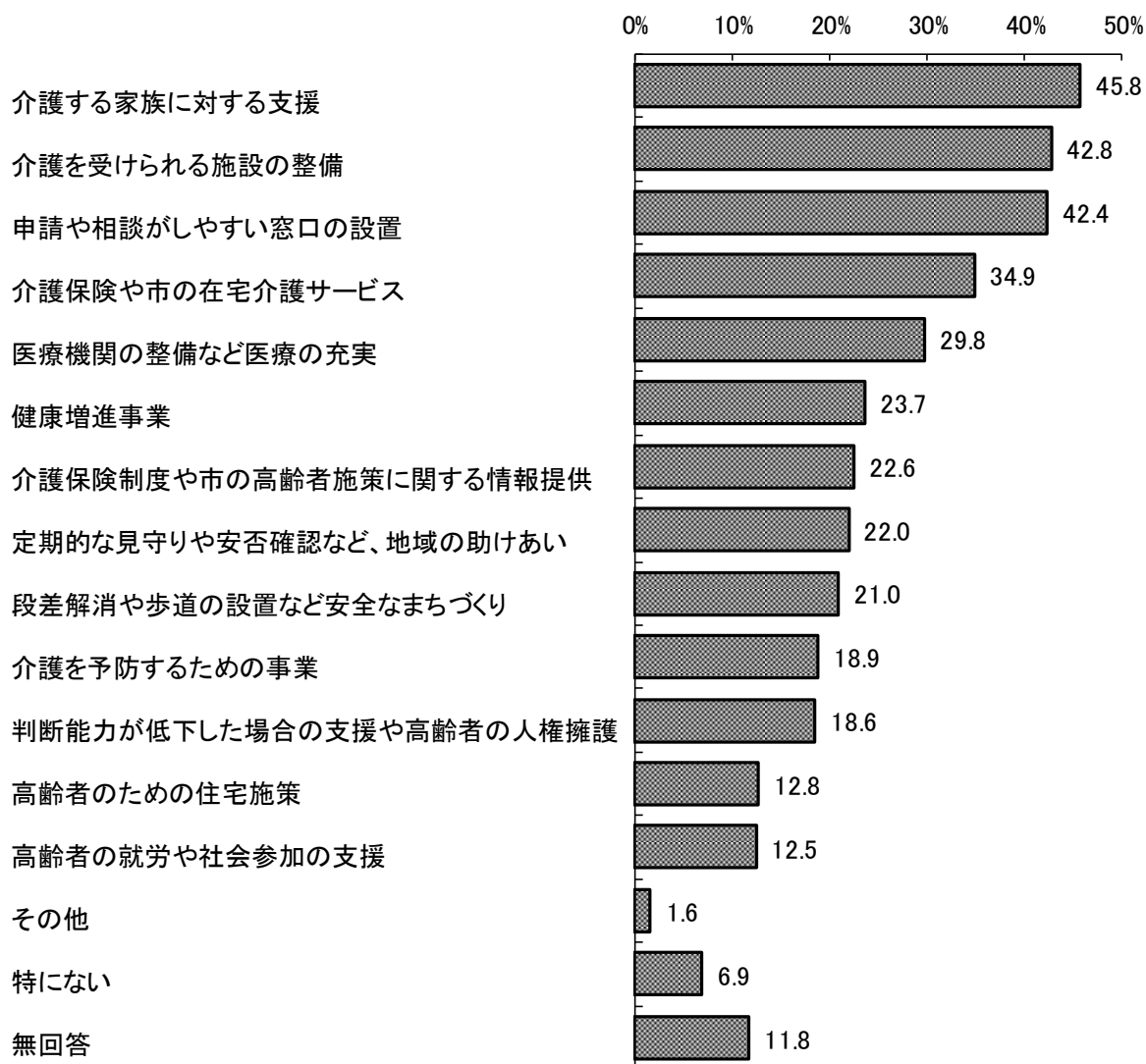


8. 今後の高齢者施策等について

問41. あなたは、木更津市の高齢者福祉施策について、今後充実してほしいと思うことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

木更津市の高齢者福祉施策で今後充実を希望することは、「介護する家族に対する支援」が45.8%と最も高くなっています。次いで、「介護を受けられる施設の整備」が42.8%、「申請や相談がしやすい窓口の設置」が42.4%、「介護保険や市の在宅介護サービス」が34.9%、「医療機関の整備など医療の充実」が29.8%などとなっています。

図表 76 高齢者福祉施策で今後充実してほしいこと（n=2,769）



第2章 調査結果（通常設問）

性別でみると、男性は女性に比べて「健康増進事業」、女性は男性に比べて「申請や相談がしやすい窓口の設置」、「介護保険制度や市の高齢者施策に関する情報提供」、「定期的な見守りや安否確認など、地域の助けあい」、「段差解消や歩道の設置など安全なまちづくり」、「判断能力が低下した場合の支援や高齢者の人権擁護」が高くなっています。

年齢別でみると、74歳以下は「介護する家族に対する支援」、「介護を受けられる施設の整備」をはじめ、さまざまな項目の割合が高くなっています。

家族構成別でみると、ひとり暮らしは「定期的な見守りや安否確認など、地域の助けあい」、「高齢者のための住宅施策」が他の家族構成より高くなっています。夫婦ふたり暮らし、その他の世帯は「介護する家族に対する支援」、「介護を受けられる施設の整備」、「申請や相談がしやすい窓口の設置」をはじめ、さまざまな項目の割合が高くなっています。

図表 77 高齢者福祉施策で今後充実してほしいこと (n=2,769)

		回答者数（人）	介護する家族に対する支援	介護を受けられる施設の整備	申請や相談がしやすい窓口の設置	介護保険や市の在宅介護サービス	医療機関の整備など医療の充実	健康増進事業	介護保険制度や市の高齢者施策に関する情報提供	地域の助けあい	定期的な見守りや安否確認など、まちづくり	段差解消や歩道の設置など安全な	介護を予防するための事業	判断能力が低下した場合の支援や高齢者の人権擁護	高齢者のための住宅施策	高齢者の就労や社会参加の支援	その他	特にない	無回答
全 体		2,769	45.8	42.8	42.4	34.9	29.8	23.7	22.6	22.0	21.0	18.9	18.6	12.8	12.5	1.6	6.9	11.8	
性別	男性	1,306	46.3	42.4	39.3	34.3	30.9	27.9	20.0	19.1	17.9	19.3	16.1	12.3	13.1	1.6	8.3	9.4	
	女性	1,354	46.3	43.9	46.8	35.7	29.1	20.0	25.2	25.2	24.2	19.2	21.1	13.7	12.3	1.4	5.8	12.9	
年齢	65歳～69歳	1,030	47.4	48.5	44.9	37.4	33.9	26.3	23.3	23.0	21.1	20.6	20.2	14.5	18.3	2.0	6.4	7.2	
	70歳～74歳	846	48.3	42.6	45.0	35.9	29.8	24.1	22.2	22.1	21.3	19.1	17.6	12.9	10.9	1.2	7.1	9.3	
	75歳～79歳	549	46.8	40.6	39.2	33.5	25.7	22.2	22.0	24.0	22.0	17.5	18.2	11.5	7.3	1.6	6.4	14.8	
	80歳～84歳	187	38.0	32.1	38.0	28.3	28.3	20.3	25.7	16.0	17.6	17.6	16.6	9.1	8.6	1.6	9.1	23.0	
	85歳以上	113	27.4	27.4	30.1	23.9	20.4	14.2	19.5	16.8	19.5	14.2	15.9	9.7	6.2	－	12.4	31.0	
家族構成	ひとり暮らし	316	27.8	40.8	37.3	32.9	22.2	20.3	18.0	24.4	16.5	18.7	19.3	16.8	12.3	1.9	9.5	12.7	
	夫婦ふたり暮らし	1,257	47.4	44.9	42.4	36.3	31.3	25.1	23.9	24.0	20.8	19.5	18.9	13.1	12.7	1.8	5.3	10.9	
	その他の世帯	1,138	49.6	42.2	44.5	34.3	31.1	23.5	22.9	19.5	22.7	18.7	18.3	11.5	12.5	1.3	8.2	11.5	

(%)

問42. 木更津市の高齢者福祉施策について、あなたはどのように感じますか。

（もっとも近い考えをひとつだけ○）

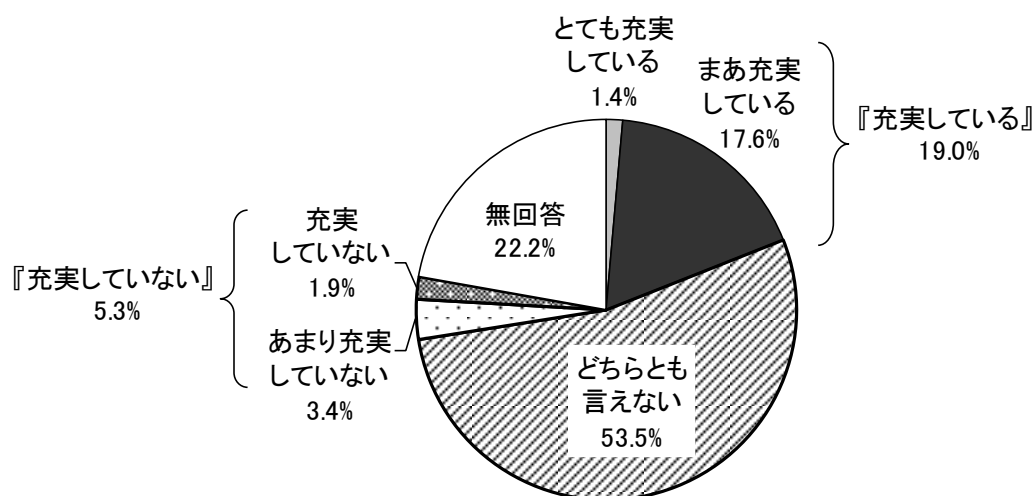
木更津市の高齢者福祉施策の充実度は、「とても充実している」と「まあ充実している」を合わせた『充実している』が19.0%となっています。一方、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』は5.3%となっています。

性別でみると、男性は女性に比べて「どちらとも言えない」が高くなっています。

年齢別でみると、65歳～69歳、85歳以上では、『充実している』が他の年齢より低くなっています。

家族構成別でみると、あまり大きな違いは見られません。

図表 78 木更津市の高齢者福祉施策の充実度（n=2,769）



		(回答者数)	とても充実している (%)	まあ充実している (%)	どちらとも言えない (%)	あまり充実していない (%)	充実していない (%)	無回答 (%)	『充実している』 (%)	『充実していない』 (%)
全体		2,769	1.4	17.6	53.5	3.4	1.9	22.2	19.0	5.3
性別	男性	1,306	1.4	17.2	57.3	3.9	1.6	18.6	18.6	5.5
	女性	1,354	1.6	18.3	50.9	2.7	2.1	24.4	19.9	4.8
年齢	65歳～69歳	1,030	1.1	14.8	61.0	4.0	1.7	17.5	15.9	5.7
	70歳～74歳	846	1.7	20.7	52.8	3.3	2.0	19.5	22.4	5.3
	75歳～79歳	549	1.6	18.9	48.8	2.6	2.0	26.0	20.5	4.6
	80歳～84歳	187	2.1	19.3	40.1	4.3	2.7	31.6	21.4	7.0
	85歳以上	113	0.9	13.3	40.7	0.9	1.8	42.5	14.2	2.7
家族構成	ひとり暮らし	316	1.3	18.4	52.5	3.8	1.9	22.2	19.7	5.7
	夫婦ふたり暮らし	1,257	1.0	17.9	54.0	3.5	1.7	21.9	18.9	5.2
	その他の世帯	1,138	1.8	17.6	53.9	3.2	2.2	21.4	19.4	5.4

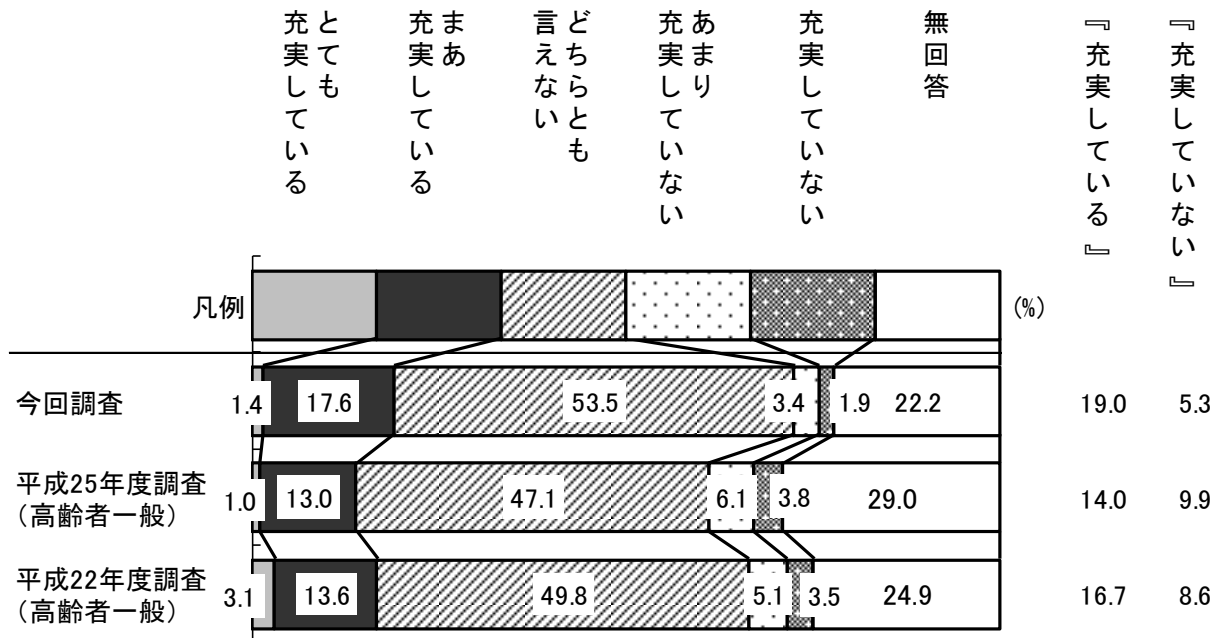
※『充実している』＝「とても充実している」＋「まあ充実している」

『充実していない』＝「あまり充実していない」＋「充実していない」

平成25年度調査、平成22年度調査（高齢者一般）と比較してみると、『充実している』は平成25年度調査より5.0ポイント、平成22年度調査より2.3ポイント上昇しています。

一方、『充実していない』は平成25年度調査より4.6ポイント、平成22年度調査より3.3ポイント低下しています。

図表 79 木更津市の高齢者福祉施策の充実度



※『充実している』＝「とても充実している」＋「まあ充実している」
『充実していない』＝「あまり充実していない」＋「充実していない」

問43. 「4または5（充実していない）」と回答した方へ、そのように感じている理由は何ですか。

（以下、96件から抜粋）

（1）健康づくり、介護予防について

- ・ 予防の事業が少ない。（男性、65歳～69歳、波岡）
- ・ 高齢者が自力で通える（バス利用などで）施設が少ない。高齢者世帯で免許を返納した人の生活手段が心配である。（女性、75歳～79歳、波岡）

（2）生活支援、社会参加について

- ・ 車による送迎が無い。買い物の手助けが無い。孤独死への対策が無い。（男性、65歳～69歳、波岡）
- ・ お金のない年寄りでも（無料）そこに行けば一日過ごせる所。（男性、75歳～79歳、鎌足）

（3）医療について

- ・ 訪問医療の医療施設が無い。（男性、80歳～84歳、清川）

（4）介護について

- ・ 公的介護施設不足。（男性、75歳～79歳、岩根）
- ・ 高齢者社会の中でいつ介護を受けるかわからないが、介護が必要になった場合、老人福祉施設等が多いとは言えない現状である。（男性、70歳～74歳、金田）
- ・ 私の母を特養にお世話になろうと思ったら順番待ちで入れなかった。（女性、75歳～79歳、鎌足）
- ・ 高齢者が増えて行く一方、介護施設や介護従事者が足りていない現状。（女性、65歳～69歳、波岡）
- ・ 認知症の知人の生活状況を見て、家族がもっとアドバイスを深く貰えたら（表面だけの言葉では無く）。（男性、65歳～69歳、中郷）
- ・ 介護を必要とした時、すぐに入所出来る所が少ない様に思う。（一、80歳～84歳、岩根）
- ・ 介護保険料は高いのに、やって貰える事は少ないし、老人ホームもお金の無い人は入れない。（女性、70歳～74歳、鎌足）
- ・ 特別養護老人ホームの不足、低所得者にとっては特に辛い事です。（男性、70歳～74歳、鎌足）
- ・ 介護保険の支払いが遅れている場合は自宅まで来るのに、高齢者宅の近況とか見守りとかしている様子がありません。冷たいと思います。保険料支払っているのに。（女性、75歳～79歳、木更津）
- ・ 施設的环境が良く無い。清潔、開放的、明るい所であって欲しい。（男性、70歳～74歳、波岡）
- ・ 杖をついて入所した人が、施設に入ると車椅子になり、そして寝たきりになる例を見ている。なぜかと言うと、施設では寝たきりの人の方が手間がかからず、補助金も多く貰えるから。だから介護保険に疑問を感じる。命は大事でしょうが、人権を無くしても生きている意味があるのかどうか、私は自分の体はなるべく自然に任せたいと思う。（女性、65歳～69歳、波岡）
- ・ 特養希望の際に4～5年待ちと言われた。（男性、70歳～74歳、中郷）

（5）まちづくり、公園、交通について

- ・ 地区により差がありすぎる。参考＝病院が小数、商店が小数。（男性、80歳～84歳、富来田）
- ・ 木更津市の地域で見ると充実している地域と充実していない地域の差が大きすぎる。（男性、65歳～69歳、富来田）
- ・ 施策の詳細が見えない。地域ぐるみの促進が必要。レクリエーションセンターの増設、遊歩道を作ってほしい。（男性、70歳～74歳、岩根）
- ・ 身近な所に買物に行きたいがバスの回数が少ないので不便を感じています。（女性、80歳～84歳、鎌足）
- ・ 車の免許証を返上しても、バスの本数が少なくて病院、買い物等々不便です。家にこもって外出しなくなりました。（女性、70歳～74歳、鎌足）

第2章 調査結果（通常設問）

- ・ バス等の公共交通サービスの不便さ。近隣に歩いて買い物に行ける店がほとんど無い。医療機関が不足していて、通院、訪問医療のサービスが期待しにくい。医療、介護サービスのための夜間訪問は全く無理。（男性、75歳～79歳、波岡）

（6）情報提供、相談について

- ・ 高齢者福祉施策についての情報がない。（男性、70歳～74歳、金田）
- ・ 高齢者に対する福祉施設や施策の内容が分からないし、直接受けた事が無い。何があるのでしょうか？（男性、70歳～74歳、波岡）
- ・ 市、社会福祉協議会、地域包括支援センター、医療機関、民生委員など医療、福祉、介護のネットワークが遅れている。（男性、70歳～74歳、波岡）

問43. 木更津市の介護保険制度・高齢者福祉施策へのご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

（以下、484件から抜粋）

（1）健康づくり、介護予防について

- ・ 木更津市の超高齢化時代を前に、介護予防、認知症予防の活動にもっと力を入れて欲しい。地域住民が主体となった活動作りと、その活動助成や支援をお願いしたい。（女性、65歳～69歳、岩根）
- ・ 月に1度～2度でも高齢者達が集まってお茶やら、マイクロバス等で外出出来たら良いかなと思います。回覧板でも回して出欠を取って、参加者を募るとか？（女性、65歳～69歳、木更津）
- ・ 現在介護の必要が無いので、今まで通り自身の自己管理を続けながら、健康でいたいと思います。（女性、70歳～74歳、波岡）
- ・ 現在まだ介護を必要としません。介護を予防するための事業も大事ですが、その前に自立への指導も必要ではないでしょうか。（女性、65歳～69歳、金田）
- ・ 地域包括支援センターが、学校、職場、老人クラブ等々に出張して、認知症関連、健康体操等一生懸命頑張ってくれています。期待大です！（男性、65歳～69歳、清川）
- ・ 介護予防体操等、月1回～2回ですので、週1回くらいに回数を多くして欲しい。その内容も他市で取り入れている認知体操等もやって欲しい。どこでどう言う体操をやっているか、情報提供をして欲しい。（女性、75歳～79歳、岩根）
- ・ 徒歩で行ける場所に、気軽に入る事が出来、時間も気にしない場所があったらと思います（お茶、静かな音楽、好きな手仕事、お喋り）。出来ましたら広い場所。（女性、70歳～74歳、波岡）
- ・ 介護予防事業を充実して頂きたい。これは事業費を抑制出来、また本人にとっても健康で住み慣れた地域が最も「住んでいたい」場所だからである。（男性、65歳～69歳、富来田）
- ・ もっと高齢者用の健康増進事業を充実させて欲しい。高齢者が外に出て、スポーツが出来るグラウンド等の確保。例えばグランドゴルフ場等。（女性、65歳～69歳、波岡）
- ・ 90歳になっても元気で、自分の足で移動出来る高齢者が、デイサービスに行かなくても、どこに同じような仲間がいるのか分かって交流出来るように（親しい友が亡くなっても新たな友が出来るように）情報が欲しいし、そんな身近な場所が欲しい。友がいなくなると、どうしても自宅に引きこもりになり、デイを離れると行き来出来なくて、家族のみの交流になってしまいます。（女性、65歳～69歳、波岡）
- ・ 現在67歳で健康100%で、介護福祉のお世話にならず頑張ってますが、理想は100歳まで介護福祉のお世話にならないように、日々脳トレ、体トレを充実して「明日は我が身」にならないように気を付けて生きて行きます。（男性、65歳～69歳、中郷）
- ・ 介護が必要だと思う事無く暮らしているので、有難いなと思っている。日常生活がちょっと不安になるのかな、体力が落ちたと思っていたので転倒予防教室、セラバンド体操、木更津動力アップ体操等で少しずつ回復し、嬉しい。包括センターのご指導、とても良い、感謝しています。そのお手伝いは出来ます。栄養や知識などはテレビ等の報道で助かっている。ただ正しく理解出来ない人もいます。（女性、75歳～79歳、波岡）
- ・ 今高齢になって来ましたが、何か自分自身が役に立てればと思い、働かせて頂いております。体を動かし、充実した日々です。このまま続ける事が出来たら幸せですが、老いて行く中でこのアンケート調査は考えさせられました。（女性、65歳～69歳、波岡）
- ・ 地域の小中学校などの空き教室を利用して（土日でも）、お話会、囲碁、将棋、運動、いつでも入会出来使用出来る場所が欲しいと思います。（女性、70歳～74歳、木更津）
- ・ 老人に対して手厚く扱う事が美德とされていますが、一方では希望や生き甲斐の持てるような仕掛けが必要ではないでしょうか。老人とは言え元気で暇を持て余している人が大勢います。このような人々はボランティアやスポーツ等への参加と呼びかけ、人のために役立つ喜びや友人を増

やし、人生を楽しく送れる、心身共に健康な老人が増える仕掛けがあっても良いのではないのでしょうか。（男性、70歳～74歳、鎌足）

- ・地域の公民館等を利用して、介護保険や高齢者福祉施設等を。住民に説明や健康講座を持続的にを行い、理解して貰う事が大切だと思います。住民の健康に対しての理解度を上げる事が重要だと思います。多受診の予防、栄養指導他も大切だと思います。（女性、75歳～79歳、波岡）
- ・山間部の住人は、買い物にも出られず公民館の利用も出来ないため、人との触れ合いが少なく、自分が車で動けるうちは良いが、運転をして行く事が出来なくなったらどうにもならない。学校の分校みたいな小さな施設（空き家）が出来たら良いと思う。週に1度買い物バスツアーがあれば、木更津市内へ行ける。（女性、65歳～69歳、富来田）
- ・介護保険料制度については周知されていますが、健康増進事業、予防事業等については中央部で実施されるため、隔地（遠方の方は参加利用困難である）近くの公民館、特養施設利用されたら、一人でも歩いて参加（人の手助け無く）可能ではないかと思います。実施時期について、早めに区長会等を通じて（知った時は既に終わっていたなどがある）。（女性、70歳～74歳、鎌足）
- ・70歳を超えました。今までは自分の事だけに生きて来ました。これからの余生は「何か他人のために役に立つ事」があれば、やってみたいと思っています。アドバイスを下さい！（男性、70歳～74歳、中郷）

（2）生活支援、社会参加について

- ・健康な高齢者を増やすため、タクシーチケット（市からの50%OFF等の）、バス乗り放題チケットを考えて欲しい。先日バスを利用しましたが、始発から終電まで二人でした。市は高齢者を家から外へ出すための事をもっと考えて欲しいです。健康手段の計画ばかり考えるのではなく、安価なバス利用や病院に行くのに使えるタクシー割引券とか。今は運転していますが、出来なくなった事を考えると不安です。私ばかりではないと思います。町内のお祭り等の時には、市長もたまにはお顔をお見せになって欲しいですね。市長のお顔を知らないのは私だけではないと思います。（女性、70歳～74歳、清川）
- ・ピンピンコロリの希望が実現するとは限らない。現在元気で働ける間に、やがて訪れる自分への介護の費用の貯蓄が必要。元気老人が要介護老人を有償サポートし、その対価が貯蓄となり、その貯蓄は自分（あるいは家族）の介護費用に限定的に該当可能となるような、全く新しいシステムを構築して欲しい。（男性、70歳～74歳、波岡）
- ・病院への通院用の巡回バスが出来れば楽になるのにと、いつも思っています。車を所有していないので、通院したい医療機関があっても思うように行きません。（一、75歳～79歳、波岡）
- ・今後買い物が困難になる人が増加して来ると思われるが、介護タクシー、スーパーの送迎など利用が増加すると助かると思います。（男性、65歳～69歳、波岡）
- ・今は自分で朝早くゴミ出しをしています、高齢になって来た場合出来ません。有料で日時を決めて収集する事を考えて頂きたいと、お願いしたいと思います。（女性、75歳～79歳、鎌足）
- ・制度やシステムが出来ても、それを実践に結び付けてくれるつなぎ役の指導者の育成が急務であると思います。当職の方であっても、その方達が地域を良くする志の高い存在になり、真の福祉を住み慣れた地域で展開出来るリーダーになって頂けるよう育成して欲しいと考えます。（女性、65歳～69歳、波岡）
- ・現在は前期、後期高齢者夫婦二人が「元気」に暮らしていますが、近い将来運転免許証返納の時を迎えると、行動範囲が極端に制限される事になります。その結果、①公共交通サービスであるバスにしか頼れなくなり、②買い物、通院等がそれまで通りに出来なくなり、③その結果行動範囲（距離、方向、頻度の全てで）が著しく狭められ、④日常生活が極めて単調になり、⑤それによって生活の利便性を失い、外部の世界に興味を失い、⑥しいては体調を崩し、認知症等へと繋がるのではないかと、今から心配している。在宅ケアの充実のためには上記①～⑥について配

第2章 調査結果（通常設問）

慮して頂きたい。（男性、75歳～79歳、波岡）

（3）住まいについて

- ・ 仮設住宅のような設備を作って、全員入所出来るようにして欲しい。（男性、75歳～79歳、鎌足）
- ・ サービス付き高齢者住宅に入居している人で、1ヶ月17万～20万円支払っていると聞きました（金田地区）。高くて入れません。とても私達普通の人には入れず、老後は不安です。（女性、65歳～69歳、金田）
- ・ 公的な単身者でも入れる住宅を確保して欲しい（低家賃で負担の無い住宅）。（女性、65歳～69歳、木更津）

（4）医療について

- ・ 医師による訪問診療、ホームヘルパーや看護師の訪問を充実して、医療サービスをぜひお願いしたい。家族（親族）への介護への指導助言援助を頂き、在宅介護サービスによる充実を図って頂ければ幸いです。（男性、80歳～84歳、中郷）
- ・ 過重な医療は望まないが、周囲の人々や家族に負担をかけずに、穏やかな終末期を送れるホスピスが充実したら有難い。（男性、75歳～79歳、富来田）
- ・ 訪問診療について、高齢者はその人の状態全体（全身）を見て判断出来る、経験豊かな医師を希望します。内科専門なので、整形外科的な事は判断出来ません等言われる医師では困ります。もっと広い範囲で見て下さる医師が必要です。（女性、70歳～74歳、波岡）
- ・ 出来るだけ在宅でいられるよう、訪問診療、看護、介護の提供所を増やし、地域包括センターや市役所への相談が気軽に出来るようにして欲しい。（女性、70歳～74歳、波岡）
- ・ 小浜、畑沢に住んでいるのですが、病院が無いので内科医が来てくれると通院に良いと思う。（女性、70歳～74歳、波岡）
- ・ 在宅訪問診療医師はどのように頼んだら良いのか、具体的な手続きが分かると良い。（男性、80歳～84歳、中郷）

（5）介護について

- ・ 今後自分が認知症になったらどうしようと、いつも不安を抱えておられます。今は奥さんも頑張ってお世話をしておられますが、認知症の人を支える人の心のケアももっと必要ではないかと思えます。（女性、65歳～69歳、波岡）
- ・ これからの高齢者が増えて行くにあたり、在宅介護をせざるを得ない状態です。我が家も施設に入所出来るお金もありません。そう言った多い状況に対応して欲しい。今は元気で毎年行われている市の健康診断ですが、子ども達が近くに住んでいないため、どこまで健康自立が出来るかが今の課題です。（女性、65歳～69歳、清川）
- ・ 母親が7年間施設で世話になったが、特養に入所出来る要介護度であったが待機人数が多く、老健4年、特養3年であった。入所資格があれば即特養に入れるようにして欲しい。南清苑や中郷は県外者が多い。（男性、65歳～69歳、清川）
- ・ 待遇を改善すべき（特にヘルパー）。重労働なのに、余り報われていないと思います。労働者（一般）と同等にすべきだと思います。（男性、65歳～69歳、波岡）
- ・ 住んでいる地区などでの見守り、手助けなどの充実を図って頂きたい。「隣は何をする人ぞ」ではなく、「隣はこんな人ですよ」、そんなお互いの見守りが必要だと思います。（女性、70歳～74歳、鎌足）
- ・ 親の介護で色々お世話になって有難かった。ただ、自分で色々手続き等の時間が取れないのは辛かった（10年前の話です）。最近はもっと近い距離でお世話になれるようになっているように思います。（女性、65歳～69歳、金田）
- ・ 様々な福祉、医療制度の健全性を考えれば、今後在宅サービスの充実を行い、出来る限り在宅で

介護を受けられる設備整備（住宅の手すり、段差解消、ホームエレベーターなど）改修費用の助成が、今以上に必要であると思う。なるべく税金を住宅部分に特化する事。やはり、人間最後は病院よりは自宅を好むでしょう。（男性、65歳～69歳、清川）

- ・本市の財政規模等から見て、まずまずの所だと思います。現在妻（要介護5）を介護していますが、現在自宅で100%の状態であり、いつまで出来るか。万が一のため、ショートステイを試行しようと思っていますが、基本自分の年金で暮らしている以上、多用が難しいと考えています。現行の補助制度の中では、自宅介護をせざるを得ない（自分自身がなった場合、自分の年金での対応は可能であるが、世帯分離になれば厳しい）。（男性、65歳～69歳、木更津）
- ・木更津市ではまだまだ老人ホームが少ないと思います。これからはもっともっと高齢者が多くなって来ます。入所する順番待ちです。出来れば、これから多くの施設が増える事を希望します。よろしくお願い致します。（女性、65歳～69歳、木更津）
- ・私は今年13年間の夫の介護が終わりました。若年性アルツハイマーでした。最後まで自宅で過ごしました。老い、病、死と言うものを日常の生活の中で過ごせた事は本当に満足でした。多くの方に経験して欲しいものです。この間、多くの介護サービスを取り入れましたが、24時間毎日を繋ぐのは介護者自身しかいないのです。無理をしない介護はありません。介護者の支援充実を願っています。（女性、65歳～69歳、中郷）
- ・孤独死を無くすための、インターネットを活用した見守り機器等の配布を検討、普及推進して下さい。将来、介護を受けたり入ったりする不安が非常に大きく、安心して老後を迎えられる社会が来る事を願っています。これから先、更に高齢化が進む中で施策は大変と思いますが、よろしく！（男性、65歳～69歳、波岡）
- ・木更津市だけじゃないけど、介護に携わっている方の給料が安過ぎる。私もデイサービスで10年近くアルバイトした事がありましたが、職員の給料を聞いて安いのにびっくりしました。あれでは良い仕事が出来ません。（男性、70歳～74歳、波岡）
- ・介護を受けられる制度が甘過ぎると思います。日常生活不自由していないのに、安いからと言って利用しているのが現状です。利用者の支払いが安いからです。税金の無駄遣いではないでしょうか？介護保険利用のレベルを厳しくして欲しい、きちんと周期的にチェックをするべき（介護保険適用の施設等を）。（女性、65歳～69歳、富来田）
- ・介護保険施設で働く方々、特にヘルパーさんと呼ばれる方々の苦労は大変です。この仕事に就いて良かったと感じるような労働条件にしてあげて下さい。（女性、65歳～69歳、岩根）
- ・介護ヘルパーで働いておりましたが、訪問介護に行っても駐車場が無いため仕事出来ません。利用者さんに、駐車場をどこか借りて貰わなければならない、余分な経費が必要になります。余裕が無い人はヘルパーも頼めません。ヘルパーを頼むにもすんなり頼めません。また、お願いに相談に行くためにも、行く手段の無い人はどうするのでしょうか。福祉の方も大変でしょうが、高齢者宅に年に2、3回でも訪問出来ないのでしょうか。（女性、75歳～79歳、木更津）
- ・現在は自分で何でも出来ていますが、一人になって介護が必要となった場合、子ども達にも余り迷惑がかからないようにと思っています。その時は介護施設にお世話になる場合、有料の高い所には入れません。出来るだけ安く入れる施設が、長く順番を待たず入れれば良いかなと思います。（女性、70歳～74歳、木更津）
- ・在宅医を増やして欲しい。訪問介護の中でも、ヘルパーさんの確保。それには介護者の報酬をとにかく上げてあげる事だと思います。（女性、65歳～69歳、木更津）
- ・介護を受けている人数の割に、施設が少ないのでしょうか？入居の順番を待つ月数が長く、半ば諦めの状態でした。最後はお世話になり大変助かりましたが、その間介護と仕事で大変でした。もう少し早く入居出来ると、本人、家族も楽に、また仕事もしやすいと思います。仕事を休めば経済的にも響いて来ますので！（男性、70歳～74歳、中郷）

第2章 調査結果（通常設問）

- ・ 現在、夫の両親が別々の介護施設に入所しています。月に1～2度泊まりで自宅で介護をしますが、施設の有り難さが身に沁みます。本当に助かっております。私自身が介護を受ける身となった時、両親のように施設に入れるか不安です。息子一人に負担をかけたくない、ピンピンコロリが理想ですが。（女性、65歳～69歳、中郷）
- ・ 自分はまだなんとか頑張って、まだお世話かけずに暮らしています。先日、主人の姉（98歳、子どもなし）を送りました。3年間施設に大変お世話になり、助かりました。市の方も大変でしょうが、少しずつでも充実して頂ければ、私達も安心して最後を迎えられます、お願い致します。（女性、80歳～84歳、波岡）
- ・ 夫がお世話になるようになって6ヶ月、何となくホッとした気持ちと、良く分からない部分もある。夫は多少気疲れする部分があっても、皆さんに合わせて楽しく過ごす事も出来る人間なので、これで良かったと思っている。気分転換になる？デイの次の日は昼間から良く寝ている。そして次の日はまたいそいそと準備して出かける（今週2回です）。（女性、75歳～79歳、波岡）
- ・ 介護保険制度、高齢者福祉施策の充実も大事だが、その前に木更津の町に住み就労した人に支援助成するとか、親子同居の子どもに支援助成金、親の介護や老後の面倒を見た子どもに支援助成金を出し、市で表彰して、自分の親の老後は自分で見る気運を市の目標に掲げる。福祉予算を減らす。（男性、70歳～74歳、中郷）
- ・ 介護の現場には時々行って感じている事があります。特養の介護さん達は、人手不足で大変そうです。一人一人の入所者に時間をかけられません。入所者は、何をされてもお世話になっているのだからと我慢をしています。人生の最後を心穏やかに過ごせたらと思います。（女性、70歳～74歳、金田）
- ・ 大変お世話になっています。我が家にもやって来た老老介護、いつ何が起こってもおかしくない年齢、子ども達も祖父母に育てて貰った感じです。私も仕事に専念する事も出来、感謝でいっぱい。考えてみると自分の事は後回しでやって来た感じ、たまには気持ちが乱れてしまう事もありました。私がここで体調でも崩してしまったらこの先どうなるのか、とても不安になります。元気が一番、一日一日を大切に、お互いに感謝の気持ちを忘れずにいたいものです。（女性、65歳～69歳、富来田）
- ・ 独居老人や、老老介護の家庭に、市と社会福祉協議会が連絡を密に取り合って、質の高い高齢者福祉の施策を充実して欲しいと思います。（女性、75歳～79歳、中郷）
- ・ 高齢の親族が介護保険で色々サポートを受けながら自宅で生活しており、助かってます。要支援の場合、日常生活は自立しているため、デイサービスで身体を動かし体力を維持したいと思って制限があり、せめて週2日通えたらと言っていました。元気な高齢者が、その体力を持続けられる施策があると良いなと思います。（女性、65歳～69歳、木更津）

（6）まちづくり、公園、交通について

- ・ 1日1往復だけでも良いので、巡回バスがあると良いと思います。現在市で助成しているバス路線を補完するような形で、市役所（2ヶ所）～福祉センター～郵便局～スーパーなど、規模が小さい店舗でも小型バスがあれば市報を見て乗りに来る人があると思います。（女性、75歳～79歳、波岡）
- ・ 体調不良時に病院へ行くための交通手段が無いので、タクシー等がたやすく利用出来れば有難いと思います。（女性、75歳～79歳、木更津）
- ・ 自家用車で買い物が出来うちは良いが、85歳で数年の内に免許証の返納を考えていますが、買い物弱者になるのは目に見えています。（男性、80歳～84歳、清川）
- ・ 高齢者の利用するシニアカー、電動自転車の充電設備等の充実は出来ないでしょうか？運転免許証の返納に対する代替として、低料金でのタクシー利用を行政として出来ないでしょうか？高齢者の事故防止のためにも。車椅子、シニアカー等の安全な走行のため、交差点周辺の車道と歩道

の接合部を改善願えないでしょうか。異常に傾くし危険です。（男性、65歳～69歳、中郷）

- ・ 高齢になった時、免許証の返納を考えているが、現在の住居地はタクシーは無くバスは一日数本で、買い物病院は遠方で深刻な問題として考えている所です。（女性、65歳～69歳、富来田）
- ・ 高齢者の交通手段の充実。公的機関の活用、バスの利用補助券の発行等。高齢者の自転車乗車に対する法規の指導。夜間乗車の無灯禁止、出来れば乗車禁止等、それに対する対応。（男性、75歳～79歳、岩根）
- ・ 自宅に暮らしたくても、自分で行動出来るがバスが少なくて歩いて行くには遠いです。もっとバスの運行を多くして欲しい。日中は特に交通便が悪いので、ショッピングモールが近くにある所に住みたい。ショッピングモールの中に医者があるようにしたら良いと思います。（女性、70歳～74歳、鎌足）
- ・ 主な公園に、高齢者が使いやすい健康運動器具を設置して欲しい。（男性、65歳～69歳、波岡）
- ・ 高齢者が歩いて行ける所に、気軽に立ち寄れるカフェのような談話室があれば良いと思います。（女性、70歳～74歳、清川）
- ・ 間接的な関わりだとは思いますが、高齢者の運転する事故が増えている昨今です。交通の便の悪い木更津市では、高齢者の免許返却の時期の決断が難しいと思われます。介護事業等を拡大して頂いても、十分活用出来ない可能性もあります。コミュニティバス等、生活の足をもっと充実して頂ければ幸いです。（女性、65歳～69歳、清川）

（7）情報提供、相談について

- ・ 木更津市の介護保険制度がどうなっているのか分かりません。知りたいので、分かりやすく教えて下さい。（女性、70歳～74歳、中郷）
- ・ 高齢者福祉施策や制度に関する情報提供が少ないと思います。もっと福祉政策に関する情報を発信して下さい。広報「木更津」などで。（男性、65歳～69歳、波岡）
- ・ 困った時にいつでも相談に乗ってくれて導いてくれる窓口の相談員さんを増やして下さいと嬉しい。頼りにしたいので！（女性、65歳～69歳、清川）
- ・ 市の介護保険制度や、高齢者福祉施策とはどのようなものなのかが理解出来ていない。情報を提供して欲しい。（男性、65歳～69歳、富来田）
- ・ 一生が健康寿命で終われたら、何と素晴らしい事でしょう。そのためにも知識を持ち、行動に移す努力はしたいと思います。これからも色々な情報提供、よろしくお願い致します。（女性、65歳～69歳、中郷）
- ・ これから高齢者が増加して行く木更津市（どこも同じ）、簡単に利用出来る案内や情報が欲しいです。つまり、なんだ簡単なんだと言える高齢者が増えてくれる木更津市を望んでいます。生まれも育ちも木更津市なので、みまち通りの活性化もして下さい。懐かしい道を歩きたいです。（男性、65歳～69歳、木更津）
- ・ 介護認定を受けたがらない高齢者も多くいると思います。家にこもらないで、多くの人達との接点を持てる場所等、相談に乗って欲しい家庭も数多いと思う。家庭訪問等して欲しい。（女性、70歳～74歳、木更津）
- ・ 現状木更津市ではどのような制度、施策があるのか、市民は良く理解しているのだろうか？積極的にアピールしているとは思われない。聞いて初めて答える税務署と同じ、聞かなければ積極的に答えない（金がかかるから）としか思えない感を持つ事が多くある。老人にネットで見ると言われても、パソコン無し、操作出来ない人が多いのに！（女性、70歳～74歳、岩根）
- ・ 介護保険がどのように使われ、実際に利用出来るのか、明確に伝わっていないように思います。もう少し分かりやすく、利用の仕方や方法を知りたいです。在宅でのサービスや医療の終末を、是非充実させて頂きたいと思います。（女性、80歳～84歳、波岡）

第2章 調査結果（通常設問）

- ・ 自分が利用して、もっと制度でどのような活躍をされているか、方法があるのかを理解して、制度の素晴らしさを利用出来たら良い。（女性、80歳～84歳、中郷）
- ・ 昨年「市民後見制度」の研修を受けました。大変勉強になりました。しかし市民の方（私の周りの人々）に知られていません。認知症は益々増加すると思われます。良い制度なので、是非多くの市民に知って欲しいと思います。それにはまずPRをして（町内会を始め、色々な会合）欲しい。市が力を入れなければ浸透しません。福祉課が特に、力添えをお願いします。（女性、70歳～74歳、中郷）
- ・ 広報して、制度、福祉施策を分かりやすく知らせて欲しい。インターネットで見られる人は良いが、見られない人もいる。新聞折込の広報ささらづも届かない人もいる。（女性、70歳～74歳、富来田）

（8）その他

- ・ 現在、いきいき館に週3～6日通っているが、設備の充実をお願いしたい。特にプールの水管理施設の改善をお願いしたい。（男性、70歳～74歳、波岡）
- ・ 自分がまだ自立しているから、余り先の事を考えたく無いと言う思いと、必ず我が身に降りかかる問題で、もし一人になった時どうして最後を迎える事になるだろう、その時誰かが側にいてくれるのかいないのか？普段から考える事ではあるが、どうしようもない事である。福祉制度はどう言う風になっているのだろう、とりあえず寝たきりにならないための予防対策をしよう。（女性、70歳～74歳、木更津）
- ・ 本市における高齢者施策については、年々前進していると思われます。今後共益々の充実を祈念致します。宜しく願い申し上げます。（男性、75歳～79歳、岩根）
- ・ 気が付けば高齢者、あつと言う間の人生です。他人事では無いと感じる今日この頃です。アンケートが届き、今後は何かとお世話になる事と思います。介護保険制度や福祉関係等、考える機会になりました。本当にありがとうございました。（女性、75歳～79歳、波岡）
- ・ 市の高齢者福祉施策は、各自治体、町内会、民生委員等（地区福祉協議会も含むと思いますが）各氏が個人情報把握して対応されている事と思いますので、各氏の意見発表の場で足りない事例等が出た時に、市は速やかに対応して頂ける事を希望します。（一、一、波岡）
- ・ 入院をきっかけに、一人暮らしの叔母の介護に必要な様々な手続き方法を知りました。実家の母や叔母（一人暮らし）の通院等に関わりながら思いますが、同居でない場合の支援には限りがあります。ネット社会の中で、高齢者は手続き等それを知る事が出来ない人が多いと思います。手助け出来るガイドラインが必要。実際、現在一人暮らしの叔母が動けなくなった時、何をどうすれば良いか分からないのが現状です。高齢者が、早期に心構え出来るような対応が必要かと思います。近い将来は我が身とも考えます。（女性、65歳～69歳、富来田）
- ・ 88歳の誕生日も過ぎ、一人で気ままにのんびり暮らしていますので、現実を見つめて行かないといけないと思いました。もっと若い時に色々考えて、お手伝い出来る事に参加していたら良かったと思っていますが、今は今の状態で皆さんと楽しく過ごせる事に一緒に参加して行きたいです。（女性、85歳～89歳、清川）

第3章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査項目の分析結果

1. 分析するに当たって

(1) 分析の目的

本章は、国が平成22年示した日常生活圏域ニーズ調査項目、また、平成28年に示した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査項目のうち、高齢者の「心身の機能」、「日常生活・社会参加」、「疾病」、「健康」、「介護」といった状態像を多角的に把握するとともに、介護予防・生活支援等の取組みが必要となる人の実態をつかむことを主な目的としています。

(2) 使用データ

本章の分析では、分析の観点ごとに、関連する複数の設問に対する回答を統合して分析します。そのため、分析の観点ごとに、関連する設問すべてに回答している人のみを有効なデータとして取り扱います。介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の分析で使用可能な回答者数については、以下のとおりです。

平成25年度調査では、一般高齢者、二次予防事業対象者、要支援・要介護者を別々の調査で実施し、参考までに全体を表示していたものですが、今回の調査は一般高齢者（二次予防事業対象者も少数含まれている）のみであり、前回調査とはまったく対象者が異なるため、全体の集計結果を前回と比較する際には注意が必要です。

図表 80 日常生活圏域ニーズ調査の分析で使用可能な回答者数

認定・該当状況	配付数	回答者数	分析で使用可能な回答者数※
一般高齢者	4,000件	2,769件	2,648件

				(人)	
男 性		1,303	女 性		1,345
男 性 ／ 年 齢	65歳～74歳	963	女 性 ／ 年 齢	65歳～74歳	875
	65歳～69歳	539		65歳～69歳	470
	70歳～74歳	424		70歳～74歳	405
	75歳以上	340		75歳以上	470
	75歳～79歳	250		75歳～79歳	278
	80歳～84歳	57		80歳～84歳	119
	85歳以上	33		85歳以上	73

※性別・年齢が無回答であるものを除外し、分析で使用可能な回答者数(最大での値)である。

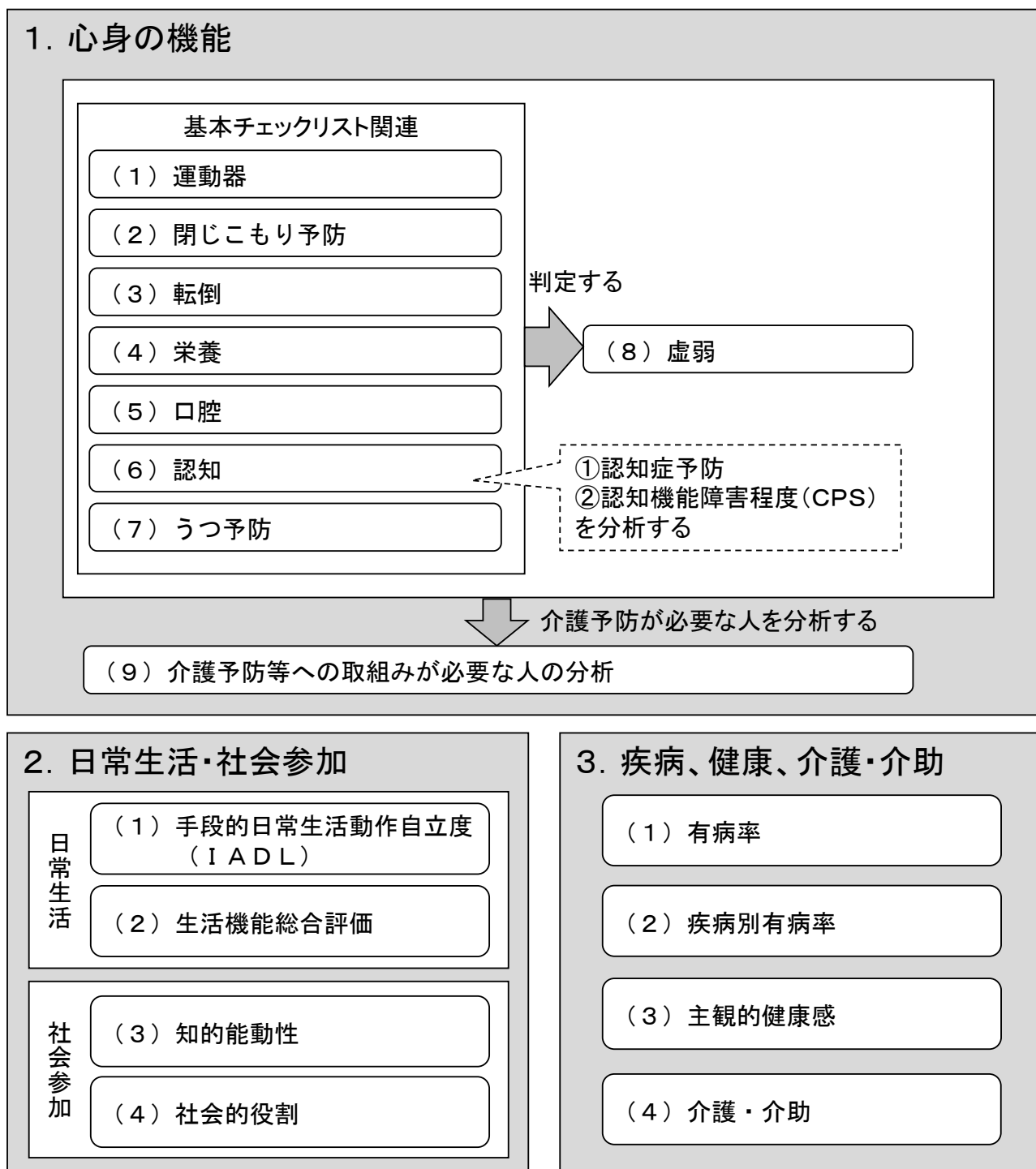
個々の判定条件で実際に使用できる回答者数は、当該判定条件を構成する設問すべてに回答のあったもののみとなる。例えば、運動器の判定は5項目すべて、虚弱の判定は20項目すべてに回答があったもののみが使用可能なものとなる。

第3章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査項目の分析結果

(3) 本章の構成

本章では、以下のような章立て及び構成となっています。

図表 81 本章の構成図



2. 分析結果の概要

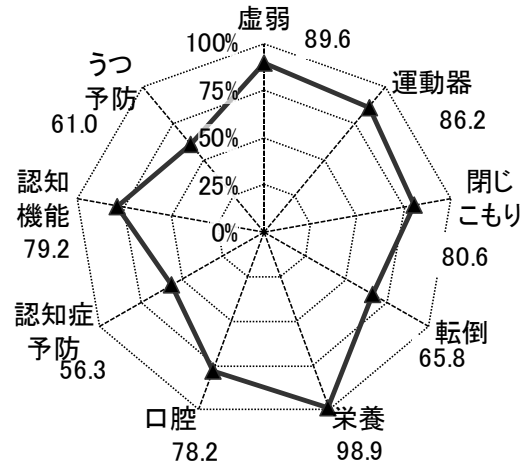
(1) 心身の機能

① 項目別評価結果

心身の機能について、評価項目ごとのリスクなしの人の割合をみると、今回調査を実施した一般高齢者の中にも、運動器、閉じこもり、転倒、口腔、認知症予防、認知機能、うつ予防については、リスクありの人が相当数いることがわかります。

なお、今後、介護予防あるいは要介護度の改善等への取組みが必要とされる人について、心身の機能を判定する設問（基本チェックリストの内容に近いもの）の「虚弱」、「運動器」、「閉じこもり」、「転倒」、「栄養」、「口腔」、「認知」、「うつ予防」の8項目における割合を、項目間の重複を除いた上で分析したところ、リスクありの人は一般高齢者にも相当数いることがわかります。

図表 82 心身の機能
(非該当・リスクなしの人の割合)



図表 83 心身の機能（リスクなしの人の割合）

	回答者数	虚弱	運動器	閉じこもり	転倒	栄養	口腔	認知症予防	認知機能	うつ予防	介護予防等の取組み (%)
全 体	2,648	89.6	86.2	80.6	65.8	98.9	78.2	56.3	79.2	61.0	26.8
男性65歳～74歳	963	92.5	94.0	86.6	73.2	99.2	82.0	61.2	80.6	64.3	32.7
男性75歳以上	340	83.3	85.0	79.9	62.0	98.1	73.6	50.5	64.5	63.9	25.2
女性65歳～74歳	875	93.7	89.0	82.0	66.6	99.2	79.5	58.4	86.9	57.1	25.0
女性75歳以上	470	77.6	64.7	66.2	52.0	98.0	70.9	45.7	72.4	59.3	16.7

図表 84 心身の機能（リスクありの人の割合）

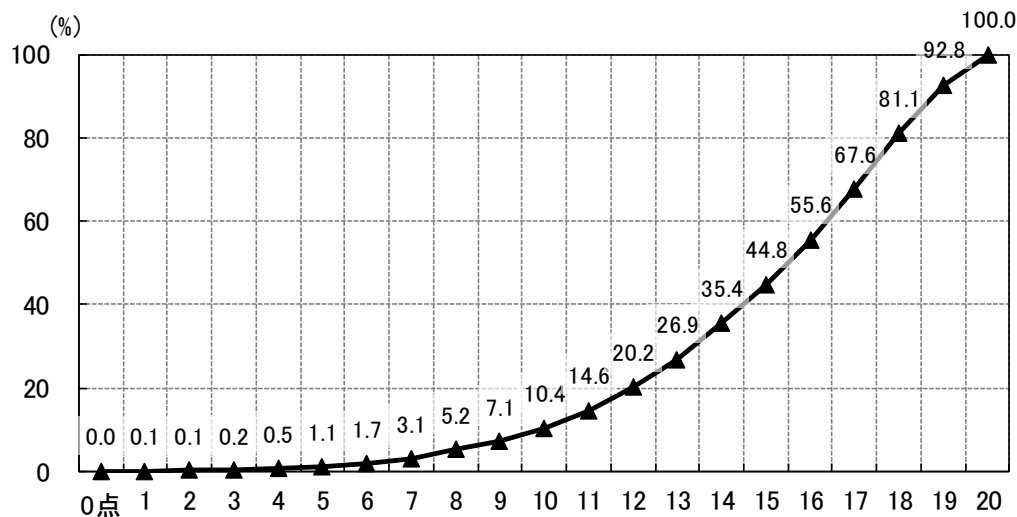
	回答者数	虚弱	運動器	閉じこもり	転倒	栄養	口腔	認知症予防	認知機能	うつ予防	介護予防等の取組み (%)
全 体	2,648	10.4	13.8	19.4	34.2	1.1	21.8	43.7	20.8	39.0	73.2
男性65歳～74歳	963	7.5	6.0	13.4	26.8	0.8	18.0	38.8	19.4	35.7	67.3
男性75歳以上	340	16.7	15.0	20.1	38.0	1.9	26.4	49.5	35.5	36.1	74.8
女性65歳～74歳	875	6.3	11.0	18.0	33.4	0.8	20.5	41.6	13.1	42.9	75.0
女性75歳以上	470	22.4	35.3	33.8	48.0	2.0	29.1	54.3	27.6	40.7	83.3

第3章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査項目の分析結果

② 総合指標

心身の機能を判定する設問のうち、うつ予防に関する設問を除く20問について、各設問で非該当となる回答をした場合を各1点として、その合計得点の分布を累積相対度数でみると、10点以下の者の割合は、10.4%となっています。

図表 85 心身の機能を判定する設問の合計得点（累積相対度数）



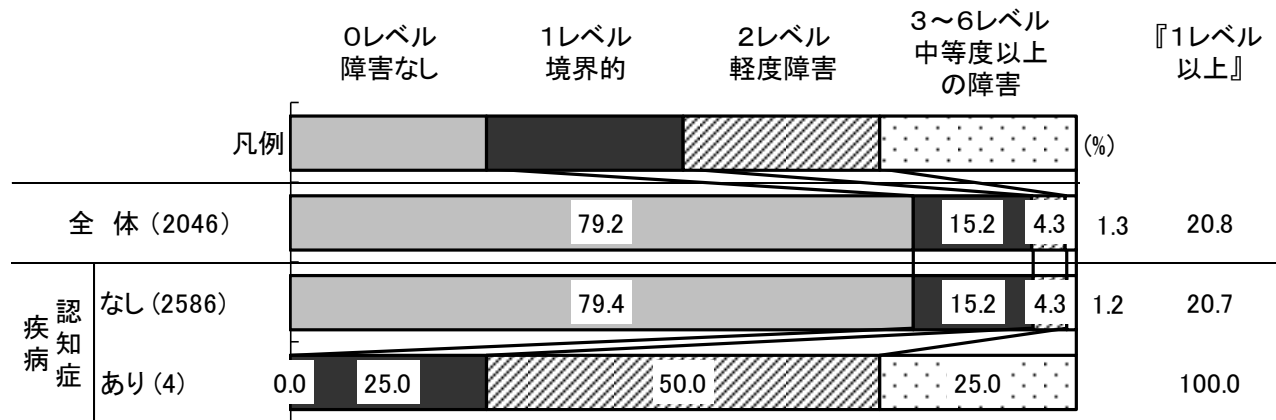
③ 認知機能の障害程度

回答結果からCPS（Cognitive Performance Scale）に準じて評価される認知機能の障害程度区分の分布をみると、認知機能の障害ありと評価される1レベル以上の者の割合は20.8%となっています。

CPSで認知症の行動・心理症状がみられるのは3レベル以上と言われており、その割合は1.3%となっています。

認知症疾病の有無別に1レベル以上の者の割合をみると、認知症疾病なしでは20.7%ですが、認知症疾病あり（調査対象者が一般高齢者であるので、該当者数はごくわずか）では100.0%となっています。

図表 86 認知機能の障害程度（CPS）



※()内は回答者数(人)

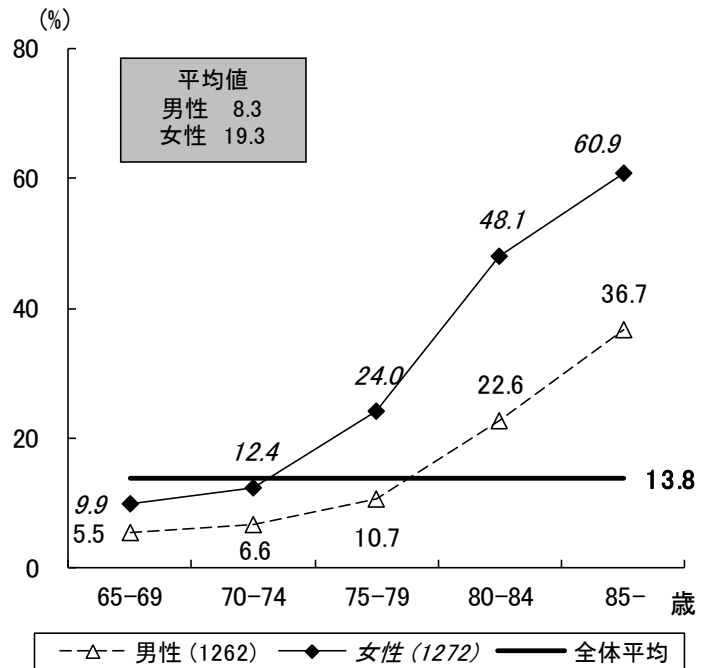
3. 心身の機能に関する分析結果

(1) 運動器

心身の機能を判定する設問をもとに「運動器」について分析したところ、全体が13.8%、男性が8.3%、女性が19.3%でリスクありとなっています。

性・年齢別にみると、女性のほうが男性より、また、年齢が高くなるにつれて、割合が高くなる傾向が見られます。

図表 87 運動器 割合



※()内は回答者数(人)

図表 88 運動器 判定で使用した設問

		全 体	男 性		女 性	
			65歳～74歳	75歳以上	65歳～74歳	75歳以上
	回答者数(人)	2,648	963	340	875	470
判 定	問11(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(「できない」)	16.8	6.7	16.6	13.8	43.6
	問11(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(「できない」)	11.1	4.8	11.6	9.2	27.4
	問11(3) 15分位続けて歩いていますか。(「できない」)	7.8	3.9	7.2	5.8	20.2
	問11(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか。(「何度もある」「1度ある」)	34.2	26.8	38.0	33.4	48.0
	問11(5) 転倒に対する不安は大きいですか。(「とても不安である」「やや不安である」)	47.9	30.7	46.9	54.1	73.2

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

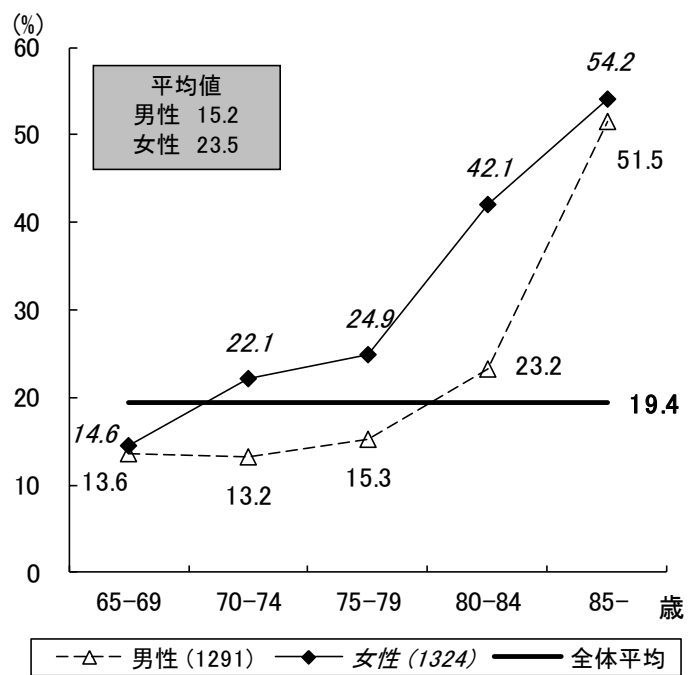
運動器の判定: 5項目中、3項目以上が該当するもの。

(2) 閉じこもり予防

心身の機能を判定する設問をもとに「閉じこもり予防」について分析したところ、全体が19.4%、男性が15.2%、女性が23.5%でリスクありとなっています。

性・年齢別でみると、女性のほうが男性より、また、男性は80歳以降急激に、女性は年齢が高くなるにつれて、割合が高くなる傾向が見られます。

図表 89 閉じこもり予防 割合



図表 90 閉じこもり予防 判定で使用了設問及び関連設問

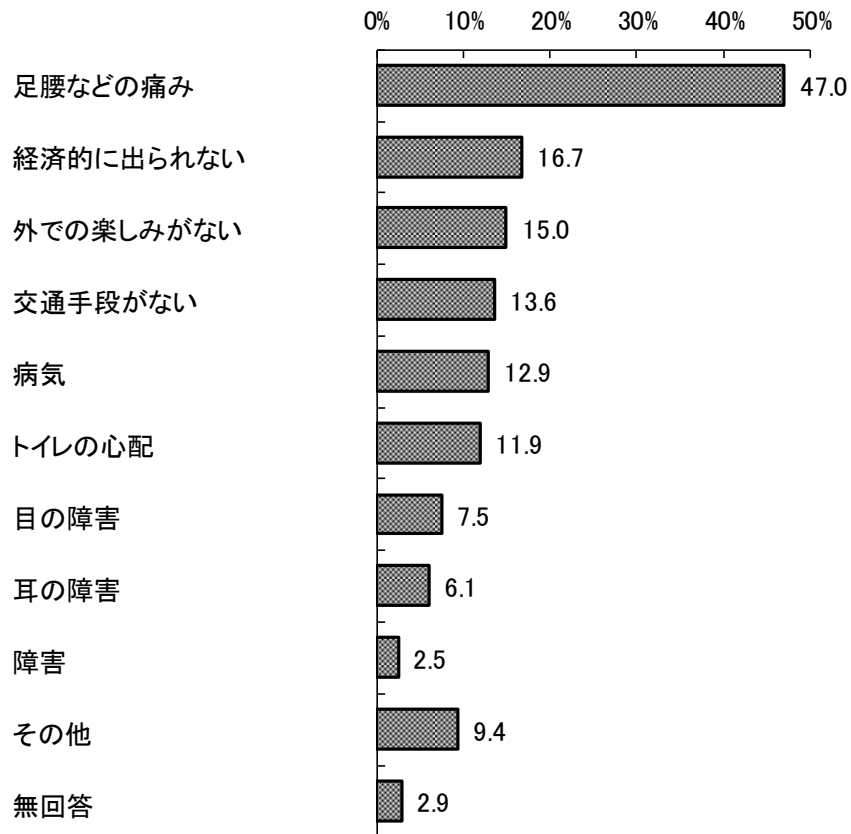
		(%)				
	回答者数(人)	全 体	男 性		女 性	
			65歳～74歳	75歳以上	65歳～74歳	75歳以上
判 定	問11(6) 週に1回以上は外出していますか。 (「ほとんど外出しない」「週1回」)	2,648	963	340	875	470
関 連	問11(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。 (「とても減っている」「減っている」)	24.9	18.5	29.0	21.2	42.1
	問11(8) 外出を控えていますか。 (「はい」)	18.5	11.7	20.8	14.3	38.7

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。
閉じこもり予防の判定：1項目中、1項目が該当するもの。

第3章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査項目の分析結果

外出を控えていると回答した人に対して、外出を控えている理由をたずねたところ、「足腰などの痛み」が47.0%と最も高くなっています。次いで、「経済的に出られない」が16.7%、「外での楽しみがない」が15.0%、「交通手段がない」が13.6%などとなっています。

図表 91 外出を控えている理由 (n=479)



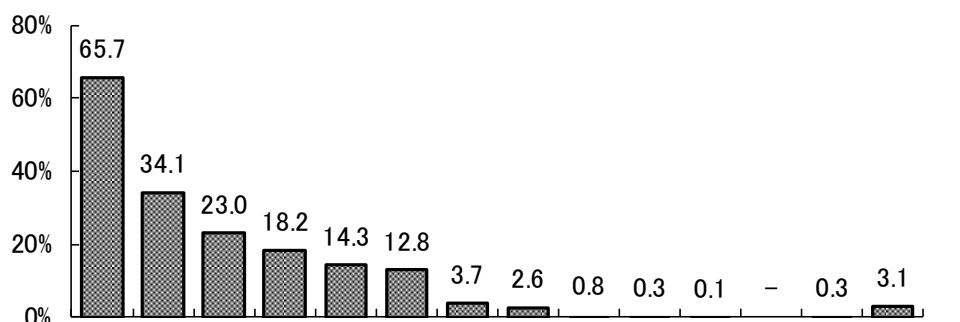
第3章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査項目の分析結果

外出する際の移動手段は、「自動車（自分で運転）」が65.7%と最も高くなっています。次いで、「徒歩」が34.1%、「自動車（人に乗せてもらう）」が23.0%、「自転車」が18.2%などとなっています。

性別でみると、男性は女性に比べて「自動車（自分で運転）」、女性は男性に比べて「自動車（人に乗せてもらう）」、「路線バス」が高くなっています。

年齢別でみると、男性は80歳以上になると「自動車（自分で運転）」が低くなります。女性は65歳～69歳では「自動車（自分で運転）」が7割強ですが、年齢が高くなるにつれて急激に低下し、代わって「自動車（人に乗せてもらう）」が上昇します。「徒歩」は男女ともどの年齢でも3割前後、「自転車」は男女とも70歳～84歳で2割前後、「路線バス」は女性75歳～84歳で2割前後となっています。

図表 92 外出する際の移動手段 (n=2,648)



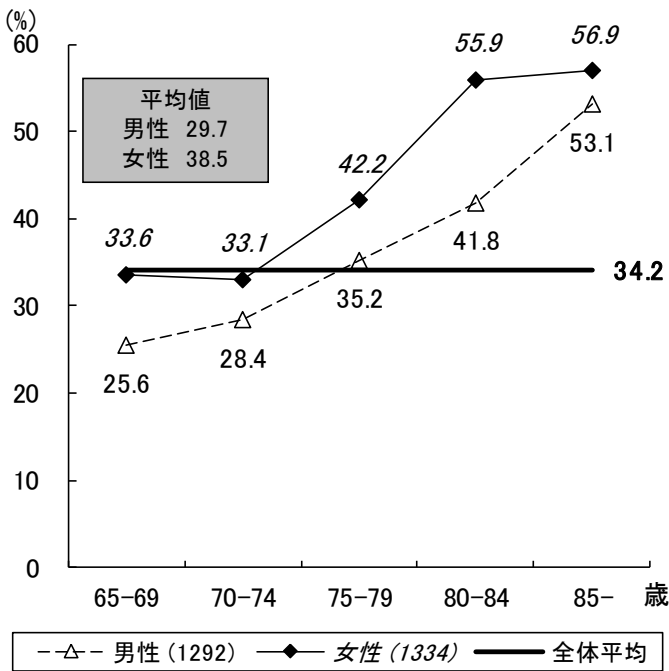
	回答者数（人）	自動車（自分で運転）	徒歩	自動車（人に乗せてもらう）	自転車	路線バス	電車	タクシー	バイク	歩行器・シルバーカー	病院や施設のバス	電動車いす（カート）	車いす	その他	無回答	(%)
全 体	2,648	65.7	34.1	23.0	18.2	14.3	12.8	3.7	2.6	0.8	0.3	0.1	-	0.3	3.1	
性 別																
男性	1,303	84.0	34.5	7.4	17.1	11.1	13.4	2.8	3.1	0.2	0.2	-	-	0.3	3.4	
女性	1,345	48.0	33.8	38.2	19.3	17.3	12.2	4.5	2.2	1.4	0.4	0.1	-	0.2	2.8	
男 性 ／ 年 齢																
65歳～69歳	539	87.2	35.4	6.3	16.5	11.7	14.3	2.8	4.1	-	0.2	-	-	0.6	3.9	
70歳～74歳	424	83.3	34.2	9.0	17.0	10.4	12.3	2.1	3.1	-	0.2	-	-	0.2	3.8	
75歳～79歳	250	84.0	33.6	5.6	18.4	11.6	15.2	2.4	2.0	-	-	-	-	-	1.2	
80歳～84歳	57	73.7	33.3	3.5	24.6	8.8	8.8	5.3	1.8	1.8	-	-	-	-	5.3	
85歳～89歳	33	60.6	30.3	24.2	6.1	12.1	6.1	9.1	-	3.0	-	-	-	-	3.0	
女 性 ／ 年 齢																
65歳～69歳	470	70.9	33.0	26.4	17.2	12.6	12.6	1.7	0.9	-	0.4	-	-	-	3.8	
70歳～74歳	405	49.4	35.3	40.7	20.5	16.0	11.9	3.5	3.7	0.7	0.5	0.2	-	0.2	1.7	
75歳～79歳	278	31.7	36.3	42.1	24.5	27.0	15.5	7.9	2.2	1.1	0.4	-	-	0.4	2.5	
80歳～84歳	119	14.3	30.3	47.9	18.5	21.0	6.7	10.1	3.4	4.2	0.8	-	-	-	2.5	
85歳～89歳	73	11.0	26.0	69.9	8.2	12.3	8.2	6.8	-	11.0	-	1.4	-	1.4	4.1	

(3) 転倒

心身の機能を判定する設問をもとに「転倒」について分析したところ、全体が34.2%、男性が29.7%、女性は38.5%がリスクありとなっています。

性・年齢別でみると、女性のほうが男性より、また、男性は年齢が高くなるにつれて、女性は75歳～84歳にかけて、割合が高くなる傾向が見られます。

図表 93 転倒 割合



図表 94 転倒 判定で使用した設問及び関連設問

		(%)				
	回答者数(人)	全 体	男 性		女 性	
			65歳～74歳	75歳以上	65歳～74歳	75歳以上
		2,648	963	340	875	470
判 定	問11(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか。 (「何度もある」「1度ある」)	34.2	26.8	38.0	33.4	48.0
関 連	問11(5) 転倒に対する不安は大きいですか。(「とても不安である」「やや不安である」)	47.9	30.7	46.9	54.1	73.2

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

転倒の判定: 1項目中、1項目が該当するもの。

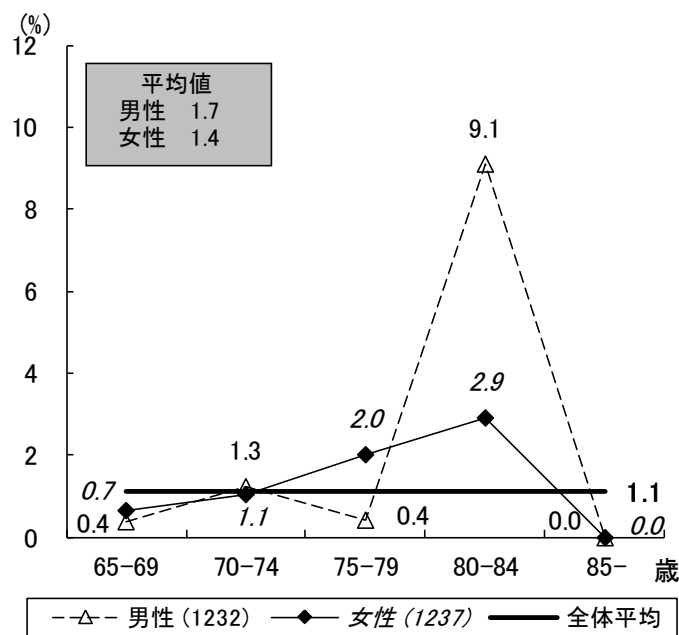
(4) 栄養

心身の機能を判定する設問をもとに「栄養」について分析したところ、全体が1.1%、男性が1.7%、女性は1.4%がリスクありとなっています。ただし、他の分析項目より割合は低くなっています。

性・年齢別にみると、女性は65歳～84歳にかけて年齢が高くなるにつれて、割合が高くなる傾向が見られます。

※ 該当者数が少ないため、分析結果は回答内容により、極端な数値が出ている可能性がある点に留意が必要。

図表 95 栄養 割合



図表 96 栄養 判定で使用した設問及び関連設問

		(%)				
		全 体	男 性		女 性	
			65歳～74歳	75歳以上	65歳～74歳	75歳以上
	回答者数(人)	2,648	963	340	875	470
判 定	問12(7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(「はい」)	10.9	11.3	10.8	10.4	11.3
	問12(1) 身長、体重 (BMI=体重÷(身長×身長)<18.5)	6.1	2.9	4.9	6.9	12.2
関 連	問13(7) 食事は自分で食べられますか。(「一部介助があればできる」「できない」)	0.3	0.2	0.6	0.1	0.9
	問12(8) どなたかと食事をとにする機会がありますか。(「年に何度かある」「ほとんどない」)	19.4	19.7	25.7	14.3	24.0

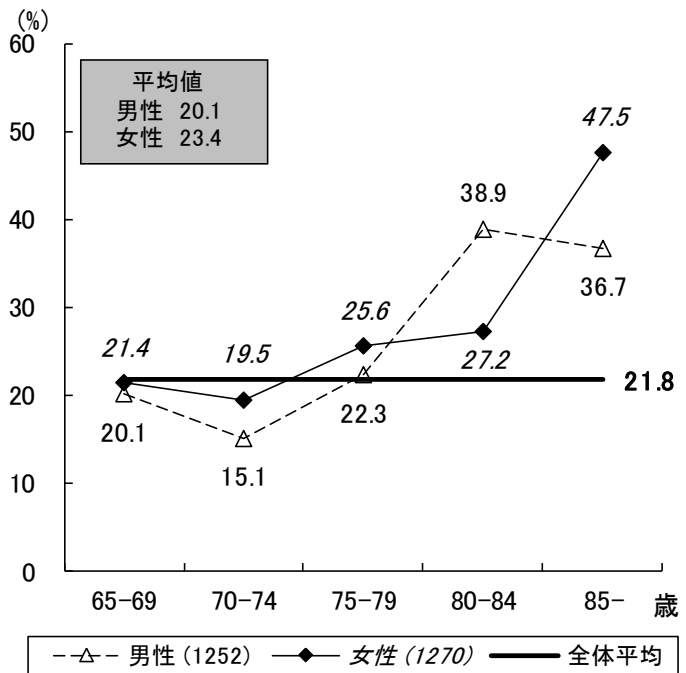
※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。
栄養の判定: 2項目中、2項目が該当するもの。

(5) 口腔

心身の機能を判定する設問をもとに「口腔」について分析したところ、全体で21.8%、男性が20.1%、女性は23.4%がリスクありとなっています。

性・年齢別にみると、男性は80歳以降、女性は85歳以上で急激に割合が高くなる傾向が見られます。

図表 97 口腔 割合



図表 98 口腔 判定で使用した設問及び関連設問

		全 体	男 性		女 性	
			65歳～74歳	75歳以上	65歳～74歳	75歳以上
	回答者数(人)	2,648	963	340	875	470
判 定	問12(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(「はい」)	31.8	28.4	38.0	26.4	44.6
	問12(3) お茶や汁物等でむせることがありますか。(「はい」)	23.3	19.7	26.3	23.6	27.7
	問12(4) 口の渇きが気になりますか。(「はい」)	25.4	21.2	25.5	26.1	33.1
関 連	問12(5) 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。(「いいえ」)	9.9	12.6	15.5	6.3	7.1
	問12(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」)	58.1	52.9	67.7	53.3	72.4
	問12(6-1) 噛み合わせは良いですか。(「いいえ」)	9.9	12.6	15.5	6.3	7.1
	問12(6-2) 毎日入れ歯の手入れをしていますか。(「いいえ」)	21.3	21.9	20.4	19.4	24.9

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

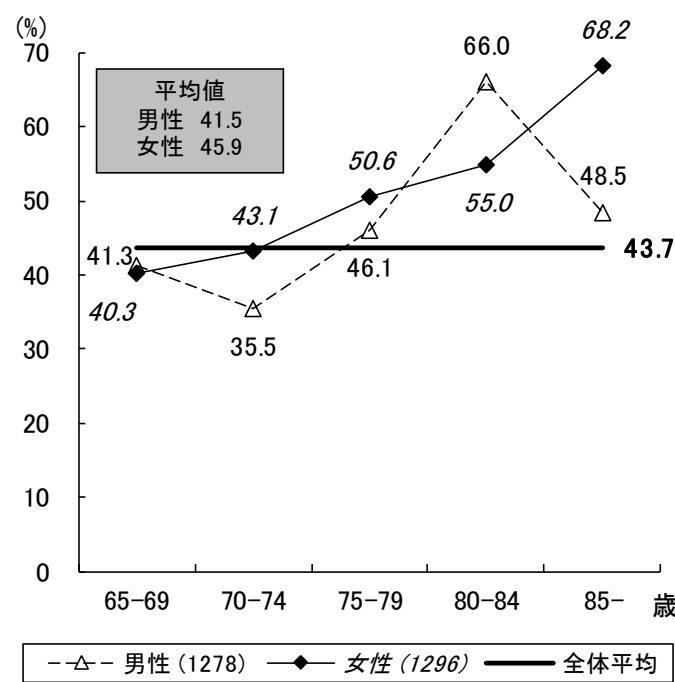
口腔の判定: 3項目中、2項目以上が該当するもの。

(6) 認知

心身の機能を判定する設問をもとに「認知」について分析したところ、全体で43.7%、男性が41.5%、女性は45.9%がリスクありとなっています。

性・年齢別にみると、男性は75歳～84歳にかけて、女性は年齢が高くなるにつれて、割合が高くなる傾向が見られます。

図表 99 認知 割合



図表 100 認知 判定で使用した設問及び関連設問

		(%)					
		全 体	男 性		女 性		
			65歳～74歳	75歳以上	65歳～74歳	75歳以上	
	回答者数(人)	2,648	963	340	875	470	
判 定	問13(1) 物忘れが多いと感じますか。 (「はい」)	43.7	38.8	49.5	41.6	54.3	
関 連	問13(2) 自分で電話番号調べて、電話をかけることをしていますか。 (「いいえ」)	12.2	14.3	16.7	9.8	9.1	
	問13(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか。(「はい」)	23.0	22.7	30.5	21.3	21.5	
	問16(7).15 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。 (認知症)	0.2	0.0	0.6	0.1	0.6	

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

認知の判定: 1項目中、1項目以上が該当するもの。

第3章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査項目の分析結果

今回の調査には、認知機能の障害程度の指標として有用とされるCPS (Cognitive Performance Scale) ※に準じた設問を組み込んであります。設問に対する回答内容により、0レベル（障害なし）から6レベル（最重度の障害がある）までに評価が可能となっています。

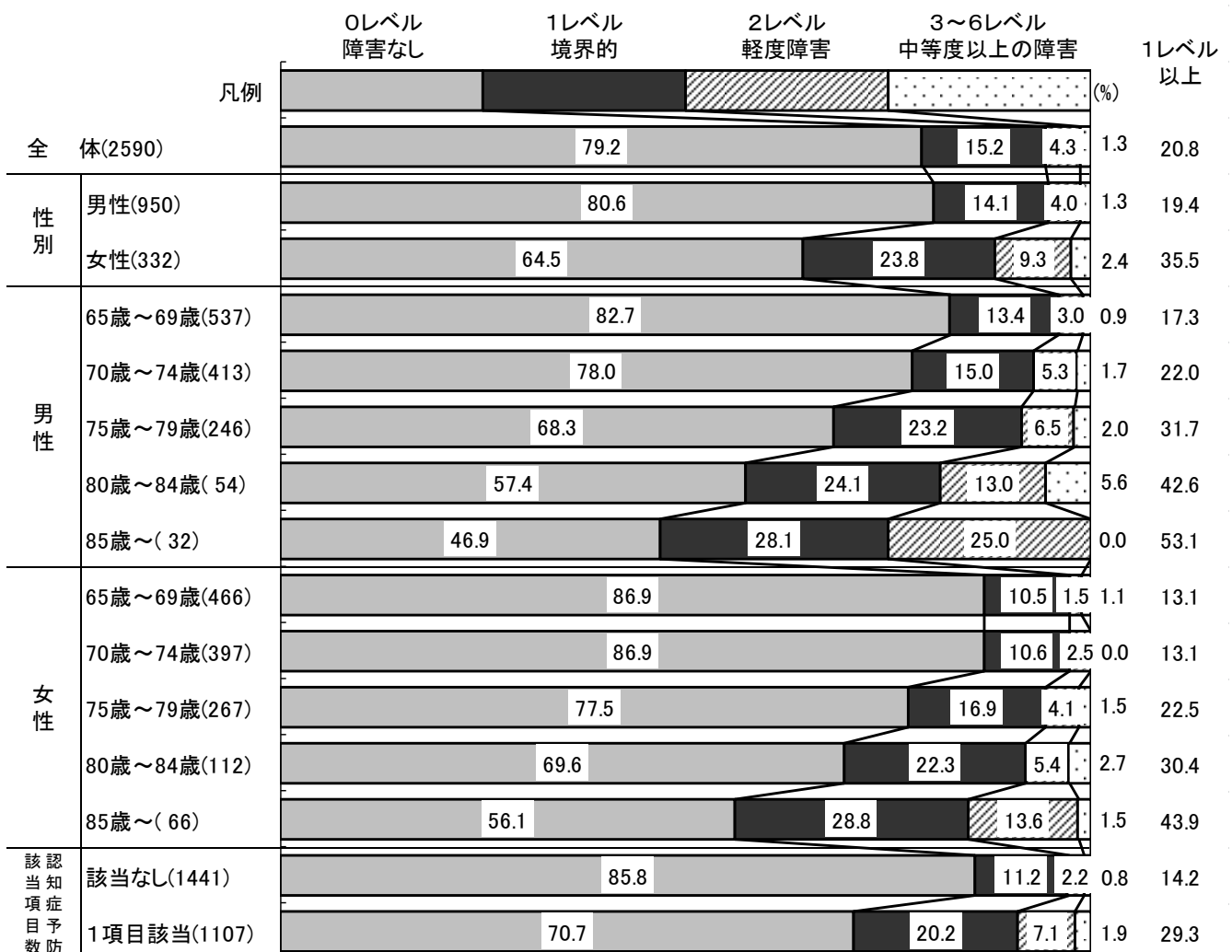
0レベル（障害なし）は、全体で79.2%、男性が80.6%、女性が64.5%であり、女性のほうが男性より認知機能障害程度が低い人の割合が高くなっています。

性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて、1レベル以上の割合が増加しています。なお、男性のほうが女性より1レベル以上の割合が全般的に高くなっています。

心身の機能を判定する設問のうち、認知症予防に関する判定設問に該当しているか否かで障害程度区分別の構成割合をみると、該当しているほうが2レベル、3レベル以上が多くなっています。

※ CPS (Cognitive Performance Scale)：認知機能障害の評価尺度。

図表 101 認知機能障害程度（CPS）区分別割合

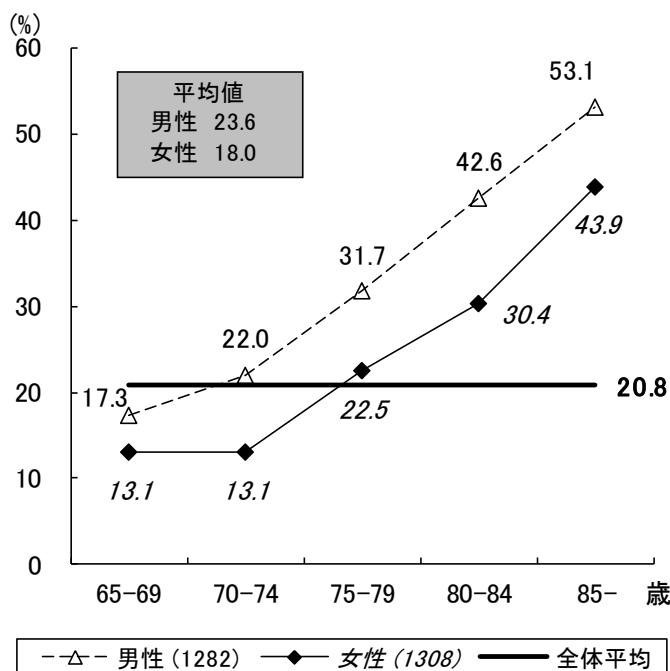


※()内は回答者数(人)

図表 102 認知機能障害程度（CPS）
リスクありの人の割合（CPS 1項目以上）

1レベル以上の障害程度（CPS 1項目以上該当）と評価されるリスクありの人の割合は、全体で20.8%、男性が23.6%、女性が18.0%と、男性のほうが女性より割合が高くなっています。

性・年齢別にみると、男女ともほぼ年齢が高くなるにつれて、割合が高くなる傾向が見られます。



図表 103 認知機能障害程度（CPS） 評価で使用了設問

		全 体	男 性		女 性	
			65歳～74歳	75歳以上	65歳～74歳	75歳以上
	回答者数(人)	2,648	963	340	875	470
評 価	問13(4) 5分前のことが思い出せますか。(「いいえ」)	9.1	8.5	12.9	6.9	11.7
	問13(5) その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか。*参照	6.9	5.8	16.0	2.8	10.3
	問13(6) 人に自分の考えをうまく伝えられますか。**参照	12.0	11.3	22.1	6.2	17.1
	問13(7) 食事は自分で食べられますか。(「一部介助があればできる」、「できない」)	0.3	0.2	0.6	0.1	0.9

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

認知機能の障害程度の評価方法: 4項目の内容により、0～6レベルの7段階で評価(詳細は省略)。

* 問13(5)(「いづらか困難であるが、できる」、「判断するときに、他人からの合図や見守りが必要」、「ほとんど判断できない」)

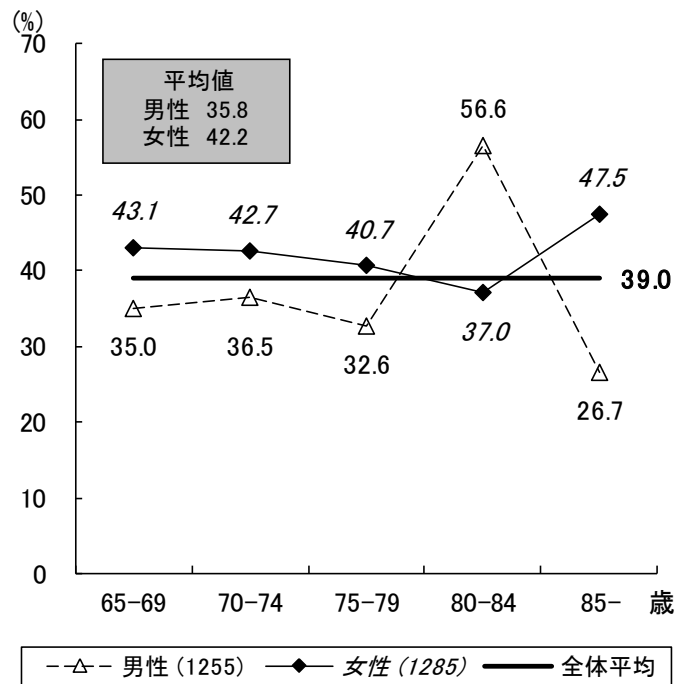
** 問13(6)(「いづらか困難であるが、伝えられる」、「あまり伝えられない」、「ほとんど伝えられない」)

(7) うつ予防

心身の機能を判定する設問をもとに「うつ予防」について分析したところ、全体が39.0%、男性が35.8%、女性は42.2%がリスクありとなっています。

性・年齢別にみると、男性は明確な傾向は見られません。女性は65歳～84歳にかけて、微減しているように見受けられますが、85歳以上は一気に割合が高くなっており、こちらも明確な傾向は見られません。

図表 104 うつ予防 割合



図表 105 うつ予防 判定で使用した設問及び関連設問

		全 体	男 性		女 性	
			65歳～74歳	75歳以上	65歳～74歳	75歳以上
	回答者数(人)	2,648	963	340	875	470
判 定	問16(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(「はい」)	36.3	32.3	31.7	42.1	36.7
	問16(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(「はい」)	23.2	22.0	25.2	22.7	25.2
関 連	問16(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(「あまりよくない」、「よくない」)	16.0	14.0	24.8	11.8	21.3

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

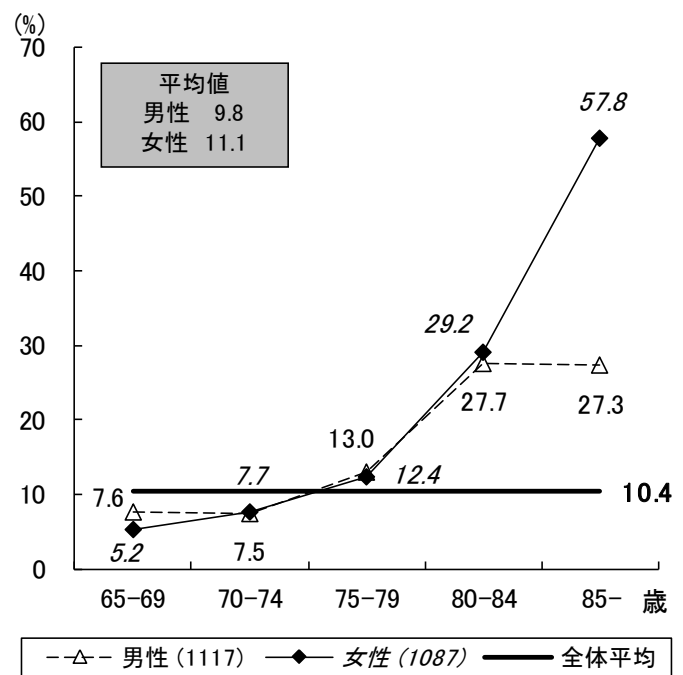
うつ予防の判定：2項目中、2項目以上が該当するもの。

(8) 虚弱

心身の機能を判定する設問をもとに「虚弱」について分析したところ、全体が10.4%、男性が9.8%、女性は11.1%がリスクありとなっています。

性・年齢別にみると、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれて、割合が増加しています。特に女性は85歳以降で一気に増加しています。

図表 106 虚弱 割合



図表 107 虚弱 判定で使用した設問

(%)						
	回答者数(人)	全 体	男 性		女 性	
			65歳～74歳	75歳以上	65歳～74歳	75歳以上
			2,648	963	340	875
判 定	問13(8) バスや電車を使って1人で外出していますか。(「できるだけしていない」または「できない」)	13.4	6.6	11.8	11.8	31.6
	問13(9) 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(「できるだけしていない」または「できない」)	16.9	24.0	27.1	4.8	17.7
	問13(12) 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(「できるだけしていない」または「できない」)	20.8	29.2	36.6	5.4	21.2
	問13(17) 友人の家を訪ねていますか。(「いいえ」)	37.1	41.7	49.5	28.6	34.7
	問13(18) 家族や友人の相談にのっていますか。(「いいえ」)	19.0	22.6	26.7	12.1	19.2

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

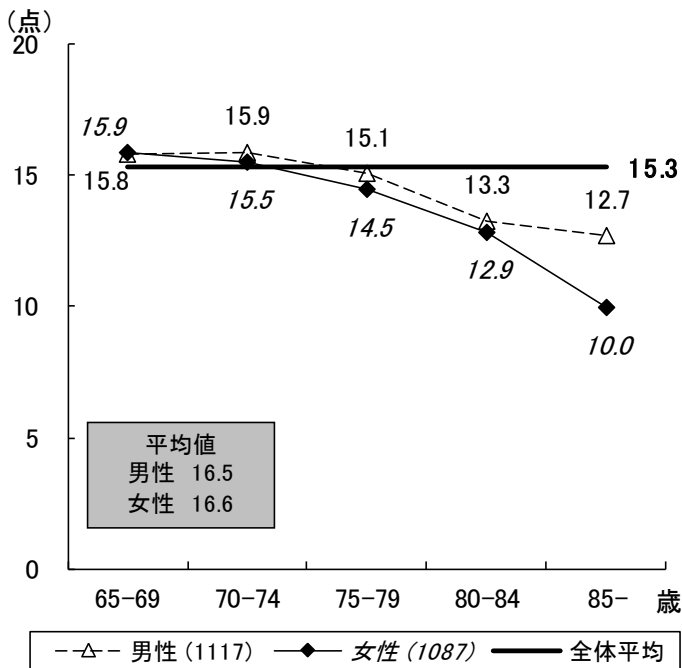
虚弱の判定: 機能を判定する設問(基本チェックリストの内容に近いもの)の25項目のうち、うつ予防・支援に関する5項目を除いた20項目において、10項目以上に該当する者。未出の5項目のみ表示。

図表 108 心身の機能を判定する設問の得点分布

心身の機能を判定する設問20項目について、それぞれ該当しない回答をした場合を1点として、その合計得点の平均を求めたのが右の図表です。

全体では15.3点、男性が16.5点、女性は16.6点となっています。

性・年齢別にみると、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれて、割合が低下しています。特に女性は85歳以降で一気に低下しています。

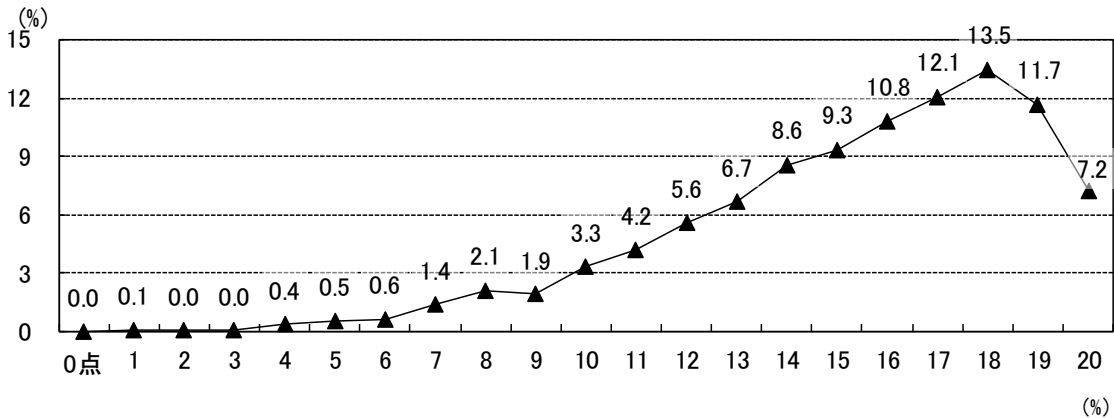


※()内は回答者数(人)

心身の機能を判定する設問20項目すべてに回答のあった人について、1項目を1点として、この得点の相対度数分布求めると、18点の13.5%が最も高い値になっています。

性・年齢別でみると、男性、女性とも65歳～74歳より75歳以上のほうが、平均得点が下がっています。男性75歳以上は16点、女性75歳以上は13点が最も高い値となっています。

図表 109 心身の機能を判定する設問の得点の相対度数分布



	回答者数	0点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
全 体	2,204	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	0.5	0.6	1.4	2.1	1.9	3.3	4.2	5.6	6.7	8.6	9.3	10.8	12.1	13.5	11.7	7.2
男性65歳～74歳	848	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.6	0.9	1.9	1.5	2.1	2.5	4.7	4.6	8.4	9.8	11.6	14.9	14.7	12.9	8.5
男性75歳以上	269	0.0	0.4	0.0	0.0	0.4	0.7	1.1	1.1	3.0	3.3	6.7	6.7	6.3	5.6	8.6	7.1	12.6	10.8	10.8	10.4	4.5
女性65歳～74歳	761	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.3	1.3	0.9	1.4	1.8	3.5	5.4	7.6	9.5	10.2	10.1	10.5	15.1	13.3	8.4
女性75歳以上	326	0.0	0.3	0.3	0.3	0.6	2.1	1.2	2.8	4.9	2.8	7.1	8.0	7.7	10.7	7.1	8.0	8.9	9.5	8.6	5.8	3.4

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

(9) 介護予防等への取組みが必要な人

今後、介護予防あるいは要介護度の改善等への取組みが必要とされる人について、心身の機能を判定する設問の「虚弱」、「運動器」、「閉じこもり」、「転倒」、「栄養」、「口腔」、「閉じこもり」、「認知」、「うつ予防」の8項目における割合を、項目間の重複を除いた上で分析しました。

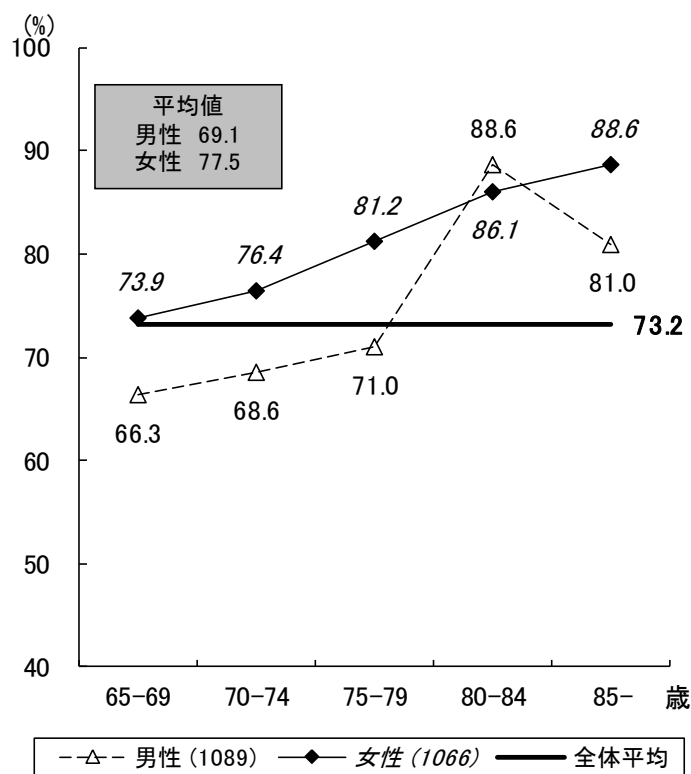
介護予防等への取組みが必要とされる人の割合は、全体が73.2%、男性が69.1%、女性が77.5%となっています。

性・年齢別でみると、女性のほうが男性より該当割合が高くなっていますが、80歳以降は男女とも大きな差は認められません。また、男女ともに年齢が高くなるにつれて、割合が増加する傾向が見られます。

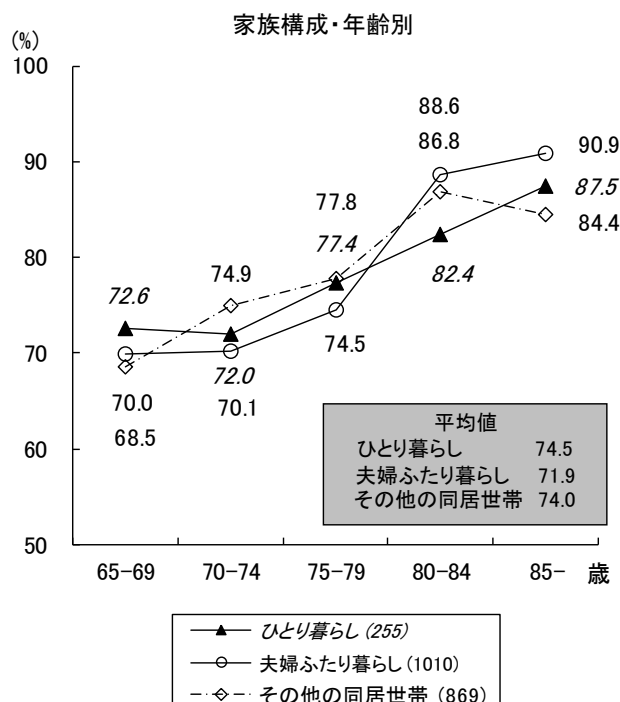
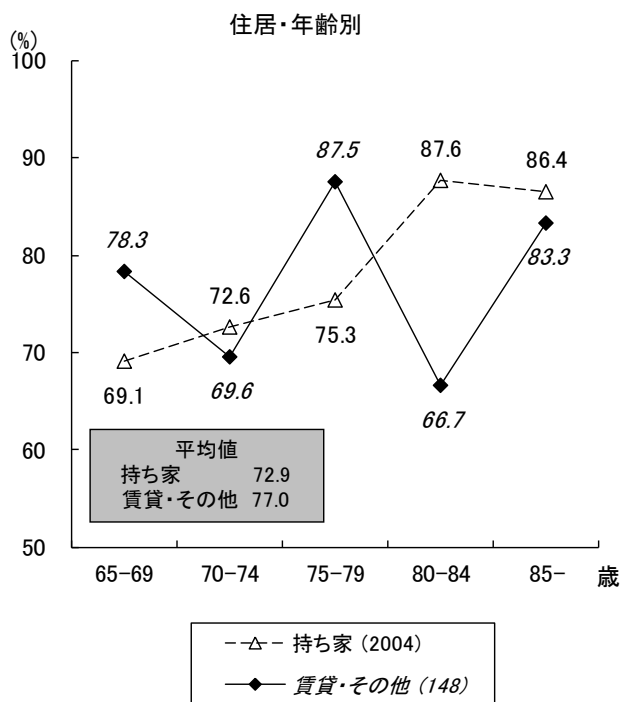
住居・年齢別でみると、持ち家では年齢が高くなるにつれて、割合が高くなっています。賃貸・その他は対象者数が少ないものの、おおむね79歳以下では割合が高くなっています。

家族構成・年齢別でみると、どの家族構成でも年齢が高くなるにつれて、割合が高くなっています。65歳～69歳ではひとり暮らしが他の家族構成より、割合が高くなっています。

図表 110 介護予防等への取組みが必要な人 割合



図表 111 介護予防等への取組みが必要とされる人 割合



4. 日常生活・社会参加に関する分析結果

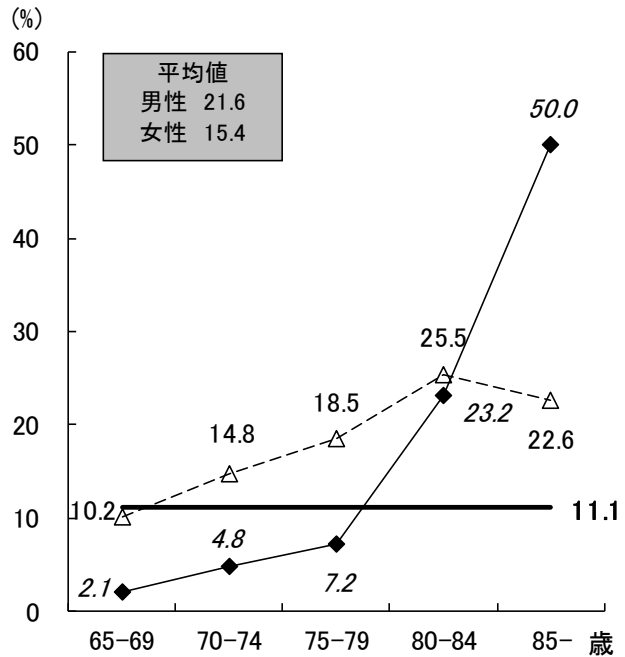
(1) 手段的日常生活動作自立度 (IADL)

今回の調査では、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標※に準じた設問を設けています。このうち、手段的日常生活動作自立度※※については、各設問で「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価しています。

このうち、4点以下を低下者とした評価した結果をみると、全体が11.1%、男性が21.6%、女性が15.4%となっています。

性・年齢別でみると、男女とも年齢が高くなるにつれて、割合が増加する傾向が見られます。特に女性は80歳以降急激に割合が高くなっています。

図表 112 手段的自立度 低下者割合



※()内は回答者数(人)

※ 老研式活動能力指標：高次の生活機能の評価を行うための評価尺度。手段的日常生活動作自立度、知的能動性、社会的役割の3つの観点で評価する。

※※ 手段的日常生活動作自立度 (IADL:Instrumental Activities of Daily Living)

図表 113 手段的日常生活動作自立度 判定で使用した設問

(%)

		全 体	男 性		女 性	
			65歳～74歳	75歳以上	65歳～74歳	75歳以上
	回答者数(人)	2,648	963	340	875	470
判 定	問13(8) バスや電車を使って1人で外出していますか。(「できるし、している」、「できるけどしていない」)	95.3	98.8	97.1	96.8	83.9
	問13(9) 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(「できるし、している」、「できるけどしていない」)	97.8	98.9	97.3	98.9	93.9
	問13(10) 自分で食事の用意をしていますか。(「できるし、している」、「できるけどしていない」)	93.8	90.3	84.0	99.2	97.8
	問13(11) 自分で請求書の支払いをしていますか。(「できるし、している」、「できるけどしていない」)	96.8	97.1	93.6	99.1	94.1
	問13(12) 自分で預貯金のおし入れをしていますか。(「できるし、している」、「できるけどしていない」)	95.6	95.9	92.5	98.5	91.7

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

生活機能低下者割合の判定: 上の5項目を各1点として5点満点で、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価するが、本調査では、4点以下を低下者とする。

手段的自立度に関する設問において、「できるけどしていない」により、能力と実行状況の差をみると、男性は65歳～74歳、74歳以上とも食事の用意に関する設問の割合が高く、女性は75歳以上でバスや電車での外出、預貯金のおし入れの設問の割合が高くなっています。

図表 114 手段的日常生活動作自立度 判定で使用した設問（能力と実行状況の差）

(%)

		全 体	男 性		女 性	
			65歳～74歳	75歳以上	65歳～74歳	75歳以上
	回答者数(人)	2,648	963	340	875	470
参 考	問13(8) バスや電車を使って1人で外出していますか。(「できるけどしていない」)	8.7	5.4	8.8	8.6	15.5
	問13(9) 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(「できるけどしていない」)	14.7	22.9	24.4	3.7	11.6
	問13(10) 自分で食事の用意をしていますか。(「できるけどしていない」)	25.5	47.5	45.0	3.4	8.0
	問13(11) 自分で請求書の支払いをしていますか。(「できるけどしていない」)	16.0	27.0	25.5	4.4	8.6
	問13(12) 自分で預貯金のおし入れをしていますか。(「できるけどしていない」)	16.4	25.1	29.1	3.9	12.9

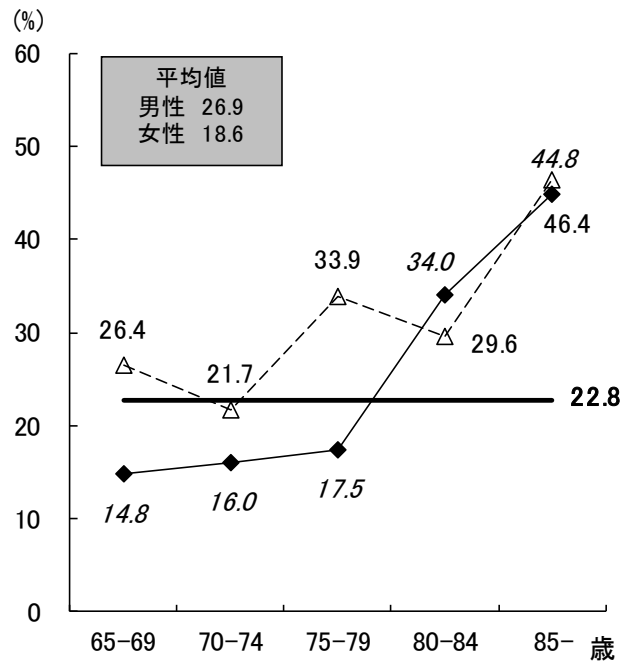
※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

(2) 生活機能総合評価

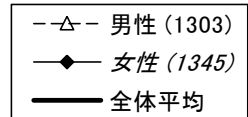
手段的日常生活動作自立度(IADL)に、知的能動性、社会的役割を加えた老研指標13項目は13点満点で評価し、11点以上を「高い」、9～10点を「やや低い」、8点以下を「低い」として評価しますが、本調査では10点以下を「低下者」とした評価結果をみると、全体が22.8%、男性が26.9%、女性が18.6%となっています。

性・年齢別でみると、79歳以下では男性のほうが女性より低下者割合が高く、80歳以上では男女で大きな差は見られません。

図表 115 生活機能総合評価 低下者割合



※()内は回答者数(人)

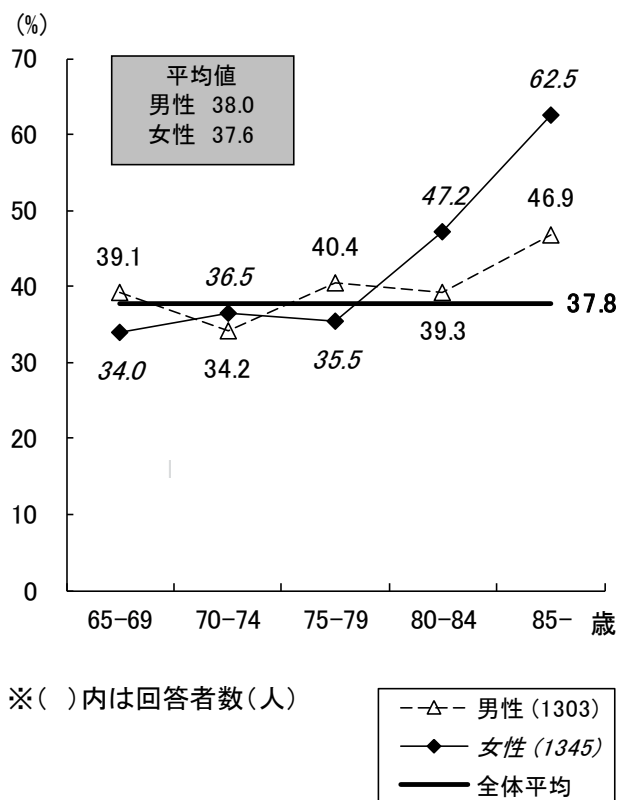


(3) 知的能動性

今回の調査では、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問を組み込んでいます。老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問設けられ、「知的能動性」として尺度化されています。3点以下を低下者とした評価結果をみると、全体が37.8%、男性が38.0%、女性が37.6%となっています。

性・年齢別でみると、79歳以下では男女とも大きな差は見られませんが、女性は80歳以上になると急激に低下者割合が高くなっています。

図表 116 知的能動性 低下者割合



図表 117 知的能動性 判定で使用した設問

		(%)				
	回答者数(人)	全 体	男 性		女 性	
			65歳～74歳	75歳以上	65歳～74歳	75歳以上
判 定	問13(13) 年金などの書類が書けますか。(「はい」)	2,648	963	340	875	470
	問13(14) 新聞を読んでいますか。(「はい」)	92.1	94.5	89.2	96.0	81.5
	問13(15) 本や雑誌を読んでいますか。(「はい」)	83.7	86.8	86.7	80.1	82.1
	問13(16) 健康についての記事や番組に関心がありますか。(「はい」)	73.7	75.4	67.2	77.0	68.5
		91.7	89.0	88.9	94.4	94.3

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

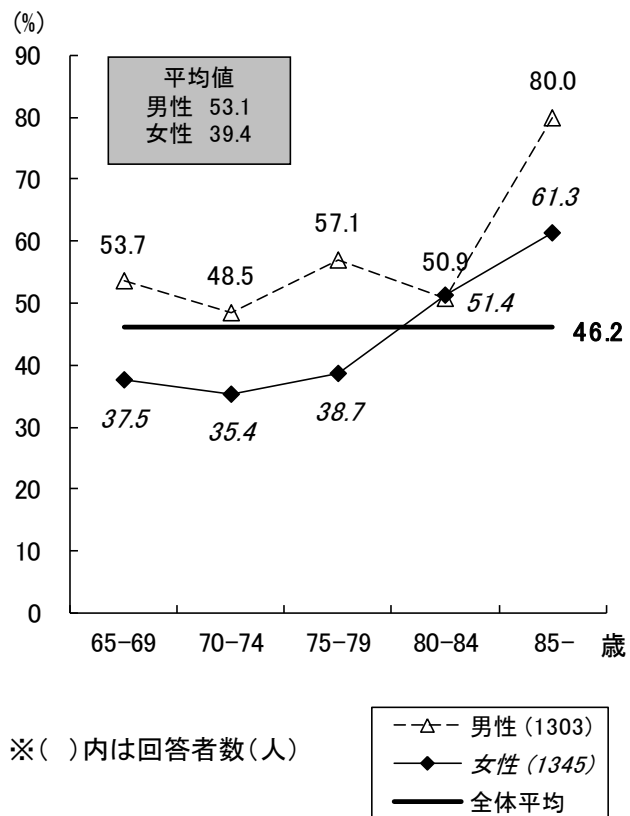
知的能動性の判定：上の老研式活動能力指標として設けられた高齢者の「知的能動性」の評価方法の4項目を各1点として4点満点で、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」として評価するが、本調査では、3点以下を低下者とする。

(4) 社会的役割

老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問設けられ、「社会的役割」として尺度化されています。3点以下を低下者とした評価結果をみると、全体が46.2%、男性が53.1%、女性が39.4%となっています。

性・年齢別でみると、79歳以下では男性のほうが女性より10～20ポイント高くなっています。女性は80歳以上になると急激に低下者割合が高くなっています。

図表 118 社会的役割 低下者割合



図表 119 社会的役割 判定で使用した設問及び関連設問

		(%)				
		全 体	男 性		女 性	
			65歳～74歳	75歳以上	65歳～74歳	75歳以上
回答者数(人)		2,648	963	340	875	470
判 定	問13(17) 友人の家を訪ねていますか。 （「はい」）	62.9	58.3	50.5	71.4	65.3
	問13(18) 家族や友人の相談にのって いますか。（「はい」）	81.0	77.4	73.3	87.9	80.8
	問13(19) 病人を見舞うことができます か。（「はい」）	94.1	95.3	89.7	97.0	89.3
	問13(20) 若い人に自分から話しかけ ることがありますか。（「はい」）	80.3	77.7	69.1	85.9	83.2
関 連	問13(21) 趣味はありますか。（「趣味 あり」）	77.0	77.5	76.7	78.9	72.2
	問13(22) 生きがいがありますか。 （「生きがいあり」）	64.0	61.0	56.4	69.0	66.6

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

社会的役割の判定：上の老研式活動能力指標として設けられた高齢者の「社会的役割」の評価方法の4項目を各1点として4点満点で、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」として評価するが、本調査では、3点以下を低下者とする。

5. 疾病に関する分析結果

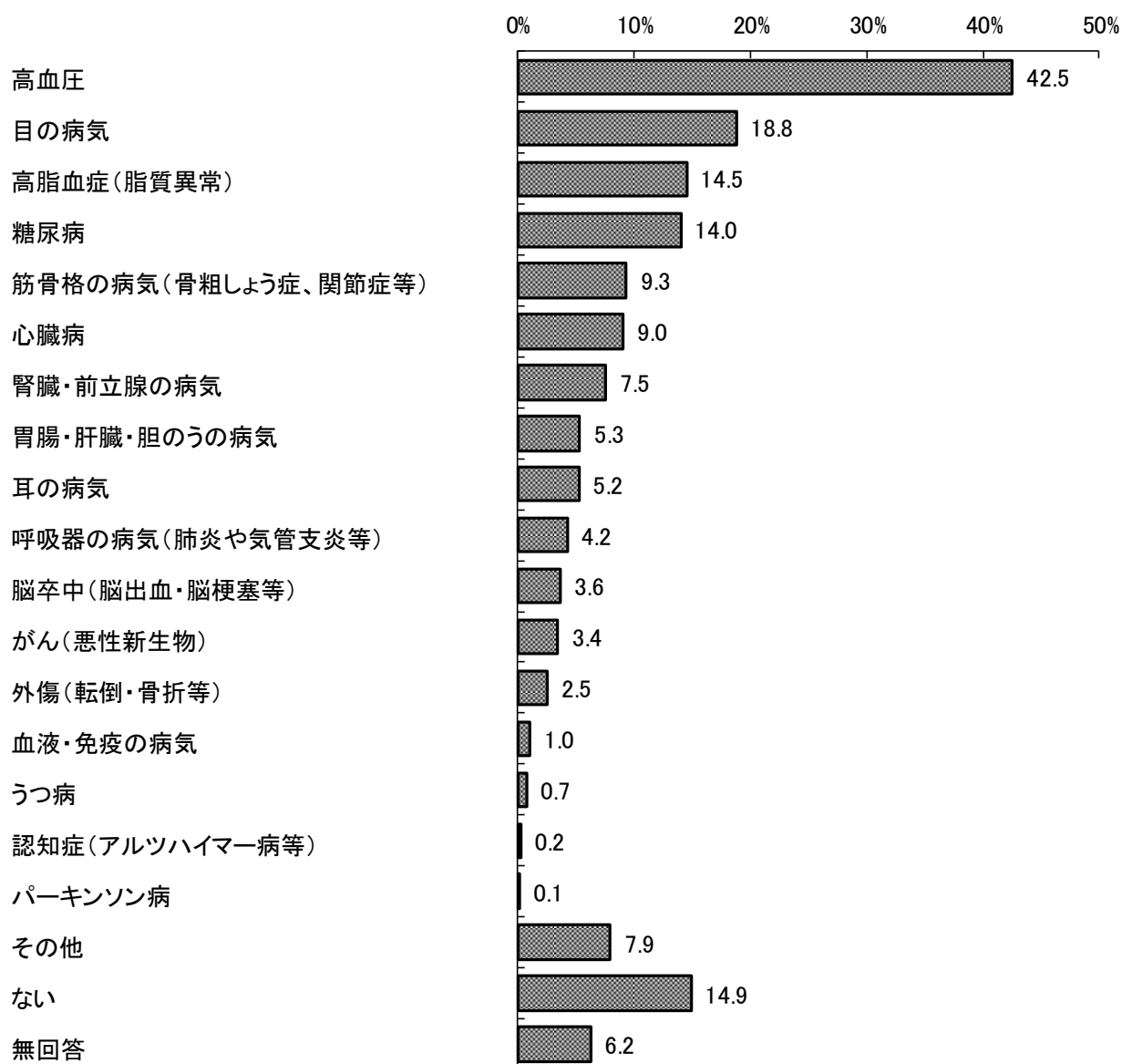
(1) 有病率

現在治療中、または後遺症のある病気をみると、「高血圧」が42.5%と最も高く、次いで、「目の病気」が18.8%、「高脂血症」が14.5%、「糖尿病」が14.0%などとなっています。

なお、一般的に要介護の原因となりやすい「脳卒中」、「心臓病」、「認知症」については、一般高齢者では低くなっています。

一方、「ない」は14.9%にとどまっており、ほとんどの高齢者は何らかの疾病を有していることがわかります。

図表 120 現在治療中、または後遺症のある病気 (n=2,648)



第3章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査項目の分析結果

性別でみると、男性は女性に比べて「高血圧」、「糖尿病」、「心臓病」、「腎臓・前立腺の病気」、女性は男性に比べて「目の病気」、「高脂血症（脂質異常）」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が高くなっています。

年齢別でみると、おおむね年齢が高くなるにつれて、男性は「高血圧」、「目の病気」、「心臓病」「腎臓・前立腺の病気」、また、女性は「高血圧」、「目の病気」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が高くなっています。

図表 121 現在治療中、または後遺症のある病気 (n=2,648)

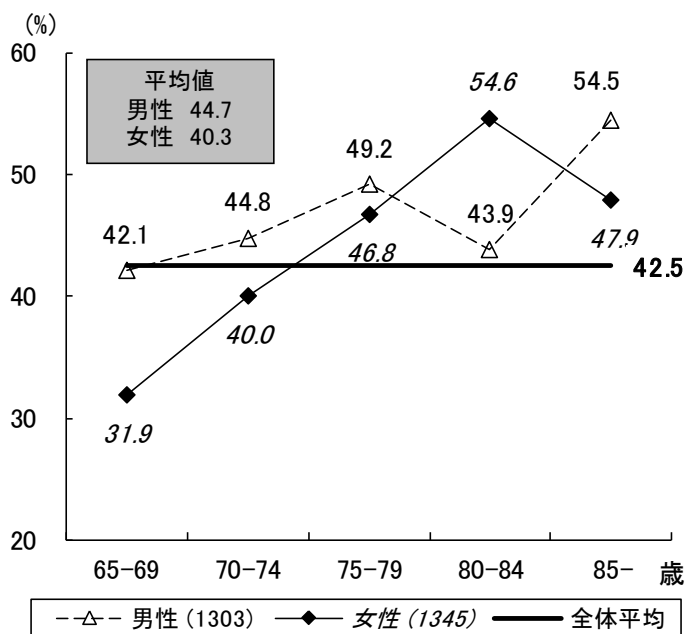
		回答者数（人）	高血圧	目の病気	高脂血症（脂質異常）	糖尿病	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）	心臓病	腎臓・前立腺の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	耳の病気	呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	がん（悪性新生物）	外傷（転倒・骨折等）	血液・免疫の病気	うつ病	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	その他	ない	無回答
	全 体	2,648	42.5	18.8	14.5	14.0	9.3	9.0	7.5	5.3	5.2	4.2	3.6	3.4	2.5	1.0	0.7	0.2	0.1	7.9	14.9	6.2
性別	男性	1,303	44.7	15.7	12.3	17.7	3.4	11.2	13.4	5.4	5.9	4.6	5.1	4.3	1.5	1.5	0.5	0.2	0.2	7.7	15.8	5.7
	女性	1,345	40.3	21.7	16.7	10.6	15.1	6.8	1.7	5.3	4.6	3.9	2.2	2.5	3.3	0.6	0.8	0.3	-	8.2	14.1	6.7
男性／年齢	65歳～69歳	539	42.1	12.6	14.1	16.5	2.2	10.0	10.6	5.0	6.1	3.3	4.8	4.1	0.7	1.9	0.4	-	-	6.9	19.7	5.0
	70歳～74歳	424	44.8	13.2	11.1	19.6	4.2	10.4	14.2	3.5	5.0	4.5	4.2	4.5	0.9	1.4	0.2	-	0.5	7.8	17.0	5.7
	75歳～79歳	250	49.2	22.4	12.0	17.6	3.6	13.6	16.8	8.0	5.6	6.4	6.0	5.2	2.4	0.4	1.6	-	0.4	8.8	9.6	6.8
	80歳～84歳	57	43.9	31.6	8.8	17.5	7.0	14.0	19.3	10.5	14.0	8.8	10.5	3.5	8.8	1.8	-	3.5	-	12.3	7.0	5.3
	85歳～89歳	33	54.5	21.2	6.1	12.1	3.0	18.2	15.2	6.1	3.0	6.1	3.0	-	3.0	3.0	-	-	-	3.0	-	9.1
女性／年齢	65歳～69歳	470	31.9	17.2	19.6	10.9	11.5	4.3	1.1	4.9	2.8	3.0	3.0	3.2	2.3	0.4	1.5	0.2	-	7.7	18.7	8.9
	70歳～74歳	405	40.0	21.2	20.5	10.9	12.1	8.1	1.2	4.9	5.4	4.2	2.5	2.7	1.7	1.0	0.2	-	-	7.9	12.8	5.9
	75歳～79歳	278	46.8	23.7	11.2	11.2	18.0	6.5	2.9	4.3	4.7	5.0	1.1	1.8	4.0	0.4	0.7	-	-	10.4	12.2	5.0
	80歳～84歳	119	54.6	32.8	13.4	10.1	26.9	11.8	2.5	10.1	6.7	2.5	2.5	1.7	6.7	0.8	0.8	0.8	-	8.4	7.6	4.2
	85歳～89歳	73	47.9	27.4	4.1	5.5	24.7	9.6	2.7	5.5	8.2	5.5	-	-	11.0	-	-	2.7	-	4.1	8.2	6.8

(2) 有病率（高血圧）

「高血圧」の有病率は、全体が42.5%、男性が44.7%、女性が40.3%となっています。

性・年齢別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて、おおむね割合が高くなっています。特に、女性は65歳～84歳にかけて、急激に割合が高くなっています。

図表 122 有病率 高血圧

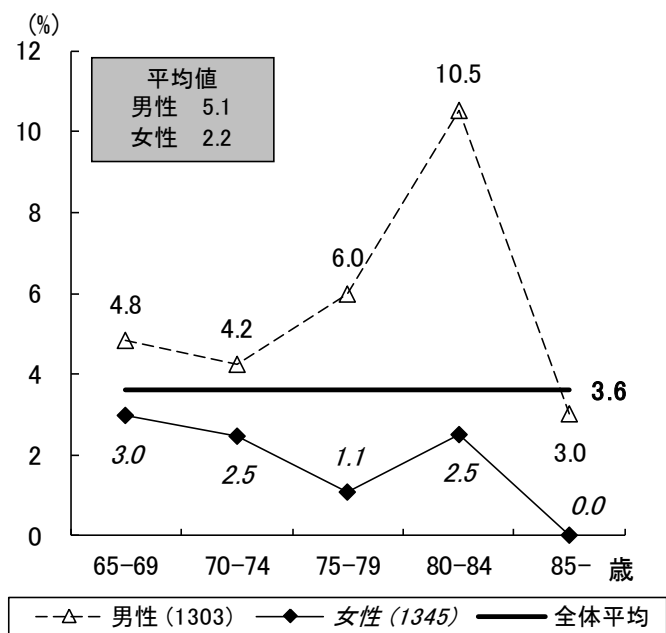


(3) 有病率（脳卒中（脳出血・脳梗塞等））

「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の有病率は、全体が3.6%、男性が5.1%、女性が2.2%となっています。

性・年齢別でみると、いずれの年代でも男性のほうが女性より、割合が高くなっています。

図表 123 有病率 脳卒中（脳出血・脳梗塞等）

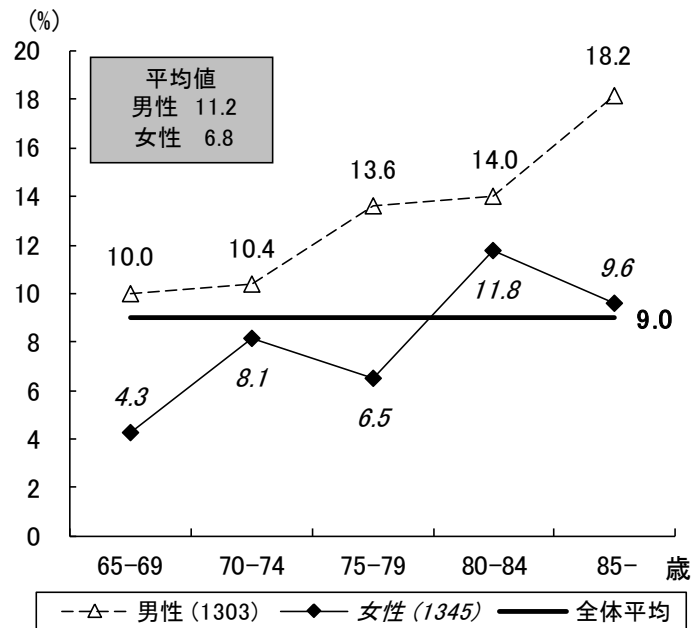


(4) 有病率（心臓病）

「心臓病」の有病率は、全体が9.0%、男性が11.2%、女性が6.8%となっています。

性・年齢別でみると、いずれの年代でも男性のほうが女性より割合が高くなっています。男性は年齢が高くなるにつれて、おおむね割合が高くなっています。

図表 124 有病率 心臓病

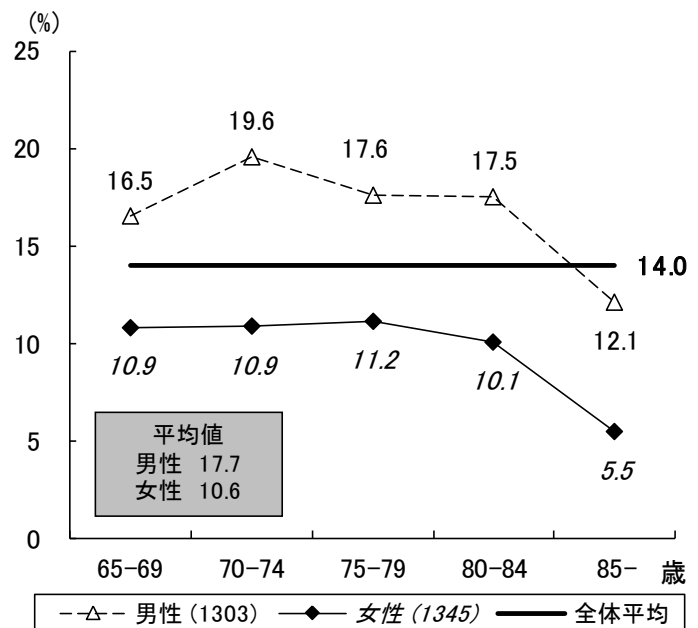


(5) 有病率（糖尿病）

「糖尿病」の有病率は、全体が14.0%、男性が17.7%、女性が10.6%となっています。

性・年齢別でみると、いずれの年代でも男性のほうが女性より割合が高くなっています。また、85歳以上を除き、年齢による大きな差は見られません。

図表 125 有病率 糖尿病

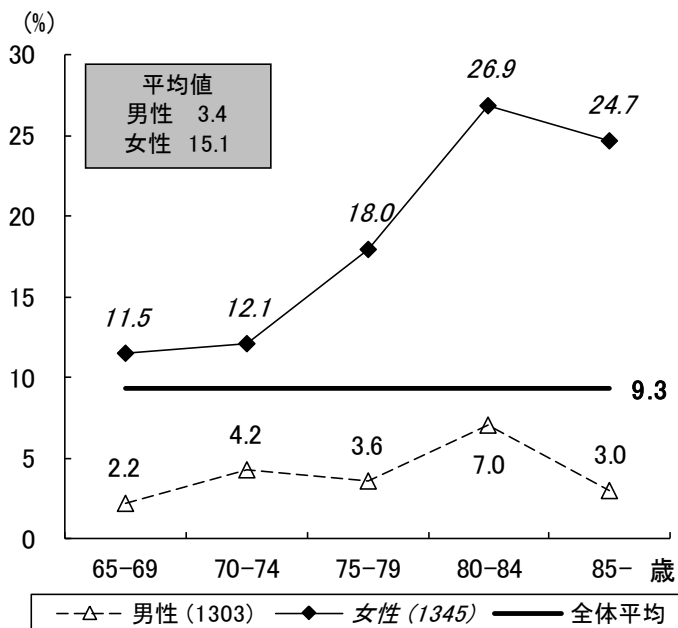


(6) 有病率（筋骨格の病気
（骨粗しょう症、関節症等）糖尿病）

「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」の有病率は、全体が9.3%、男性が3.4%、女性が15.1%となっています。

性・年齢別でみると、いずれの年代でも女性のほうが男性より、大幅に割合が高くなっています。また、女性は70歳から84歳にかけて、急激に割合が高くなっています。

図表 126 有病率 筋骨格の病気
（骨粗しょう症、関節症等）

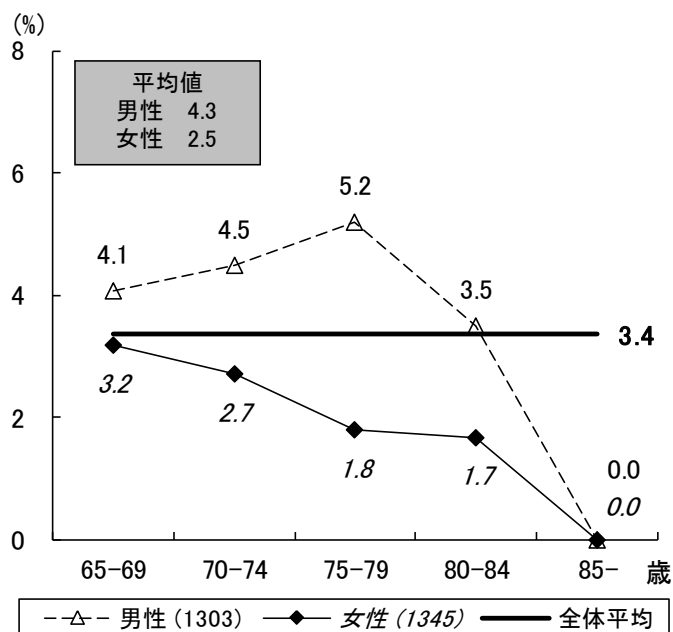


(7) 有病率（がん（悪性新生物））

「がん（悪性新生物）」の有病率は、全体が3.4%、男性が4.3%、女性が2.5%となっています。

性・年齢別でみると、85歳以上を除き、男性のほうが女性より割合が高くなっています。また、女性は年齢が高くなるにつれて、割合が低くなっています。

図表 127 有病率 がん（悪性新生物）



6. 健康に関する分析結果

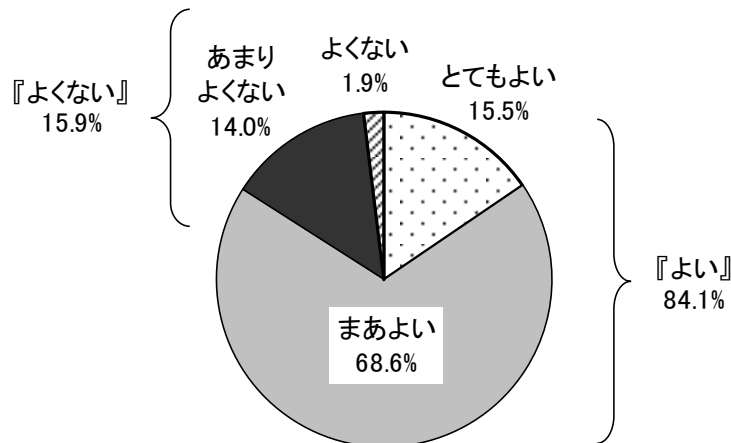
(1) 主観的健康感

主観的健康感についてたずねたところ、全体でみると、「とてもよい」が15.5%、「まあよい」が68.6%であり、『よい』は合わせて84.1%となっています。一方、「あまりよくない」が14.0%、「よくない」が1.9%であり、『よくない』は合わせて15.9%となっています。

性別でみると、男性のほうが女性より、『よい』の割合が高くなっています。

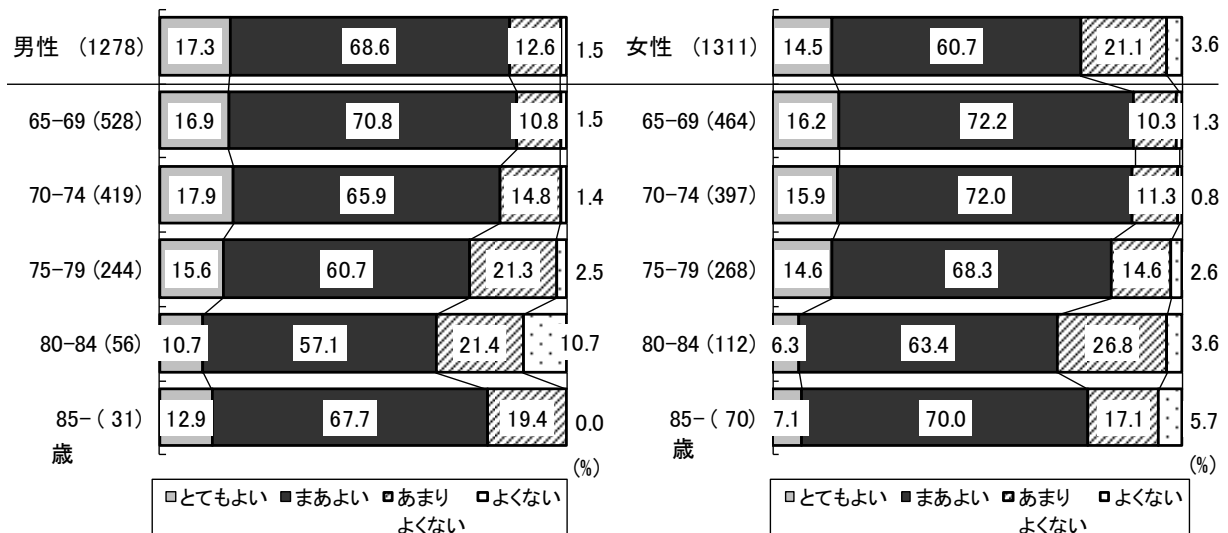
年齢別でみると、男女ともに84歳まではおおねね年齢が高くなるにつれて、『よい』の割合は低下しています。

図表 128 主観的健康感 (n=2,589)



回答者数(2,589人)、無回答を除外して集計

図表 129 主観的健康感 (性・年齢別)



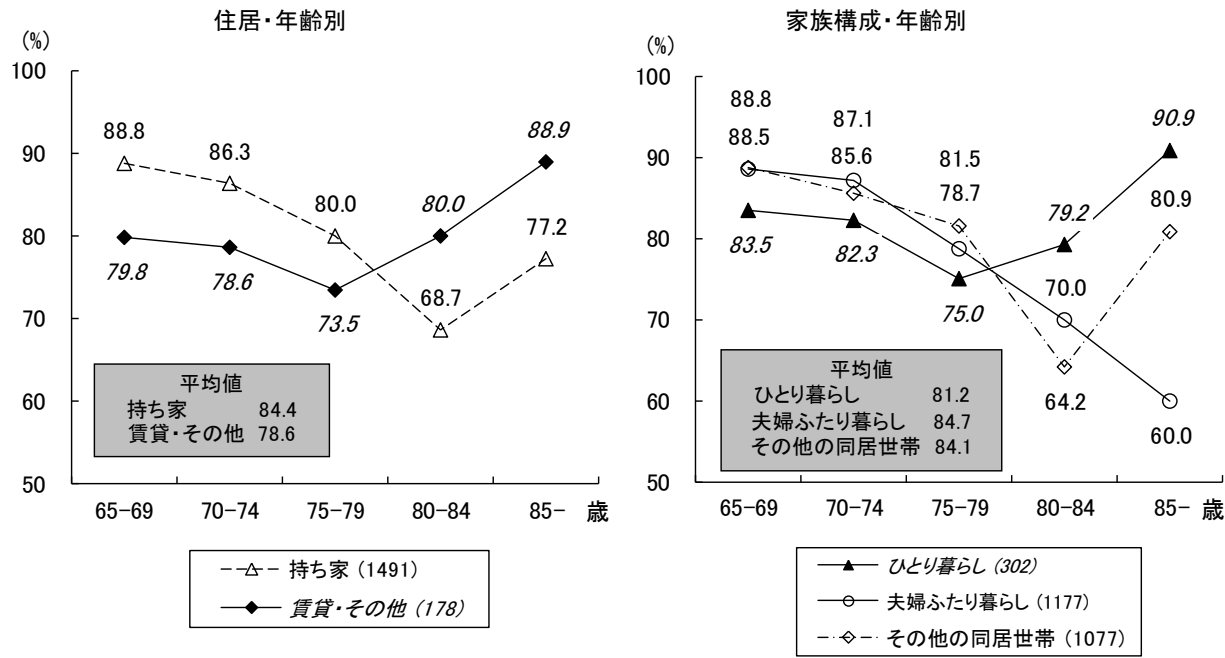
※()内は回答者数(人)、無回答を除外して集計

第3章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査項目の分析結果

住居・年齢別でみると、84歳以下では賃貸・その他のほうが持ち家より、『よい』の割合が低くなっています。

家族構成・年齢別でみると、79歳以下ではひとり暮らしが他の家族構成より、『よい』の割合が低くなっています。

図表 130 主観的健康感



図表 131 主観的健康感 関連設問

(%)						
	回答者数(人)	全 体	男 性		女 性	
			65歳～74歳	75歳以上	65歳～74歳	75歳以上
			2,648	963	340	875
関 連	問16(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(「いいえ」)	63.7	67.7	68.3	57.9	63.3
	問16(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(「いいえ」)	76.8	78.0	74.8	77.3	74.8
	問16(5) お酒は飲みますか。(「ほとんど飲まない」「もともと飲まない」)	59.8	36.2	45.2	76.3	87.6
	問16(6) タバコは吸っていますか。(「吸っていたがやめた」「もともと吸っていない」)	87.5	77.6	85.1	93.7	98.2

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

(2) 現在の幸せの程度

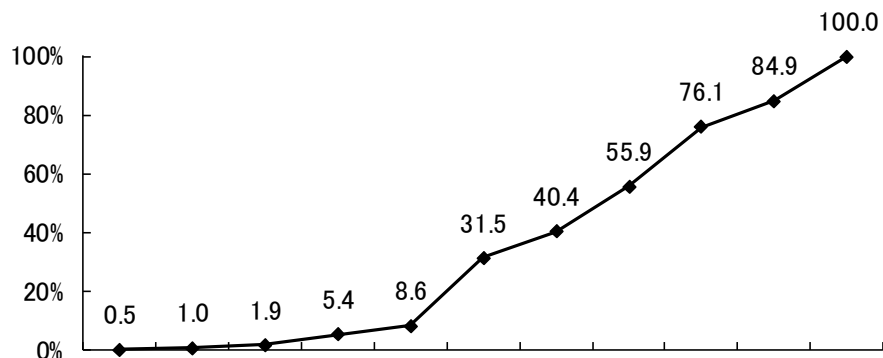
現在の幸せの程度についてたずねたところ、平均得点は10点満点に対して6.9点となっています。累積度数分布では5点以下のところに、全体の31.5%がいます。

性別でみると、平均得点は男性が6.7点、女性が7.2点であり、女性のほうが男性より高い得点になっています。累積度数分布では5点以下のところに、男性は34.3%、女性は28.5%がいます。

年齢別みると、あまり大きな違いは見られません。

家族構成別でみると、平均得点はひとり暮らしが6.5点、夫婦ふたり暮らしは7.2点、その他の世帯は6.8点であり、夫婦ふたり暮らしが最も高く、ひとり暮らしが最も低くなっています。累積度数分布では5点以下のところに、ひとり暮らしは39.2%、夫婦ふたり暮らしは27.6%、その他の世帯は33.2%がいます。

図表 132 現在の幸せの程度（累積度数分布）



		(回答者数)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	平均得点	(%)
全 体		2,563	0.5	1.0	1.9	5.4	8.6	31.5	40.4	55.9	76.1	84.9	100.0	6.9	
性 別	男性	1,268	0.6	1.2	2.0	7.0	9.8	34.3	44.1	61.3	80.5	87.5	100.0	6.7	
	女性	1,295	0.4	0.8	1.8	3.8	7.3	28.5	36.5	50.3	71.5	82.1	100.0	7.2	
年 齢	65歳～69歳	988	0.3	0.8	1.6	4.7	8.3	30.2	38.1	55.2	76.4	86.8	100.0	7.0	
	70歳～74歳	804	0.7	1.3	2.4	5.3	8.0	31.8	41.1	56.6	77.0	84.0	100.0	6.9	
	75歳～79歳	508	0.4	1.0	2.0	6.5	9.8	32.8	43.6	57.6	74.7	83.6	100.0	6.9	
	80歳～84歳	167	0.6	0.6	1.2	7.2	9.6	30.6	39.0	50.4	73.8	82.2	100.0	7.1	
	85歳～	96	1.0	1.0	1.0	3.1	5.2	33.3	38.5	52.0	71.8	80.1	100.0	7.1	
家 族 構 成	ひとり暮らし	300	1.3	2.6	3.9	8.9	14.2	39.2	48.5	63.2	81.9	88.6	100.0	6.5	
	夫婦ふたり暮らし	1,167	0.3	0.7	1.5	4.3	6.3	27.6	36.4	52.9	73.0	82.6	100.0	7.2	
	その他の世帯	1,067	0.5	0.9	1.7	5.5	9.3	33.2	42.1	57.2	78.2	86.9	100.0	6.8	

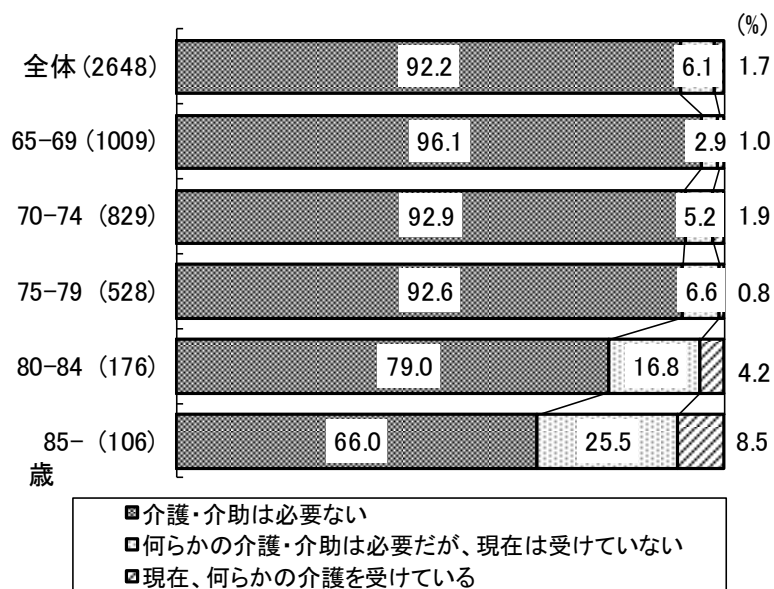
7. 介護・介助に関する分析結果

(1) 介護・介助の必要性

介護・介助の必要性についてたずねたところ、「介護・介助は必要ない」が92.2%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が6.1%、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が1.7%となっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて、介護・介助の必要性が高くなっています。

図表 133 介護・介助の必要性



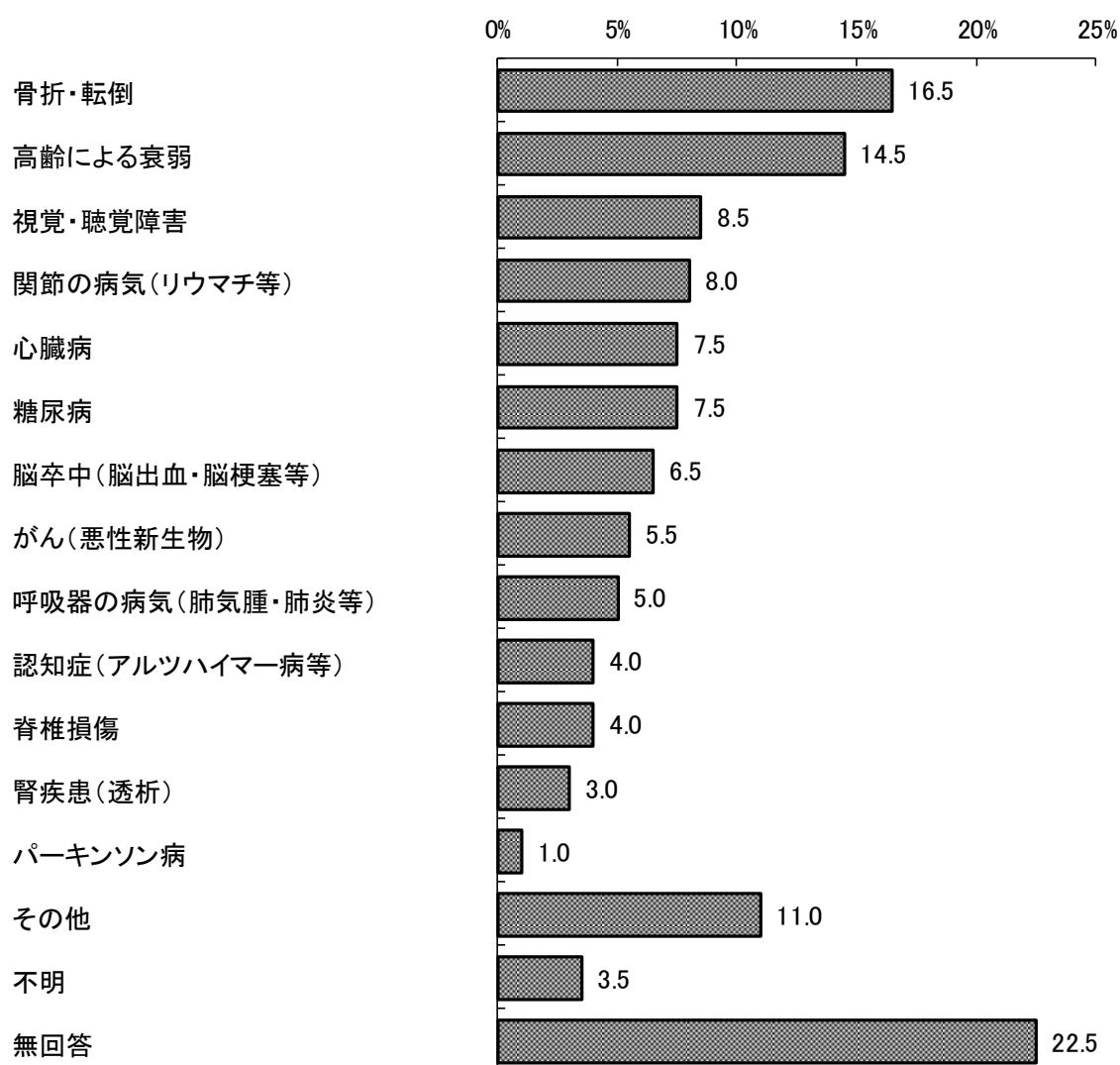
※()内は回答者数、不明、無回答を除外して集計

(2) 介護・介助が必要になった主な原因

介護・介助が必要と回答した人に対して、介護・介助が必要になった主な原因についてたずねたところ、「骨折・転倒」が16.5%と最も高くなっています。次いで、「高齢による衰弱」が14.5%、「視覚・聴覚障害」が8.5%、「関節の病気（リウマチ等）」が8.0%などとなっています。

一般高齢者での介護・介助の主な原因としては、身体の外的な機能に起因するものが高く、一方で脳卒中、心臓病といった疾患に起因するものは低い割合となっています。

図表 134 介護・介助の主な原因 (n=200)



第3章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査項目の分析結果

(3) 主に介護、介助を受けている人

介護・介助が必要と回答した人に対して、主に介護・介助を受けている人をたずねたところ、「配偶者（夫・妻）」が37.0%と最も高くなっています。次いで、「娘」が19.0%、「息子」が15.5%などとなっています。

図表 135 主に介護・介助を受けている人 (n=200)

